

A290

ALPINE

電気自動車をお買い上げいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、次のことに必要な情報が含まれています。

- 車の知識を高め、最適な状態で使用することにより、この車の持つ性能を最大限にご利用ください。
- メンテナンスに関する簡単かつ的確な知識を得ることにより、車の最良の機能性を維持していただく。
- 技術者の修理の必要ない簡単なトラブルに素早く対処できる知識を身につけていただく。

本書には、車の各機能および新機能をご理解いただくにあたって大いに役立つ情報が記載されています。内容について疑問に思うことがございましたら、お近くの指定サービス工場にお問合せください。特定の点についてまだ不明な点がある場合は、当社のネットワーク技術者が追加の情報を提供いたします。

取扱いに役立つ指針については、次の記号の付いた記載をご覧ください。



車両に記されている場合、車両の装置について、詳細な情報または操作の制限を確認するために、取扱説明書を参照してください。

→ (取扱説明書のいずれかにページの記載)。



(取扱説明書のいずれかに、警告、危険、安全上の注意の記載)。

この注意事項におけるさまざまなモデルの説明は、本書の構想の際に分かっていた技術仕様に基づいて作成されました。

「クイック」ガイドには該当モデルの全バージョンの装備がまとめられています（標準装備とオプション装備を含む）。車両の各装備の有無はバージョン、オプションや販売国によって異なる場合があります。

同様に、年内に導入が予定される新装備につきましても記載される場合がありますのでご了承ください。

取扱説明書の図は、例として提供されているものです。

満足のいくカーライフをお楽しみください。

フランス語からの翻訳。たとえ部分的であっても、自動車メーカーの許諾書なしに本書の複製または翻訳をすることは、固く禁じられています。

要約

電気自動車をお買い上げいただきありがとうございます。	4
外側	4
室内コントロールユニット	6
ドライビングポジション	8
トリップコンピューター	10
セーフティオンボード	12
車両の識別 - ラベル	14
エンジンルーム（日常のメンテナンス）	16
車両故障時の対処の仕方	18
あなたのお車について知っておきましょう 20	
電気自動車	20
カードキー	50
デジタルキー	58
ドアと閉鎖部	61
顔認識	68
フロントシート	69
後席	72
シートベルト	74
補助の安全装置	79
子供を乗車させるとき	88
チャイルドシート	94
お子様の安全: 助手席エアバッグの作動解除／作動	109
ドライビングポジション	114
オンボードコンピューター	118
警告灯	131
ステアリング	135
リアビュー	137
ランプ類	139
ホーン／パッシングランプ／ハザードランプ／方向指示灯	145
ワイパー	146
発進する	152
エンジン始動と停止	152
「Overtake」機能	155
スタンディングスタートの手順	157
シフトコントロール	159
回生ブレーキシステム	161
パーキングブレーキ故障	165
地球にやさしい車づくり	170
ドライビングアドバイス、エコドライブ	171
タイヤ空気圧モニターシステム	175
ドライビングアシストと補正装置	181
運転時の補助機能	186
スピードリミッター	228
Stop and Goアダプティブクルーズコントロール	232
Active driver assist	248
緊急停止アシスト	263
パーキングアシスト	272
緊急サービスコール	292
快適装備	295
走行モード	295
エアベンチレータ、ヒーター、エアコン	296
マルチメディア装備	308
室内装備	310
各部の収納スペース	314
荷物を積み込む	317
点検整備	321
エンジンへのアクセス、レベル	321
バッテリー：	326
クリーニング	329
使用上のアドバイス	333

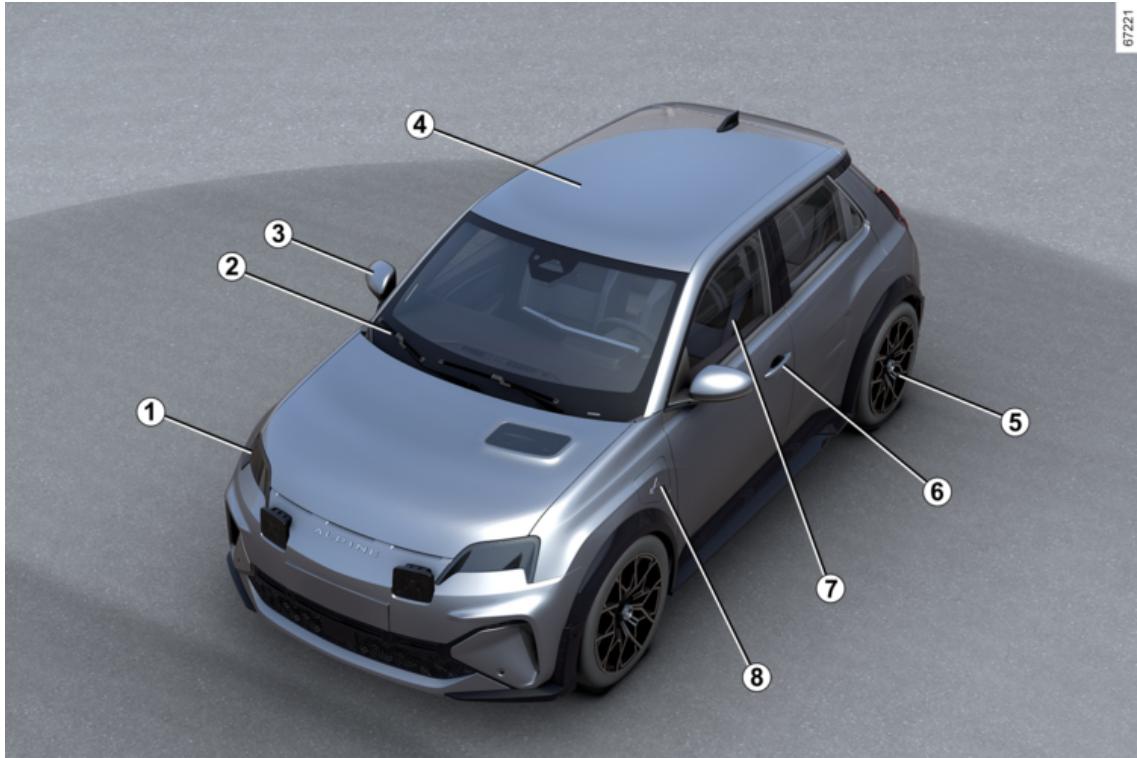
要約

タイヤ.....	333
車両故障時の対処の仕方	341
ヘッドライト、ランプ: 電球の交換.....	343
ワイパー・ブレード: 交換	346
ヒューズ	348
アクセサリの取付けと使用.....	352
作動異常	354
テクニカルスペック	359
車両に関する情報.....	359
部品および修理	367
整備証明	368
防錆点検	374

外側

1

67721



外側

1. 照明: 操作 ➔ 139

照明: 交換 ➔ 343

2. ウィンドウワイパ／ウォッシャー

➔ 146

デミスター ➔ 301

3. ルームミラー ➔ 137

4. 車体保守整備 ➔ 329

5. タイヤ ➔ 333

6. ➔ 50 ➔ 58 カード

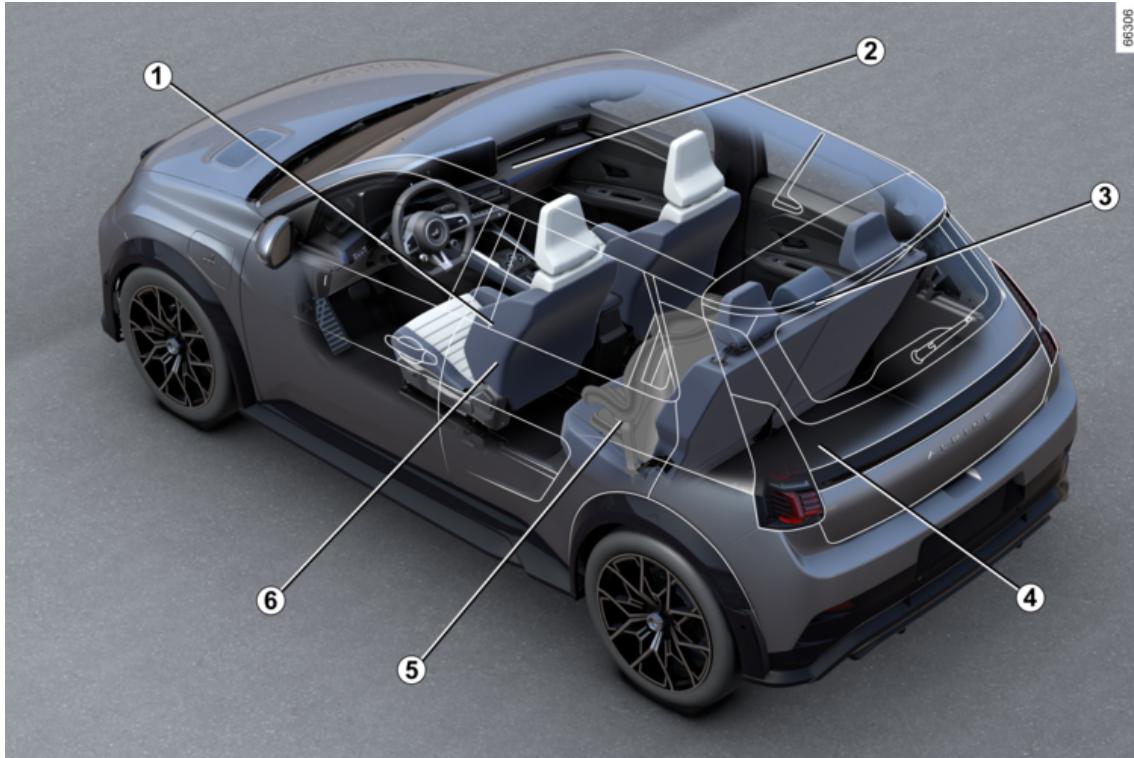
ドアのロック、ロック解除 ➔ 63

7. パワーウィンドウ ➔ 310

8. 積荷 ➔ 28

室内コントロールユニット

1



66306

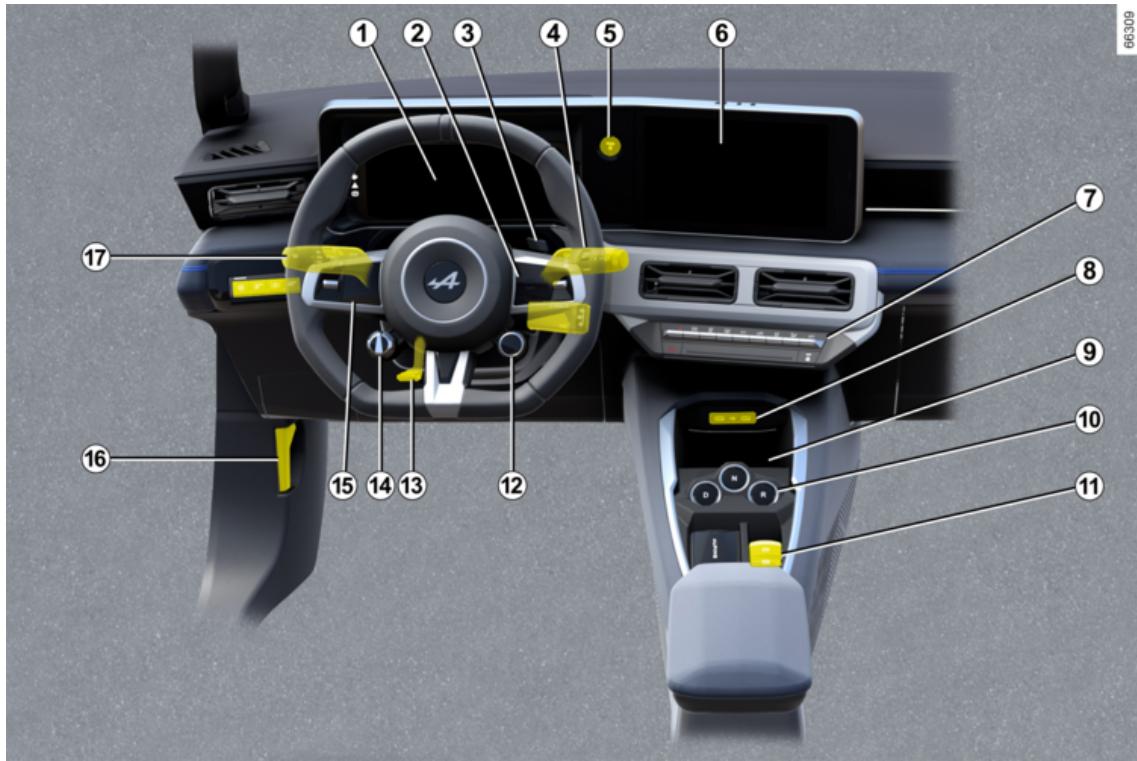
室内コントロールユニット

1. 運転位置の調整 ➔ 74
2. 車内の収納／装備品 ➔ 314
3. リアシートヘッドレスト ➔ 72
リアベンチシート ➔ 73
4. 運搬物 ➔ 317
5. お子様の安全確保 ➔ 88
6. フロントシートヘッドレスト ➔ 69
フロントシート ➔ 69

ドライビングポジション

1

66309



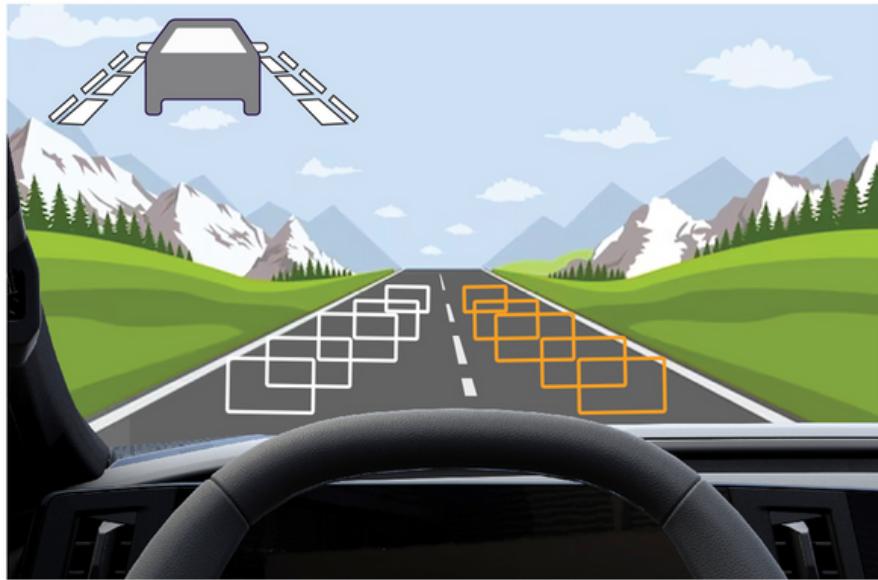
ドライビングポジション

1. インストルメントパネル ➔ 131
2. トリップメーター制御 ➔ 118
3. 追い越し (OV) 制御 ➔ 157 ➔ 155
4. ウィンドウワイパ／ウォッシャ制御装置 ➔ 146
5. エンジン始動／停止ボタン ➔ 152
6. マルチメディア画面 ➔ 308
6. ヒータ付きシート ➔ 69／ヒータ付きステアリングホイール ➔ 135
7. ヒーターシステム／エアコン ➔ 301
8. センターコンソール内の USB-C ポート ➔ 313
9. センターコンソールの後部収納引出し / 誘導充電ゾーン ➔ 314
10. シフトレバー ➔ 159
11. パワーアシストパーキングブレーキ ➔ 165
12. 走行モード制御 ➔ 295
13. ステアリングホイール ➔ 135
14. 回生ブレーキ制御 ➔ 161
15. 速度リミッター ➔ 228
ストップアンドゴーアダプティブクルーズコントロール ➔ 232
16. ボンネットオープナー ➔ 321
17. エクステリアランプ ➔ 139

トリップコンピューター

1

62354



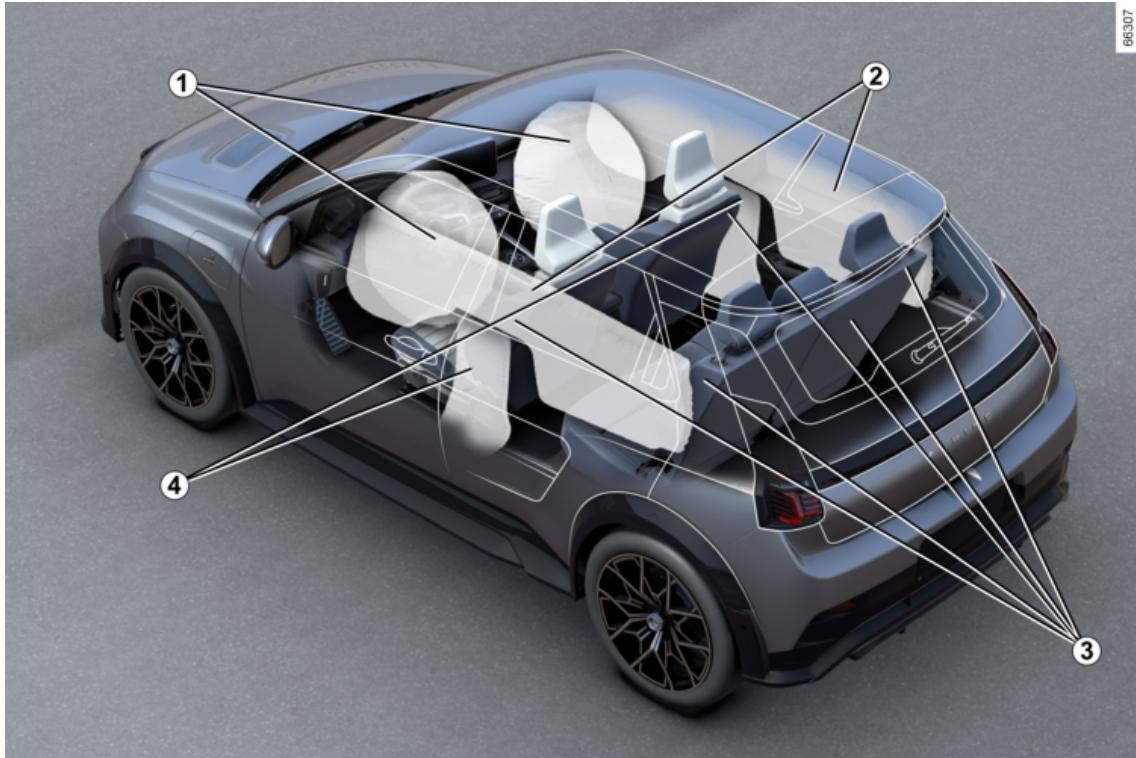
トリップコンピューター

- 運転補正装置や運転支援 → 181
- My Safety → 186
- 車線離脱防止 → 187
- 緊急車線離脱防止 → 194
- エマージェンシーブレーキアシスト
→ 209
- シフトレバーが「後進」位置の場合に作動するエマージェンシーブレーキアシスト → 225
- 死角警告 → 201
- 駐車可能時間終了警告 → 286
- タイヤ空気圧監視システム → 175
- 安全車間距離警告 → 205
- ドライバーに対する注意喚起のための警告 → 216
- ドライバーに対する疲労警告: → 218
- 速度リミッター → 228
- ストップアンドゴーアダプティブクルーズコントロール → 232
- 道路標識検出 → 221
- パーキングアシスト → 275
- リアビューカメラ → 272
- 「ハンズフリー駐車」 → 281
- 降車時安全確保 → 289
- 駐車可能時間終了警告 → 286

セーフティオンボード

1

66307



セーフティオンボード

1. Airbags フロント → 80

助手席 airbag 抑制 → 109

2. Airbags カーテン → 85

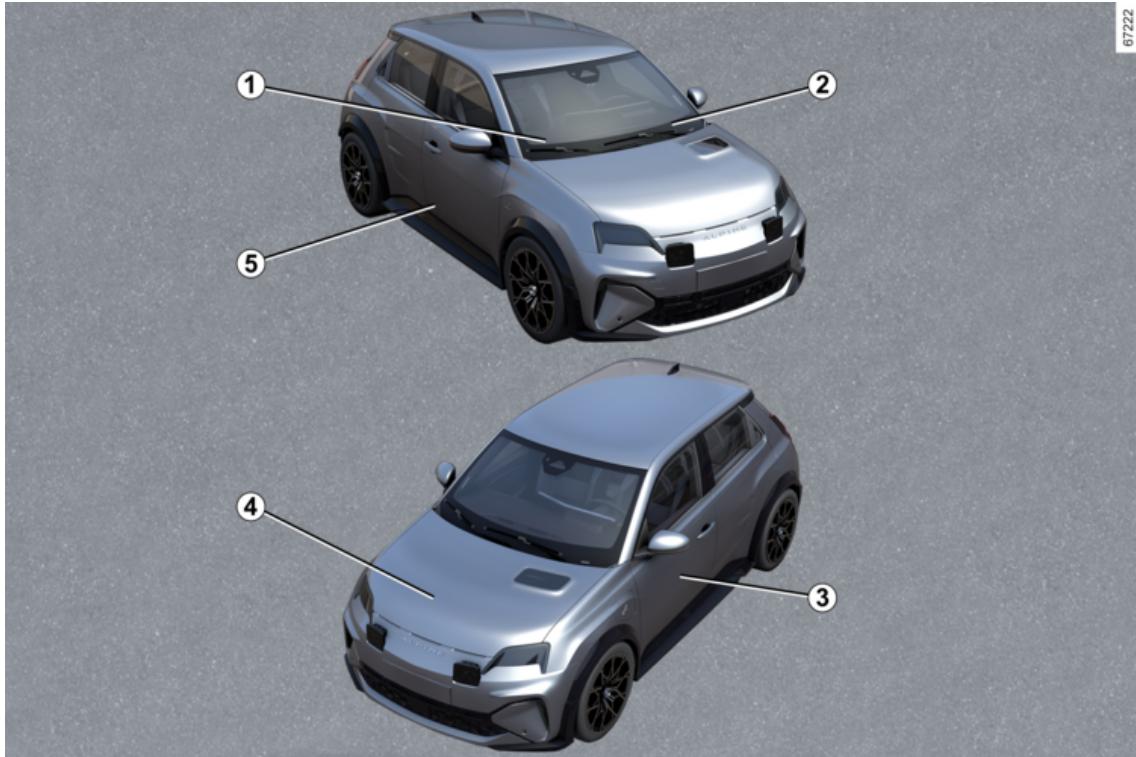
3. シートベルト → 74

4. Airbags サイド → 85

車両の識別 - ラベル

1

67222



車両の識別 - ラベル

1. 緊急時対応サービスに関する技術情報
報 ➔ 359

2. 車両識別番号確認 ➔ 359

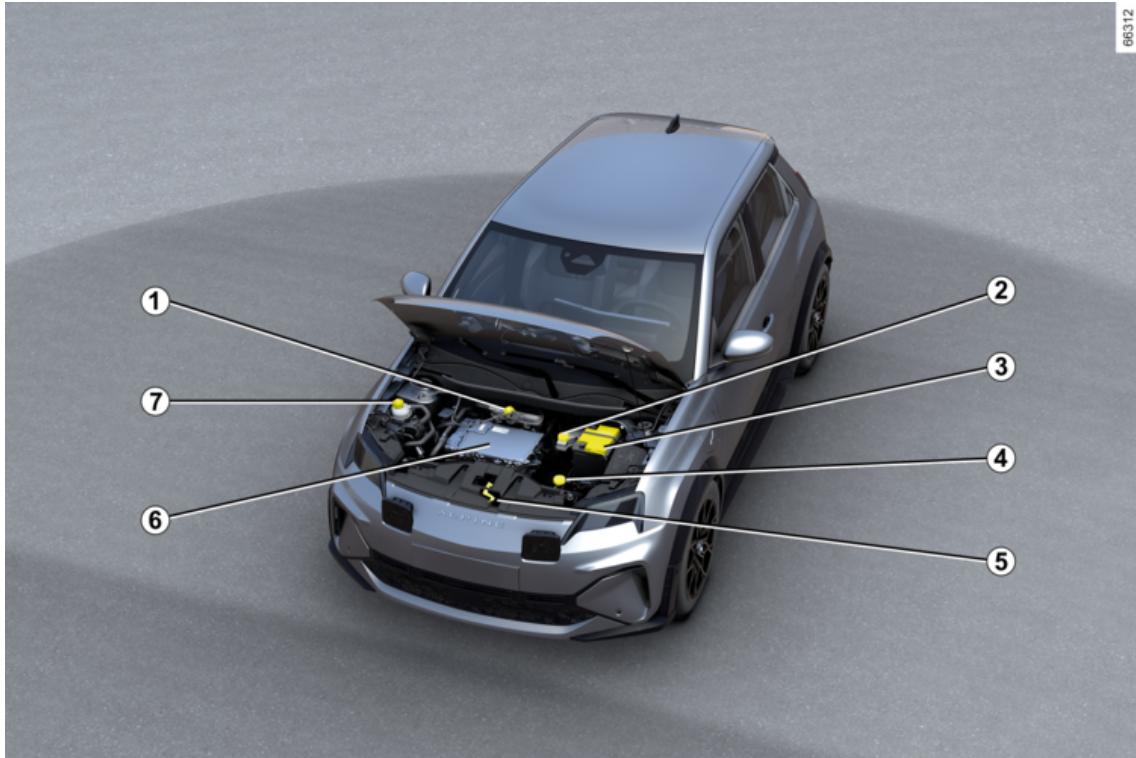
3. タイヤ空気圧ラベル ➔ 335

4. エンジン識別情報 ➔ 361

5. メーカープレート ➔ 359

エンジンルーム（日常のメンテナンス）

1



66312

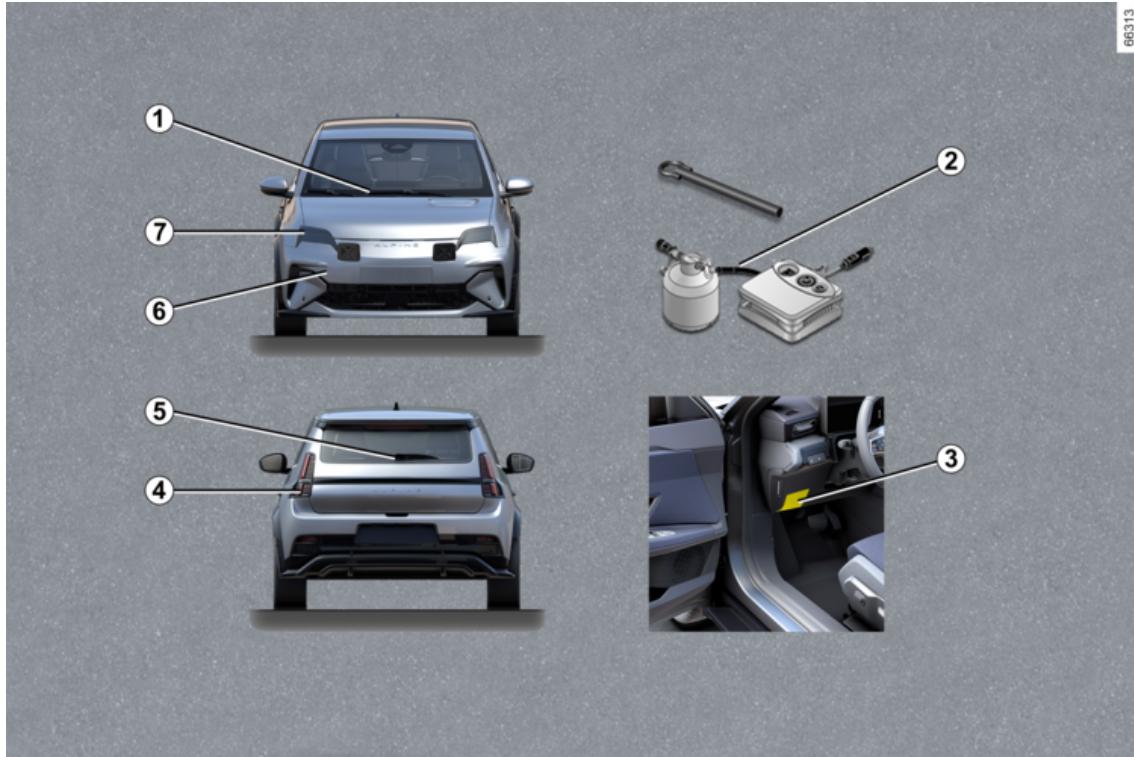
エンジンルーム（日常のメンテナンス）

1. バッテリとエンジン冷却水 → 323
2. ブレーキ液 → 323
3. 12 V バッテリ → 326
4. ウィンドウウォッシャー液 → 325
5. ボンネット開放 → 321
6. 「高電圧」電気回路 → 20
7. 車内冷却水 → 323

車両故障時の対処の仕方

1

66313



車両故障時の対処の仕方

1. フロントワイパープレードの交換

→ 346

2. パンク → 336

ツール → 340

3. ヒューズ → 348

4. テールランプバルブの交換 → 343

5. リアワイパープレード → 346 の交換

6. フロント牽引ポイント → 341

7. ヘッドランプバルブの交換 → 343

電気自動車

はじめに

電気自動車には特別な機能がありますが、従来の自動車と同じように動作します。

電気自動車の主な違いは、従来の自動車で使用されているように、燃料ではなく電気エネルギーを専用として使用することです。

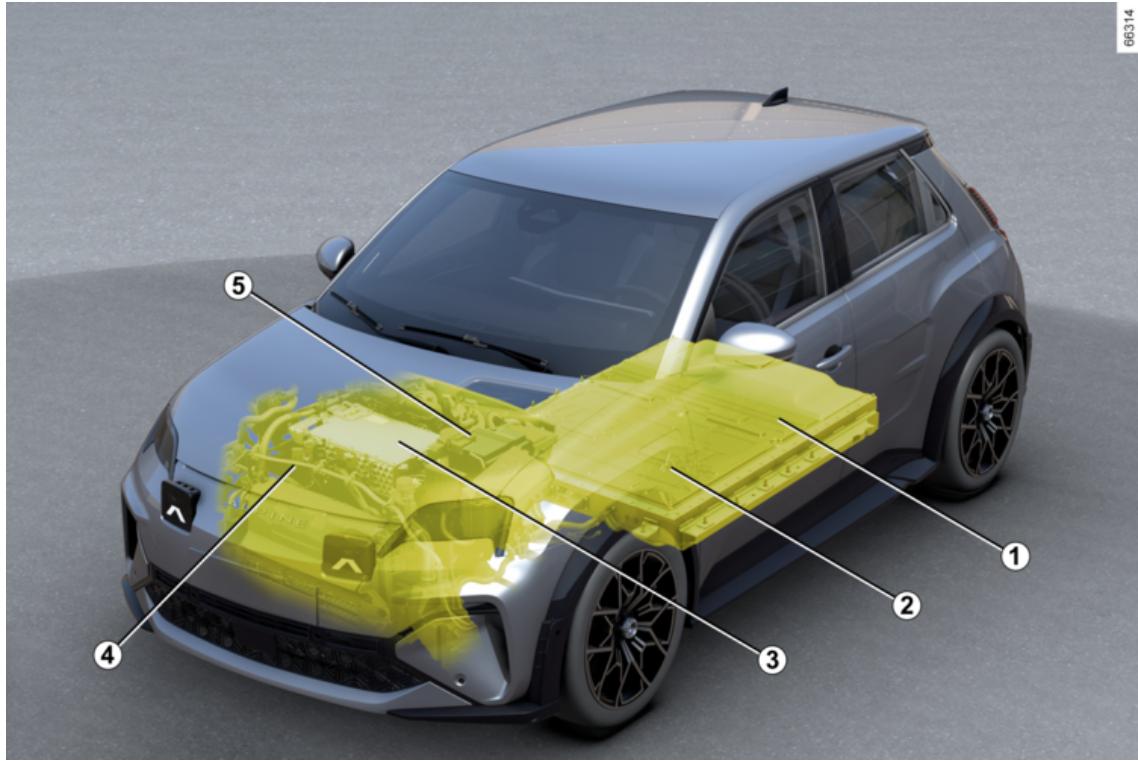
したがって、電気自動車について説明しているこれらの指示を注意深く読むことをお勧めします。

電気自動車

電気自動車の回路配線図

2

66314



電気自動車

1. 「高電圧」トラクションバッテリ。
2. 充電ソケット。
3. 電動モータ。
4. オレンジの電源ケーブル。
5. 12Vバッテリ。

電気自動車

接続サービス

2

はじめに

電気自動車には、情報や制御を提供する接続サービスがあります。

- バッテリ残量低下警告を伴う車両の充電状態
- 提供されている特定の選択に基づくトラクションバッテリの充電プログラミング。
- 車両の残りの走行可能距離
- ...

これらのサービスには、次のものを使うことでアクセスできます。

- 外部デジタル端末（携帯電話、タブレットなど）。
- 車両のマルチメディア画面。

詳細については、マルチメディア機器の説明書を参照するか、正規サービス工場に問い合わせてください。



正規サービス工場に相談して、いつでも接続サービスに登録したり延長したりできます。

バッテリ

電気自動車用バッテリーには次の2種類があります。

- 「高電圧」トラクションバッテリ。
- 「12V」バッテリ。

「高電圧」トラクションバッテリ。

このバッテリは、電気自動車のモータを適切に動作させるために必要なエネルギーを蓄えます。他のバッテリーと同様に、使用すると放電します。定期的に充電する必要があります。

トラクションバッテリを充電するために、トラクションバッテリがリザーブレベルに達するまで待つ必要はありません。

充電時間は、接続する特定の壁ユニットソケットまたは公共端末の種類によって異なります。

車両バッテリによる航続距離は、トラクションバッテリの充電残量とドライバーの運転スタイル→173に応じて変動します。

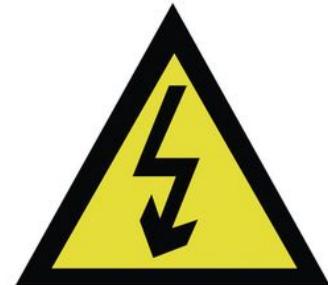
トラクションバッテリの冷却には車両の空調システムが使用されます。

トラクションバッテリの寿命を延ばすには、適格な資格のある専門作業者に空調システムの点検を依頼します。特に、空調性能が低下している場合に点検が必要です。

12Vバッテリ

車両の補助バッテリは12Vバッテリで、車両装備（照明、ウィンドウワイパー、ブレーキアシストなど）の作動に必要な電力を供給します。

(A)



記号は、お使いの車両内にあり、危険の原因となり得る電気構成部品を示しています。

電気自動車

「高電圧」電気回路



「高電圧」電気回路は、オレンジ色のケーブル⁶と△記号付き部品により識別できます。



電気自動車の駆動システムは高電圧電流を使用します。

このシステムは、イグニッションのオフ中およびオフ後に熱くすることがあります。車両のラベルに表示される警告メッセージを尊重します。

車両の「高電圧」電気システム（構成部品、ケーブル、コネクタ、トラクションバッテリ）における一切の作業または改造は、安全上のリスクのため固く禁止されています。正規サービス工場にご連絡ください。

重度の火傷や感電のリスクは、死に至る可能性があります。

発進する

オートマチックギアボックス付きの車と同様に、左足を使わず、左足を使ってブレーキをかけないことに慣れる必要があります。

運転中にアクセルペダルから足を離したり、ブレーキペダルを踏んだりすると、減速中にモータが電流を発生させ、この電流が、トラクションバッテリの充電に使われます→171。

悪天候、浸水した道路：



道路上の水溜りの深さがホイールリムにまで達するようでしたら走行を見合わせてください。



エンジンブレーキは、ブレーキペダルの代用として使用しないでください。



運転の妨げになるもの
運転席側は、車両に適合したフロアマットのみを必ず使用し、あらかじめ装備されたパーツにしっかりと固定されているか定期的に確認してください。複数のマットを余分においてはいけません。

ペダルの動作を妨げる危険があります。

ノイズ

電気自動車は特に静かです。あなたはまだそれに慣れていないでしょうし、他の道路利用者も慣れていません。移動中の車両の音を聞くことは困難です。

電気自動車

モータは静かであるため、聞き慣れていないノイズ（空気力学的ノイズ、タイヤノイズなど）が聞こえます。

2 イグニッションスイッチをオフにした場合、約10秒後に換気がオフになります。

歩行者ホーン

歩行者ホーンを使用すると、他の人、特に歩行者や自転車に警告することができます。

エンジンを始動すると、歩行者ホーンが自動的に作動します。この音は、車速が約1～30km/hの場合に発せられます。

歩行者ホーンの詳細については、マルチメディアの取扱説明書を参照してください。

歩行者警告ホーンに不具合が生じる

と、警告灯  がインストルメントパネル上に表示され、「外部音量異常」というメッセージも表示されます。

メーカーにお問い合わせください。



電気自動車は無音です。
離れる前に、足をブレーキにかけた状態でエンジンを停止します。

重傷を負う危険があります。

重要な推奨事項



これらの手順をよくお読みください。これらの指示に従わないと、**火災、重傷、感電のリスクが発生し、死亡する可能性があります。**

事故や衝撃が発生した場合

操作時にサブフレームに事故または衝撃があった場合は（縁石、歩道またはその他の市街地設備との接触など）、車両（後アクスルの変形など）、電気回路、トラクションバッテリーを損傷した恐れがあります。

正規ディーラーに車両を点検してもらいます。

車内外の露出部分にある「高電圧」の構成部品やオレンジ色のケーブルには絶対に触れないでください。

トラクションバッテリに重大な損傷が発生した場合、漏れが発生する可能性があります。

- トラクションバッテリが源泉の液体（フルードなど）には絶対に触れないでください。
- 身体と接触した場合は、患部を十分な水で洗い、できるだけ早く医師に相談してください。

衝突した場合は、充電フリップやバルブに軽く当たっただけであっても、できるだけ早く正規サービス工場でボンネットロックの点検を受けてください。

火災が発生した場合

火災が発生した場合は、直ちに全員に車両を離れ避難させて、緊急サービスに連絡し、これが電気自動車であることを知らせます。

消火剤ABCのみ、またはBC電気火災での使用が許可されているもののみを使用してください。水や消火剤は使用しないでください。

電気回路が破損した場合は、正規ディーラーにお問い合わせください。

あらゆる牽引作業→341。

車両の洗浄

エンジンルーム、充電接続部、トラクションバッテリを高圧ジェットで絶対に洗わないでください。

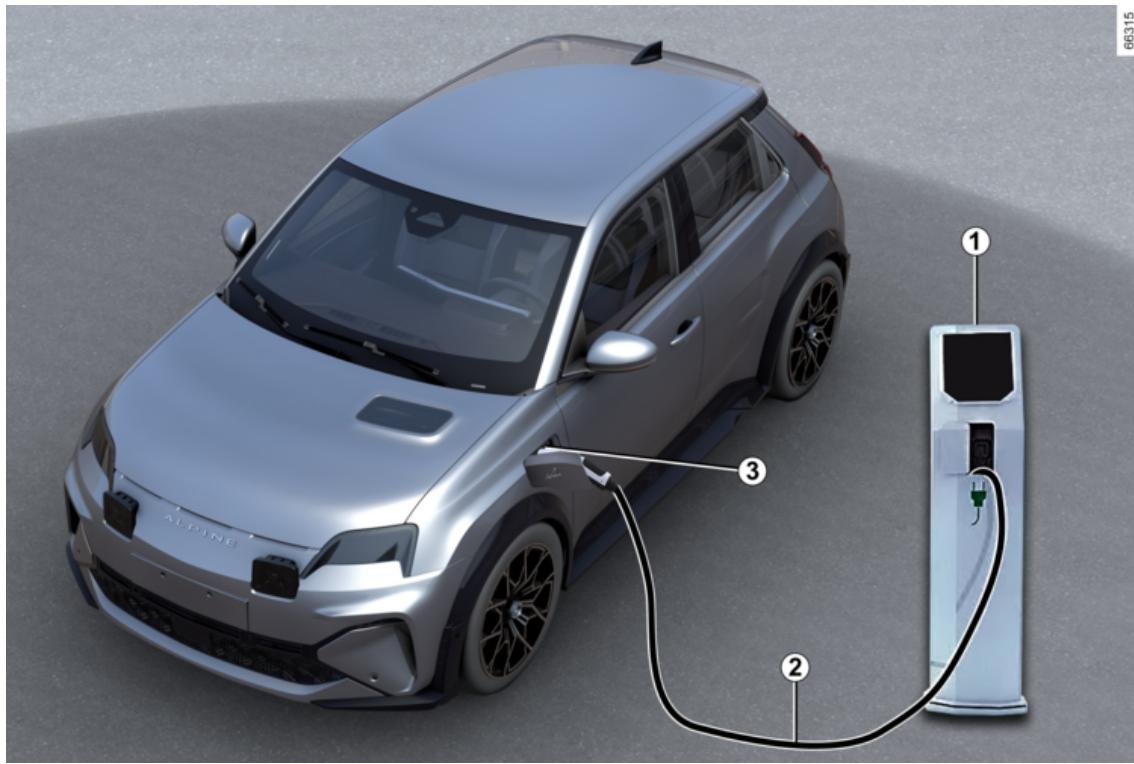
電気回路を損傷する危険があります。

充電中は車両を絶対に洗わないでください。車両の充電中は、充電ケーブルを絶対に洗わないでください。充電ピンの腐食を防ぐため、ケーブルが接続されていない間は、充電ケーブルと充電ケーブルプラグを絶対に洗浄しないでください。
感電や生命へのリスクがあります。

電気自動車

充電

回路配線図



電気自動車

- 特定の壁ソケットまたは充電端子。
- 充電ケーブル。
- 充電ソケット。

2

 充電に必要な機器についてご質問がある場合は、正規サービス工場にお問い合わせください。



車両の充電に関する重要な推奨事項

これらの手順をよくお読みください。これらの指示に従わないと、火災、重傷、感電のリスクが発生し、死亡する可能性があります。

充電

充電中は車両に何もしないでください（洗浄、エンジンルームでの作業など）。

充電ケーブルコネクタまたは車両の充電ソケットに、水分、腐食の兆候または異物が存在する場合は、車両を充電しないでください。火災の恐れがあります。

ケーブルの接点、家庭用コンセントまたは車両の充電ソケットに触れたり、異物を挿入したりするのはお止めください。

充電ケーブルをアダプタ、複数のソケットまたは延長リードに挿入するのは絶対にお止めください。

発電機の使用は禁止されています。

車両の充電ソケットまたは充電ケーブルを取り外したり、交換したりするのは絶対にお止めください。火災の恐れがあります。

充電中にインストール構成を変更したり、操作を実行したりしないでください。

衝突した場合は、充電口のフラップまたはバルブに軽く当たっただけであっても、できるだけ早く認定ディーラで点検を受けてください。

コードの取扱いには十分注意し、コードを踏む、水に浸す、引っ張る、何かにぶつけるのはお止めください。

充電ケーブルが良好な状態か定期的に確認します。

充電リードに破損（腐食、変色、切断など）がある場合、ユニットや車両の充電ソケットに対しては使用しないでください。認定ディーラに交換をご依頼ください。

充電口フラップのロック機構が作動しない場合や、車両の充電ソケットのロックが解除された場合は、認定ディーラにご連絡ください。

電気自動車

充電ケーブル A

2

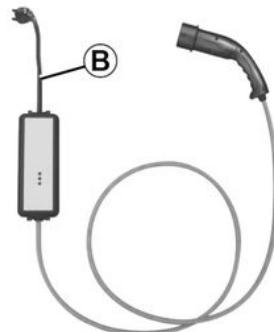
47303



このリードは、車両に固有のもので、トラクションバッテリの標準充電を可能にするために、壁掛けソケットまたは公衆端末に接続するために設計されています。

充電ケーブル B

35906

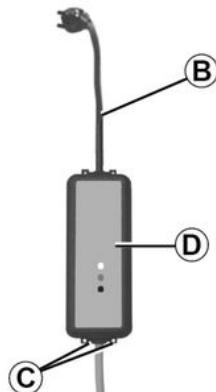


このコードは次の用途に使用できます。

- 車両専用ソケット（14 A/16 A 充電用）での通常使用。
- 自宅以外の場所で家庭用電源コンセント（8 A）を利用して行う一時的な充電など。

いずれの場合も、付属説明書に記載の方法でソケットを充電ケーブル B に取り付けてください。

345777



いずれの場合も、充電コード B の取扱説明書をよくお読みください。

i コードでソケットをぶら下げたままにしないでください。コードは必ずフック C に引っ掛けてください。

電気自動車

充電中に不具合が生じた場合（ユニット D に赤色警告灯が表示された場合）は、ただちに充電を停止してください。
充電ケーブルの取扱説明書をご覧ください。

各充電ケーブルは、車両のトランク→66に格納されています。

標準充電でトラクションバッテリを充電するための充電コードを使用することをお勧めします。

充電コードは、コードが切断されているか確認してから清掃してください。
ケーブルは、少し湿らせた布を用いて拭き上げます。
清掃の際には、腐食を避けるため、ケーブルの端部（コネクタ、充電ピン）に濡れた布が接触しないよう注意してください。

電気自動車

重要な推奨事項

2



車両の充電に関する重要な推奨事項

これらの手順をよくお読みください。これらの指示に従わないと、火災、重傷、感電のリスクが発生し、死亡する可能性があります。

充電コードの選択

車両に付属の標準充電リードは、この車両用に特別に設計されています。これは、死亡または火災につながる可能性のある感電のリスクからあなたを保護するように設計されています。

以前の車両の充電リード線は適合していないため、使用しないでください。

安全上の理由から、メーカーが推奨しない充電コードの使用は厳禁です。この指示に従わないと、火災または感電の危険があり、致命的な事態を招く可能性があります。車両に適した充電コードについては、正規サービス工場にお問い合わせください。

充電コード B の使用

製品を使用する際に必要な注意事項やソケットを取り付ける際に必要な技術仕様について、充電コードに付属の説明書をよくお読みください。

基本的な装着方法

壁コンセント

資格のある専門スタッフが設置した特別な壁コンセントを用意してください。

家庭充電の場合

充電ケーブル接続先の各ソケットが、お住まいの国で施行されている規格や規制に適合しており、「電源システム」に関する情報に記載の仕様にも適合しているかについて、適格専門家の確認を受けてください。

電源システム

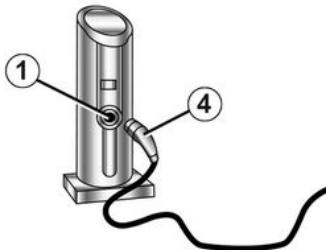
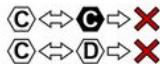
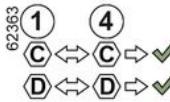
IEC 61851-1 規格に準拠した充電ターミナルと、次の方で保護された接続部のみを使用してください。

- 使用するソケットに固有のタイプ A 30 mA 地絡遮断器
- 過電流保護装置
- 露出領域における被雷に伴う過電圧に対する保護（IEC 62305-4）。
- 該当国の規格に適合するアース接続。

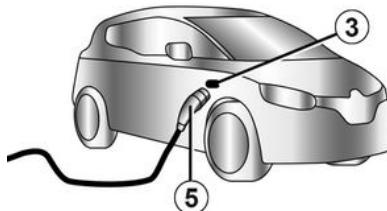
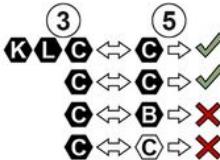
電気自動車

欧州規格に適合する充電タイプ

交流電流（AC）



62364



車両の充電フラップに情報が表示されている場合は、以下の指示に従ってください。

充電リードを接続する前に、次のこと確認します。

- 入力ソケット 1 の色と 1 文字は、ケーブル端部 4 にある色と 1 文字に対応しています。

- 入力ソケット 3 の色と 1 文字は、ケーブル端部 5 にある色と 1 文字に対応しています。

電気自動車

ラベル

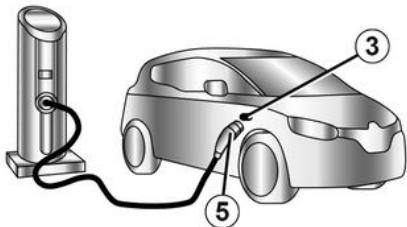
充電タイプ	交流電流 (AC)			
接続	充電端子 1／充電ケーブル 4 車両 3／充電ケーブル 5			
欧洲規格に適合する充電タイプ（その他の場合は、指定サービス工場にご相談ください）。				

電気自動車

直流 (DC)

2

62378	(3)	K L C ↔ K	⑤	→ ✓
		K L C ↔ L		→ ✓
		K L C ↔ M N		→ ✗
		K L C ↔ O		→ ✗



車両の充電フラップに情報が表示されている場合は、以下の指示に従ってください。

充電ケーブルを差し込む前には、インレットソケット 3 の色と 1 文字が、充電ケーブル端部 5 にある色と 1 文字に対応しているか確認してください。



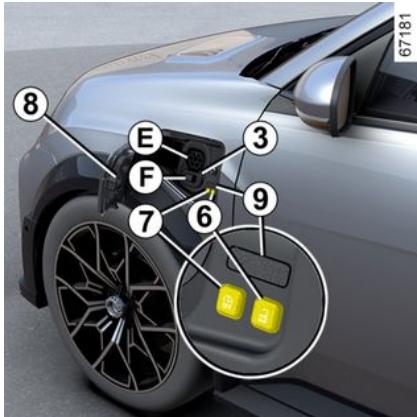
車両を急速充電する場合 (DC) 、車両と充電ターミナル間で充電ケーブルの長さが**30メートル**以下であることが必要です。ケーブルの長さについて懸念がある場合、充電ターミナル (DC) の所有者にご相談ください。

電気自動車

ラベル

充電タイプ	直流電流（DC）				
接続	車両 3 / 充電ケーブル 5				
欧州規格に適合する充電タイプ（その他の場合は、指定サービス工場にご相談ください）。					

充電ソケット 3



注: 降雪時には、車両の充電ソケット周辺部にある雪を取り除いてから接続または切断してください。

ソケットに雪があると、充電コードプラグの挿入が妨げられることがあります。

この車両は、そのフロントに次の2つの充電接続部を備えています。

- 11 kWまでの充電に対応したソケット **E**

- ソケット **F**。急速充電用のソケット **E**に加えて装着されています。

i ソケット **F**はブランкиングカバーで保護されています。充電ケーブルをソケット **E**に差し込む前には、ソケット **F**上のブランкиングカバーが定位置に取り付けられているか確認してください。

充電フラップの内側には、次の2つのボタンもあります。

- **6** ボタンを押すと、充電ケーブルのロックが解除されます。

- ボタン**7** は、充電プログラムを停止（構成済みの場合）して車両への充電を即時に開始したい場合に使用できます。

注意

バッテリーの寿命を延ばすため、日々の車両充電時には80%までの充電に留めることをおすすめします。

極端な温度（高温または低温）下で車両を充電して駐車しないでください。

極端な条件下では、充電が開始するまでに数分かかることがあります（トラクションバッテリが冷却またはウォームアップするまでの時間）。

約 -25 °C未満の環境で車両を7日を超えて駐車すると、トラクションバッ

テリーを充電できなくなる恐れがあります。

ほぼゼロの充電状態で車両を3か月以上駐車すると、バッテリの充電が不可能になることがあります。

使用可能なエネルギーレベルはバッテリ温度によって異なります。したがって、バッテリの冷間時または暖機時ににおいて、車両の停止時と再始動時の間に異なる場合があります。

トラクションバッテリの寿命を維持するために、特に天候が非常に暑いときは、高充電で1か月以上車両を駐車しないでください。

走行後および / または温和な環境でのトラクションバッテリの充電を優先してください。それ以外の場合は、充電に時間がかかるか、または不可能になる場合があります。

充電残量が少なく（25%未満）、気温が氷点下である場合は、運転後に車両を再充電することをおすすめします。

アドバイス

- 高温の場合は、日陰／屋根の下に車両を停めて充電してください。

- 充電は雨や雪の中で行うことができます。

- エアコンを作動させると、充電時間が長くなります。

**トラクションバッテリの充電
車両停止、イグニッションオフ:**

電気自動車

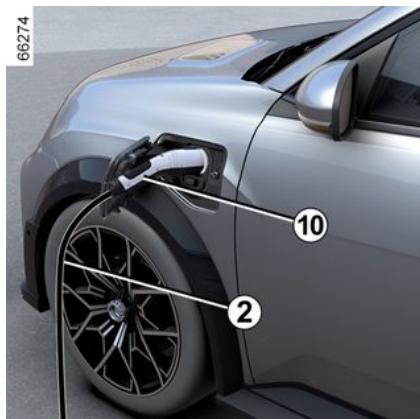
- 車両のトランク内に設置されている収納トレイの中から充電ケーブル 2 を取り出します。

- 充電フラップ 8 を押してロックを解除します。警告灯 9 が白色表示されます。

i 車両によっては、充電口フ ラップが開いているか正し く閉まっていない場合、「充電フラップ オープン」とい うメッセージがインストルメント パネル上に表示されます。



i マルチメディアシステムを 使用してシステムの更新を 受け入れただけであれば、 トランクションバッテリの充電が遅 延またはキャンセルされます。 充電リードを車両に接続する前 に、更新が完了するまで待ちま す。システム更新の詳細について は、マルチメディア機器の取扱説 明書を参照してください。



- ケーブルの端を電源に差し込みま す。

- ハンドル 10 をつかみます。

- 車両コードを差し込みます。警告灯 9 が白色点滅します。

注: 急速充電の際には、ブランкиング カバー 12 のプラスチック製配線 11 が、差込みの際に、充電ケーブルコネ クタと電源の間に挟まらないよう注意 してください。

i 車両の充電中に充電ケーブ ル 2 を充電口フラップ 8 に引っ掛けるのはお止めく ださい。

- カチッというロック音が聞こえたら、充電ケーブルが正しく接続されて いるか確認します。ロックを確認する には、ハンドル 10 を軽く引きます。

- 計画充電の設定中にすぐに充電を開 始したい場合は、充電開始ボタン 7 を 押します ➤ 304。

充電コードは車両に自動的に固定され ます。これにより、車両からコードを抜 くことができなくなります。

i 加熱を制限するために、充 電コードを完全にほどいて ください。

電気自動車

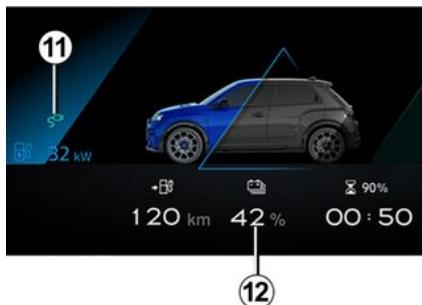
2



拡張リード、複数のソケット、またはアダプタは使用しないでください。

火災の恐れがあります。

充電中は表示灯 9 が青色点滅します。



充電が開始されると、インストルメントパネルに次の情報が表示されます。

- バッテリ表示灯上に表示されるエネルギー残量 **12**。
- バッテリ充電残量。
- 残りの充電時間の推定値（充電率が約 95% に達するとこの情報は表示されなくなります）。

- 表示灯 **11** は、車両が電源に接続されていることを示します。

- 車両の範囲は、充電レベルによって異なります。

インストルメントパネルの表示が数秒後に消えます。ドアが開くと、インストルメントパネルに再び表示されます。

1回の充電が完了すると、表示灯 **9** が緑色表示されます。

車両を充電するために充電がリザーブレベルになるまで待つ必要はありません。



トラクションバッテリの充電時間は、充電端子によって供給されるエネルギーの残量と電力量によって異なります。情報は充電中にインストルメントパネル上に表示されます

→ **125**。

注: 特定の条件下では、実際の充電時間がインストルメントパネルに表示される充電時間よりも長くなる場合があります。これは次の条件に依存します:

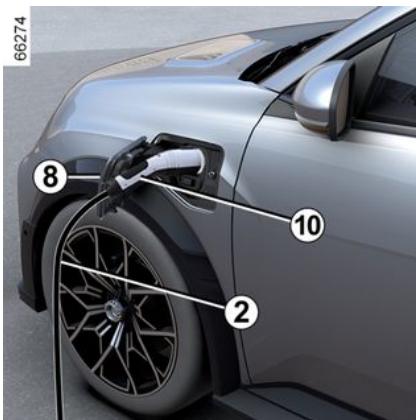
- 電気ネットワークの品質、
- 初期充電レベル
- 外気温が低すぎる
- ...

充電ケーブルに問題がある場合は、元のケーブルと同一のケーブルに交換することをお勧めします。メーカーにお問い合わせください。

作動異常

警告灯 **9** が赤色常時点灯する場合は、正規ディーラーにお問い合わせください。

電気自動車



ソケットから取り外す際の注意点

- 車両充電ケーブルのロックを解除するには、ボタン **6** を押すか、カード上のドアロック解除ボタンを**長押し**します。
- ハンドル **10** をつかみます。

i プラグを抜く手順を順番に実行することが不可欠です。

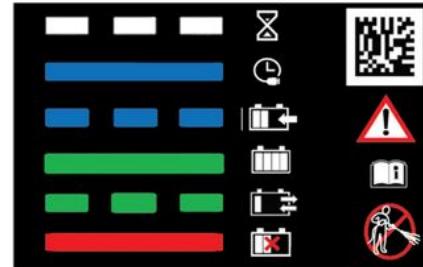
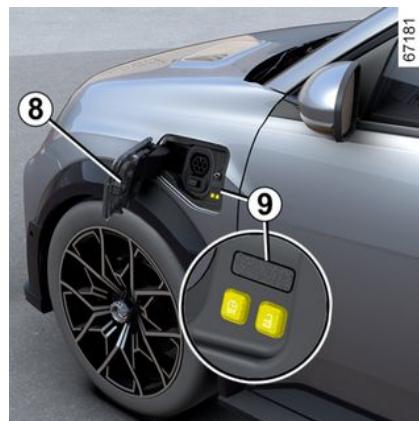
- 充電ケーブル **2** を車両から切り離します。
- 充電口フラップ **8** を閉じ、押してロックしてください。
- ケーブル **2** を電源 **1** から切り離します。

- ケーブル **2** をトランクの収納ボックス内に収納します。

注: トランクションバッテリーを長時間充電した直後は、ケーブルが熱くなっている可能性があります。ハンドルをご利用ください。

i 充電ケーブルのリリースボタンを押した後、もう一度ロックする前に、約 30 秒待つ必要があります。

ラベル 13



充電口フラップ **8** に貼付されているラベル **13** には、次のような充電の状態を示す表示灯 **9** に関する情報が記載されています。

- この警告灯が白色点滅の場合、ケーブルが車両に差し込まれ、システムが必要な確認を実施している状態です。
- 警告灯が青色常時点灯の場合、充電プログラミングが有効化されている状態です。
- 青色で点滅:充電が進行中であるか、車両がその操作に主電源を使用しています(たとえば、客室のエアコン用)。
- 警告灯が緑色常時点灯の場合、車両の充電が完了している状態です。
- 緑色点滅の場合: ビークルトゥグリッド (V2G) 車両から送配電網への (V2G) 給電またはビークルトゥロー

電気自動車

ド (V2L) → 42が有効化されています。

- この警告灯が赤色常時点灯の場合、作動不良が生じている状態です。

右側のラベル 13 は、次のことについてドライバーに注意喚起するためのものです。

- 高圧ウォータージェットを使用して充電フラップを洗浄しないでください。

- バルブと充電口フラップは、車両が静止した状態でのみ開くことができます。

- 車両の走行中は、バルブと充電フラップを閉じてください。

- フラップを開けて充電リードを接続します。

- 外したら、フラップを再度閉じます。

- 内部ソケット、交流電圧充電端子または急速充電端子に接続します。

- 充電の詳細については、車両の取扱説明書を参照してください。

ルギーを使用して、AC 電力（最大で 16 A/3.7 kW）を供給します。

V2L 給電コネクタを使用すると、車両前方の充電ソケットを使用してさまざまな電気機器を接続および操作できます。

車両から家電等への (V2L) 給電機能

車両を静止させ、パーキングブレーキをかけると、「車両から家電等への」(V2L) 給電機能により、電気機器を直接車両に接続できます。

このシステムは、車両のトラクションバッテリ → 20 に蓄えられた電気エネ

重要な推奨事項



これらの手順をよくお読みください。これらの指示に従わないと、火災、重傷、感電のリスクが発生し、死亡する可能性があります。

V2L 給電機能を使う場合に注意すべき点。

損傷や感電につながり得るため、自宅への給電はお止めください。

V2L 給電機能使用中の洗車やエンジンルームでの作業はお止ください。

次の場合には、V2L 給電機能を使用しないでください。

- V2L 給電コネクタまたは車両の充電ソケット内に水分がある場合。
- 車両の V2L 給電コネクタまたは充電入力ソケットに損傷（破損、腐食の兆候、変色など）がある場合。この場合は、認定ディーラーにご連絡のうえ、交換をご依頼ください。
- 屋外使用の状況で天気が悪い場合（降雨時や落雷危険がある場合など）。

V2L 給電コネクタ上に金属の物を置くのはお止めください。

V2L 給電機能の使用中にV2L 給電コネクタを改造したり、コネクタへの干渉を行ったりするのはお止めください。

V2L 給電コネクタにアダプタを接続するのは絶対にお止めください。

V2L 給電コネクタを取り扱うおよび使う場合に注意すべき点。

必ず車両に付属の V2L 給電コネクタをお使いください。車両に付属の V2L 給電コネクタはその車両専用です。お客様の安全を確保するため、メーカー非推奨 V2L 給電コネクタの使用は固く禁じられています。お使いの車両に適した V2L 給電コネクタの詳細については、認定ディーラーにお問い合わせください。

V2L 給電コネクタに他のものを接触させたり、V2L 給電コネクタの AC 出力ソケットから延びている電源ケーブルを用いて機器を吊るしたりするのはお止めください。**損傷のおそれがあります。**

V2L 給電コネクタの取扱いにはご注意ください。接続中にコネクタを分解する、水に浸すまたは引っ張ることや、コネクタに他のものをぶつけることはお止めください。コネクタは、定期的にその状態を点検しながらお使いください。

電気／電子機器を使う場合に注意すべき点。

機器（延長ケーブル、マルチプラグなど）は、取扱説明書を参考し使用上の注意事項を確認してから差込みおよび使用してください。

次のものは差し込まないでください。

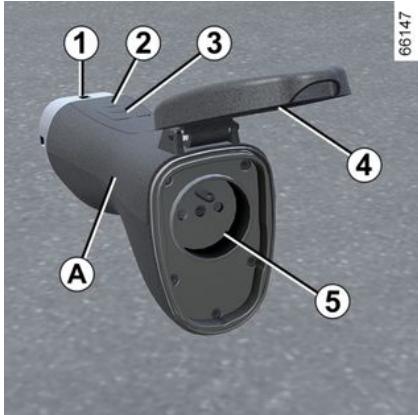
- 医療機器に代表される、直流電流が必要な機器。車両の稼働状況によっては給電が中断されることがあります。
- 消費電流が 16 A 超の機器。

電気自動車

- 2
- 国の規制や基準に反する機器。
 - 損傷のある機器（ユニット、ケーブルなど）。
 - 当初の段階では使用推奨機器であったが、使用環境の変化（粉塵や水に触れる危険のある環境に変わったなど）により環境に適合しなくなった機器。
 - 複数のマルチプラグ。使用中は、消費電流が8 A超の製品を接続しないでください。
 - 長さが20 m超の延長コード。使用する場合は、必ず完全に伸ばしてお使いください。

電気自動車

車両から家電等への（VLC）給電コネクタ A



1. 充電ソケット。
2. 作動警告灯。
3. ON/OFFスイッチ。
4. 保護カバー。
5. AC出力ソケット。

V2L給電コネクタは、トランクフロアマット下のツールキット内に格納されています。

i V2L給電コネクタの保守整備は、コネクタが切り離されているか確認してから実施してください。

コネクタは、少し濡らした布で清掃します。

清掃の際には、腐食を避けるため、コネクタの端部（コネクタ、充電ピン）に濡れた布が接触しないよう注意してください。

作動

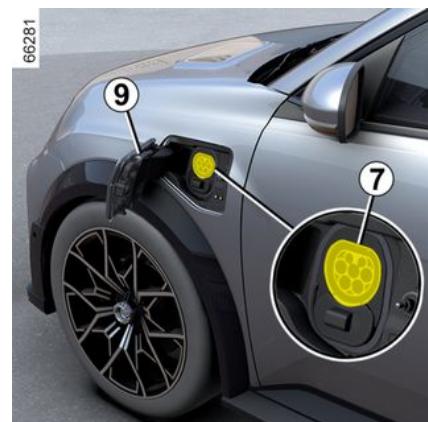


V2L給電機能の使用中は、パーキングブレーキをかけた状態に保ってください。

i V2L給電コネクタは、必ず所定の順序で接続／切離してください。

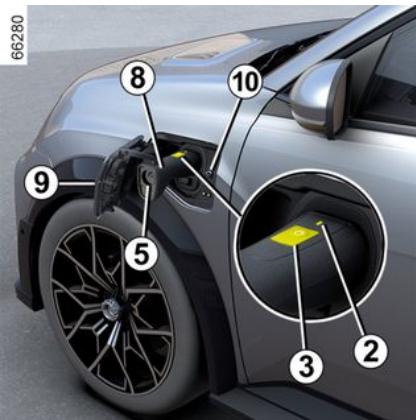
i デバイスは、V2L給電コネクタ表示灯 2 の消灯を確認してから接続または切離してください。

V2L給電コネクタを接続するには
次のように、車両を静止させた状態で、開閉部のロックを解除し、イグニッションスイッチをOFFにします。



電気自動車

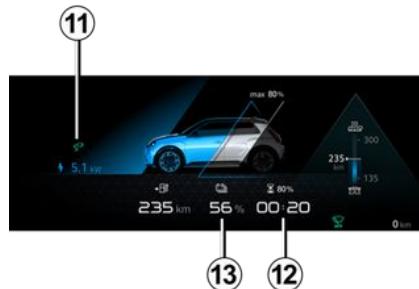
2



- 充電口フラップ **9** を押し、ロックを解除します。
- コネクタ **8** のハンドルを持ち、その端部 **1** を、車両の充電ソケット **7** に接続します。
- ハンドル **8** を軽く引く方法で、V2L 給電コネクタが正しく接続されているか点検します。給電は、ソケットロックが有効化されると開始されます。V2L 給電コネクタは、車両に対し自動的にロックされます。これにより、コネクタは車両から外れない状態になります。
- 電気機器を V2L 給電コネクタ AC 出力ソケット **5** に接続します。
- V2L 給電コネクタスイッチ **3** を、表示灯 **2** が緑色点灯するまで 3 秒以上押します。V2L 給電機能が有効化され、

充電ソケット **10** 上の表示灯が緑色点滅し、該当電気機器に給電されます。

注: V2L 給電コネクタが車両にロックされている状態ではハンドル **2** を引かないでください。



使用中は、インストルメントパネル上に次の情報が表示されます。

- 車両が V2L 給電コネクタに接続されていることを示す表示灯 **11**。
- バッテリ充電残量の下限値に達するまでの概算時間 **12**。
- バッテリ充電残量 **13**。

注: 次の場合には自動的に電源が OFF になります。

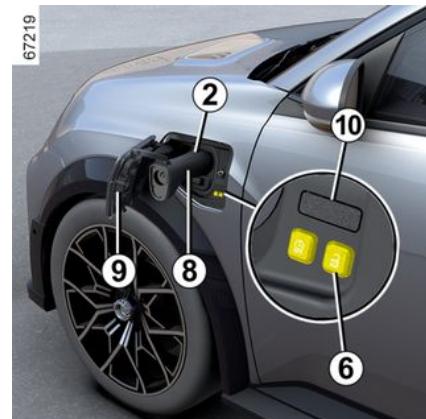
- V2L 給電機能の未使用状態（電気機器が V2L 給電コネクタの AC ソケット **5** に接続されていない状態、または

電力消費がない状態）が約 1 時間に達した場合。

- 上限電力容量を超える電気機器が接続された場合。
- V2L コネクタスイッチ **3** を少なくとも 3 秒間押します。
- トラクションバッテリについて、マルチメディアディスプレイから設定したバッテリ充電残量の下限値に達した場合。

給電が遮断されると、その旨をドライバーに知らせるためのメッセージがインストルメントパネルに表示されます。

V2L 給電コネクタを切り離すには



カードを所持した状態か、車両開閉部のロックを解除した状態で次のように作業します。

電気自動車

- 充電ソケットの横にある給電停止ボタン **6**  を押します。表示灯 **2** と、充電ソケット **10** 上の表示灯が消灯し、V2L 給電機能が無効化されます。

- V2L 給電コネクタの車両へのロックは自動的に解除されます。これにより、コネクタを車両から切り離すことができます。

- 電気機器を切り離し、V2L 給電コネクタのハンドル **8** は持ったまま約 **15 秒以内**にコネクタを車両から切り離します。この時間内に切り離さないと、充電ソケット **7** は自動的に再ロックされます。

- 充電口フラップ **9** を閉じ、押してロックします。

- V2L 給電コネクタを保管場所に収納します。

(i) 充電口フラップ **9** を開けたまま車両を運転するのはお止めください。V2L 給電コネクタを車両から切り離したら、充電口フラップ **9** が正しく閉まっているか確認します。

設定



トラクションバッテリの充電残量下限値は、マルチメディア画面 **14** から設定できます。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

作動異常

作動不良に陥ると、V2L 給電コネクタ上の表示灯 **2** が消灯し、V2L 給電の電源が自動的に切れます。ドライバーにその旨を知らせるメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。

V2L 給電機能の内部で不具合が生じると、「V2L 給電不可 V2L 要確認」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。この場合は、電

気機器と V2L 給電コネクタを切り離します。メーカーにお問い合わせください。

V2L コネクタの AC ソケットに接続されている機器が原因で V2L 給電機能に不具合が生じると、「V2L 給電不可 通信機器故障」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されるため、次のように対応します。

- 電気機器と V2L 給電コネクタを切り離します。

- 機器や V2L 給電コネクタに損傷がなく、電源プラグに破損または腐食がないか確認します。

- 電気機器が必要としている電力が、車両から給電可能な上限を超えていないか確認します。

不具合が直らない場合は、ルノー指定サービス工場にお問い合わせください。

電気自動車

充電プログラミング

作動



車両の充電や快適性をプログラムするには、車両を静止させ、エンジンを作動させた状態で、マルチメディア画面**1**の「車両」領域**3**から、「エレクトリック」メニュー**2**を押します。

「プログラム」タブでは、次の操作を実行できます。

- 新しい充電プログラムを追加する。または
- 保存済みの充電プログラムにアクセスする。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。



安全のために、この操作は必ず停止時に行ってください。

プログラミングが確認されると、インストルメントパネルに インジケーターが点灯します。

注: エンジンスイッチを OFF になると、車両が電源に接続されており、電源の利用が認められている場合に限り充電が開始されます。

(i) マルチメディアシステムを使用してシステムの更新を受け入れただけであれば、トラクションバッテリの充電が遅延またはキャンセルされます。充電リードを車両に接続する前に、更新が完了するまで待ちます。システム更新の詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

車両から送配電網への (V2G) 給電

車両を静止させ、車両の充電ケーブルを使用して接続すると、車両から送配電網への (V2G) 給電機能により、車両のバッテリーに蓄えられたエネルギーを自宅や送配電網に再分配できます。

この機能を使うには、互換性のある双向 AC 充電端子と、V2G 給電サービスのご契約が必要です。詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

電気自動車

2



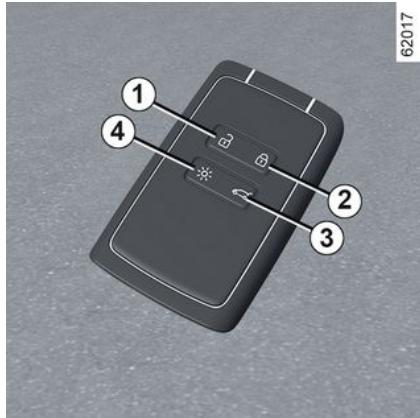
電気設備を対象とする作業や改造は、車両を切り離してから実施してください。



V2G 給電の設定方法は、マルチメディア取扱説明書でご確認ください。

カードキー

「概要」の項を参照してください



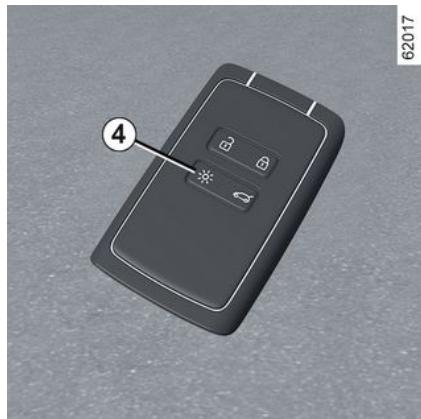
- パワーウィンドウの遠隔自動開閉
→ 63。

(i) 車両によっては、カードの全機能を備えたデジタルキーを使用できます。ただし、カードを車両内に残し、デジタルキーでドアをロックしている場合、カードを使用して車両を始動することはできません。
詳しくは、「デジタルキー」セクションをご覧ください→ 58。

も、ハザードランプ / サイドリピータの点滅もありません。

(i) バッテリー残量がゼロになっても、車両のロック / ロック解除は可能です
→ 152 → 63 → 50。

「灯火類リモコン」機能



交換時期

電池の状態、タイプ、プラス/マイナスが正常かを確認してください。バッテリーの寿命は約2年ですので、「カードキー バッテリー低下」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されたら交換してください
→ 50。

カードキーの作動範囲

周囲の状況に応じて変化します。誤ったカードボタン操作により車両が突然ロック / ロック解除されないよう、リモコンの取り扱いには注意してください。

注: ドアまたはテールゲートが開いているか適切に閉まっていないと、車両はロックされません。音声シグナル

ボタン 4 を1回押すと、ロービームと灯火類が約20秒間点灯します。この機能は、広い駐車場の中などで自分の車を遠くから見分けるときに便利です。ボタン 4 を約2秒間押し続けると、灯火類が点灯し、音が鳴ります。

- すべてのドア / テールゲートのロック解除
- すべてのドア / テールゲートのロック。
- ラゲッジルームのロック / ロック解除。
- リモート操作によるライトの点灯

カードで次のことができます:

- 開閉部（ドア、トランクドア）のロック / ロック解除。
- 充電口フラップのロック解除 → 20。
- 車両灯火類の遠隔点灯。

カードキー

注: 4 ボタンをもう1回押すと消灯します。

i アドバイス

カードを熱気、冷気および湿気にさらさないでください。

カードキーが曲がったり、損傷する恐れのある場所（衣服の後ろポケットなど）に保管しないでください。

i カードの作り替え: 追加カードが必要

カードを紛失したり、カード交換が必要となったりした場合には、認定ディーラにご連絡ください。

関連するカードを作り替える場合は設定をリセットしますので、**お持ちのすべてのカード**と車両を正规サービス工場へお持ちください。

1台につきカードは最大4枚までご使用いただけます。

近くにリモコンと同周波数を使用する機器がある場合、リモコンは作動しないことがあります。



駐車または停車時のドライバーの責任

たとえ短い時間でも絶対に、お子様、支援が必要な大人、または動物ペットを車内に残して、カードを車内に置いたまま、お車から離れないでください。

実際、彼らがエンジンを始動したり、パワーウィンドウやドアロックなどの装置を作動させると大変危険であり、他人にまで危害が及ぶ恐れがあります。

その上、暑く晴れた日には、車内の温度は急に上昇します。

死亡または重傷のおそれ。

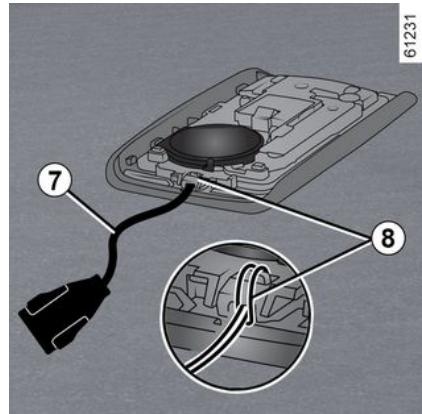
ストラップ 7 の取付け



66323

2

領域 A を押しながらリアケース 5 を下にスライドさせます。



61231

障害物

カードキー

ストラップを構成部品 **8** 内に挿入し、ハンドストラップの端部をバックル内に通します。

ストラップを開閉部 **6** に配置し、ケースを閉じます。

注: ハンドストラップコード **7** の直径が開口部 **6** に合っているかご確認ください。

使用方法

車両をロック解除／ロックするには次の2つの方法があります：

- 「ハンズフリー」モードで車両に近づいたり、車両から離れたりする方法。
- リモコンモードでカードを使う方法。

- デジタルキーをリモコンとして使う方法（車両により可否あり）。詳しくは、「デジタルキー」セクションをご覧ください→**58**。



カードを携帯する時、他の電子機器（コンピュータ、電話など…）に接触しないようにして下さい。故障の原因となります。

「ハンズフリー」モードを無効／有効にするには

車種によっては、車両に近づくときにロック解除を有効／無効にし、車両から離れるときにロックできます。

また、車両から離れる際のロック時に発せられる警告音を無効化／有効化することもできます→**128**。



カードキーを車内に置いたまま、決して車両から離れないでください。



駐車または停車時のドライバーの責任

お子様、ひとりで動けない成人、ペットを車内に残して、たとえ短い時間でも絶対にお車から離れないでください。実際、彼らがエンジンを始動したり、パワーウィンドウやドアロックなどの装置を作動させると大変危険であり、他人にまで危害が及ぶ恐れがあります。

その上、暑く晴れた日には、車内の温度は急に上昇します。

死亡または重傷のおそれ。

車両に近づくと「ハンズフリー」でロック解除できる機能

67198



カードを所持して乗員検出ゾーン **1** 内に入ると、車両のロックが解除されます。

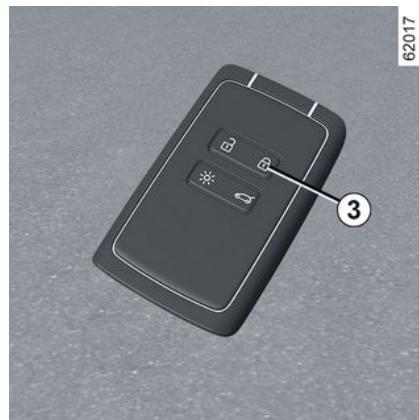
ドアロックが解除されると、その証として、ハザードランプとサイドリピータが**1回**点滅し、車両によってはドアミラーが自動的に展開されます。

カードキー

車両から離れる際の「ハンズフリー」ロック



67199



620117

カードを持って車両とトランクのドアを閉め、車両から離れるとき、遠隔ロック解除ゾーン **1** 外に出るとすぐに、車両が自動的にロックされます。ドアがロックされたことを示すため、ハザード警報灯が**1回**点滅した後、**約4秒間**点灯したままになり、ビープ音が鳴ります。車両によってはドアミラーが自動的に格納されます。

注意: ロックが作動する地点と車との距離は環境によって異なります。

カードが検出ゾーン **1** 内に約 15 分間存在すると、遠隔ロック機能は無効化されます。車両をロックするには、カードキーのボタン **3** を押します。

カードがゾーン **2** 内にあると、車両を遠隔ロックできません。

トランクを開くと、「ハンズフリー」によりロックが解除します



663117

2

車両のすべてのロックを解除するには、カードをゾーン **1** 内に置き、車両がロックされている状態でボタン **4** を押します。

解錠されると、ハザードランプとサイドマーカーが**1回**点滅します。

解錠システムの専用機能

特定の状況下では、次の場合に車両に近づくとロック解除が無効化されます。

- 車両が**8日間**使用されていない場合。

カードキー

- カードが、車両のロックから約5分間経過しても車両の検出ゾーン1付近にある場合。

- ドアロックが解除されていない状況でゾーン1付近を複数回通過した場合。

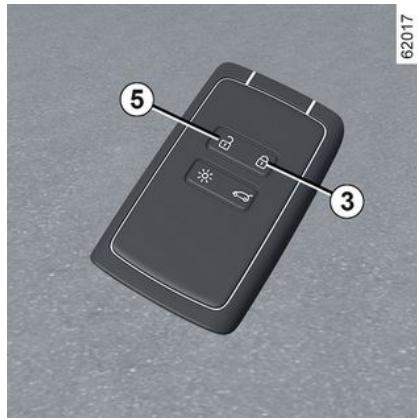
車両のロックを解除し、「ハンズフリー」モードを再び有効化するには、テールゲート開ボタン4を押すか、カードのリモコンを使用します。

「ハンズフリー」ロックに関する特殊機能

「ハンズフリー」モードで施錠した後で、車両をもう一度解錠するには、約3秒間待つ必要があります。この3秒間にドアハンドルに触って、車両が正しく施錠されているか確認することができます。

注: ドアまたはテールゲートが開いているか適切に閉まっていないと、車両はロックされません。音声シグナルも、ハザードランプ/サイドリピータの点滅もありません。

カードをリモコンとして使用する



カードを使用した解錠

ボタン5を押します。

解錠されると、ハザードランプとサイドマーカーが**1回点滅**します。

(i) エンジンが作動していると、カードのボタンは非作動になります。

カードキーを使用して車両を施錠する

ドアとトランクを閉じてボタン3を押すと車両はロックされます。

ハザードランプが**2回点滅**して車両が施錠されていることを示し、車両に

よってはドアミラーが自動的に折りたたまれます。

車両によっては、ボタン3を2回押すと車両がロックされます。フロント/リアウインドウを閉じるにはボタン3を押し続けてます。

注:

- 車両の施錠が可能な範囲（車両からの距離）は周辺環境によって異なります。

- ドアまたはトランクが開いているか、正しく閉まっていない場合、施錠されません。音声シグナルも、ハザードランプ/サイドリピータの点滅もありません。

67199

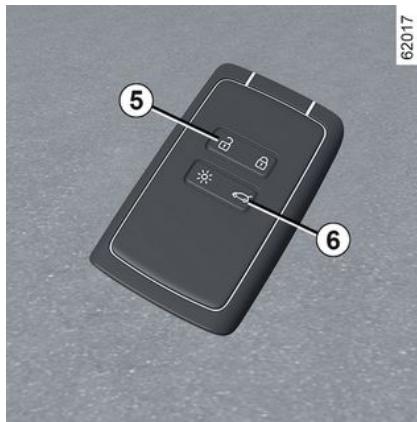


エンジン回転中のドア開閉後にカードがゾーン2内に存在しなくなると、車内にカードがないことを示す「カード

カードキー

「キー検出なし」メッセージが表示されます。これにより、たとえば乗員がカードを持ったまま途中下車するといった偶発的な事故が防止されます。カードが再び検知されると音声アラームは停止します。

ラゲッジルームのみのロック／ロック解除



ボタン 6 を押すと、トランクだけをロック / ロック解除できます。

注: ボタン 6 のみを用いてトランクのロックを解除した後に、その他開口部のロックを解除するには、次の操作が必要です。

- ボタン 5 を押す操作。
- または

車両から離れる際の自動ロックを作動させるためには、車両から離れる動作。この場合、車両に近づくと再びロックが解除されます。



駐車または停車時のドライバーの責任

お子様、ひとりで動けない成人、ペットを車内に残して、たとえ短い時間でも絶対にお車から離れないでください。実際、彼らがエンジンを始動したり、パワーウィンドウやドアロックなどの装置を作動させると大変危険であり、他人にまで危害が及ぶ恐れがあります。

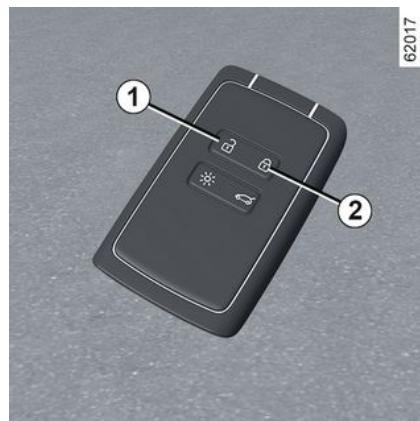
その上、暑く晴れた日には、車内の温度は急に上昇します。

死亡または重傷のおそれ。

ることができます（ウインドーを割って内側からロック解除を試みる場合などに備えて）。



車内に人が乗っているときは、スーパーロック機能は絶対に作動させないでください。



充電ケーブルのロック解除

車両の充電ケーブルのロックを解除するには、ボタン 5 を押します。

スーパーロック機能

使用方法

スーパーロック装備車の場合、スーパーロック機能で開閉部をロックし、車内からドアを開けられないようにす

スーパーロック機能を作動させるには

ボタン 2 を 2 回続けて押します。
ロックされると、ハザードランプとサイドマーカーがゆっくり 2 回点滅し、素早く 3 回点滅します。

カードキー

車両によっては、車両のロックと同時にドアミラーが自動的に折り畳まれることがあります→137。

2

スーパーロック機能を作動解除するには

ボタン①を一回押します。

アンロックされるとハザードランプが1回だけ点滅します。

i 車両によっては、カードの全機能を備えたデジタルキーを使用できます。ただし、カードを車両内に残し、デジタルキーでドアをロックしている場合、カードを使用して車両を始動することはできません。
詳しくは、「デジタルキー」セクションをご覧ください→58。

「ハンズフリー」カード: バッテリ

電池の交換



62101

取り付けは、取り外しと逆の手順で行い、車両付近でカードのボタンを4回押して下さい。次にエンジンを始動させたときに、警告メッセージは消えます。

カバーが確実にはまっているか確認してください。

注: 電池交換の際は、カードの電子回路や端子に触れないようにしてください。

「カードキー バッテリー低下」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されたら、次の手順でカードの電池を交換してください。

- エリアAを押しながら、リアケース①を下にスライドさせます。
- バッテリカバー②を外します。
- バッテリーの片側を押して他方を持ち上げて、取り外します。
- カバー内の指示とテンプレートに従って、バッテリーを交換します。

カードキー

i 電池は指定サービス工場でお求めください。電池の寿命は約2年です。電池の液漏れがないか点検してください（液漏れがあると接触不良になるおそれがあります）。



交換が必要な場合は、同じタイプまたは同等のタイプのバッテリを使用してください（指定サービス工場にお問い合わせください）。



交換時:
- バッテリが正しく挿入されているか確認します。

爆発の危険があります。

- フラップが正しく閉まらない場合は、カードキー使用しないで子供の手の届かないところに置いてください。

作動異常

電池が消耗しすぎて正しく作動しない場合でも、車両→63の始動やロック／ロック解除は可能です。

61496



バッテリに関する注意事項

- バッテリ（新品または中古）は子供の手の届かないところに保管してください。

- バッテリを飲み込まないようにしてください。

死に至ることもある化学熱傷を負う危険あり

- 身体のいずれかの部分に摂取したり挿入した場合は、できるだけ早く医師に相談してください。



使用済みのバッテリをゴミとして捨てないでください。認定ディーラに持ち込むか、適切なリサイクル施設に関する情報をお住まいの地方自治体にお問い合わせください。

デジタルキー

2

「概要」の項を参照してください

所在国およびサブスクリプションに応じて、お使いのスマートフォンに車両用のデジタルキーをインストールできます。

デジタルキーには、スマートフォンを使用して車両のロック / ロック解除、始動を行うために必要な権限が含まれています。このため、お使いのカードをスマートフォンで代用できます。

デジタルキーは、メーカーのアプリを使うことでインストール、管理および送受信できます。

メーカーのアプリケーションがスマートフォンにインストールされ、サブスクリプションが有効になつたら、メーカーのアプリケーションからデジタルキーを有効化する必要があります。

i 車両を他人に預ける必要のある場合は、（車両の取扱いや、認定ディーラまたは適格整備士による作業の予約などが必要な場合に）ご自身も車両にアクセスできるよう、カードは必ずお持ちください。

① スマホ上にあるデジタルキーへの安全なアクセス

スマホ上にあるデジタルキーへのアクセスを保護し、キーへの安全なアクセスを保証する責任は、デジタルキーの所有者と指定車両使用者にあります。

スマホのセキュリティを確保しスマホを保護するのに必要なツール（パスワード付きスクリーンロックツールなど）をインストールしてください。

i 車両を貸与する場合、デジタルキーの所有者には、信頼できる人を車両の使用者として指定する責任があります。

デジタルキーの貸与

メーカーのアプリから「Share Virtual Key」メニューにアクセスし、一時的にスマートキーを使用するユーザーの情報を入力します。必要な確認を終えると、確認メールが該当ユーザーに送信されます。

i デジタルキーで操作できる範囲は、お使いのスマートフォンの Bluetooth® 接続仕様に応じて変化します。

作動環境

スマホ上で Bluetooth® を有効化すると、メーカー製アプリを開いてさまざまなデジタルキー関連機能にアクセスできます。

注: デジタルキーは、スマートフォンの充電残量が十分か確認してからお使いください。充電レベルが低い場合は、インストルメントパネルに「スマートフォンのバッテリ容量が少なくなっています」のメッセージが表示されます。

車両を貸与する際には、一時使用者に対するデジタルキー送信時のエラー（接続可能な WIFI ネットワークやモバイルネットワークが存在しないことを理由とするエラーなど）を回避できるよう、貸与手続きに必要な作業を確実に行ってください。

具体的には、次のことをご確認ください。

- 車両の一時使用者が、手続きの前に、メーカー推奨アプリケーションの

デジタルキー

ダウンロードとインストールを終えていること。

- ご自身と一時使用者のスマートフォンを、手続きが終わるまで（WIFIネットワークまたはモバイルネットワークを介して）インターネットに接続しておけること。

- 手続き完了後に、一時使用者のデジタルキーが有効化されたこと。

デジタルキーの取り消し

ユーザーはデジタルキーを個別に取り消すことができます。デジタルキーを取り消すと、ユーザーは新しいキーを有効にできます。

詳細については、メーカーのアプリケーションを参照してください。

マルチメディア画面からの起動/作動解除

車両がデジタルキーと通信しないように、「デジタルキー」機能を無効にし、再度有効にできます。マルチメディアの取扱説明書を参照してください。

注: この機能を無効化しても、既存のデジタルキーは削除されず、車両がキーと通信できなくなるだけです。

ドアや荷室ゲートのロック / ロック解除、デッドロック機能、照明の遠隔操作を行う場合

新しいデジタルキーまたは新しいスマートフォンを使用して初めて車両のロック解除または始動を行う場合、スマートフォンにインストールされているデジタルキーを車両が識別するまでに数秒かかる場合があります。

Bluetooth®を有効にした状態で、スマートフォンからメーカーのアプリケーションを開くと、デジタルキーで使用可能なさまざまな機能が見つかります。こうした機能は、カードを使用した場合と同じです。

開閉部のロック解除に関する特記事項

特定の状況（車両未使用期間が8日に達した後など）では、デジタルキーを使用して車両のロックを解除することができなくなります。この場合には、トランクを開くためのボタンを押すことで、デジタルキーを用いて車両のロックを解除できるようになります。次の機能があります。

- 開口部のロック／ロック解除 → 52。
- トランクのロック／ロック解除（装備車両のみ）→ 52。
- デッドロック（装備車両のみ）→ 55
-
- 照明／灯火類の遠隔有効化 → 50。
- ホーンのリモート操作（たとえば、離れた場所や、混雑した駐車場で車両を識別できます）

- エンジンの始動／停止 → 152。

エンジン始動と停止



新しいスマートフォンで初めて使用するたびに、車両に対してデジタルキーを較正する必要があります。

このためには、スマートフォンでBluetooth®を有効化し、メーカーのアプリケーションの手順に従います。

キャリブレーション時には、スマートフォンを定位置1に置いてください。

エンジン始動／停止システムは、定位置1にスマートフォンがあることを確認してからエンジン始動を許可します。

詳しくは、「エンジンの始動、停止」に関する情報をご覧ください → 152。

デジタルキー

運転中は常に、スマートフォンを車両内に置いてください。

注: 貸与デジタルキーをお持ちの場合は、定位置 **1** に置いたスマホで取消し手続きを実行することで、キー情報を削除できます。

これを怠ると、削除要求は保留され、別のデジタルキーまたはカードを用いてエンジンが始動された後でのみ確定されます。

(i) エンジンの始動および停止操作やデジタルキーの調整は、スマートフォンを配置エリア内に置いた状態で行う必要があります。



エンジンスイッチを OFF にしたい時にスマートフォンが車内にないと、インストルメントパネル上にメッセージが表示されます。この場合は、2秒以上エンジン始動／停止ボタン **2** を長押ししてください。

スマートフォンが室内にない場合は、ボタンを押す前に戻すことができるか確認してください。スマートフォンまたはカードがない場合は、車両を再度始動することはできません。

デジタルキーに関する特記事項

デジタルキーを有効な状態に保つには、少なくとも 48 時間ごとに、お使いのスマートフォンを（WIFI またはモバイルネットワーク経由で）インターネットに接続してください。それを

怠った場合、デジタルキーを再び有効化するために、数分間スマートフォンをインターネットに接続する必要があります。

- カードを車両内に残し、デジタルキーでドアをロックしている場合、カードを使用して車両を始動することはできません。次にエンジンを再始動するまで、カードを使用して車両を始動することはできません。

この場合、次回にエンジンを始動するには、デジタルキーまたは車内に残したカード以外のカードを使用する必要があります。

(i) エンジンを始動または停止する場合にデジタルキーを使用するには、スマートフォンが常に十分に充電されていることが必要です。

ドアと開閉部

ドアの開閉

車外からドアを開く

フロントドア



ドアのロックを解除、またはカードを携帯している状態で、ハンドル 1 を握って手前に引きます。

リアドア

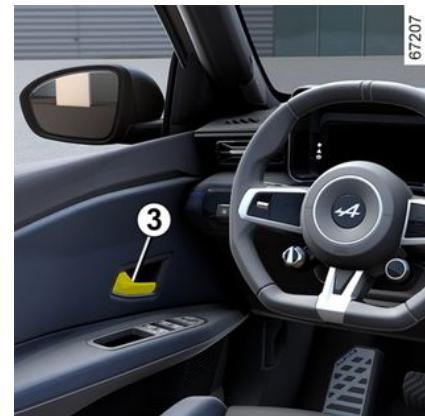


ドアのロックを解除、またはカードを携帯している状態で、ハンドル 2 を握って手前に引きます。



安全のために、ドアやラゲッジルームの開閉は必ず停車した状態で行ってください。

車内からドアを開けるとき



ドアハンドル 3 を引きます。



安全のために、ドアやラゲッジルームの開閉は必ず停車した状態で行ってください。

ライト消し忘れ警告アラーム音

ドアを開けたとき、イグニッションスイッチが OFF なのにランプ類が点灯したままになっている場合、警告ブザーが鳴ります。

ドアと開閉部

ドアまたはテールゲートの締め忘れ警告ブザー

2



車両静止状態でイグニッションスイッチをONになると、開閉部（ドア、トランク、充電口フラップ）が開いているか、正しく閉まっていないことを示す

【】 警告灯 4 がインストルメントパネル上に表示されます。

車速が約 20 km/h に達すると、ドアが開いているか、正しく閉まっていない

ことを示す 【】 警告灯 4 が、「ドア開」というメッセージ 5 を伴って表示されます。

特徴

エンジンを OFF にした後も、運転席ドアが開くまでランプとアクセサリ（ラジオなど）は作動し続けます。



子供を乗車させるとき



リアドアを内側から開けられないようするには、レバー 6 を下げ、車内からドアが確実にロックされたことを確認します。

ドアと開閉部



駐車または停車時のドライバーの責任

お子様、ひとりで動けない成人、ペットを車内に残して、たとえ短い時間でも絶対にお車から離れないでください。彼らがエンジンを始動したり、パワーウィンドウやドアロックなどの装置を作動させると大変危険です。その上、暑く晴れた日には、車内の温度は急に上昇します。**死亡または重傷のおそれがあります。**

開閉部およびドアのロック、ロック解除

カードが作動しない場合:

次のような場合には、カードキーが作動しないことがあります:

- カードのバッテリー残量が低下しているかゼロの場合。
- リモコンの近くで電子機器（携帯電話など）を使用したことが原因です。
- 強い電磁波の影響内に車両がある時。
- デジタルキーを用いた車両のロック → 58

このような場合は次のようにします:

- カードに内蔵されているキーの使用方法。

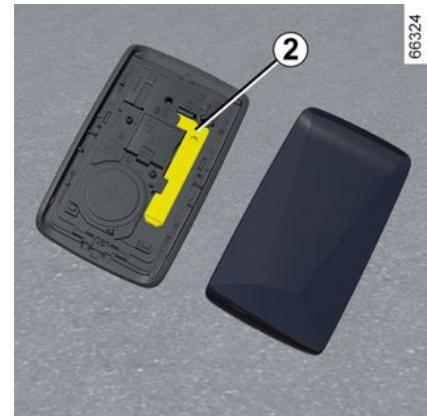
- 各ドアを手動でロックする
- ドア内側のロック／ロック解除制御装置を使うこと。
- デジタルキー → 58 を使うこと（車両によります）。

カードの内蔵キー



内蔵キー 2 は、カードが機能しない場合にフロント左側ドアをロックまたはロック解除するのに使用できます。

キー 2 へのアクセス

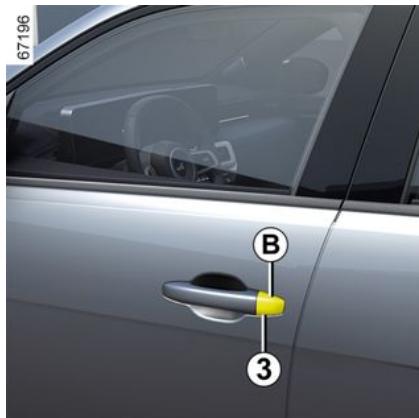


領域 A を押しながらリアケース 1 を下にスライドさせます。

ドアと開閉部

カード内蔵キーの使用法

2



- キー 2 の終端を、運転席ドア上のカバー **B** 最下部にある凹部 **3** に差し込みます。

- そのまま上方向に持ち上げてカバー **B** を取り外します。

- 運転席ドアをロック／ロック解除するには、キー 2 を鍵穴に差し込みます。

車内に入ったら、キーをカードのケースに戻します。

手動によるドアのロック



ドアを開けた状態で、ねじ **4** を（キーの先端で）回してドアを閉めます。これでドアを車外からロックできます。

この場合、ドアは車内から開けるか、運転席のドアをスペアキーによってのみ開けることができます。

車内のロック／ロック解除スイッチ



スイッチ **5** を使うと、ドアとテールゲートを同時に制御できます。

ドア（またはテールゲート）がひとつでも開いていると、ドアのロック／ロック解除がすばやく 1 回行われます。

テールゲートを開けたまま荷物を運ぶ場合にも、他の開閉部はいずれもロックしたままにできます。これを行うには、イグニッションスイッチを OFF にした状態でスイッチ **5** を 5 秒間以上長押ししてください。

ドアと開閉部

ドアのロック状態を告げる警告灯

イグニッションスイッチを ON になると、スイッチ 5 の表示灯により、開閉部のロック状況を次のように把握できます。

- 警告灯が点灯している場合は、ドアとテールゲートがロックされています。
- 表示灯が消えているとき、ドアはロック解除されています。

イグニッションがオフの場合にドアをロックすると、警告灯がしばらく点灯してから消灯します。

i カードのボタンを押して車両のロック／ロック解除を行うと、リモートロック機能と「ハンズフリー」モードによるロック解除機能が無効化されます。
「ハンズフリー」機能を復旧するには、車両を再発進させます。

カードを使わずにドアをロックする

電池が消耗したり、カードが一時的に作動しなくなったなどの場合。

イグニッションスイッチを OFF にし、ドアまたはテールゲートを開けた

状態で、スイッチ 5 を 5 秒間以上長押しします。

次にドアを閉めると、全ての開口部がロックされます。

注: カードが車両の乗員検出ゾーン内にあるか、カード内蔵キーを使用する場合には、車両の外からのみロックを解除できます。



カードキーを車内に置いたまま、決して車両から離れないでください。



ドライバーの責務
ロックしたままの走行は、緊急の場合に乗員の救出が困難になる恐れがあります。

車速感応式オートドアロック

作動原理



車両の始動後に速度が約 10 km/h になると、ドアは自動的にロックされます。

ロックの解除：

- ドアロック／ロック解除スイッチ 1 を押す方法。
- 停止時に、社内からフロントドアを開ける。

注: ドア開閉後も、車速が約 10 km/h 以上になると、ドアは自動的に再ロックされます。

ドアと開閉部

機能の起動／作動解除

2

有効化するには、車両を静止させてエンジンを回転させ、ビープ音が聴こえるまで少なくとも5秒間はスイッチ1を押します。

無効化するには、車両を静止させてエンジンを回転させ、ビープ音が2回聴こえるまで少なくとも5秒間はスイッチ1を押します。

(車両によっては) この機能を、マルチメディア画面→128を通じて有効化または無効化することもできます。

作動異常

作動不良が生じている(自動ロックでできない、ドアやトランクのロックを試してもスイッチの表示灯1が点灯しないなど)場合は、自動ロックが誤って無効化されていないことと、すべての開閉部が完全に閉まっていることを確認してください。ドアがしっかりと閉まっているのにオートドアロックが作動しない場合は、ルノー指定サービス工場にお問い合わせください。



ドライバーの責務

ロックしたままの走行は、緊急の場合に乗員の救出が困難になる恐れがあります。

トランク

開閉

開く



リアサンルーフを閉める

車両によっては、まず内側のハンドルを使用してトランクリッドを下ろします。



ラゲッジルームドアを閉じるために、ストラットを使用することは絶対に避けてください。

車内から手動で開けるとき



- リアシートの背もたれを倒すとトランクにアクセスできます。
- 図に示すように、マイナスドライバーなどのツールを緊急解放レバー2に差し込み、左にスライドさせます。
- テールゲートを押して開きます。

ドアと開閉部

2



テールゲート上へのルーフキャリア（バイクラック、ラゲッジボックスなど）は禁じられています。お使いの車両に運搬装置を取り付けたい場合は、認定ディーラにご相談ください。

顔認識

作動



マルチメディアシステム **1** からプロファイルを保存した後、車両に乗ったら顔認識を使用してドライバーのユーザー設定を呼び出すことができます。



運転席ドアが閉まると、室内カメラ **2** が顔を検出し、保存したユーザープロファイルにリンクされた顔画像と関連付けるとすぐに、事前に記録された設定がアクティブになります（携帯電話、カレンダーなどへの接続）。

注意：リアビューカメラに汚れや泥、雪などが付着して遮られていないか、または覆われていないか点検してください。

ユーザープロファイルの管理



安全のために、この操作は必ず停止時に行ってください。

ユーザープロファイルを作成するか、顔画像を更新した後、ドアを閉めてからマルチメディアシステムが新しい情報を考慮に入れるまで約 30 秒待ってください。

注意：複数のプロファイルに同じ顔を登録することはできません。

顔認証システムを使用したユーザープロファイルの管理とプロファイルの保存に関する詳細については、マルチメディア取扱説明書をご覧ください。

システム作動時間の制限

次のような特定の条件により、システムの動作が妨げられる場合があります。

- 特定の種類のメガネを着用しているとき。
- カメラが部分的にでも遮られている場合。
- ドライバーの顔の一部が隠されている場合（髪の毛、サージカルマスク、スカーフなどによって）。
- カメラが顔を適切に分析できない可能性のある不適切な運転位置（座り心が低すぎる、後ろに傾くなど）。
- 反射服を着ている場合。

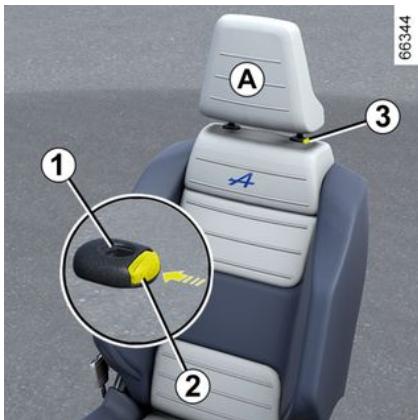
- ...

この場合、認識中に顔画像がカメラ **2** で認識されなかった場合、システムは最後に使用されたプロファイルを提案します。

フロントシート

フロントシートのヘッドレスト

ヘッドレストの取外し



ヘッドレストを上方へ引き上げて好みの高さに調節します。確実にロックされていることを確認してください。

ヘッドレストを下げる

ボタン 2 を押してヘッドレストをお好みの高さまで誘導します。確実にロックされていることを確認してください。

ヘッドレストの取り外し

ヘッドレストを最高位置まで上げます（背もたれを後方へ倒します）。解放

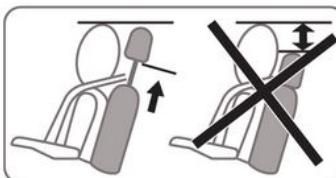
するにはボタン 2 を押してヘッドレストを持ち上げます。

ヘッドレストの取り付け

ヘッドレスト 3 がきれいか点検します。

ヘッドレストロッドを穴 1 に差し込みます（背もたれを後方へ倒します）。ロックされるまでヘッドレストを差し込み、ボタン 2 を押して希望の高さに調整します。確実にロックされていることを確認してください。

61287



ヘッドレストはセーフティ部品ですから必ず装着し正しい位置で使用してください。ヘッドレストの高さはできるだけ頭のてっぺんに合わせるようにしてください。ご自身の頭とセクション A の間の距離はできる限り小さくしてください。

フロントシート

マニュアル調節式フロントシート

前後方向の調節



フロントシート

ロックを解除するにはハンドル**1**を持ち上げます。選択した位置でハンドルを放し、きちんとロックされたことを確認します。

2

運転席の腰部の調節

ランバーパッドを調整するにはスイッチ**2**を前後に押します。

シートクッションの上下調節

レバー**3**を必要な回数だけ上げ下げします。

背もたれを傾ける

ハンドル**4**を可能な限り持ち上げ、背もたれを希望の位置まで傾けます。選択した位置でハンドルを放し、きちんとロックされたことを確認します。



背もたれが調節後に正しくロックされることを確認します。



安全のために、この操作は必ず停止時に行ってください。

背もたれを後方に傾けすぎると、シートベルトの効果がなくなるおそれがありますのでご注意ください。

床の上（運転席の前）には物を置かないようにしてください。急ブレーキが必要なときに、ペダルの下に物が滑り込んで急ブレーキを踏む妨げになる危険があります。

ヒーティングシート



車両によっては、イグニッションスイッチをONにした状態で、次の方法により、マルチメディア画面**5**からヒーター付き座席のヒーターを有効化できます。

- ヒータ作動が必要なシートの記号を初めて押すと、暖房システムが最高出力で作動します。警告灯に内蔵されている3つのスイッチが点灯します。

- 2回目に押すと、ヒーターシステムが中程度の出力になります。2つの一体型警告灯が点灯します。

- 3回目に押すと、ヒーターシステムが最小出力になります。1つの一体型警告灯が点灯します。

- 4回目に押すと、ヒーターがオフになります。

また、無駄なエネルギー消費を防ぐため、乗員がいないときは助手席のシートヒーターを自動的に停止させることができます。

フロントシート

「お気に入り」機能



車両によっては、ステアリングホイールの制御装置 **6** を押すことで、コントロールを押すことで、あらかじめ定義し記憶させたユーザー設定に従ってヒーター付き座席のヒーターを有効化できます。

この機能のプログラムについては、マルチメディアの指示を参照してください。

後席

リアシートのヘッドレスト

2 使用時のポジション

ロックされるまで、ヘッドレストを完全に持ち上げます。確実にロックされていることを確認してください。

ヘッドレストの取り外し



ベンチシートを前に傾け、ヘッドレストを最も高い位置まで持ち上げ、ボタン1を押してヘッドレストを取り外します。

ヘッドレストの取り付け

ベンチシートを前に傾けて、ロッドを穴に差し込み、ロックするまでヘッ

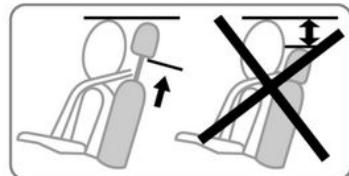
ドレストを押し込み、高い位置で使用します。確実にロックされていることを確認してください。

ヘッドレスト格納位置 2



ボタン2を押し、ヘッドレストを完全に下げます。

26342



ヘッドレストを一番下まで下げる状態は収納ポジションです。乗員が座っているときはこの位置で使わないでください。

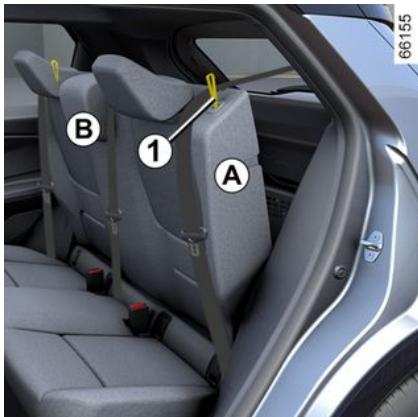


ヘッドレストは安全装置のひとつです。必ず取り付けて、適切な高さに調節してください。

後席

リアシート: 機能

機能



背もたれの畳み方

フロントシートは十分に前に出しておいてください。

背もたれを折りたたむ前に、ヘッドレストを最後まで下ろします。

リアシートを折りたたむ前に、該当シートのシートベルトバックルを対応するキャッチに固定します。

そうすることで、使用の際、背もたれがその位置に戻ったときに、シートベルトがはさみ込まれることを防ぎます。

すべての場合で、シートベルトが正常に作動することを確認してください。

ストラップ **1** を引き、背もたれ **A** を下げます。

注: 安全上の理由から、シートバック**A**には固定システムが装備されています。取扱い時に抵抗を感じる場合があります。

背もたれを取り付ける際には、取外しと逆の手順で行います。

背もたれをロックするまで持ち上げます。

シートバックとパーセルシェルフの間にシートベルトが詰まらないように注意してください。

シートベルトが正しく機能するか確認します。



リアシートを操作する際は、シートの固定を妨げる異物が挟まっていないことを確認してから行ってください（体の一部、ペットや動物、小石、布、おもちゃなど）。



背もたれを元の位置に戻すときは、背もたれがしっかりとロックされていることを確かめてください。

シートカバーを使用する場合は、背もたれのロックが妨げられないよう気をつけてください。シートベルトが正しい位置にあるか確かめてください。ヘッドレストを元の位置に戻します。



小型の背もたれ**B**を折り畳んだ2座席ベンチシート構成の状態ではシートベルトを着用できない（シートベルトバックルを使用できない）ため、センターシートは使用できません。

シートベルト

シートベルト

はじめに

安全のため走行時には必ずシートベルトを着用してください。また各国の安全規格に従ってベルトの着用義務を果たしてください。

エンジンを始動させる前にまずはドライビングポジションの調整を行い、次に最大限の安全を確保するべく全乗員のシートベルト位置を調整します。

ドライビングポジションの調節

- シートに深く腰掛けます（コートやジャケットなど脱ぐこと）。必ず、背中が正しい位置になるようにお座りください。

- シートベルトとペダルの位置を調節します。ペダルを深く踏み込める位置を確認し、それより後方にスライドしないようにしてください。背もたれは、ハンドルを握って肘を軽く曲げた状態を保てる角度に調節します。

- ヘッドレストの位置を調節します。安全効果を高めるため、ヘッドレストと頭部はできるだけ近づけてください；

- シートの高さを調節します。この調節を行うことで、運転中の視界が良好に確保できます。

- ステアリングポジションを調節します。

i リアシートベルトが正しく作動するよう、リアベンチシート→73が定位置に正しくロック定されているか確認します。



シートベルトの調節が正しく行われていなかったり誤れたりしていると、事故などが起きた場合に負傷を最小限に抑えられない危険があります。

シートベルトは1人（大人でも子供でも）につき1つご使用ください。

妊娠中の方も必ずシートベルトを着用してください。この場合には、ラップベルトの余分な遊びをなくし下腹部に圧力がかかり過ぎないように注意します。

シートベルトの調節



どの座席のシートベルトについても調整と位置決めを正しく行うには、次のように対応してください。

- シートを調整します（使用可能な場合、シートの位置とシートバック角度）。

- 背もたれに背中が密着するように深く座ります

- 肩ベルト1を、首の付け根に限りなく近く、首には触れない位置まで動かし（必要であればシートベルトの高さも調整し）、肩ベルト1が肩に当たっているか確認します。

- 腰ベルト2が腰骨に当たり、腿の上に平らに配置されるようにします。

シートベルトはできるだけ体に密着するように着用する必要があります。

シートベルト

ロック

ベルトをゆっくりと、勢いをつけずに引き出し、バックル 3 をシートベルトキャッチャー 5 内にロックします（バックル 3 を引っ張ってロックを確認します）。

ベルトが引っかかった場合は、いったんベルトを大きく戻し、再度引き出してください。

シートベルトがまったく動かない場合は、一定の力をかけ、無理な力はかけぬよう 3 cm ほど引き出します。その後は、少し巻き取ってから再度引き出します。

不具合が直らない場合は、ルノー指定サービス工場にお問い合わせください。

ロック解除方法

ボタン 4 を押すと、シートベルトは慣性リールにより巻き取られます。手を添えてください。

シートベルト非着用警告灯

 この警告灯は、運転席シートベルト（助手席に乗員が存在する場合は助手席シートベルトも）が着用されていない状態で車両のイグニッションスイッチが ON にされると、センターディスプレイ A 上に表示されます。



フロントシートベルト非着用警告灯



ドア閉後に車両のイグニッションスイッチを ON にすると、図 6 がインストルメントパネル上に約 60 秒間表示されます。この図は、次のことが起こる旅に、各フロントシートベルトの着用状態をドライバーに知らせます。

- 走行中に（車速がゼロ超の状態で）ドアが開いた場合。
- フロントシートベルトが着用された／外された。

図 6 の説明:

- 緑色記号: シートベルト着用状態です。
- 赤色記号: 座席使用者がありシートベルト未着用の状態です。
- 灰色記号: 座席使用者がいない状態です。

ドア閉後も運転席／助手席のシートベルトが（乗員は存在するにもかかわらず）未着用の場合、車両のイグニッ

ションスイッチを ON にすると  警告灯がセンターディスプレイ上に表示されます。

車速が約 20 km/h 未満の状況で、フロントシートにシートベルト未着用の乗

員がいると、 警告灯がセンターディスプレイ上に表示されます。

図 6 も表示されます。これは、フロントシートベルトのいずれかが着用または未着用の状態になる度に約 60 秒間表示されます。

シートベルト

車速が約 20 km/h を超えている走行時に、フロントシートベルトのいずれかが非着用状態になると、次のようになります。

2

- センターディスプレイで  警告灯が点滅します。

と

- 警報音が約 120 秒間鳴ります。

と

- 図 6 が約 180 秒間表示され、該当シートの記号も赤色表示されます。

フロントシートの乗員がシートベルトを正しく着用しているかについては常に確認してください。また、着用シートベルト数とフロントシートにいる乗員の数は常に一致していかなければなりません。

注: 助手席に荷物などが置かれていると、警告灯が作動することがあります。

リアシートベルト非着用警告灯

ドア閉後に車両のイグニッションスイッチを ON にすると、図 6 がインストルメントパネル上に約 60 秒間表示されます。これにより、各リアシートベルトの固定状態が毎回ドライバーに通知されます。

- 走行中に（車速がゼロ超の状態で）ドアが開いた場合。

- フロントシートベルトが着用された／外された。

図 6 の説明:

- 緑色記号: シートベルト着用状態です。

- 赤色記号: 座席使用者がおりシートベルト未着用の状態です。

- 灰色マーカー: 空席（車両によります）。

車両によっては、ドアが閉まり、イグニッションスイッチが ON になってもリアシートにシートベルト非着用の乗員が存在する場合、 警告灯もセンターディスプレイ上で点灯します。

車速が約 20 km/h 未満でリアシートベルト未着用だと、 警告灯がセンターディスプレイ上で点灯します。

画像 6 も表示されます。これは、リアシートベルトのいずれかが着用または未着用の状態になる度に約 60 秒間表示されます。

約 20 km/h 以上の車速で走行中にリアシートベルトのいずれかが着脱されると、次のようにになります。

- センターディスプレイで  警告灯が点滅します。

と

- ピープ音が約 30 秒から 120 秒（長さはモデルにより異なります）にわたって鳴ります。

と

- 図 6 が約 60 秒以上（車両によっては約 180 秒間）表示され、該当シートの記号が赤色表示されます。

後部座席のシートベルトが正しく締められ、また示されているシートベルトの数とリアシートに座っている乗員の数が一致する必要があります。

注: いずれかのリアシートに荷物などがあると、警告灯が作動することがあります。

リアシートベルト

リアサイドシートベルト 7



シートベルト

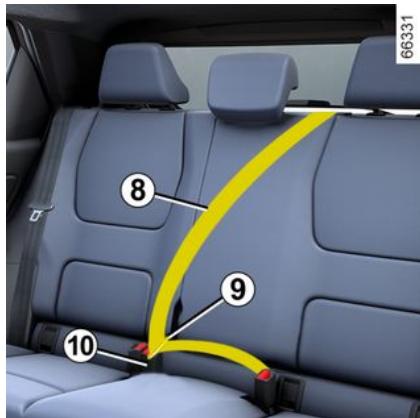
シートベルトの装着、取外し、調節は、フロントシートベルトと同様に行います。



リアシートを操作した場合は、その都度シートベルトの位置と正しく機能するかを確認します。

2

リアセンターシートベルト 8



シートベルト 8 をゆっくり引き出します。

スライドバックル 9 をセンターシートベルト 10 のバックルにカチッとはめ込みます。

シートベルト

警告

フロント／リアシートベルトに関する注意事項



- 初めから車両に取り付けられている拘束システム部品（シートベルト、座席、固定具）は絶対に改造しないでください。特別な場合には（たとえば、チャイルドシートの取り付けなど）、指定サービス工場にご相談ください。

- シートベルトをたるませるためにキャッチの中にピンやクリップなどを突っ込んだり取り付けないでください。緩すぎるシートベルトは万一の事故の際に大変危険です。

- 絶対に胸部ベルトを腕の下や背中に回さないでください。

- 同じシートベルトを複数の人間で使わないでください。乳幼児やお子様を膝の上に乗せてシートベルトを装着しないでください。

- シートベルトを着用するときは、ねじれのないように注意してください。

- 車両が事故にあった後は、シートベルトの交換が必要かどうかを指定サービス工場で必ず確認してください。また、明らかに損傷がある場合はシートベルトを交換してください。

- リアベンチシートを元通りにするときは、シートベルトとバックルを挟み込まないように注意して、正しい位置にもどしてください。

- シートベルトのタングプレートは対応するバックルに差し込んでください。

- シートベルトのロック部分に異物が挟まっていないか確認してください。ベルトの機能を妨げる可能性があります。

- 固定ブロックが適切な位置にあることを確認してください。（人や物によって隠れたり、つぶされたり、押さえられたりしてはいけません。）

補助の安全装置

フロントシートベルト補助拘束装置

はじめに

この装置は次のもので構成されています。

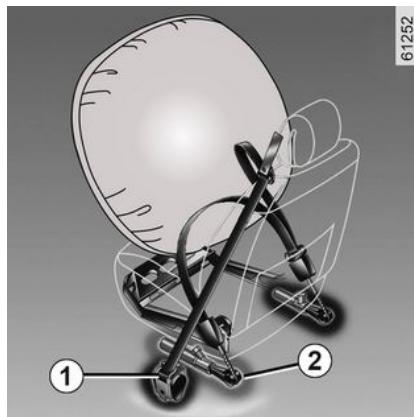
- シートベルトリトラクタプリテンショナー、
- 腹部シートベルトプリテンショナー。
- 胸部フォースリミッター、
- airbags 運転席および助手席フロント。

これらのシステムは正面から衝撃があった際に、独立または連動して作動します。

衝撃の強さに応じて、システムは次のように作動します。

- シートベルトをロックする。
- 慣性リールシートベルトプリテンショナーを作動させ、シートベルトのたるみをなくす。
- 腹部シートベルトプリテンショナーを作動させ、乗員を座席に固定する。
- フロントairbag。

シートベルトプリテンショナー



プリテンショナーには、シートベルトを体に密着させることで乗員をシートに固定し、シートベルトの効果を高める働きがあります。

この装置はイグニッシュョンスイッチがONのときのみ作動します。車両前面から衝撃を受けると、その衝撃の大きさに応じて、システムが作動します：

- シートベルトを瞬間に巻き込む慣性リールシートベルトプリテンショナー 1。

- フロントシートに装備されている慣性リール腹部シートベルトプリテンショナー 2。



- 万一車両が事故にあった場合は、指定サービス工場で全拘束装置の点検を受けてください。

- プリテンショナー、airbags、電子部品、配線には絶対に触れないでください。また、それらの部品を他の車両（たとえ同じモデルであっても）に付け替えたりは絶対にしないでください。

- 突然作動してケガをする恐れがありますので、airbags の修理点検は必ず正規サービス工場で行ってください。

- プリテンショナーの起動装置の電気系に関する点検修理は、特別にトレーニングを受け、専用の機器を用意している指定サービス工場にお任せください。

- 車両を廃棄処分にする場合、プリテンショナーおよびairbagsガス発生器を処理する必要があります。指定サービス工場にご相談ください。

ベルトフォースリミッター

ベルトフォースリミッターは、衝撃が一定以上加わると、限度内においてベ

補助の安全装置

ルトを伸ばし、体に加わる衝撃を緩和します。

2

運転席および助手席フロントエアバッグ。

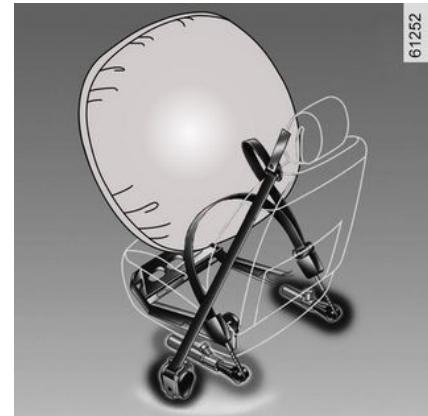
運転席と助手席の正面に設置されています。

フロントウィンドウの下部にある記号は、この装置が存在するかどうかを示しています（車両によって異なります）。

airbag システムは次のコンポーネントで構成されています：

- airbag および膨張用ガス発生器：運転席側はステアリングパッド中央部、助手席側はグローブボックス上部に組み込まれています。
- ガスジェネレーターの電動イグナイター制御システムを制御する電子制御ユニット
- リモートセンサー。
- 次の場合にルーフコンソール 3 上に表示される制御警告灯。

-  点灯、助手席airbag作動。
-  点灯、助手席airbag無効。



作動

 airbag システムはパイロテクニックの原理で作動します。そのため起動すると熱を持ち、小さなノックキング音が起こります（火災ではありません）。airbag は瞬時に膨張しますので、その勢いでケガを負ったり皮膚に傷を負うことがあります。

このシステムは、イグニッションスイッチがONのときのみ作動します。正面から激しい衝撃を受けるとは瞬時に膨張しairbags、ドライバーや助手席の乗員の頭部や胸部がステアリングやダッシュボードにぶつかるときの衝撃を緩和します。また、膨張したエアバッグは衝撃後にすぐに収縮するため、車両から脱出する際の妨げになりません。

作動異常

 エンジンの起動時に、この警告灯がセンターディスプレイに点灯して約65秒後に消灯します。

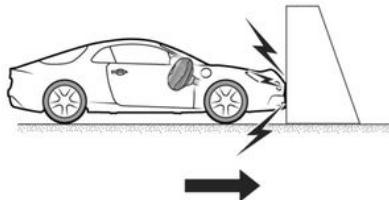
補助の安全装置

イグニッションスイッチを ON しても点灯しない、または点灯し続ける場合は、エアバッグシステムに何らかの異常があります。

できるだけ早くルノー正規サービス工場で点検をお受けください。

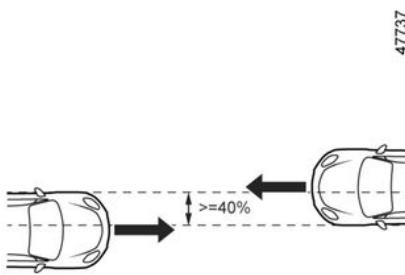
点検整備が遅れると、万一の事故の際に十分な乗員保護効果が得られない恐れがあります。

47713

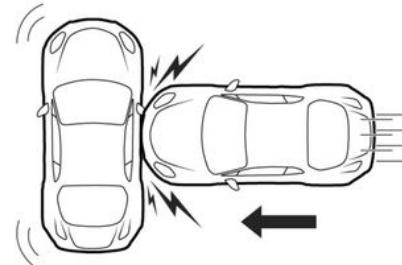


プリテンショナまたは airbags は、次の場合に作動します。

25 km/h 以上の衝撃速度での硬質表面（変形していない）に対する正面衝突。



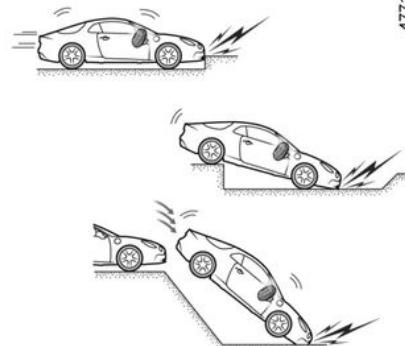
47737



477117

自車両の同等以上のカテゴリーに属する他車両と正面衝突した場合に、衝突面積が 40% 以上で、両車両の速度が 40 km/h を超えている場合。

同等またはそれ以上のカテゴリーの他の車両との側面衝突時に、衝突速度が 50 km/h を超える。

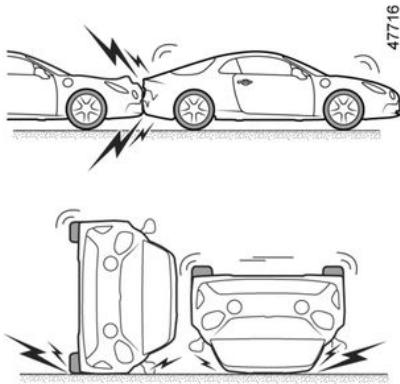


47715

補助の安全装置

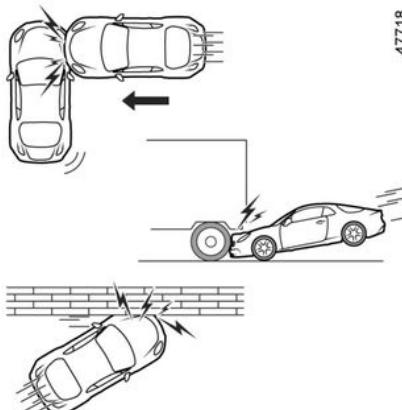
プリテンショナまたは airbags は、次の場合に作動することがあります。

- (舗装縁石に乗り上げたなどにより) 車両底部に衝撃が及んだ場合。
- 穴
- 車両が落下または硬着陸した場合。
- 石
- ...



次の場合、プリテンショナまたは airbags は作動しないことがあります。

- 車両後方からの激しい衝突の場合。
- 車両の転倒



47718

- 車両の前方または後方で側面から衝突された場合。

- ローリーのテール下で前方から衝撃を受けた場合。

- 鋭い角度の障害物に対する前部衝突

- ...

airbag の作動が妨げられぬようにし、作動時の衝撃による負傷を防止するため、次の注意事項は必ず守ってください。

補助の安全装置

警告



ドライバーのairbag

- ステアリングホイールやボスを絶対に改造しないでください。
- どんな状況においてもステアリングホイールボスに物を被せないでください。
- ステアリングホイールボスには異物（ステッカー、ロゴマーク、時計、スマートホルダーなど）を着けないでください。
- ステアリングホイールを絶対に取り外さないでください（指定サービス工場の技術者以外は絶対に行わないでください）。
- ステアリングには近づき過ぎないようにし、腕を少し曲げた状態になるよう運転席を調整します（詳しくは「運転位置調整」をご覧ください→74）。こうすることで、エアバッグが展開するのに十分な空間が確保され、エアバッグの効果が正しく発揮されます。

乗員airbag

- ダッシュボードのairbag収納部分にステッカーやエンブレムを貼ったり、時計、電話台などのアクセサリーを取り付けたりしないでください。
- ダッシュボードと乗員の間には何も（ペット、傘、杖、缶、箱など）置かないでください。
- ダッシュボードの上またはシートの上に足を置かないでください。不安定な姿勢をとっていると、万一の事故の際、大ケガをするおそれがあります。また、乗車中はダッシュボードから頭や膝、腕などをできるだけ離してください。

補助の安全装置

リアシートベルト補助拘束装置

はじめに

この装置は次のもので構成されています。

- シートベルトリトラクタプリテンショナー
- 胸部フォースリミッター

これらのシステムは正面から衝撃があった際に、独立または連動して作動します。

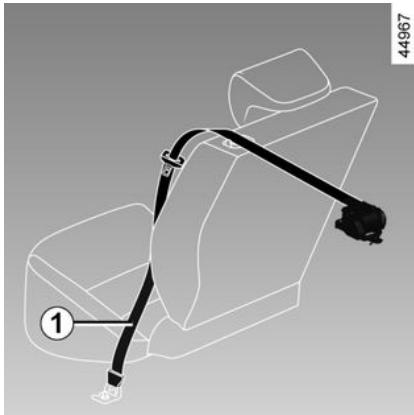
衝撃の強さに応じて、システムは次のように作動します。

- シートベルトをロックする。
- シートベルトリトラクタプリテンショナー（作動するとシートベルトのたるみがなくなります）。

ベルトフォースリミッター

ベルトフォースリミッターは、衝撃が一定以上加わると、限度内においてベルトを伸ばし、体に加わる衝撃を緩和します。

リアシートベルトプリテンショナー



プリテンショナーには、シートベルトを体に密着させることで乗員をシートに固定し、シートベルトの効果を高める働きがあります。

イグニッシュョンスイッチが ON の状態で前方から強い衝撃を受けると、衝撃の強さに応じて、システムは、慣性リールシートベルトプリテンショナー **1** を作動させ、即座にシートベルトを巻き込みます。



- 万一車両が事故にあった場合は、指定サービス工場で全拘束装置の点検を受けてください。

- プリテンショナー、airbags、電子部品、配線には絶対に触れないでください。また、それらの部品を他の車両（たとえ同じモデルであっても）に付け替えたりは絶対にしないでください。

- 突然作動してケガをする恐れがありますので、airbags の修理点検は必ず正規サービス工場で行ってください。

- プリテンショナーの起動装置の電気系統に関する点検修理は、特別にトレーニングを受け、専用の機器を用意している指定サービス工場にお任せください。

- 車両を廃棄処分にする場合、プリテンショナーおよびairbagsガス発生器を処理する必要があります。指定サービス工場にご相談ください。

補助の安全装置

サイドプロテクションシステム

サイドエアバッグ

サイド airbag は運転席および助手席用にひとつずつ装着されており、側面から強い衝撃があった場合にシート側面（ドア側）からエアバッグが展開して乗員を保護します。

カーテンエアバッグ

前後席の両ドアサイド頭上からカーテンを閉めるように展開する airbag で、側面から強い衝撃があった場合に乗員を保護します。

補助の安全装置

警告

2



サイドエアバッグに関する警告airbag

- アクセサリーや物やペットなどを、背もたれ、ドア、インテリアトリムの間に置かないでください。また背もたれには衣類などを掛けないでください。airbag の効果的な作動を妨げ、乗員を負傷させるおそれがあります。
- シートや内装品の手入れや改造は、正規整備工場の有資格作業員に限り実施できます。
- airbags フロントシートバック（ドア側とセンターコンソール側）のスリットを通して展開する：これらのスリットにオブジェクトを挿入しないでください。

補助の安全装置

警告

airbag の作動が妨げられぬようにし、作動時の衝撃による負傷を防止するため、次の注意事項は必ず守ってください。



airbagはシートベルトの機能を補完するためのものです。airbagとシートベルトは同じ乗員保護システムにおいて、不可欠な構成部品です。従って、シートベルトは必ず常時着用してください。シートベルトを着用しないと、事故の際に乗員が重傷を負う恐れがあります。また、シートベルトを着用しない場合には、膨張したairbagで皮膚に負傷するリスクが高まります。

転倒や後面衝突の際は、激しくても必ずプリテンショナーや airbags が作動するわけではありません。歩道への乗りあげ、車道の穴、石などによる車両の下からの衝撃によってエアバッグが展開してしまうことがあります。

- 完全な airbagシステム (airbags、プリテンショナー、ECU、ワイヤーハーネスなど) の作業と変更は、（資格のあるネットワーク担当者を除く）**厳しく禁止**されています。
- システムを正常な状態に保ち誤作動を避けるためにも、指定サービス工場の技術者以外は airbag システム内部に手を触れないでください。
- 安全のため、万一事故や盗難にあった場合には、airbag システムの点検をお受けください。
- 車両を販売または貸出する際には、この車両ユーザーマニュアルを引き渡す際に、これらの条件を新しい購入者に知らせてください。
- 車両を廃棄処分にする場合、エアバッグやプリテンショナーの起動装置に内蔵されたガス発生器を処理する必要があります。指定サービス工場にご相談ください。

子供を乗車させるとき

「概要」の項を参照してください

お子様を乗車させるとき

各国の法規を確実に遵守してください。

走行中は（たとえ短距離走行でも）、子供も、大人と同様に正しく着座し、身体を固定する必要があります。お子様を乗車させるときは、お子様の安全が確保されるように気をつけてください。

子供は大人の小型版ではありません。子供の筋肉や骨は成長期にあるため、特殊なケガをする危険にさらされています。お子様を乗車させるときは、シートベルトだけでは十分ではありません。適切なチャイルドシートを正しくご使用ください。



ドアが開かないようにするには、「チャイルドロック」機能を使用します ➔ 61。



通常車速 50 km/h で衝突した場合、乗員は 10 m の高さから落ちたときと同じくらいの衝撃を受けます。

したがって、子供をチャイルドシートに着座させないで走行することは、地上 4 階の手摺のないベランダでお子様を遊ばせているようなものなのです。

絶対にお子様を抱いて乗車しないでください。

事故の場合、たとえお客様がシートベルトを締めていてもお子様を保護することはできません。

走行中にお車が事故に巻き込まれた場合は、チャイルドシートを交換し、シートベルトと ISOFIX アンカーの点検を受けてください。



駐車または停車時のドライバーの責任

お子様、ひとりで動けない成人、ペットを車内に残して、たとえ短い時間でも絶対にお車から離れないでください。彼らがエンジンを始動したり、パワーウィンドウやドアロックなどの装置を作動させると大変危険です。

その上、暑く晴れた日には、車内の温度は急に上昇します。

死亡または重傷のおそれがあります。

チャイルドシートの使い方

チャイルドシートが提供する保護レベルはチャイルドシートがお子様を支える容量と取付け方によって異なります。取付け方が悪いと、急ブレーキをかけたときや衝突時にお子様を保護することができません。

チャイルドシートを購入する前に、国の法規に適合していること、またお車に取付けられることを確認してください。お車に合ったチャイルドシートをお探しの場合は、ルノー指定サービス工場にお問い合わせください。

お子様の移動に関する規則は、各国に固有です。移動中のチャイルドシート

子供を乗車させるとき

の使用は、お子様の年数および／またはサイズおよび／または体重によって異なります。

チャイルドシートで移動する必要のないお子さまの場合、シートベルトが正しく調整され、締められていることを確認してください。

あらゆるケースで、各国の安全規格に従ってベルトの着用義務を果たしてください。

チャイルドシートは、取扱説明書を読み、その内容に従って取り付けてください。取付け中に問題が発生した場合は、機器のメーカーまでお問い合わせください。取扱説明書はチャイルドシートと一緒に保管してください。

i シートベルトを締めるところをお子様に見せて、お子様に次のことを教えてください：

- 正しく取り付けること。
- 必ず、車道とは反対の歩道側から乗降すること。

中古のチャイルドシートや取扱説明書がない場合には使用しないでください。

チャイルドシートの中や近くに取付けの邪魔になるものがないか気をつけてください。



お子様を乗車させるときは、絶対にお子様から目を離さないでください。

お子様の身体が常にしっかりと固定されていること、またハーネスやベルトが正しく調整されていることを確認してください。衣服が厚すぎるとベルトがたるんでしまいます。ベルトが緩む恐れるある厚手の衣服の着用はお控えください→74。

お子様が窓から頭や手を出さないように気をつけてください。

走行中は、お子さまがチャイルドシートに正しく着座していることを常にご確認ください（とくにお子さまが眠っているとき）。

チャイルドシートの選択

後ろ向きに取り付けるチャイルドシート

61260



乳児の頭は大人に比べ身体の割りに重く、首は衝撃に大変弱いので気をつけてください。お子様を乗車させるときは、できるだけ長い期間（少なくとも2歳まで）チャイルドシートを後ろ向きに取り付けてください。この向きだと頭部と首が保護されます。

側部の保護を確実にするため、包み込むタイプのチャイルドシートをお選びください。また、お子様の頭がチャイルドシートからはみ出さないうちに交換してください。

子供を乗車させるとき

前向きに取り付けるチャイルドシート

2



61261

ブースタークッション



61262

体重18 kgまたは4歳までは、お子様を前向きに座らせて走行することができます。お子様のサイズに合わせてシートを選択してください。頭と腹部を最も保護する必要があります。前向きに取り付けるチャイルドシートを車両にしっかりと固定すれば、頭に衝撃が加えられる危険性が減ります。お子様を乗車させるときは、身長が使用可能な範囲内である限り、ハーネス付きの前向きに取付けるチャイルドシートに座らせてください。

側部の保護を確実にするため、包み込むタイプのチャイルドシートをお選びください。

体重が15 kg（または4歳）になったら、シートベルトを身体に合わせることのできるブースタークッションが使用できます。シートベルトがお子様の腹部ではなく腿の上にくるようにするガイド付きのブースタークッションを使用してください。シートベルトが肩の中央にくるように、ベルトガイド付きの高さ調整可能な背もたれをお勧めします。シートベルトは絶対に首や腕にかかるないようにしてください。

側部の保護を確実にするため、包み込むタイプのチャイルドシートをお選びください。



メーカー推奨のお子様拘束方法一覧



チャイルドシートの取付け方法の選択

チャイルドシートの取付け方法には、シートベルトを使う方法と、ISOFIXシステムを使う方法の2種類があります。

シートベルトによる取付け

シートベルトは、急ブレーキをかけたときや衝突時に正常に作動するよう、正しく調整してください。

子供を乗車させるとき

チャイルドシートのメーカーによって指示されたベルトの通し方を守ってください。

チャイルドシートを押しながら、まずシートベルトの上部を引き、次にシートベルトができるだけぴんと張ってシートベルトがしっかり締まっていることを必ず確認してください。

チャイルドシートを前後左右に動かして正しく取付けられているか確認します：チャイルドシートはしっかりと固定されていなければなりません。

チャイルドシートが斜めに取り付けられていないか、またウインドウに当たっていないか確認してください。



チャイルドシート拘束用
シートベルトが緩む危険
がある場合はチャイルド
シートを使用せず、設置
する場合には、シートクッション
がシートベルトのバックル／スト
ライカーの妨げとならない位置に
設置してください。



シートベルトは絶対に緩めたりねじったりしないでください。

シートベルトは絶対に腕の下や背中の後ろを通さないでください。

シートベルトが鋭角部によって損傷していないか確認してください。

シートベルトが正常に機能しないと、お子様を保護することができません。

メーカーにお問い合わせください。

シートベルトを修理するまでは、この座席は使用しないでください。

- または車両のフロアにあるステー、認可されているシート-i-Size、衝突の際にチャイルドシートが動くことを防ぐ役割。

後者の3種類の場合は、適合する車両のリストを参照して、お手持ちのチャイルドシートがお車に取付けられるか確認してください。



初めから車両に取り付け
られている拘束装置
(シートベルト、
ISOFIX、座席、固定具など)
の構成部品を改造するのは絶対にお止めください。

ISOFIX ロックが装備されている場合には、チャイルドシートをそれで固定してください。ISOFIX システムは簡単、迅速で確実な取付けを保証します。

ISOFIX システムは2個のリング（3個の場合もあります）から構成されます。

ISOFIX システムによる取付け

現行の規制に準ずる認定チャイルドシート ISOFIX には次の4種類があります。

- ユニバーサル ISOFIX 3点式（前向き）；
- セミユニバーサル ISOFIX 2点式；
- 車両限定型チャイルドシート。
- i-Size の構成：
 - シートの3つ目のリングに取り付けられているベルト

子供を乗車させるとき

2



ISOFIX アンカーは
ISOFIX システム付き
チャイルドシート専用で
す。

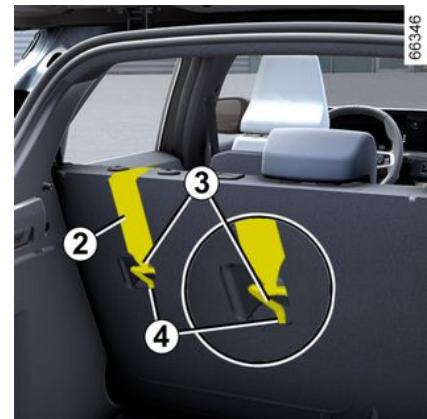
絶対に他のチャイルドシートや
シートベルトなどをこのアンカー
に取り付けないでください。
アンカーポイントに邪魔なものが
ないか確認してください。
走行中にお車が事故に巻き込まれ
た場合は、ISOFIX アンカーの点
検を受け、チャイルドシートを
交換してください。



他の車両用に購入した
ISOFIX 対応チャイルド
シートを使用する場合
は、事前にお車への取
付けが許可されているか確認し
てください。ISOFIX 対応チャイ
ルドシートの取付けが可能な車
両のリストについては、チャイ
ルドシートのメーカーにお問い合わせ
ください。



2個のリング **1** は、シートの背もたれ
とクッションの間にあり、マーク
で識別できます。



3目のリング **4** は、一部チャイルド
シートのアップストラップ **2** 固定に使
用します。

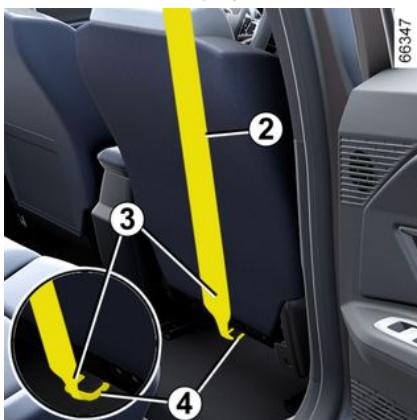
後席

上部のストラップ **2** は、背もたれとリ
アパーセルシェルフ間に通してください。
これを行うには、リアパーセル
シェルフを取り外します→ 66。

フック **3** を、記号のあるリング
4 のいずれかに取り付けます。

子供を乗車させるとき

フロントシート助手席



フック 3 を、記号のあるリング 4 の上にあるアッパストラップ 2 に取り付けます。

全シート

チャイルドシートの背面が車両の背もたれに密着するよう、アッパストラップ 2 引きます。



ISOFIX アンカーは ISOFIX システム付き チャイルドシート専用です。絶対に他のチャイルドシートやシートベルトなどをこのアンカーに取り付けないでください。
アンカーポイントに邪魔なものが ないか確認してください。
走行中にお車が事故に巻き込まれた場合は、ISOFIX アンカーの点検を受け、チャイルドシートを 交換してください。



チャイルドシートのベルトは、対応するリングに 取り付ける必要がありま す。



前向きに取り付けるチャイルドシートの背もたれが車両のシートの背もたれに当たっていることを 確認してください。この場合チャイルドシートは必ずしも車両のシートクッションの上に置かれて いるわけではありません。

チャイルドシート

チャイルドシートの取り付け、 一般情報

2

一部の座席にはチャイルドシートを取り付けることができません。
チャイルドシートの取付け方法は、図
→ 98→ 104でご確認ください。



お好みのチャイルドシートを後部座席に取り付けてください。

チャイルドシートやお子様の足が、フロントシートの正しいロックを妨げていないかご確認ください→ 69。

チャイルドシートがしっかり車両に取り付けられており、外れるおそれがないことを確認してください。

ヘッドレストを取り外す必要がある場合は、正しい位置に収納されていることを確認してください。そうでないと急ブレーキをかけたときや衝突時に飛び出すおそれがあり危険です。

チャイルドシートは、使用しないときでも必ず車両に取り付けてください。固定されていないと、急ブレーキをかけたときや衝突時に飛び出すおそれがあり危険です。

言及されたタイプのチャイルドシートはお求めになられません。他のチャイルドシートを使用する場合は、お車に取り付けられるかどうか事前にメーカーに問い合わせてください。

フロント

子供を助手席に座らせる場合の規定は、国によって異なります。関連法を確認し、図にある説明に従ってください。

チャイルドシートを助手席に取付ける前に（認可されている場合）：

- シートベルトを一番下まで下げます。
- シートを一番後ろまで引きます。
- 背もたれを垂直位置から少し（約25°）傾けます。
- シートクッションの高さを一番高くなります（高さ調整機能装備車の場合）。

シートのヘッドレストは、チャイルドシートに干渉しないよう、常に一番上まで持ち上げます→ 69。

チャイルドシートを取り付けた後、可能であれば、必要に応じて、車両のシートを前に出すことができます（後部座席の乗員や他のチャイルドシートに十分なスペースを与えるために）。後ろ向きのチャイルドシートについては、ダッシュボードに接触したりシートを最も前に出した位置にしないで下さい。

チャイルドシートを取り付けた後で、上記の調整を変更しないでください。

チャイルドシート



死亡または重傷の危険あり: 後ろ向きチャイルドシートは、必ず、airbagが無効化→109されているか確認してから助手席に取り付けてください。

左右の後部座席に取り付ける場合

ベビーシートは車両に対して横向きに少なくとも2席を使用して置きます。お子様の頭が車両中央側に向くように装着します。

後ろ向きチャイルドシートは、フロントシートができるだけ前に動かしてから取り付け、チャイルドシートを取り付けたら、チャイルドシートには触れないようフロントシートができるだけ後ろに動かします。

前向きのチャイルドシートの安全性:

- お子様の座席は可能な限り後ろまで移動してください。
- お子様をシートの正面に移動させて、背もたれを前方に移動してシートとお子様の足が接触しないように配置します。



チャイルドシートやお子様の足が、フロントシートの正しいロックを妨げていないかご確認ください→69。

どのような場合でも、チャイルドシート設置先後部座席のヘッドレストは取り外してください→72。必要に応じて、リアシートを最大限後方に引きます。これはチャイルドシートを取り付ける前に行う必要があります。チャイルドシートが車両リアシートの背もたれに押し当たっているか確認します。



ブースターシートの取り付け(グループ2またはグループ3)

シートベルト→74が正しく作動する(巻き取られる)かご確認ください。

次のようになるようシートベルトを調整します:

- 肩部ベルトの位置は、お子様の肩付近の、首には触れない位置にしてください。
- 腰ベルトが腰骨に当たり、腿の上に平らに配置されるようにします。

必要に応じてシートベルトの位置を調整してください。



お好みのチャイルドシートを後部座席に取り付けてください。

左側後部座席にチャイルドシートISOFIXを取り付けるには、センターシートベルトを緩めてからロックします。

チャイルドシート

リアセンターシート

シートベルトがチャイルドシートの取り付けに対応しているか確認します。
メーカーにお問い合わせください。



フロアサポート付きの
チャイルドシートは、後
部中央座席には設置しな
いでください。

死亡または重傷のおそれ。

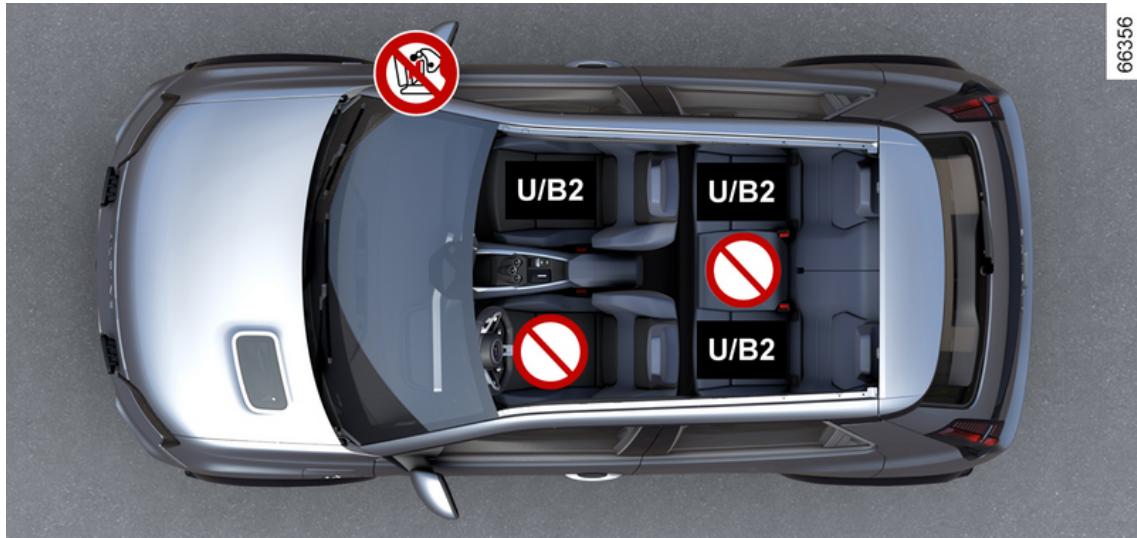
2

チャイルドシート

シートベルトによる取付け

2

取付け図



チャイルドシート



死亡または重傷の危険あり: 後ろ向きチャイルドシートは、必ず、airbagが無効化→109されているか確認してから助手席に取り付けてください。

2



乗員が着座する前またはチャイルドシートを取り付ける前にairbagの状態を確認してください。



チャイルドシートの取り付けが禁止されている座席。

チャイルドシートをシートベルトで取付け る場合



「汎用」認定チャイルドシートをシートベルトで取り付けることができる機能を備えた座席。



「B2」認定取得チャイルドシートをシートベルトで取り付けられる座席。



お車に適合しない子供用セーフティーシステムを使用した場合には、お子様（または赤ちゃん）を正しく保護することができません。このような場合には、死傷や重傷を負う危険があります。



お子様の身体が常にしっかりと固定されていること、またハーネスやベルトが正しく調整されていることを確認してください。衣服が厚すぎるとベルトがたるんでしまいます。
必要に応じて、シートの位置を調整します。

チャイルドシート



大型の背もたれを折り畳んで他のシート上に配置した状態で、隣接する、チャイルドシート装着可能シートにチャイルドシートを装着することは禁じられています→72。

チャイルドシート

取付け情報表

下表は、現行の規制に従うために必要な、図上の情報をまとめたものです。

チャイルドシートのタイプ	子供の体重	フロントシート助手席		リアシート両サイド	リアシート中央
		airbagが無効化されている状態	airbagが有効化されている状態		
横置きの乳児用シート グループ0	< 10 kg 未満	X	X	U (2)	X
後ろ向きの乳児用シート グループ0または0+	< 10 kgまで、および< 13 kgまで	U (1) (5)	X	U (3)	X
ベビーシート／後ろ向きチャイルドシート グループ0+および1	13 kg未満および 9~18 kg	U (1) (5)	X	U (3)	X
前向き取付けチャイルドシート グループ1	9~18 kg	X	U (5)	U (4)	X
シートリフター グループ2および3	15~25 kg および 22~36 kg	X	U / B2 (5)	U / B2 (4)	X



(1) 死亡または重傷の危険あり: 後ろ向きチャイルドシートは、必ず、airbagが無効化→109されているか確認してから助手席に取り付けてください。

X = このタイプのチャイルドシートを取り付けるのに適さないシート。

U = 「汎用」認定チャイルドシートをシートベルトで取り付けられる座席。取り付けが可能かご確認ください。

チャイルドシート

B2=グループ2のブースターシート（15 kg～25 kg）。

(2) キャリコットは、少なくとも2席を使用し、車両に対して横向きにすることで取り付けることができます。お子様の頭が車両中央側に向くように装着します。

(3) 必要であれば、車両のシートを最後部に配置します。後ろ向きチャイルドシートは、フロントシートができるだけ前に動かしてから取り付け、チャイルドシートを取り付けたら、チャイルドシートには触れないようフロントシートができるだけ後ろに動かします。

(4) どのような場合でも、チャイルドシートを設置するリアシートのヘッドレストは取り外してください。これはチャイルドシートを取り付ける前に行う必要があります。お子様をシートの正面に移動させて、背もたれを前方に移動してシートとお子様の足が接触しないようにします。

(5) 車両のシートを後ろいっぱいに下げる座面を最高位置にし、背もたれを若干倒します（25°程度）。

チャイルドシート

ISOFIX システムによる取付け

2

取付け図



チャイルドシート

2

 助手席では、シートベルト警告信号がトリガーされないように、フロアサポート付きチャイルドシートの使用をお勧めします。

 お車に適合しない子供用セーフティーシステムを使用した場合には、お子様（または赤ちゃん）を正しく保護することができません。このような場合には、死傷や重傷を負う危険があります。

 左リアサイドシートにシートISOFIXを取り付けると、中央シートの使用ができなくなります。センターベルトには、アクセスまたは使用できなくなります。

 **死亡または重傷の危険あり:** 後ろ向きチャイルドシートは、必ず、airbagが無効化→109されているか確認してから助手席に取り付けてください。

 このタイプのチャイルドシートを取付けることが禁止されている座席。

固定具を用いて取り付けるタイプのチャイルドシートISOFIX

 ISOFIX または i-Size チャイルドシートを取り付けることができる機能を備えた座席。

 フロントおよびリアシートは、「汎用」前向きチャイルドシート ISOFIX を取り付け可能なアンカーを備えています。アンカーポイントは、前部座席の乗客の背もたれおよび後部座席の座席の背もたれに配置されます。

チャイルドシート

2



お子様の身体が常にしっかりと固定されていること、またハーネスやベルトが正しく調整されていることを確認してください。衣服が厚すぎるとベルトがたるんでしまいます。

必要に応じて、シートの位置を調整します。



大型の背もたれを折り畳んで他のシート上に配置した状態で、隣接する、チャイルドシート装着可能シートにチャイルドシートを装着することは禁じられています ➤ 72。



お好みのチャイルドシートを後部座席に取り付けてください。

この場所にシート ISOFIX を取り付けるには、ボルトを締める前に、シートベルトを手で外してください。

チャイルドシート

取付け情報表

下表は、現行の規制に従うために必要な、図上の情報をまとめたものです。

チャイルドシートのタイプ	子供の体重	シートのサイズ[固定具]	フロントシート助手席		リアシート両サイド	リアシート中央
			airbag が無効化されている状態	airbag が有効化されている状態		
横置きの乳児用シート グループ 0	< 10 kg 未満	L1 [F] L2 [G]	X	X	X	X
後ろ向きの乳児用シート グループ 0 または 0+	< 13 kg	R1 [E]	IL (1) (2)	X	IL (3)	X
後ろ向きのチャイルドシート グループ 0+ および 1	13 kg 未満および 9~18 kg	R3 [C]	X	X	IL (3)	X
		R2 [D]	IL (1) (2)			
前向き取付けチャイルドシート グループ 1	9~18 kg	F3 [A] F2 [B] F2X [B1]	X	IUF-IL (2)	IUF-IL (4)	X
シートリフター グループ 2 および 3	15~25 kg および 22~36 kg	B2	X	IUF-IL (5)	IUF-IL (4)	X
シート i-Size	後ろ向きのチャイルドシート	i - U (1) (2)	X	i - U (3)	X	
	前向き取付けチャイルドシート	X	i - UF (2)	i - U (4)	X	
	シートリフター	X	i - UF (5)	i - U (4)	X	

X = チャイルドシートの取付けに適さない座席。

チャイルドシート

IL = 「準汎用または車両限定型」チャイルドシートを ISOFIX システムを用いて取り付けることが認められている座席。この座席の装備車両においては、取り付けが可能かご確認ください。

i-U = 「汎用」前向きおよび後ろ向き i-Size 拘束装置に適しています。

i-UF = 「汎用」前向き拘束装置i-Sizeにのみ適しています。



(1) **死亡または重傷の危険あり:** 後ろ向きチャイルドシートは、必ず、airbagが無効化→109されているか確認してから助手席に取り付けてください。

(2) 車両のシートを可能な限り後部および下部の位置に調整します。背もたれを可能な限り傾けてチャイルドシートを取り付け、背もたれを約 25° の角度に再調整します。

(3) 必要であれば、車両のシートを最後部に配置します。後ろ向きチャイルドシートは、フロントシートができるだけ前に動かしてから取り付け、チャイルドシートを取り付けたら、チャイルドシートには触れないようフロントシートができるだけ後ろに動かします。

(4) どのような場合でも、チャイルドシートを設置するリアシートのヘッドレストは取り外してください。これはチャイルドシートを取り付ける前に行う必要があります。お子様をシートの正面に移動させて、背もたれを前方に移動してシートとお子様の足が接触しないようにします。

(5) 車両のシートを後ろいっぱいに下げて座面を最高位置にし、背もたれを若干倒します（25°程度）。

ISOFIX 対応チャイルドシートのサイズはアルファベット 1 文字で示されます：

- F3、F2、F2X [A, B, B1]: グループ 1 (体重が 9 から 28 kg までのお子様用) に属する前向きチャイルドシート。

- B2: グループ 2 (体重が 15 から 25 kg までのお子様) に属するブースターシート。

- R3、R2 [C, D]: グループ 0+ (13 kg 未満) またはグループ 1 (9 kg から 18kg) 用の前向きチャイルドシートまたはシェルシート。

- R1 [E]: グループ 0 (10 kg 未満) またはグループ 0+ (13 kg 未満) 用の後ろ向きシェルシート。

- L1、L2 [F, G]: グループ 0 (10 kg 未満) 用のベビーベッド。

お子様の安全: 助手席エアバッグの作動解除／作動

注意



助手席 airbag の作動／作動解除は車を止め、イグニッションをオフにしてから行ってください。

助手席エアバッグ作動解除



チャイルドシートを助手席に取り付けるときは、以下のことに注意してください。

- 該当するシートにチャイルドシートを取り付け可能であることを確認します。

後向きチャイルドシートでは、必ず airbag を無効にする必要があります。



無効化するには、airbag車両を静止させ、イグニッションスイッチを OFF にした状態で、ロック 1 を位置OFFまで押し回します。

イグニッションスイッチをオンにしてから、ディスプレイ 2 に 警告灯が点灯することを必ず確認します。この警告灯は点灯したままとなり、助手席へのチャイルドシートの装着が可能であることをドライバーに知らせます。

危険

後ろ向きチャイルドシートは助手席 airbag に設置できないため、有効化されているフロント airbag により保護されている座席には後ろ向きチャイルドシートを取り付けないでください。このことによりお子様が死亡または重傷を負う恐れがあります。



お子様の安全: 助手席エアバッグの作動解除／作動

2

(A)

61614



ダッシュボード上にある各マークや、
助手席サンバイザー③の各サイドにあ
るラベルA（詳しくは上記ラベルをご
覧ください）は、これらの指示につい
てお知らせするためのものです。

お子様の安全: 助手席エアバッグの作動解除／作動

2

助手席エアバッグを作動させる



チャイルドシートを助手席から取り外したら、万一前方から衝撃を受けた際の助手席乗員の安全のため、すぐに助手席 airbag を作動可能にしてください。



67174

を再有効化するにはairbag、車両を静止させ、イグニッションスイッチをOFFにした状態で、ロック1をON位置まで押し回します。

イグニッションスイッチをONにした
ら、必ず、警告灯が消え、各始動から約1分間はディスプレイに

警告灯2が点灯しているかご確認してください。

助手席airbag が作動します。

お子様の安全: 助手席エアバッグの作動解除／作動

作動異常

助手席airbag作動 / 解除システムに故障が発生した場合、インストルメント



警告灯および



警告灯が表示されます。

イグニッションをオフにし、ロック1の位置を確認します。

イグニッションを再びオンにします:
警告灯が消灯します。

問題が解決しない場合は、システム障害を通知します。この場合、助手席に後ろ向きのチャイルドシートを装着したり、他の乗客が座席を占有したりすることは禁止されています。

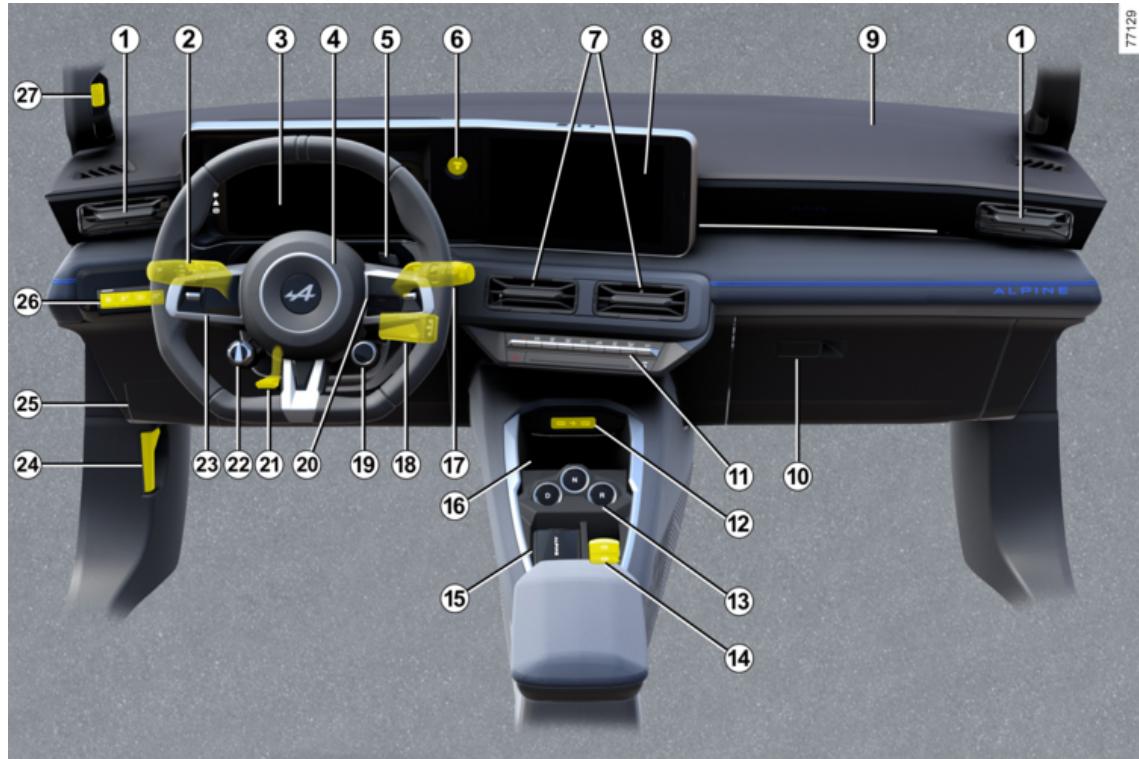
できるだけ早くルノー正規サービス工場で点検をお受けください。

ドライビングポジション

左ハンドル車運転席レイアウト

2

77129



ドライビングポジション

下記の車両装備は、車両のバージョンや使用国に応じて異なります。

- 1.** サイドベンチレーター。
- 2.** レバー：
 - 方向指示灯；
 - ヘッドランプ；
 - リアフォグランプ。
- 3.** インストルメントパネル。
- 4.** 運転席エアバッグ収納部airbag、ホーン。
- 5.** 追い越し（OV）制御。
- 6.** エンジン始動／停止ボタン。
- 7.** センターベンチレーター
- 8.** マルチメディア画面。
- 9.** 助手席エアバッグ収納部airbag。
- 10.** グローブボックス
- 11.** スイッチ：
 - ヒーター／エアコンディショナー
 - ハザードランプ；
 - 集中ドアロック。
 - ...
- 12.** センターコンソールの USB-C ポート。
- 13.** ギヤ制御。
- 14.** スイッチ：
 - アシストパーキングブレーキを作動させます。
 - AUTOHOLD機能の作動 / 作動解除。

- ...

- 15.** 「ハンズフリー」カードホルダー。
- 16.** 誘導充電ゾーン / センターコンソールの後部収納引出し。
- 17.** フロントおよびリアウインドウウォッシャ／ワイパ。
- 18.** オーディオリモコンスイッチ。
- 19.** 走行モード制御。
- 20.** スイッチ：
 - オンボードコンピュータのスクロールスイッチと車両調節のカスタマイズメニュー
 - リモートラジオとナビゲーションシステム。
- 21.** ステアリングホイール調整レバー
- 22.** 回生ブレーキ制御。
- 23.** クルーズコントロール／速度リミッタ／アダプティブルクルーズコントロールStop and Goおよびアクティブ運転支援のメインスイッチと制御装置。
- 24.** ボンネットアンロックスイッチ
- 25.** ヒューズボックス
- 26.** スイッチ：
 - メーター／パネルの照度調節
 - 「My Safety」機能

-」の、「車線維持支援」機能（車線離脱警告、車線離脱防止、レーンセンタリング）の有効化／無効化。

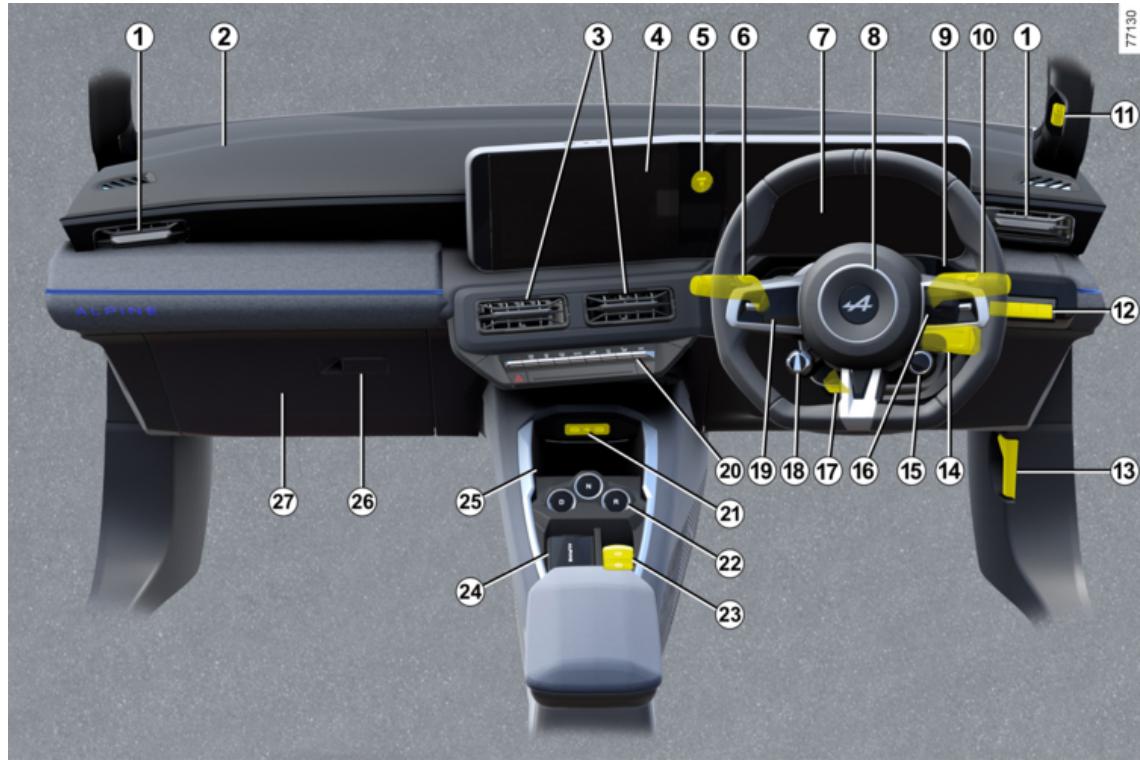
- ...

- 27.** 車内カメラ。

ドライビングポジション

右ハンドル車運転席レイアウト

2



ドライビングポジション

下記の車両装備は、車両のバージョンや使用国に応じて異なります。

- 1.** サイドベンチレーター。
- 2.** 助手席エアバッグ収納部airbag。
- 3.** センターベンチレーター
- 4.** マルチメディア画面。
- 5.** エンジン始動／停止ボタン。
- 6.** レバー：
 - 方向指示灯；
 - ヘッドライト；
 - リアフォグラント。
- 7.** インストルメントパネル。
- 8.** 運転席エアバッグ収納部airbag、ホーン。
- 9.** 追い越し(OV)制御。
- 10.** フロントおよびリアウインドウウォッシャ／ワイパー。
- 11.** 車内カメラ。
- 12.** スイッチ：
 - メーターパネルの照度調節
 - 「My Safety」機能
 - 「」の、「車線維持支援」機能（車線離脱警告、車線離脱防止、レーンセンタリング）の有効化／無効化。
 - ...
- 13.** ボンネットアンロックスイッチ
- 14.** オーディオリモコンスイッチ。
- 15.** スイッチ DRIVE MODE。

16. スイッチ：

- オンボードコンピュータのスクロールスイッチと車両調節のカスタマイズメニュー
- リモートラジオとナビゲーションシステム。

17. ステアリングホイール調整レバー

18. 回生ブレーキ制御。

- 19.** クルーズコントロール／速度リミッタ／アダプティブクルーズコントロールStop and Goおよびアクティブ運転支援のメインスイッチと制御装置。

20. スイッチ：

- ヒーター／エアコンディショナー
- ハザードランプ；
- 集中ドアロック。
- ...

21. センターコンソールのUSB-Cポート。

22. ギア制御。

23. スイッチ：

- アシストパーキングブレーキを作動させます。
- AUTOHOLD機能の作動／作動解除。

24. 「ハンズフリー」カードホルダー。

25. 誘導充電ゾーン／センターコンソールの後部収納引出し。

26. グローブボックス

27. ヒューズボックス

オンボードコンピューター

「概要」の項を参照してください

2

トリップコンピュータ



車種によっては、次の機能が装備されています：

- 走行距離。
- オンボードコンピューター設定。
- 情報メッセージ
- 作動異常メッセージ（関連する警告

灯 が点灯します)；

- (STOP 警告灯に関する) 警告メッセージ。

これらの機能については、いずれも車両の取扱説明書に詳しく記載されています。

これらの機能の選択を変更するには、スイッチ 1 を上下に繰り返し押します。

選択

(表示される情報は車両の装備レベルと国によって異なります。)

- a) トリップメーターに関する設定。
 - 前回のリセット以降の平均エネルギー消費量と現在のエネルギー消費量。
 - 最後にリセットされてからの走行距離。
- b) タイヤ空気圧のリセット。
- c) 整備間隔。
- d) 走行距離ログ、作動不良および情報メッセージ。

インストルメントパネル 装備車両



この機能についてはゾーン 2 に表示されます。

走行パラメーターのリセット（トップスタート）

トリップメーターのいずれかのパラメーターをリセットするには、いずれかのパラメーターを選んで表示させ、スイッチ 1 を下に長押しします。

走行パラメーターの自動リセット

各種走行パラメーターのいずれかが容量を超えた場合は、自動的にリセットされます。

オンボードコンピューター

エネルギー消費値の提示

一部の車両装備品は電力を消費します。したがって、車両が消費するエネルギーは、電子カウンタに示される消費エネルギーとは異なる場合があります。

リセット後の表示値について

平均燃費、航続距離、平均時速の数値は、リセット後の走行距離が伸びるほど正確に算出されます。

リセットボタンを押してから最初の数キロメートルの間は、表示数値が走行につれて増加することがあります。これは、前回のリセット以降の平均的なエネルギー消費量が考慮されるためです。ただし、次の場合に平均エネルギー消費量が下がる場合があります。

- 車両が加速を終えたとき
- 市街地から郊外の幹線道路へ移ったとき



一部のオンボードコントロールユニットの情報がナビゲーションシステムのディスプレイに表示されます。走行パラメーターの距離計は、オンボードコントロールユニットとナビゲーションシステムで同時にリセットされます。

予想航続可能距離のリセット

トラクションバッテリーのフル充電後に実行すべきリセットについては、手動または自動のいずれかを選択できます。

手動リセット

航続距離をリセットするには、リセットするトリップメーターを選択し、スイッチ 1 を長押しします。

自動リセット

航続距離は、トラクションバッテリを満充電すると自動的にリセットされます。計算値は、外気温と平均的な走行距離を踏まえて算出されます。

特に、エコ運転に相当するパターンが特定された場合は、再計算により航続距離が延長されます。

オンボードコンピューター

行程に関する設定

上述の情報のディスプレイは、車両の装備と国によって異なります。

メニューの選択	選択された表示内容の説明
 + 13,4 kWh	a) トリップメーターに関する設定。 瞬間燃料消費。
 12,8 kWh/100 km	平均エネルギー消費量。 値はリセット後少なくとも 400 m 走行した後で表示されます。
トリップ 1284,7 km	最後にリセットされてからの走行距離。
タイヤ空気圧設定 長押し	b) タイヤの空気圧 → 175

オンボードコンピューター

2

メニューの選択	選択された表示内容の説明
整備まで 1,936km または 3 か月	<p>c) 整備間隔。</p> <p>次回整備までの残存距離（km で表示）が表示されるほか、整備時期が近づくと、次のように表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none">- 整備まで残り 1,500 km または 1 か月未満 となった場合: 「まもなく整備時期」というメッセージが、残りの距離または時間とともに表示されます。- 整備時期が到来すると、「要整備」というメッセージが、初回の制限（距離または時間）とともに表示されます。- 航続距離が 0 km に達するか整備日が到来すると、メッセージ「点検が必要です」が、  警告灯とともに表示されます。 <p>車両のオイル交換を出来るだけ早く実行しなければなりません。</p>

メンテナンスプログラムに沿った点検整備後のディスプレイの再設定

整備手帳の注意事項にしたがって点検整備を行った後リセットしてください。

特記事項: 整備間隔データをリセットするには、ディスプレイに、整備時期までの範囲が表示されるまでディスプレイのリセットボタンを約 10 秒間押し続けます。

メニューの選択	選択された表示内容の説明
設定 (OK)	<p>d) 車両設定カスタマイズメニュー。 → 128</p>
テールゲート 開	<p>e) 走行距離ログ。</p> <p>次のものが順に表示されます：</p> <ul style="list-style-type: none">- 情報メッセージ- 故障メッセージ。

オンボードコンピューター

情報メッセージ

車両始動をサポートし、選択や走行状態に関する情報を提供します。

情報メッセージの例は以下のとおりです。

メッセージの例	選択された表示内容の説明
« ケーブルを切離し スタート »	充電ケーブルが車両に接続されたままであることを示します。 プラグを抜いてから車両に差し込みます。
« 接続を チェック »	それでもメッセージが表示される場合は、外部充電条件またはホームインストールが原因である可能性があります。
「要充電端子確認」	考えられる電気的障害または充電ケーブルの欠陥を示します: 充電端子または場所を変更するか、ケーブルを確認してください。
« 充電中 パワーカット »	充電中の電気的障害を示します。充電を再開します。 これが機能しない場合は、電気設備を確認してください。

オンボードコンピューター

故障メッセージ

これらのメッセージが警告灯  とともに表示されたら慎重に運転し、出来るだけ速やかに正規ディーラにて点検をお受けください。このような推奨事項を遵守されない場合は、車両が損傷する恐れあります。

この種のメッセージは、ディスプレイの選択ボタンを押すか、または数秒間すると消え、ログブックにメモリーされます。警告灯  は点灯したままになります。システムの故障メッセージの例を以下に示します。

メッセージの例	選択された表示内容の説明
« エアバッグ 点検 »	乗員補助拘束システムに故障があることを示しています。事故の場合に正しく作動しない恐れがあります。
« 車両 点検 »	ペダルまたは12Vバッテリ管理システムのセンサのいずれかが故障していることを示しています。
« ブレーキシステム を点検 »	摩耗またはブレーキシステムを確認する必要性を示します。
« ポストコリージョン要点検 »	多重衝突ブレーキに問題があることを示します。
« 車両プラグを チェック »	車両側充電ソケットの過熱を示します。約20分待ってから、もう一度やり直してください。それでも解決しない場合は、正規サービス工場にご連絡ください。
« 電気系統を 点検 »	トラクション装置の故障を知らせます。
« バッテリ充電 不可能 »	トラクションバッテリ再充電システムの故障を示します。

オンボードコンピューター

警告のメッセージ

2

この警告灯が **STOP** 警告灯とともに表示されたら、安全のため、周囲の交通に注意しながらただちに車両を停止してください。エンジンを停止し再始動させないでください。正規サービス工場にご連絡ください。

警告メッセージには以下のものがあります。注意：メッセージはディスプレイ上に単独で現われるか、または交互に現われます（複数のメッセージがある場合）。警告灯 や警報音を伴う場合もあります。

メッセージの例	選択された表示内容の説明
« ブレーキシステム 不具合 »	ブレーキシステムの故障を知らせます。
« パワーステアリング 不具合 »	ステアリング装置の故障を知らせます。
« 電動モータ 故障 »	車両の電力が失われていることを示します。
« 電気系統故障 »	電気システムの故障を知らせます。
« パンク »	少なくとも1本のタイヤがパンクしているか空気圧が著しく不足していることを示します。



道路の脇に車を駐車するときは、三角停止表示板や国の法規で定められた機器を使用して他の車に駐車中であることを知らせる必要があります。

オンボードコンピューター

ディスプレイとメーター類

ビューの選択



車両によっては、制御装置 **1** を使用することで、インストルメントパネルに表示されるさまざまな項目を閲覧および選択できます。

いくつかのビューが用意されています:

- 充電ビュー: 車両の充電時にのみ、インストルメントパネルに、走行可能距離、バッテリ充電率、残り充電時間が表示されます。
- クラシックビュー: 車両に応じて、インストルメントパネルに速度、アクティブなドライビングアシスト、情報エリア、パワーメーターが表示されます。

- ナビゲーションビュー: インストルメントパネルに速度、アクティブなドライビングアシスト、および情報エリアが表示されます。またこのビューでは、マルチメディアシステムと同じ道路地図がインストルメントパネル全体に表示されます。

- 実際の状況ビュー: 速度、有効な運転支援機能、情報表示エリア、自車両やその周辺にあるもの（車線、周辺車両など）がインストルメントパネル上に表示されます。

- 最小表示: インストルメントパネルに、重要な情報、速度、アクティブなドライビングアシスト、および情報エリアのみが表示されます。

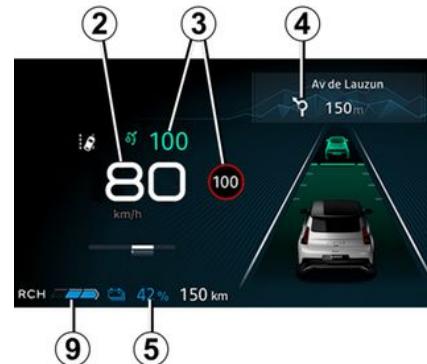
インストルメントパネル



運転席ドアを開けたときに点灯します。一部の警告灯の点灯と同時にメッセージが表示されることがあります。

車両によっては、インストルメントパネルのコンテンツと選択した色でカスタマイズできます。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。



速度計 2

速度超過警告音



車両と国によっては、 警告ランプが表示され、警告音が鳴ります。この警告音は、車両が 120 km/h 以上で走行するとただちに鳴ります。

オンボードコンピューター

この警告灯は、車速が 120 km/h を超えている限り点灯したままになります。

2 運転支援 3 に関する情報

実行中のナビゲーションに関する情報 4

車両によって、タッチ画面（コンパス、電話、ナビゲーションなど）またはオンボードコンピューターから情報を表示できます。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

バッテリ情報 5（トラクションバッテリ充電率、概算航続距離）



電力計 6



オドメータ 7

回生ブレーキレベル警告灯 9

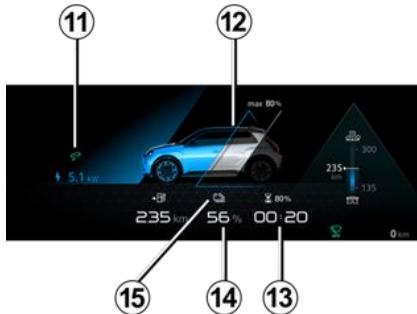


情報表示エリア 8

車両によっては、制御装置 10 を使用することで、インストルメントパネルに表示されるさまざまなウィジェットをブラウズおよび選択できます:

- トリップメーター（走行距離記録計、消費量情報など）。
- 電話やマルチメディア（現在再生中の音源など）に関する情報。
- 車両情報（警告メッセージなど）。
- ...

オンボードコンピューター



充電ケーブル「差込み」警告灯 11

これは、充電ケーブルが車両に差し込まれると点灯します。

充電残量 12

ゲージは、残存エネルギーのレベルを示します。

充電終了までの残時間 13

トラクションバッテリの充電率 14

予約しきい値

トラクションバッテリの充電残量が約 7%（車両によっては約 12%）に達す

ると、ゲージと表示灯 15 が黄色表示され、ビープ音が鳴ります。航続距離を最適化するには→ 171。

ブレーキング喪失しきい値に迫っている

充電残量が約 4%（車両によっては約 6%）に達すると、ビープ音が再び鳴り、残量計が赤色点灯します。車両によっては、残量計の赤色点灯から 30 秒後にビープ音が鳴ります。

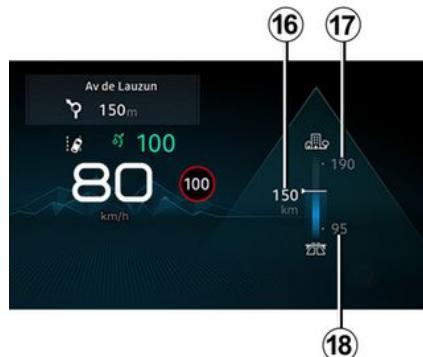
充電レベルが 3.5% に達すると（車両によっては約 5%）、範囲値が表示されなくなります。車両が停止するまでエンジン出力が徐々に低下します → 341。

概算航続距離 16

リアルタイム概算航続距離は、使用環境、車両装備、運転スタイル、気候といったさまざまな要素を踏まえて算出されます。

この概算は、直近数 km の走行における実績を踏まえて行われます。走行中に要因（道路の種類、運転スタイルなど）が変化した場合、自動的に修正されます。

さらに、推定範囲を理解するために、インジケーター 17 および 18 を参照できます。トラクションバッテリの充電レベルに応じて：



- インジケーターランプ 17: 「高」範囲の推定 最適な運転条件（たとえば、エアコンの使用を最小限に抑えた温暖な気候下での A 道路または高速道路での運転）に基づいて算出されます。

- インジケーターライト 18: 「低」範囲の推定 好ましくない運転条件（たとえば、冬季の高速道路での運転や暖房システムを集中的に使用する交通渋滞での運転）に従って計算されます。航続距離を最適化するには→ 171。

オンボードコンピューター

マイル表示のインストルメントパネル

2



(km/h 表示に切り替え可能)

車両を静止させ、エンジンスイッチをONにした状態で、マルチメディア画面**19**から「車両」領域を選択し、「設定」メニュー>「システム」>「単位」の順に選択します。

Km/h または mph を選択します。

この設定を変更すると、インストルメントパネルに表示される速度計の表示単位と走行距離情報の一部が変換されます。

前のモードに戻りたいときは、同じ作業を行ってください。

注: スイッチを OFF になると、車載コントロールユニットの測定単位は自動的に既定の単位に戻ります。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。



速度単位が異なる国で運転する場合、適切な情報を得て安全性補助機能の一部を利用するため、インストルメントパネルの単位を変更する必要があります。



安全のために、この操作は必ず停止時に行ってください。

車両調整のパーソナリゼーションメニュー

はじめに



車両の装備に応じて、この機能は車両のいくつかの機能の作動と作動解除および調整を行います。

設定メニューへのアクセス

各種設定にアクセスするには、車両を静止させ、エンジンを作動させた状態で、マルチメディア画面**1**から「車両」領域を選択し、「車両」メニュー>「車外」タブの順に押します。

オンボードコンピューター

調整の選択

タブを選択し、次に変更する機能を選択します（この表示は、車両装置および国に応じて異なります）：

- a) 「アクセス」：
 - « オートドアロック »；
 - « ハンズフリーロック/ロック解除 »；
 - « スマートフォンキー »；
 - ...
 - b) 「ようこそ」：
 - « 外部ライトシーケンス »；
 - « 室内音声シーケンス »；
 - « オートドアミラーOFF »；
 - « 室内ランプ機能 »；
 - ...
 - c) 「ドライビングライト」：
 - « アダプティブビジョン »；
 - « 走行車線選択 »；
 - ...
 - d) 「ワイパー」：
 - « リバースギア作動時の後部ワイパー »；
 - « オートワイパー »；
 - ...
- 機能に応じて、次を選択します：
- 「ON」または「OFF」をオンまたはオフにできます。
 - または
 - ヘッドランプ点灯時間を調整するための時間（「自動フォロミーム機能」機能など）。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。



安全のために、この操作は必ず停止時に行ってください。

「お気に入り」機能



車両によっては、制御装置 2 を押すことで、次の機能を、過去に定義し記憶させたユーザー設定で有効化できます。

- シートヒーター。
- ステアリングホイールのヒーター。
- 希望設定（アクセス、ウェルカム、照明、ワイパーなど）。

- 「ハンズフリーパークアシスト」機能。

- Save モード；
- ...

この機能のプログラムについては、マルチメディアの指示を参照してください。



安全のために、この操作は必ず停止時に行ってください。

時計／外気温度計

時計の調整



オンボードコンピューター

時刻と外気温は、マルチメディア画面**1**に表示されます。

時刻を設定するには、マルチメディア画面**1**から「車両」領域を選択し、「設定」メニュー>「日付と時間」の順に押します。

さまざまな設定にアクセスできます。

- 「タイムゾーンを自動設定」。
- 「タイムゾーンを設定」（手動）。
- 「24時間表示を使用」。
- ...

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

外気温度計

専用装備:

外気温が -3 °C ~ 3 °C の範囲内場合、
温度を示す数値が点滅します（これは、凍結の可能性を示します）。



外気温度計

凍結の条件は気候や湿度、温度により異なります。外気温の表示だけで凍結の有無を判断することはできません。



電気の供給が途絶えた場合
(バッテリー不足、ケーブル切断など) は、時計を合わせる必要があります。
ただし、走行中に時計の操作は危険ですのでおやめください。

警告灯

上述の情報のディスプレイは、車両の装備と国によって異なります。



警告灯 **STOP** が点灯した場合、周囲の交通に注意しながら直ちに安全な場所に停車しなくてはなりません。エンジンを停止し再始動しないでください。正規ディーラーにご連絡ください。



ビジュアルリターンまたは音声がない場合は、インストルメントパネルが故障しています。そのため、周囲の交通状況に注意しながら直ちに停車することが重要です。車両が固定されていることを確認して、指定工場に連絡してください。



警告灯 が表示されたら慎重に運転しながらできるだけ速やかに指定サービス工場で点検を受けてください。このような推奨事項を遵守されない場合は、車両が損傷する恐れあります。



スモールランプ表示灯



ロービーム表示灯



ハイビーム表示灯



自動ハイビーム表示灯



リアフォグランプ表示灯



左方向指示器表示灯



右方向指示器表示灯



「Adaptive Vision」ライト機能不良警告灯



ドア閉め忘れ警告灯



電動パーキングブレーキ作動警告灯 → 165



「Autohold」システム警告灯



歩行者ホーン故障警告灯



運転席 airbags および助手席 → 109 不具合警告灯

警告灯

 フロントウインドウウォッシャー低レベル警告灯

 AUTO 自動ワイパ機能警告灯

STOP 緊急停車警告灯

この警告灯は、イグニッションスイッチをONになると点灯し、エンジンを始動するとすぐに消灯します。この警告灯は、他の警告灯やメッセージと一緒に点灯し、点灯するとビープ音も同時に鳴ります。

この警告灯が点灯したら周囲の交通に注意しながら直ちに安全な場所に停車してください。エンジンを停止し再始動しないでください。

正規ディーラーにご連絡ください。

警告灯

この警告灯は、イグニッションスイッチをONになると点灯し、エンジンを始動するとすぐに消灯します。この警告灯は、インストルメントパネル上に表示される他の警告灯やメッセージと一緒に点灯する場合があります。

この警告灯が点灯したら**慎重に運転しながら**できるだけ速やかにルノー指定サービス工場で点検を受けてください。このような推奨事項を遵守されない場合は、車両が損傷する恐れあります。

⚠ 警告灯

走行中に赤で点灯し、さらに **STOP** 警告灯が点灯する場合は、安全のために、交通条件が許す限り直ちに停止する必要があります。エンジンを停止し再始動しないでください。

正規ディーラーにご連絡ください。
走行中に黄色で点灯し、さらに

 警告灯が点灯する場合は、できるだけ速やかに正規サービス工場にお立ち寄りください。それまでは、**慎重な運転を心がけてください**。このような推奨事項を遵守されない場合は、車両が損傷する恐れあります。

⚡ 電気技術システム警告灯

電気アセンブリの温度が高すぎると、

この警告灯が **STOP** 警告灯とともに点灯し、ビープ音が鳴ります。点灯したら、車両を停止しイグニッションスイッチをOFFにします。正規サービス工場にご連絡ください。

この警告灯が、**STOP** 警告灯、ビープ音および「安全に回避」というメッセージと一緒に点灯した場合は、イグニッションスイッチをOFFにし、エンジン再始動はお控えください。下車して、正規ディーラーにご相談ください。



「安全に回避」という

メッセージが **STOP**

警告灯およびビープ音と同時に表示された場合は、安全のため、交通状況にも注意しながら車両をただちに停止させてください。イグニッションスイッチはOFFにし、そのままの状態を保ちます。ご自身と乗員の全員で降車し、車両や道路から離れます。
火災の恐れ。



道路の脇に車を駐車するときは、三角停止表示板や国の法規で定められた機器を使用して他の車に駐車中であることを知らせる必要があります。



⚡ 電気技術システム故障警告灯

この警告灯が点灯した場合、電気系統のアセンブリ（トランクションバッテリーおよび電気モーター）に関連する電気技術的な故障が発生していることを示します。できるだけ早く指定サービス工場で点検をお受けください。

警告灯



電気モーターの故障表示灯

点灯しているときは、電気自動車に関する電子工学システムの故障を示します。できるだけ早く指定サービス工場で点検をお受けください。



トラクションバッテリゲージ警告灯

これは、トラクションバッテリ充電レベルがリザーブしきい値に達したときに、黄色で表示されます。



トラクションバッテリ故障警告灯

この警告灯が、警告灯と一緒に点灯した場合、トラクションバッテリの作動に関する不具合が生じています。できるだけ早く指定サービス工場で点検をお受けください。



12Vバッテリ充電警告灯

この警告灯が、警告灯とビープ音を伴って点灯した場合、電気系統において過電圧または放電→326が生じています。



性能の制限警告灯

これは、電動モータまたはトラクションバッテリが一時的に定格出力を供給しない場合に表示されます。この間、車両の性能が低下します。

警告灯が消えるまで、よりスムーズな運転スタイルを選びます。



充電ケーブル「差込中」警告灯

この警告灯は、充電コードが車両に差し込まれると点灯します→20。



ABS警告灯

イグニッションスイッチをONにするとき点灯し、システムに異常がなければ数秒後に消灯します。イグニッションスイッチをONにしてから数秒後に消灯しないとき、または走行中に点灯するときは、ABSシステムの故障を示しています。このときブレーキシステムの機能はABS非装着車と同じになります。できるだけ早く指定サービス工場で点検をお受けください。



横滑り防止装置(ESC)およびトラクションコントロールシステム警告灯

警告灯はいくつかの理由で点灯する場合があります。



横滑り防止装置(ESC)／トラクションコントロールシステム→181警告灯



タイヤアンダーフレーン警告灯

この警告灯は、イグニッションスイッ

チをONにするかエンジンを始動すると点灯し、数秒後→175に消灯します。



「ハンズフリー駐車」機能警報灯



可変式パワーステアリング表示灯

イグニッションスイッチまたはエンジンをONにすると点灯し、システムに異常がなければ数秒後に消灯します。車両によってはバッテリー故障時に点灯します→326。

走行中に警告灯と共に点灯した場合は、システムの故障です。正規ディーラにご連絡ください。



ブレーキ回路の故障警報灯

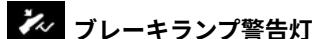
イグニッションスイッチまたはエンジンをONにすると点灯し、システムに異常がなければ数秒後に消灯します。ブレーキを掛けたときに点灯し、同時に

警報灯が点灯して警報音が鳴る場合、ブレーキ回路のフルードレベルが低下しているか、またはブレーキシステムに異常があると思われます。

周りの交通に注意しながら速やかに停車し、認定ディーラにご連絡ください。

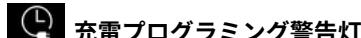
警告灯

2

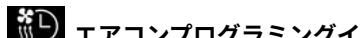


ブレーキランプ警告灯

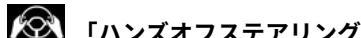
この警告灯は、ブレーキペダルを踏んだときに点灯します。



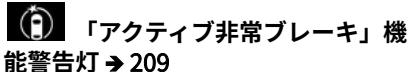
充電プログラミング警告灯



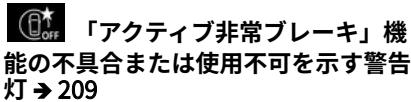
エアコンプログラミングインジケータ



「ハンズオフステアリングホイール」検出警告灯



「アクティブ非常ブレーキ」機能警告灯 → 209



「アクティブ非常ブレーキ」機能の不具合または使用不可を示す警告灯 → 209



速度超過警告灯が点灯します。



車線逸脱防止警告灯



レーンセンタリング機能警告灯



スピードリミッター表示灯

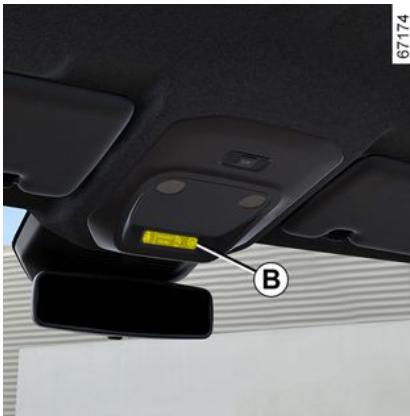


クルーズコントロール警告灯

Stop and Go

ドライバーに対する「注意喚起」／ドライバーに対する「疲労」警告機能警告灯 → 216; → 218

ディスプレイ B 上



Airbag助手席ON → 109

Airbag助手席OFF → 109

フロントシートベルト締め忘れ警告灯 → 74

ステアリング

ステアリング

ステアリングホイールの高さと前後位置の調節



レバー 1 を下げてステアリングホイールをご希望の位置に設定します。

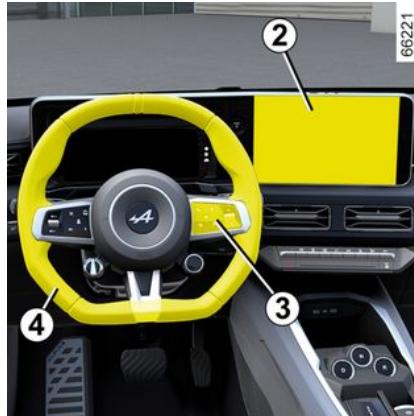
続いてレバーをハードポイントの先まで上げて、ホイールを固定します。

ステアリングが確実にロックされたことを確認します。



安全のために、この調整は必ず停止時に行ってください。

ステアリングホイールのヒーティング



(車種によります)

この機能は、ステアリングホイール 4 を温めます。

作動原理

設定温度に達すると、システムが加熱エリアの温度を約 30 分間制御し、その後自動的にオフになります。

機能の作動

イグニッションスイッチを ON にした状態で、マルチメディア画面 2 のボタン 5 を押します。



機能の作動解除

- 自動:

約 30 分間の制御フェーズの後で、機能は自動的にオフになります。

- 手動:

制御フェーズ中に機能を無効化するには、マルチメディア画面 2 の 5 ボタンを押します。

注: この機能には、ステアリングホイール 4 の「お気に入り」ボタン 3 からアクセスすることもできます。

ステアリング

「お気に入り」機能

2



車両によっては、ステアリングホイールの制御装置 **6** を押すことで、あらかじめ定義し記憶したユーザー設定に従ってヒータ付きステアリングホイールのヒーターを有効化できます。

この機能のプログラムについては、マルチメディアの指示を参照してください。

パワーステアリング

バッテリーの充電が不十分なまま走行しないでください。

可変式パワーステアリング

車両には走行速度に応じてステアリングの操作力を自動的に調整する、車速

感応式パワーステアリングが装備されています。

このシステムは、駐停車時などの低速走行中には、楽にステアリング操作ができるよう十分なパワーアシストを行い、高速走行中は、速度の上昇にしたがって安定した走行を行うためにパワーアシスト量を抑えます。

注意：

バッテリの不具合（バッテリの切断、放電など）が生じた場合、パワーステアリングのホイール角度をリセットしなければなりません。方法：

- 車両を静止させ、平面に配置します。
 - ドライバーのみ車内にいる状態でエンジンを始動します。すると、警告灯／が点灯し、車両によっては「ステアリングを左右限界まで切る」というメッセージがインストルメントパネルに表示されます。
 - ステアリングホイールを一番左まで回して保持し、その位置で約1秒間圧力を掛けます（すると、ステアリングホイールが反対方向に動こうとする力が感じられると思います）。
 - ステアリングホイールを一番右まで回し、同様の作業を繰り返します。
 - ステアリングホイールを左に回して真ん中にします。
- エンジンを切って、約1分待ちます。

次にエンジンを始動すると、警告灯とメッセージが消えます。



下り坂の走行中、および一般に走行中には絶対にエンジンを停止しないでください（パワーステアリングやエマージェンシーブレーキアシストが使用できなくなってしまいます）。



ステアリングを左右どちらかいいっぱいに切った状態を長く保たないでください。エンジン停止時またはシステムが故障した場合でも、ステアリングを回すことができます。ただし、より大きな力が必要です。ステアリングホイールを素早く回すとノイズが起きることがあります。正常です。

リアビュー

ドア／ルームミラー

電動調整付きドアミラー:



スイッチ 3 のいずれかを使用してドアミラーを選択すると、スイッチに内蔵されている表示灯が点灯します。次に、ボタン 2 を使用して希望する位置に調整します。

ドアミラーデフロスター

エンジンの回転中は、ミラー熱線とリアウンドウ熱線が同時に作動します。



安全のために、この操作は必ず停止時に行ってください。

電動格納式ミラー

車両によっては、ドアミラーは車両のロックが解除されると自動的に展開されます。車両をロックするとドアミラーは格納されます。

ドアミラーの自動折り畳みを無効化／有効化できます→ 128。

スイッチ 1 を押すと強制的に格納できます。この場合ドアミラーは、自動格納機能にかかわらず、ボタン 1 を再度押すまでは格納されたままになります。

注意：

ルームミラーを手動で展開または折りたたんだ場合は、使用位置にリセットすることができます。

これを行うにはスイッチ 1 を押します。ルームミラーからメカニカル音が聞こえます。

ノック音が聞こえない場合は、スイッチ 1 をもう一度押して、ドアミラーからノック音が聞こえるようにします。



ルームミラーに映るものは見た目よりも近くにいます。

安全のために、操作する前に距離を正しく認識することを考慮してください。

リアビュー

ルームミラー

角度は調節できます。

2

レバー 4 付きルームミラー



夜間走行中は、後続車両の灯火類による眩惑を防止するため、ルームミラーの裏側にある小さなレバー 4 を手前に引きます。

レバー 5 付きルームミラー



後続車のビームがまぶしいとき、またはランプがまぶしいときは、ルームミラーは自動的に暗くなり防眩します。

ランプ類

灯火類

デイタイムランニングランプ



66097



AUTOのシンボルがマーク3に合うまでリング4を回します。

デイタイムランニングランプは、エンジンを始動すると（特にレバー1を操作しなくとも）自動的に点灯し、イグニッションスイッチをOFFになると自動的に消灯します。

スマートランプ

 リング4を、記号がマーク3と合うまで回します。

メーターパネルの警告灯が点灯します。

注: 車両によっては、パーキングブレーキがかかっている場合に限り側灯を手動点灯できます。それ以外の場合は、メッセージ"ポジションランプ点

灯不可"がインストルメントパネルに表示され、スマートランプを点灯できないことが示されます。

ロービーム



手動での作動

リング4を、記号がマーク3と合うまで回します。

メーターパネルの警告灯が点灯します。



夜間走行の際は、電子機器が正常に作動することを確認し、ヘッドライトの光軸調整を行ってください（積載量が普段と異なる場合）。

常に、汚れ、泥、雪、積載荷物などによってランプが遮られることのないように注意してください。

オートマチック機能

リング4を、AUTO記号がマーク3に合うまで回します。この状態でエンジンを作動させると、ロービームは、レバー1を操作しなくても、灯火類の輝度に応じて自動的に点灯または消灯します。

ランプ類

車両によっては、ロービームの自動動作機能が搭載されています（フロントワイパブレードが数回作動した後、自動的に作動）。

2

i 左側走行国で左ハンドル車を運転する場合（またはその逆の場合）は、走行中に、灯火類の一時的な調整を行ってください ➤ 143。

ハイビーム：

66097



ID エンジンスイッチが ON でロービームが点灯中にレバー 1 を押し（動き A）ます。

メーターパネルの警告灯が点灯します。

ロービーム位置に戻すには、もう一度レバー 1 を押します。

ハイビームオートライト機能

66097



A 車両によって、このシステムは、ハイビームを自動的に点灯または消灯させます。

この機能は、ルームミラーの後ろにあるカメラを使い、後続車両や対向車両を認識します。

注: 夜間、市街地の市街地では、自動ハイビームヘッドライトが自動的にオフになります。

以下の場合、ハイビームが自動的に点灯します：

- 灯火類の輝度が低い場合。
- 他の車両やライトが認識されないととき。
- 車両の時速が約 40 km/h 以上になったとき。

以上の条件のうち 1 つでもが満たさないものがあれば、このシステムは再びロービームに切り替えます。

注: フロントウインドウに障害物（汚物、泥、雪、結露など）がないかご確認ください。

ON/OFF

自動ハイビームシステムを作動させるには

リング 4 を、AUTO 記号がマーク 3 と合うまで回し、スイッチ 5 を押します。

ロービームが点灯すると、インストルメントパネルの **A** 表示灯が点灯します。

自動ハイビームを無効化するには

スイッチ 5 を押します。 **A** 警告灯がインストルメントパネルから消えます。

ランプ類

注: レバー 1 を押すと、自動ハイビー
ム機能が無効化され、 警告灯が
インストルメントパネルから消え、車
両がハイビームを作動させます。



このシステムは、何らかの
状況によって妨害されるこ
とがあります。、とりわけ

- 過酷な気候条件下で(雨、雪、
霧…);
- フロントウィンドウ、またはカ
メラの視界が遮られているとき；
- 後続車両あるいは対向車両のラ
イトがほとんど見えない、または
遮断されているとき；
- ヘッドライトの光軸調整されて
いない
- システムが反射の影響を受けて
いる場合。
- ...



夜間に、カメラの下のフ
ロントウィンドウ部分に
携帯型ナビゲーションシ
ステムを設置して使用す
ると、「自動ハイビーム」シス
テムの作動を妨げとなる（フロ
ントウィンドウに光が反射する）恐
れがあります。



「自動ハイビーム」シス
テムは、ドライバーが行
うべき注意を代行するも
のではなく、車両の照明
の操作責任や、周辺の明るさ、見
やすさ、道路状況などに応じて車
両を操作する責任はドライバーに
あります。

ランプの消灯

66097



運転席のドアを開けるか、車両をロッ
クするか、エンジンを切ってから1分
後に自動的に消灯します。

この場合、次にエンジンを始動する
ときのリング 4 の位置に応じてランプが
点灯します。

ライト消し忘れ警告アラーム音

エンジンを停止した後にランプを点灯
した場合、運転席側ドアを開けると警
告ブザーが鳴り、ランプが点灯してい
ることを知らせます。

作動異常

作動異常

「オートライトを点検」というメッ
セージがインストルメントパネル上に
表示され、システムが無効化されま
す。

メーカーにお問い合わせください。

車両によっては、照明に不具合が生じ
た場合、その証として、「ライトを点

ランプ類

「検」というメッセージと  警

告灯／ 警告灯がインストルメントパネル上で点滅します。
メーカーにお問い合わせください。

ウェルカム機能とグッドバイ機能

(車種によります)

この機能が作動すると、カードが検出されるか車両のロックが解除されたタイミングで、日中走行灯とリア側灯が自動的に点灯します。

照明は以下の場合に自動的に消灯します：

- スイッチを ON にした約 15 秒後。
- エンジンが始動したとき（照明制御レバーの位置に応じて）。

または

- 車両の施錠時。

機能の起動／作動解除

アウターウェルカム機能を有効または無効にするには、マルチメディア装置の取扱説明書を参照してください。

「フォローミーホームランプ」

66097



この機能によりサイドランプとロービームが一時的に点灯します（玄関口を照らす等）。

エンジンを停止し照明スイッチを OFF にした状態で、運転席ドアを開けた後にリング 4 を位置 AUTO にし、レバー 1 を手前に引きます。側灯とロービームが約 30 秒間点灯し、 および

 警告灯がインストルメントパネル上に表示されます。

この時間を延長するには、レバーを最大 4 回まで手前に引くことができます（最長約 2 分）。

操作の確定を示すため、「 中に点灯」というメッセージが、点灯時間

とともにインストルメントパネル上に表示されます。

次に、車両を施錠できます。

「フォローミーホーム」機能の無効化
自動消灯前に照明を消すには、リング 4 を他の任意の位置まで回してから位置 AUTO に戻します。

注：「起動／終了時メッセージ表示」機能の作動中にエンジンスイッチを OFF にすると、「フォローミーホーム」機能無効化手順を実行してからレバーを引く必要があります（これを怠ると、「起動／終了時メッセージ表示」機能が点灯し続けます）。

リアフォグランプ

66097



ランプ類

① リアフォグランプを点灯するには、リング 4 を、AUTO 記号がマーク 3 と合うまで回した後に、回転スイッチを回してマーク 6 を記号 2 と合わせます。

メーターパネルの表示灯 ① が点灯します。

ランプはスイッチリング上で選択されたとおりに点灯します。選択されたランプが点灯すると同時にメーターパネル上のマークも点灯します。

リアフォグランプは点灯の必要がなくなったら直ちに消灯してください。後続車の迷惑になります。

② リアフォグランプを消灯するには、回転スイッチをもう一度回してマーク 6 を記号 2 に合わせます。

インストルメントパネルの表示灯

② が消灯します。

リアフォグランプを消灯すると、灯火類も消灯します。

① 濃霧発生路または雪道の走行中や、ルーフより高い荷物の運搬中は、ランプが自動点灯しません。

フォグランプは、ドライバーが制御でき、点灯（警告灯点灯）／消灯（警告灯消灯）の状態は、インストルメントパネル上の警告灯で把握できます。

ヘッドランプ光軸調整

作動



スイッチ A は、積載量に応じてヘッドライトビームのハイ／ローを調節する場合に使用します。

調整するには、ロービームヘッドライトを点灯させた状態でスイッチ A を必要な回数だけ押すか持ち上げ、インストルメントパネル上でご希望の位置を選択します。選択されたポジションは、約 15 秒間メーターパネルのディスプレイに表示されます。

注：ヘッドランプが ON の場合、エンジンを始動するたびに、選択されたポジションが、約 15 秒間にわたり、インストルメントパネル上に表示されます。

① 左側走行が採用されている国で左ハンドル車（またはその逆の場合）を運転する場合は、滞在の間、ランプ類の一時的な調整を必ず行ってください。

ランプ類

調整位置の具体例一覧表

2	制御装置 A の、積載量に応じた調整位置の具体例
ドライバーのみ乗車	0
助手席同乗者とドライバーのみの状態	0 または 1
全席乗車の場合	1 または 2
ドライバー、同乗者、荷物を合わせた重量が最大許容量に到達	2 または 3
同乗者と荷物を含まないドライバーの重量が最大許容量に到達	2、3 または 4

以下の表に例を示します。いずれの場合も、コントロール A を用いた乗員数や積載量に応じた調整により、前方の視界を確保でき、対向車のドライバーにとっても眩しくない高さに調整します。

ホーン／パッシングランプ／ハザードランプ／方向指示灯

ホーン



ホーンを鳴らすにはステアリングホイールのボス A を押します。

パッシングランプ

パッシングを行うには、レバー 1 を手前に引いてから離します。

方向指示灯

ステアリングホイールを動かしたい方向と同じ方向にレバー 1 を動かします。

ワンタッチモード

レバー 1 を、抵抗がなくなる位置まで短く上下に動かしてから離します。するとレバーは元の位置に戻り、

該当する方向指示灯が 3 回点滅します。

ハザードフラッシュ



△ スイッチ 2 を押します。このスイッチを押すと、前後左右の方向指示灯とサイドマーカーが同時に点滅します。

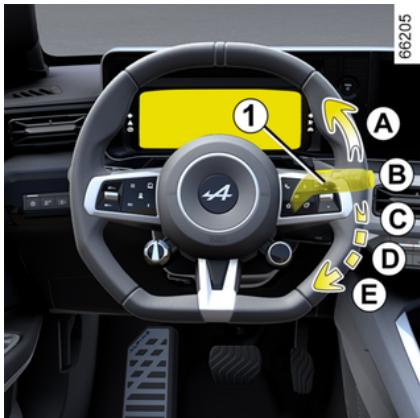
ハザードランプは、危険な場合、つまり特殊な運転状況や交通状況のために、普段は停車しない場所や駐車禁止区域にやむをえず停車しなくてはならないことを他の運転者に知らせるときにしか使用しないでください。

ワイパー

2

フロントワイパー、ウォッシャー

間欠フロントワイパー 装着車



A. 1回ワイプ:

短押しするとワイパが一往復します。

B. OFF。

C. 間欠ワイプ:

間欠作動では、ワイパが一往復するごとに数秒間停止します。間欠作動の間隔は、リング 2 を回すことで変更できます。

D. 低速連続ワイプ。

E. 高速連続ワイパー

66098



特徴

走行中車両が停止すると、ワイパの動作速度が遅くなります。

高速モードを選択すると、停車時は遅速モードへ切り替わります。

車両が再び走行を開始すると走行中に選択されていたもとの速度に戻ります。

レバー 1 の操作は自動機能に優先するため、操作すると自動機能はキャンセルされます。

ウインドウワイパーレインセンサ装着車両

66205



レインセンサは、フロントウインドウのルームミラー前にあります。

A. 1回ワイプ:

短押しするとワイパが一往復します。

B. OFF。

ワイパー

66098



C. 自動ワイパ機能:

この位置を選択すると、システムがフロントウィンドウの水滴を検出し、ワイパーを適切な速度で作動させます。

リング 2 を回転させると、作動基準値や間欠ワイパーの程度を、次のように変更できます。

- **F:** 最高感度。

- **G:** 最低感度。

感度を上げると、ワイパーの反応と動作が速くなります。

自動ワイパーをオンにしたり感度を上げたりすると、ワイパーが1回作動します。

インストルメントパネルの警告灯



AUTO が点灯することで、機能が有効になったことを確認できます。

注 :

- レインセンサーは運転時の操作を補助するものにすぎません。視界が悪くなった場合、運転者は手動でワイパーを作動してください。霧や降雪がある場合には、自動ワイパー機能は停止し、運転者の意志によって制御されます。

- 温度が0度を下回ると、車両が発進しても自動ワイパーは作動しません。車両が一定の速度（約8km/h）を超えると、自動的に作動します。

- 乾燥した天気の場合は自動ワイパーを作動させないでください。

- 自動ワイパーを作動させる前に、ウインドウの氷を完全に除去してください。

- ローラータイプの洗車機で洗車する場合は、レバー 1 を OFF 位置 B に戻して自動ワイパーを無効化してください。

作動異常

自動ワイパーが誤動作する場合、ワイパーが間欠ワイパーに設定されます。正規サービス工場にご連絡ください。次の場合には、レインセンサの作動に支障が生じることがあります。

- フロントワイパーが破損している場合: この場合には、センサの検出ゾーンに残った水滴やブレード痕により、自動ワイパーの反応が遅くなったり、ワイパーの間隔が短くなったりする恐れがあります。

- フロントウィンドウのセンサ付近に小片や亀裂がある場合、またはフロントウィンドウに汚物、埃、小虫、氷、洗浄ワックス、撥水性の化学物質などが付着している場合。この場合、フロントウィンドウワイパーの感度が下がったり、無反応状態となったりする恐れがあります。

D. 低速連続ワイプ。

E. 高速連続ワイパー

特徴

走行中車両が停止すると、ワイパーの動作速度が遅くなります。

高速モードを選択すると、停車時は遅速モードへ切り替わります。

車両が再び走行を開始すると走行中に選択されていたもとの速度に戻ります。

レバー 1 の操作は自動機能に優先するため、操作すると自動機能はキャンセルされます。

注意

- 凍結時は、拭き取りを開始する前にブレードがウインドウにくっついていないかどうかを確認してください。ブレードが氷でくっついているときにワイパーを作動させると、ブレードとワイパーモーターの両方が破損するおそれがあります。

- ウィンドウが乾燥している状態でワイパーを作動させないでください。摩

ワイパー

耗が早まったり、ブレードが破損する原因となります。

特定のフロントワイパー位置（整備位置）

この位置では、ブレードを持ち上げてウインドウから取り外すことができます。

以下の場合に便利です。

- ブレードを清掃する場合。
- 冬季にブレードをウインドウから離しておく場合。
- ブレードを交換する場合→346。

エンジンスイッチが OFF または ON の状態で、レバー 1 を 2 回持ち上げ、位置 A (1 回スイープ位置) にします。

ブレードはボンネットから外れた位置に停止します。

ブレードを最低位置に戻すには、イグニッションを ON にし、ワイパーがフロントウインドウ上に降ろされているか確認してからレバー 1 を A 位置 (1 回スイープ位置) にします。

イグニッションスイッチを ON にする前に、ワイパーをウインドウに置いてください。ウインドウ上にないと、スイッチを ON にしたときにボンネットやワイパーが破損するおそれがあります。



フロントウインドウが絡む作業（洗車、デフロスターの作動、フロントウインドウの清掃など）の前には、レバー 1 を B 位置 (OFF 位置) に戻してください。
負傷および／または損傷の恐れがあります。



ウインドウ上に障害物（汚物、雪、氷など）がある場合は、**（モータの過熱を防ぐため）**ウインドウ（リアビューミラー背後の中央部分を含みます）から障害物を除去してからワイパーを始動してください。
ブレードの動作の妨げとなるいる物がある場合、動作を停止する可能性があります。
障害物を取り除き、ワイパースイッチレバーを使用してワイパーを再作動させてください。

ウインドウウォッシャー



イグニッションスイッチを ON にした状態で、レバー 1 を手前に引いてから離します。

長めに押すと、フロントウォッシャーに加えてワイパーが 2 回作動し、数秒後に 3 回目の作動が実行されます。

注：

- レバー 1 を使用してリアウインドウウォッシャーを 30 秒超作動させると、ウインドウウォッシャポンプが停止することがあります。これは、ポンプの過熱を防ぐための措置です。
- 温度が氷点下になると、ウォッシャ液がウインドウで凍結し、視界が悪くなるおそれがあります。清掃前に、デフロスタースイッチを使用してウインドウを温めてください。

ワイパー



エンジンルーム内の部品を対象に作業をする場合は、フロントウィンドウワイパレバーが**B**位置(OFF)にあるか確認してください。

場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。



ワイパブレードの効率
ワイパブレードの状態をこまめに点検してください。これにより耐用年数が大きく変わります：

- きれいに保ってください：ワイパブレード、リアウインドウをセッケン水で定期的に洗浄してください。
- ウィンドウが乾燥している状態で使用しないでください。
- 長期間使用しないときは、ワイパをウインドウから離してください。

どの場合でも、機能が低下してたら(約1年に1度は)交換してください→346。

ワイパをご使用になるときの注意事項

- 凍結または降雪時には、(モーターが過熱する危険を避けるため)ウインドウから凍結または降雪を除去してからワイパーを作動させてください。
- ワイパをご使用になる前に、輸送荷物がブレードのストロークを妨げないことを確認してください。

リアワイパー、ウォッシャー

リアウインドーワイパー

66098



イグニッションスイッチをONにした状態で、記号とマーク2の位置が合うまで、レバー1上のリング3を回転させます。

- OFF。

- 間欠ワイプ：

間欠作動では、ワイパが一往復するごとに数秒間停止します。拭き取り頻度は車速に応じて変動します。

- 低速連続拭き取り。

作動を止めるには、リング3を再び回転させます。

ワイパー

注: ローラ型洗車機で洗車する場合は、レバー 1 上のリング 3 を OFF 位置に戻し、自動ワイパーを無効化してください。

2

アドバイス。

使用の最後に、リアワイパーコントロールを停止位置に戻して、次の使用中にワイパーが誤って作動しないことを覚えておいてください。

(i) テールゲートの開閉にワイパー アームをつかまないでください。



リアウインドウが絡む作業（洗車、デフロスターの作動、ウインドウの洗浄など）は、レバー 1 を停止位置に戻してから行ってください。
負傷および／または損傷の恐れがあります。



ワイパブレードの効率

ワイパブレードの状態をこまめに点検してください。これにより耐用年数が大きく変わります：

- きれいに保ってください：ワイパブレード、リアウインドウをセッケン水で定期的に洗浄してください。
- ウインドウが乾燥している状態で使用しないでください。
- 長期間使用しないときは、ワイパーをウインドウから離してください。

どの場合でも、機能が低下してたら（約1年に1度は）交換してください→346。

ワイパーをご使用になるときの注意事項

- 凍結または降雪時には、（モーターが過熱する危険を避けるため）ウインドウから凍結または降雪を除去してからワイパーを作動させてください。
- ワイパーをご使用になる前に、輸送荷物がブレードのストロークを妨げないことを確認してください。

ワイパー

リアワイパーの起動／作動解除

ウインドウワイパーの作動中に後進ギアを選択すると、ワイパーが間欠モードになります。「車両設定カスタマイズメニュー」装備車両の場合は、この機能を有効化または無効化できます→**128**。

車両に「設定カスタマイズメニュー」がない場合は、認定ディーラにこの機能の無効化を依頼できます。

リアウインドウに汚れや雪などの障害物がある場合、ワイパーはあらゆる障害物を取り除こうとします。障害物によりブレードが動かない場合は、動作が停止します。障害物を取り除き、約30秒待ってから、ワイパーースイッチレバーを使用してワイパーを再作動させてください。

注意

- 凍結時は、拭き取りを開始する前にブレードがウインドウにくっついていないことを確認してください。ブレードが氷でくっついているときにワイパーを作動させると、ブレードとワイパーモーターの両方が破損するおそれがあります。

- ウィンドウが乾燥している状態でワイパーを作動させないでください。摩耗が早まったり、ブレードが破損する原因となります。

リアウインドウウォッシャー



イグニッションスイッチをONにした状態でレバー**1**を長押ししてから離します。

レバーを長く保持すると（フロントウォッシャーに加えて）リアワイパーが2回作動し、数秒後に3回目の作動（滴下ワイピング機能）が起こります。

スイッチレバーから手を放すとウォッシャーの作動が停止し、自動的にリアワイパーの位置に戻ります。

注：

- レバー**1**を使用してリアウインドウウォッシャーを30秒超作動させると、ウインドウウォッシャポンプが停止することがあります。これは、ポンプの過熱を防ぐための措置です。

- 温度が氷点下になると、ウォッシャ液がリアウインドウに凍結し、視界が悪化する恐れがあります。清掃は、デフロスター制御装置を用いてリアウインドウを温めてから実施してください。

エンジン始動と停止

エンジンの始動

3



67199



カードを検出ゾーン **1** 内に置いてください。

始動 :

- ブレーキペダルを踏みます。
- ボタン **2** を押します。警告音と共に「READY」というメッセージがインストルメントパネルに表示されます。

車速が時速約 5 km/h を超えると、メッセージは消えます。

注意事項

- 始動の条件がひとつでも満たされていないと、「ブレーキとSTARTを押します」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。
- 場合によっては、ステアリングコラムのロックを解除しやすくするため、始動ボタン **2** を押しながらステアリングホイールを動かす必要があります。その場合、ドライバーにその旨を知らせるための「ハンドルを回してSTARTを押します」というメッセージが表示されます。

i 車両によっては、カードの全機能を備えたデジタルキーを使用できます。ただし、カードを車両内に残し、デジタルキーでドアをロックしている場合、カードを使用して車両を始動することはできません。
詳しくは、「デジタルキー」セクションをご覧ください→ **58**。

i マルチメディアシステムによるシステムの更新中に、車両を始動することはできません。

車両を始動する前に、更新が完了するまで待ちます。
システム更新の詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

i 車両は、充電コードが車両から外されている場合のみ始動できます。

エンジン始動と停止



トランク開放状態での「ハンズフリー」始動

この場合、カードを紛失しないよう、ラゲッジルームに置いたりしないでください。

アクセサリー機能

(イグニッションスイッチを ON にします)

一部の電装品（ラジオ、ナビゲーションシステム、ワイパーなど）は乗車するとすぐに使用することができます。他の機能を使用するには、車内にカードを置き、ペダルを踏まずに始動ボタン 2 を押します。

作動異常



場合によってはハンズフリーカードが作動しないことがあります。

- カードの電池が切れており、補助 12V バッテリも上がっている状態など。
- カードが、同一周波数の機器（ディスプレイ、携帯電話、ゲーム機など）の近くにある場合。
- 強い電磁波の影響内に車両がある時。

「キーを検出ゾーンに置いて START ボタンを押す」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。

ブレーキペダルを踏んでから、カード 4 を、（ボタンを下向きにして）アップコンソール A 上にあるカップホルダ

の「ハンズフリー」カード配置箇所 3 に配置します。

ボタン 2 を押して車両を始動します。メッセージが消えます。

エンジン始動と停止

エンジンの停止



車両は、停止している必要があります。

ボタン 2 を押します。するとエンジンが停止し、「READY」というメッセージがインストルメントパネルから消え、電動パーキングブレーキが掛かります。

エンジンスイッチを OFF にしたい時にカードが車内にないと、「キーカード検出できません STARTボタンを押す」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されるため、ボタン 2 を2秒以上押してください。

エンジンスイッチを OFF にしても、その時点では使用中だったアクセサリ類

(ラジオなど) は約 45 分間作動し続けます。

運転席側のドアを開けると、アクセサリー類の作動は停止します。



車両が完全に停止するまでは絶対にイグニッションキーを OFF しないでください。エンジンを切ると、システム機能（パワーステアリング、airbags やアリテンショナーなどの乗員保護装置）が停止します。



駐車または停車時のドライバーの責任

お子様、ひとりで動けない成人、ペットを車内に残して、たとえ短い時間でも絶対にお車から離れないでください。実際、彼らがエンジンを始動したり、パワーウィンドウやドアロックなどの装置を作動させると大変危険であり、他人にまで危害が及ぶ恐れがあります。

その上、暑く晴れた日には、車内の温度は急に上昇します。

死亡または重傷のおそれ。

「OVERTAKE」機能

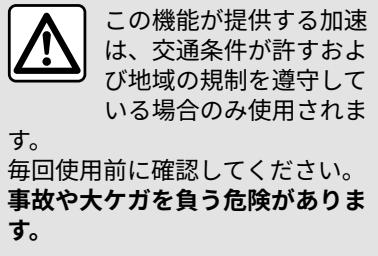
はじめに



ステアリングホイール上にある「OV」ボタン **1** を押すと、エンジンの性能が一時的に高められ、車両の加速性能が瞬間に高められ（ブーストされ）ます。

この機能を有効な状態に保つには、「OV」ボタン **1** を長押しします。この機能の最大期間は約10秒です。

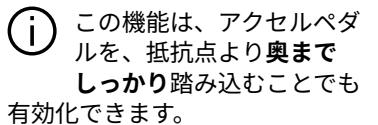
これを超えたり、ボタンを放したりすると、車両は通常の動作を再開します。



システムの作動

この機能を有効にするには、以下の条件を満たす必要があります。

- エンジンがオンになっていて、D ポジションになっている。
- レギュラー または Sport モードがオンになっている → [295](#)。
- 車速がゼロではない。
- アクセルペダルを踏み込む。
- トランクションバッテリーとエンジンが動作温度に達している。



ディスプレイ



インストルメントパネルに表示される「OV」ゲージ2の残りの範囲を確認することにより、いつでも機能が使用可能かどうかを確認できます。

「OV」ゲージ2が空になると、この機能は使用できなくなり、徐々に充電されるのを待つ必要があります。これを行なうには、「OV」ボタン**1**を放せば、ゲージ2が徐々に充電され始めます。

「OV」ゲージ2を完全に充電するのに必要な時間は最大30秒です。

注: この機能を有効にするため、ゲージ2が完全に充電されるのを待つ必要はありません。ゲージが空でない限り使用できます。

「OVERTAKE」機能

システムの無効化条件

特定の条件下では、システムの作動が無効になります。

- シフトレバーをR位置かN位置にした場合。

- 「Save」モードを有効化した場合。
この場合、インストルメントパネルに「Overtake このでは使用不可 DRIVE MODE」メッセージが表示されます

→ 295。

- 「OV」計2が空を示している場合。

- トラクションバッテリーの充電レベルが低すぎる。

- 車両のシステム障害（ESCなど）。

動作の制限と一時的な利用禁止

特定の状況（バッテリ温度またはエンジン温度が高すぎか低すぎる状況など）では、「Overtake」機能が制限されたり、一時的に抑制されたりすることがあります。

機能制限中は、インストルメントパネル上の「OV」計2が「満充填」を示さないことがあります。

機能抑制中は、インストルメントパネル上の「OV」計2が空表示になります。「OV」ボタン1を押すと、機能使用不可の証として、「Overtake 使用不可」というメッセージがインストルメントパネルに表示されます。

スタンディングスタートの手順



スタンディングスタート手順

(Launch Control) は、タイヤと地面のグリップが最適なときに車両を最高速度で加速可能にする機能です。

注: Launch Control 機能は、トラクションバッテリーとエンジンが動作温度に達した場合のみ使用できます。

パフォーマンスをできるだけ高めるため、バッテリーがほぼ充電済みのときにこの機能を使用することをお勧めします。

i システムの集中的な使用は、機械部品の寿命を短くさせます。詳細については、指定サービス工場にお問い合わせください。

システムの作動

システムは、次のように作動します。

- エンジンが稼働して車両が停止している状態で、シフトを D ポジションに入れます。
- Sport モードによって → 295 が有効になります。
- 左足でブレーキペダルをしっかりと踏みます。
- ブレーキペダルに足を乗せたまま、インストルメントパネルに「Launch Control 準備完了 フルスロットル」メッセージが表示されるまで、ステアリングホイール 1 上のOvertake (OV) ボタンを押します。
- ボタン 1 を放します。
- 60秒以内に、左足でブレーキペダルを踏んだまま、インストルメントパネルに「Launch Control ブレーキをはなす」メッセージが表示されるまで、右足でアクセルペダルを抵抗点の先まで完全に踏み込みます。
- 4秒以内にブレーキペダルから足を離すと、インストルメントパネルに特別なアニメーションが表示され、スポーティな発進が可能になります。



滑る、または濡れた道の上でこの機能を使用しないでください。

車両制御の喪失の危険性
があります。

システムの無効化条件

特定の条件下では、システムの作動が無効になります。

- シフトレバーを R 位置か N 位置にした場合。
 - Save モードか Normal モードが有効化されると、「Launch Control このでは使用不可 DRIVE MODE」というメッセージがインストルメントパネル → 295 上に表示されます。
 - トラクションバッテリーの充電レベルが低すぎる。
 - トラクションバッテリーの温度が低すぎるか高すぎる。
 - エンジン温が低すぎるか高すぎる。
 - 車両のシステム障害 (ESC など)。
- 注:** これらの条件のいずれかによって機能が抑制されている場合、「Launch Control 使用不可」メッセージがインストルメントパネルに表示されます。

スタンディングスタートの手順



この機能を使用すると、タイヤの摩耗が大幅に加速します ➔ 333。



この機能が提供する加速は、交通条件が許すおよび地域の規制を遵守している場合のみ使用されます。
毎回使用前に確認してください。
事故や大ケガを負う危険があります。

3

シフトコントロール

選択スイッチ



R、N および D スイッチを使うと、次のようなシフトレバー位置にすることができます。

- R: 後進。
- N: ニュートラル。
- D: 前進ギア。

シフト位置は、備考情報としてインストルメントパネル上に表示されます。

「ニュートラル」位置（N）にする方法

車両を停車し、エンジンを稼働した状態で、ブレーキペダルを踏み、Nスイッチを短く押します（Nスイッチ内

蔵の表示灯が白く点灯し、インストルメントパネルにNが表示されます）。

前進ギア（D位置）にする方法

車両を静止させ、エンジンを作動させてブレーキペダルに足を載せた状態で、Dスイッチを短押しします（Dスイッチ内蔵表示灯が白色点灯し、Dがインストルメントパネル上に表示されます）。

ブレーキペダルが踏み込まれていないと、現在位置表示が約5秒間点滅し、「ブレーキペダルを強く踏む」というメッセージがインストルメントパネル上に約5秒間表示されます。

注: D または R 位置にすると、車両が静止中でも、ブレーキペダルから足を離すとすぐに（アクセルペダルを踏まなくても）車両は前進します。

大半の交通状況では、スイッチに触れる必要はありません。

注: エンジンが作動中で、車両が0 km/h から 14 km/h で移動しており、シフトレバーが N または R 位置の場合、ブレーキペダルを踏まなくても D 位置にシフトできます。パーキング操作で前進と後進を交互に何度も繰り返す必要がある場合に便利です。

後進ギア（R位置）にする方法

車両を静止させ、エンジンを作動させてブレーキペダルに足を載せた状態で、Rスイッチを短押しします（Rス

i ッチ内蔵表示灯が白色点灯し、Rがインストルメントパネル上に表示されます）。

(i) D、または R 位置にすると、車両が静止中でも、ブレーキペダルから足を離すとすぐに（アクセルペダルを踏まなくても）車両は前進します。

ブレーキペダルが踏まれていない場合、現在の位置が約5秒間点滅し、表示灯 1 がインストルメントパネル上に表示され続けます。

注: エンジンが回転しており、車速が0 km/h から 6 km/h の場合で、シフトレバーが N または D 位置の場合は、ブレーキペダルを踏まなくても R 位置にできます。パーキング操作で前進と後進を交互に何度も繰り返す必要がある場合に便利です。

停止する

車両が停止した状態で、ブレーキペダルを踏み、Nスイッチを短く押します。

注: エンジン停止後に締結すると、車両のイグニッションが再びオンになるまで N ポジションが維持されます。

シフトコントロール

パーキングブレーキがかかっており、車両が固定されていることを確認してください ➤ 165。

3



アシストパーキングブレーキを使用して車両が移動しないようにします。車両から離れる前

に、アシストパーキングブレーキが作動していることを確認してください。電動パーキングブレーキの適用は、ドアが施錠されるまで電動パーキングブレーキスイッチの表示灯の点灯およびインストル

メントパネルの (P) 警告灯点灯によって確認できます。車両によつては、このことの警告として、フロントガラスの上部にラベルが貼り付けられています ➤ 165。



シフトコントロールを N ポジションにするだけでは駆動輪が機械的にロックされません。車両を離れる前に、車両が固定されていることを確認してください。



安全上の理由から、車両が完全に停止するまでは絶対にイグニッションスイッチを OFF しないでください。

作動異常

エンジンの故障や電気的障害（バッテリの故障など）がある場合は、車両が適切に動かされていることを確認します。



操作時にサブフレームに衝撃があった場合（縁石、歩道またはその他の市街地設備との接触など）車両を損傷した恐れがあります（リアアクスルの変形など）。放置すると事故が起こるおそれがあるので、指定サービス工場で点検を受けてください。

回生ブレーキシステム

はじめに



アクセルを放すと、車両は回生ブレーキを使用して減速します。

このエネルギーはすべて、トラクションバッテリーを充電するために電気に変換されます。

ステアリングホイールコントロール②を使用して、回生ブレーキを増減できます。

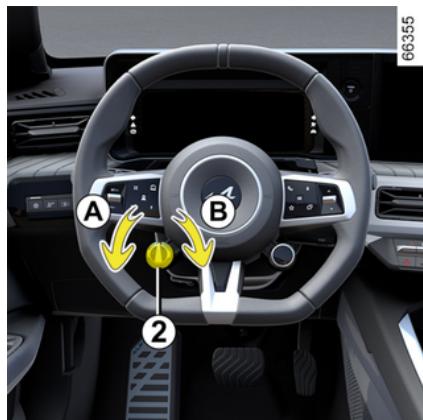


一定の条件（完全に充電されたバッテリーが熱すぎるか冷たすぎる、エンジンが高温になっている、など）では、回生ブレーキシステムの性能が制限され、アクセルペダルを離したときのエンジンブレーキが減少します。

インストルメントパネルのパワーメーターインジケータ①に、使用できると見込まれる回生ブレーキが表示されます。ただし、ブレーキペダル使用時の制動能力は維持されるため、車速を制限することができます。

回生ブレーキシステム

回生ブレーキシフトコントロール2

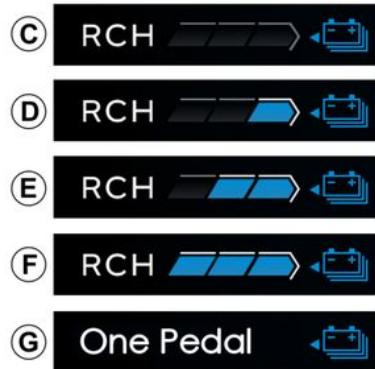


タッチコントロール2を使用して、回生ブレーキレベルを変更することができます。

- コントロール2をAに向かって回し、アクセルペダルを離したときのエンジンブレーキを上げます。
- コントロール2をBに向かって回し、アクセルペダルを離したときのエンジンブレーキを下げます。

コントロール2で選択したレベルは、アダプティブクルーズコントロール機能が作動している間は機能しません
→ 232。

回生ブレーキ制御による走行



回生ブレーキレベル

コントロール2を使用して選択されたレベルに応じて、インジケーター3に回生ブレーキレベルが表示されます。

- **C:** スムーズで経済的な運転を実現する「フリー・ホール」レベルで、既定では、Saveモードを選ぶとこのレベルになります。より先を見越して運転する必要があります。
- **D:** アクセルペダルから足を離すと軽いエンジンブレーキが掛かるレベルで、既定では、NormalモードやSportモードを選ぶとこのレベルになります。
- **E:** アクセルペダルを離したときに中エンジンブレーキになります。
- **F:** アクセルペダルから足を離すと強いエンジンブレーキが掛かるレベル。
- **G:** アクセルペダルから足を離し、One Pedal機能が作動すると、非常に強いエンジンブレーキが掛かるレベル。

注: エンジンを停止すると、回生ブレーキのレベルは記憶されますが、One Pedal機能については記憶されません。

One Pedal 機能

装備車両では、One Pedal機能が、主にアクセルペダルを使用して、市街地や交通量の多い場所での運転を容易にします。

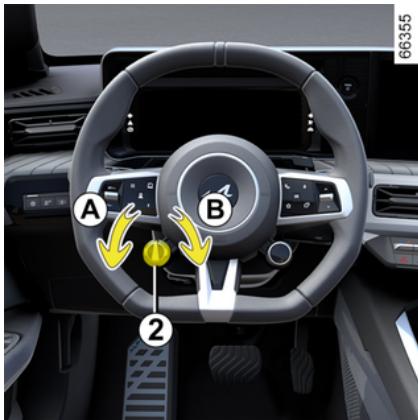
回生ブレーキシステム

アクセルペダルから十分に足を離すと、車両が完全停止するまでこの機能がブレーキをかけます。

アクセルペダルから足を完全に離すと、エンジンブレーキレベルがきわめて高くなります。

アクセルペダルを十分に踏むと、速度が回復します。

作動



D位置の状態で、制御装置 2 を A 方向に「One Pedal起動しました」というメッセージが表示されるまで回します。ワンペダル機能が有効化されると、その証として、ワンペダル機能警告灯 3 が点灯し、ビープ音が鳴ります。



One Pedal機能では非常停止できず、機能の使用中に
は制動性能が制限されます。



このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、車両を常時コントロールする責任があるドライバーに代わって注意するものではなく、補助的に注意喚起するものです。

注: 車両が静止しており、「One Pedal」機能が有効化されている状態でレバーをD位置にすると、ブレーキペダルから足を離しても車両は動きません。

スタンバイ化

ワンペダル機能は、RかNにするとスタンバイ状態となります。

ワンペダル機能警告灯がインストルメントパネル上に灰色表示されます。

注: Dの状態で R位置にすると、車両が静止中でも、ブレーキペダルから足を離すとすぐに（アクセルペダルを踏まなくても）車両は前進します。

D位置にシフトすると、車速がおよそ 10 km/h を超えた時点で機能が再作動します。再び有効化されたことを示すため、ワンペダル機能警告灯が白色表示されます。

注:

回生ブレーキシステム

- パーキングブレーキは、車両が約3分を超えて静止状態になると自動的に掛かります。

作動解除

この機能を無効化するには、次のように操作します。

- 走行中の場合は、制御装置**2**を**B**方向に回します。
- 静止中の場合は、ブレーキペダルを踏んでから制御装置**2**を**B**方向に回します。

「One Pedal 解除しました」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。無効化を示すため、ワンペダル機能警告灯**3**が消え、ビープ音が鳴ります。

この機能は、エンジン始動／停止ボタンを押してエンジンを停止した場合、自動的に無効化されます。機能が必要な場合には、再始動後に再作動させる必要があります。

作動制限

- グリップを得にくい路面（凍結路面、積雪路面など）では、第1レベルである**C**または**D**を用い、ブレーキペダルも併用して、徐々→162に制動および停止できるよう操作することをおすすめします。
- 急勾配の場所では、アクセルペダルから足を離しOne Pedal機能を使うだけでは車両を十分に静止できない場合

があります。ブレーキペダルを踏むか電動パーキングブレーキを作動させ、車両が静止するか確認します。

作動異常

システムが作動不良を検出すると、「One Pedal 要点検」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。この場合、機能は使用できなくなります。正規サービス工場にご連絡ください。

パーキングブレーキ故障

電動パーキングブレーキ

アシスト操作



アシストパーキングブレーキの作動

車両が静止した状態であれば、次の場合に電動パーキングブレーキを使用して車両を固定できます。

- エンジン始動／停止ボタン 1 を押した場合。
または
- 運転席シートベルトが締まっていない場合
または
- 運転席ドアを開けた時。



アシストパーキングブレーキを使用して車両が移動しないようにします。車両から離れる前に、アシストパーキングブレーキが作動していることを確認してください。ドアがロックされるまではスイッチ 3 上の表示灯 2 と、インストルメントパネル上の

(P) 警告灯が点灯状態になるため、この確認が可能です。車両に応じて、このことを思い出させるために、ステッカーがフロントガラスの上部に配置されています。

それ以外の場合には、パワーアシストパーキングブレーキが自動的に作動することはできません。このような場合は手動機能を使用してください。

電動パーキングブレーキが掛かると、

その証として、(P) 警告灯がインストルメントパネル上に表示され、スイッチ 3 上の表示灯 2 が点灯します。エンジンをオフにすると、アシストパーキングブレーキをかけた数分後に表示灯 2 が消え、車両の施錠時に

(P) 警告灯が消えます。

パーキングブレーキ故障

注: 状況（電動パーキングブレーキの故障、パーキングブレーキの手動解除など）によっては、次の場合に、電動パーキングブレーキの解除についてドライバーに知らせるため、、ビープ音が鳴り、「パーキングブレーキを入れてください」というメッセージインストルメントパネル上に表示されます。

- エンジンが ON の状態で運転席側のドアが開いた場合。
- エンジンが OFF の状態でフロントドアが開いた場合。

この場合に電動パーキングブレーキをかけるには、スイッチ 3 を引いて離します。

アシストパーキングブレーキを解除する場合

パーキングブレーキが解除されている：

- 車両が加速し始めると、
または
- NからR/DまたはBにシフトした場合。



アシストパーキングブレーキを使用して車両が移動しないようにします。車両から離れる前に、アシストパーキングブレーキが作動していることを確認してください。ドアがロックされるまではスイッチ 3 上の表示灯 2 と、インストルメントパネル上の

(P) 警告灯が点灯状態になるため、この確認が可能です。車両に応じて、このことを思い出させるために、ステッカーがフロントガラスの上部に配置されています。

手動での作動

手動でアシストパーキングブレーキを作動させることができます。

手動でアシストパーキングブレーキを作動させる

スイッチ 3 を引きます。警告灯 2 と

(P) 警告灯がインストルメントパネル上に表示されます。

手動でアシストパーキングブレーキを解除する

イグニッションスイッチを ON に切り替えるには、ペダルは踏まずにボタン 1 を押します。ブレーキペダルを踏みスイッチ 3 を押します。すると、スイッチの表示灯 2 と、インストルメントパネル上に表示されている警告灯

(P) の双方が消灯します。

一時停止

（赤信号で停車した際、エンジンの回転が止まった際などに）電動パーキングブレーキを手動でかけるには、スイッチ 3 を引いて離します。車両を再発進させるとすぐに、パーキングブレーキは自動的に解除されます。

注意：

坂道駐車

斜面に駐車したり、トレーラー牽引中に駐車したりする場合には、スイッチ 3 を数秒間引いて制動力を最大化します。

パーキングブレーキ故障



電動パーキングブレーキ解除状態での駐車



パーキングブレーキを解除する場合は、その前に車両が安定しているかご確認ください。

電動パーキングブレーキ解除状態で駐車するには、パーキングブレーキの解除が必要です。

方法:

- エンジン始動／停止ボタン 1 を押してエンジンを停止します。
- 運転席シートベルトを外します。
- 運転席側ドアを開けます

- 必要であれば、車輪の前後ろに輪止めを配置し、車両を確実に不動化します。

- 手動で電動パーキングブレーキを解除します（詳しくは、「電動パーキングブレーキの手動解除」と題された段落をご覧ください）。ブレーキ解除について知らせるための「P.ブレーキがゆるい」というメッセージがインストルメントパネルに表示され、ビープ音が鳴ります。車両が安定しているか確認します。

- 運転席ドアを閉めます。必要であれば車両をロックします。

作動異常

- 不具合が生じると、 警告灯がインストルメントパネル上で点灯し、「パーキングブレーキを点検してください」メッセージが表示されるほか、場合によっては 警告灯も点灯します。できるだけ早く指定サービス工場で点検をお受けください。

- パワーアシストパーキングブレーキ

に不具合が生じた場合は、 警告灯と「パーキングブレーキ故障」のメッセージが表示され、警告音が鳴ります。また、場合によっては 警告灯が表示されます。

- パーキングブレーキが故障した場合、インストルメントパネルをオフに

なっていると、スイッチ2の表示灯が点滅します。

その場合、周囲の交通に注意しながら直ちに停車します。



「電気系統故障」、「バッテリ要点検」、または「パーキングブレーキ故障」というメッセージが表示された場合は、スイッチ3を約10秒間引いて車両を不動化する必要があります。条件と傾斜によって必要である場合は、車両に車輪止めを使用してください。
車両のブレーキングの喪失の危険性があります。
正規ディーラにご連絡ください。



パーキングブレーキをかけず、エンジンを切らない状態で車を離れないでください。車両が停止していても、ギアの入っている状態でエンジンがかかっていると、アクセルペダルを踏んだときに車両が動き出します。
事故の恐れがあります。

パーキングブレーキ故障



ビジュアルリターンまたは音声がない場合には、インストルメントパネルが故障している。周囲の交通に注意しながら、直ちに停車してください。車両が固定されていることを確認して、指定工場に連絡してください。

3

「Autohold」機能

はじめに

車両が停止した場合（たとえば、赤信号、交差点、渋滞など）、運転者がブレーキペダルを離しても制動力が確保されます。

制動力は、ギヤが噛み合った状態で運転者が十分に加速するとすぐに解除されます。

作動



スイッチ 1 を押します。

この機能が有効化されると、その証として、スイッチ 2 上の表示灯が点灯します。

作動解除

スイッチ 1 を押します。制動力で車両を維持する場合、ブレーキペダルを踏む操作でも維持できます。

機能の無効化を示すため、スイッチ上の警告灯 2 が消えます。

制動力が維持されている場合、パーキングブレーキは次の場合に自動的に作動します。

- ドライバーがドアを開けます。
- または

- ドライバーがシートベルトを外した場合。

または

- 車両を約 3 分間以上停止する。



始動するたびに、機能はエンジンが最後にオフになったときに設定されていたモードを継続します。



アシストパーキングブレーキを使用して車両が移動しないようにします。車両から離れる前に、アシストパーキングブレーキが作動していることを確認してください。ドアがロックされるまではスイッチ 2 上の表示灯と、インストルメントパネル上の警告灯



が点灯するため、この確認が可能です。車両に応じて、このことを思い出させるために、ステッカーがフロントガラスの上部に配置されています。

制動力を維持するための条件

次の条件を満たす必要があります。

パーキングブレーキ故障

- 運転席ドアが閉まっていない
と
- 運転席シートベルトが締まっている。
と
- アシストパーキングブレーキが解除されている
と
- 非常に急な斜面に車両を停車していない。

制動力が保持されている場合、その証

として、**(A)** 警告灯がインストルメントパネル上に表示されます。

制動力を中断するための条件

次の条件を満たす必要があります。

- ドライバーが、ギアが係合した状態で十分に加速する
または
- ドライバーが機能を無効にする

(A) 警告灯がインストルメントパネルから消えます。

地球にやさしい車づくり

はじめに

お使いの車両は、その生産から走行を経て廃車へと至るライフサイクルを全うできるよう、環境に配慮して設計されています。

3

製造

本車両は（水やエネルギーの消費を節約し、視覚的、聴覚的侵害を抑え、大気や水への汚染物質の排出を抑え、廃棄物の選別と再生を実施し）自然環境への影響を除去する過程を経た製造場所で製作されました。

お客様ご自身も、環境保護に参加しているという意識を持ってお取り扱いください。

- 部品や車両の寿命が終了した場合は、部品を捨てないでください。環境基準に適合する法的存在に渡す必要があります。

61496



リサイクル

お使いの車両は、少なくとも 85% はリサイクル可能で、少なくとも 95% は回収可能な素材で作られています。そのため多数の部品がリサイクルできるように設計されています。

素材と構造は次の目的で慎重に設計されています:

- これらの部品を簡単に取外して専門会社で再処理することができます。
- 循環エコノミーの促進（再使用、リサイクル、回収など）

これは、特に電気自動車のバッテリに該当します。

車両には、リサイクルされたプラスチックまたは再生素材から作られた部品が多く含まれています。

- タイヤのような、車両の定期保守整備で交換される消耗部品や構成部品は、専用の回収場所で処分する必要があります。

- 摩耗した電気および電子構成部品（バッテリなど）をゴミとして捨てるすることはできません。認定ディーラーに持ち込むか、適切なリサイクル施設に関する情報をお住まいの地方自治体にお問い合わせください。

- 車両のリサイクルを寿命の最後に最適化するために、指定サービス工場に連絡するか、メーカーのウェブサイトを参照して、地域の法律に準拠した環境を尊重するための回収ポイントに指示することができます。

ドライビングアドバイス、エコドライブ

エコドライブ

はじめに

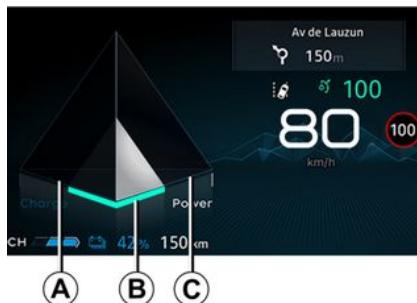
航続距離は、規制に準ずる標準的な方法で認定されています。すべてのメーカーで同一され、車両間が比較できます。

実際の使用での走行可能距離は車両、機器、ライディングスタイルの条件によって異なります。走行可能距離を最適化するため以下をご参照ください。

バージョンに応じて、エネルギー消費量を抑える機能が提供されます。

- インストルメントパネル上:
 - パワーメーター
- マルチメディア画面:
 - 電力消費量に関するデータ
 - エネルギー消費量グラフ
 - ドライビングスタイルに基づくスコア
 - Eco ドライブのヒント
 - ルートプランナ
 - 省エネ走行モード。

パワーメーター



(インストルメントパネル上)

充電メータは、車両の走行中に消費または回収されたエネルギーをリアルタイム表示します。

「回収エネルギー」 A 活用ゾーン

運転中にアクセルペダルから足を離したり、ブレーキペダルを踏んだりすると、減速中にモータによる発電が行われ、この電力が、車両の制動やトラクションバッテリー → 161 の充電に使用されます。

「最適」であることを示す B 消費量ゾーン

回収とエネルギー消費のバランスが取れた経済的な運転であることを示します。

「エネルギー消費量」 C 消費ゾーン

トラクションバッテリは、モータが車両を移動するために必要な電気エネルギーを供給します。



この情報が表示されるかどうかは、選択されている車内環境設定 → 125 に応じて変動します。

行程のまとめ

装備車両では、エンジンのスイッチを OFF になると、「行程記録」がマルチメディア画面 3 上に表示されます。この行程記録は、最後の行程における以下に関する情報を示しています。

- 平均エネルギー消費量。
 - 走行キロ数。
 - 加速、ブレーキの予想、速度管理のスキルを考慮した総合的な成績
 - 評価を改善するためのアドバイス。
- 詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

ナビゲーションシステム

ナビゲーションシステムで確認できる情報（交通情報、最寄りの充電ステーションなど）を使用すると、行程の管理を簡素化し、充電時期を最適化することができます。

ドライビングアドバイス、エコドライブ

「」モードSave

Save モードは、車両の出力を抑制（加速力や最高速度を抑制するなど）する方法で燃料消費を減らし、航続距離を延ばすのに役立つ機能です。

- i** Saveモードでエアコンの「Eco」設定を有効化すると、エアコンの出力が抑制
→ 295されます。

マルチメディア画面3からの有効化／無効化



車両によっては、DRIVE MODEメニューから機能を有効化または無効化できます。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

スイッチ4を用いた有効化／無効化



車両によっては、スイッチ4を、Saveモードへのアクセスに必要な回数だけ押します。



- i** Save モードを有効化すると、Save警告灯5インストルメントパネルに表示されます。車速が約 130 km/h に制限されます。走行中は、一時的にSaveモードを停止することで、エンジンの出力制限を解除できます。これを行うには、アクセルペダルを一番奥までしっかりと踏み込みます。アクセルペダルから足を離すと、Saveモードが再び有効化されます。

ドライビングアドバイス、エコドライブ

車両の走行可能距離: アドバイス

実際の使用条件では、電気自動車の走行可能距離は部分的な制御を持ついくつかの要因によって異なり、車両の走行可能距離に大きな違いが生じる可能性があります。

これらの要因は次のとおりです。

- スピードとドライビングスタイル。
- 道路の種類。
- 暖房レベル。
- タイヤ。
- 電気アクセサリーの使用状況。
- 車両の負荷状態。

さらに、Save モードを有効にすることで、車両がすべての電力消費（エンジン出力など）を自動的に充電して、消費量を可能な限り削減することができます ➤ 171。

スピードとドライビングスタイル

62427



高速で走行すると、車両の走行可能距離が大幅に減少します。

例（定速走行時）：

- 車速を約130 km/h から 110 km/h に減速することで、燃費を約20%まで節約できます。
- 車速を約90 km/h から 80 km/h に減速することで、燃費を約10%まで節約できます。

「スポーティ」ドライビングでは、車両の走行可能距離が短くなります。

「スムーズ」ドライビングスタイルを選択してください。

アドバイス：

- 定速走行。

- 走行状態を表示するツール（、現在の燃料消費量計、行程記録など）から目を離さないでください ➤ 171。

- 過度のエネルギー消費を避けるために運転スタイルを調整してください。

- エネルギー回収を促進：アクセルペダルは頻繁に踏まず、徐々にブレーキをかけるなどの方法で、交通量の変化を予測しながら運転してください。

道路タイプ

66286



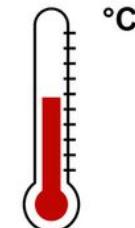
上り坂で同じ車速を維持しないようにして、平坦な道路以上に加速しないようにしてください。アクセルペダルの踏み込み量を変えないようにしましょう。

ドライビングアドバイス、エコドライブ

暖房レベル

62429

3



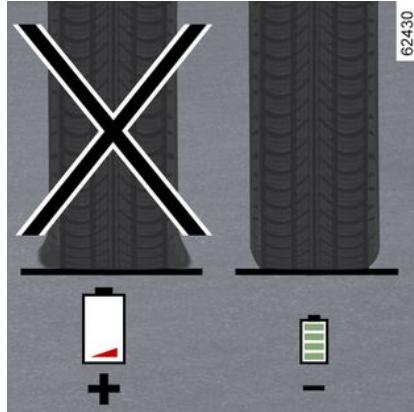
暖房や空調を使用すると、車両の走行可能距離が短くなります。

車両の航続距離を一定の水準に保つには、車両を使用する前に「プログラミング」モードを選択することをおすすめします ➤ 304。

車両の負荷状態

無意味に車両を過負荷状態にしないでください。

タイヤ



タイヤ空気圧が低すぎると燃費を悪くします。車両に指定されたタイヤ空気圧を遵守してください。

走行するときは、元のタイヤと同じ寸法、種類、構造の同じメーカー製のタイヤを使用してください。非推奨タイヤを使用すると、車両の航続距離が大幅に短くなる恐れがあります ➤ 333。

タイヤ空気圧モニターシステム

はじめに

車両に装備されている場合、このシステムがタイヤ空気圧をモニターします。

車両によっては、マルチメディア画面の「タイヤ圧」タブでタイヤのリセット手順を実行可能な場合に、システムが識別可能になります。



このシステムは運転時の安全性を補助するもので、

この機能は、ドライバーの代わりをするものではありません。したがって運転されるときは、お客様の責任において慎重に運転しなければならないことを忘れないでください。

毎月1回、タイヤの空気圧を点検してください。

作動原理



各タイヤのバルブにセンサーが取付けられていて、このセンサーが空気圧を定期的に測定します。

システムは、現在の警告をインストルメントパネル**1**上に表示し、空気圧が不十分な場合はその旨をドライバーに警告します。

タイヤの空気圧が不十分な（タイヤの空気圧低下、パンクなどが生じている）場合、**(!)** 警告灯が常時点灯します。

車両によっては、現在のタイヤ空気圧値がマルチメディア画面に表示されます。



警告灯 **STOP** が点灯した場合、周囲の交通に注意しながら直ちに安全な場所に停車しなくてはなりません。

3

タイヤ空気圧基準値のリセット手順

次の場合には、リセットが必要です；

- タイヤ交換の後；
- 使用条件に適応するために（空荷時、積載時、高速走行）、タイヤ空気圧の基準値を変更しなければいけないとき；
- タイヤのローテーション→333後。

システムのリセットは、冷間時に**4本**のタイヤの空気圧を確認してから行ってください。

タイヤの空気圧は車両の現在の使用に対応していくなければいけません（空車時、積載時、高速走行など）。タイヤの空気圧を観察します。最低でも1ヶ月に一度か、長距離走行の前には、必ず空気圧を点検してください（運転席側ドアに貼付されているラベルをご覧ください→335）。

タイヤ空気圧モニターシステム

マルチメディア画面 2 を介したり セットの手順



i ナビゲーションシステム装備車両の場合は、マルチメディア画面からリセットで
きます。この装備の取扱説明書を
参照してください。

詳細については、マルチメディア機器
の取扱説明書を参照してください。

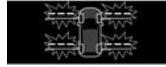
注：

- リセット受理後は、手順終了を待つことなく走行できます。車両によっては、タイヤ空気圧値がマルチメディア画面に表示されます。
- タイヤ空気圧は、運転席ドアのサイドに記載されている基準の空気圧より低くてはいけません。

タイヤ空気圧モニターシステム

メッセージ表示

下表は、タイヤリセット手順に関連して表示され得るメッセージを示したものです。

手順	表示（車両装備に応じて異なります）	メッセージ	読み取り値
1			イグニッションスイッチを ON にし、車両を静止した状態で、四輪すべての空気圧リセット手順を開始します。詳しくは、マルチメディア画面の取扱説明書をご覧ください。
2		タイヤ空気圧学習開始	4本すべてのタイヤの空気圧リセットが完了したことを示すため、各タイヤの前で「---」という記号が点滅します。
3			各タイヤの前で「---」という記号が点滅します。これは、4本すべてのタイヤの空気圧リセットが完了したことを示しています。これで走行できるようになりました。 注: リセット手順の間も、タイヤ空気圧のモニタリングは作動し続けています。
4			4本のタイヤの圧力値が表示されます。リセット手順は正常に完了しています。

タイヤ空気圧モニターシステム

3

タイヤ空気圧の調整

4本のタイヤの空気圧は、冷間時に設定してください（運転席ドアのサイドに貼ってあるラベルを参照してください）。

タイヤが冷えており空気圧を点検できない場合は、推奨空気圧より0.2から0.3 bar (3 psi) 高めに調整してください。

温間時にタイヤの空気は絶対に抜かないでください。

ホイール／タイヤの交換

このシステムは、専用装備（ホイール、タイヤ、ホイールキャップなど）**→ 333**を必要とします。

タイヤの交換や、このシステムと互換性があり、正規販売網から入手できる純正アクセサリーについては、正規ディーラにご相談ください。非正规品のアクセサリーを使用すると、システムが正常に作動しない恐れがあります。



タイヤの交換

このシステムは、タイヤの位置と空気圧を極力正しく計算するため、走行によっては数分間かかることがあります。車への作業を行った後は、必ずタイヤの空気圧を点検してください。

タイヤパンク修理剤と空気入れキット

唯一メーカーの店舗が認可している備品を使用してください。それ以外の場合、システムが反応遅れで作動したり、正しく動作しない恐れがあります
→ 336。

タイヤ空気注入キットの使用後、タイヤの空気圧を調整し、タイヤ空気圧の基準値のリセットを開始します。

タイヤ空気圧の不具合



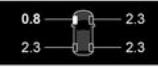
システムがタイヤ空気圧の異常を検出すると、警告メッセージがインストルメントパネル**1**に表示されます。

タイヤ空気圧モニターシステム

警告のメッセージ

この表には、システムが空気圧の問題（タイヤの空気圧低下やパンクなど）を検出したときにインストルメントパネルに表示されるアラートメッセージが含まれています。

警告灯 **STOP** が点灯した場合、周囲の交通に注意しながら直ちに安全な場所に停車しなくてはなりません。

表示灯	メッセージ	表示 (車種によりま す)	読み取り値
 が点灯し、その状態が保たれます。	タイヤ空気圧を調整してください		これは、タイヤの空気圧不足が検出されたことを示しています。車両によっては、ホイールと関連空気圧値がマルチメディア画面に黄色表示されます。 冷えているときに4本すべてのタイヤの空気圧を点検し、調整してください。警告は、運転開始から数分後にインストルメントパネルに表示されなくなります。
 + STOP 常時点灯状態になります。	パンク		これは、該当するタイヤがパンクしているか空気圧が著しく不足していることを示しています。車両によっては、ホイールと関連空気圧値がマルチメディア画面に赤色表示されます。 タイヤの空気が抜けている場合は、冷えているときに4本のタイヤの空気圧を調整します。警告は、運転開始から数分後にインストルメントパネルに表示されなくなります。タイヤがパンクした場合は、タイヤを交換するか、タイヤを交換してからシステムをリセットしてください。
 が点滅後に点灯し、  警告灯が表示されます。	タイヤ空気圧センサの点検		これは、少なくとも1本のタイヤにセンサーが取り付けられていないか、センサーが故障していることを示しています。車両によっては、ホイールがマルチメディア画面に表示されなくなります。正規サービス工場にご連絡ください。

タイヤ空気圧モニターシステム

表示灯	メッセージ	表示 (車種によりま す)	読み取り値
			これは、システムが各タイヤの空気圧を判断できないことを示しています。これは、認定ディーラ非推奨センサの使用が原因の可能性があります。タイヤ空気圧センサーのモニターシステムは作動を続けています。

ドライビングアシストと補正装置

はじめに

このシステムは次のコンポーネントによって構成されています（仕様による）：

- アンチロックブレーキシステム（ABS）。
- アンダステアコントロールおよびトラクションコントロール付き横滑り防止装置（ESC）。
- エマージェンシーブレーキアシスト（仕様により制動予測機能付き）；
- 坂道発進アシスト、
- 多重衝突ブレーキ。
- 回生ブレーキシステム→ 161。

他の運転支援システムは、このリーフレットに記載されています。



これらの機能は車の挙動を運転者の意志に適合させるための、限界運転時の補助サポートです。

ただし、この機能は、ドライバーの代わりをするものではありません。車両の限界を超えるものでも、より速い走行を促すものでもありません。運転されるときは、お客様の責任において慎重に運転しなければならないことを忘れないでください（常に細心の注意を払って運転してください）。

アンチロックブレーキシステム（ABS）

急制動時、ABS はホイールのロックを防止し、制動距離を制御して、車両のコントロールを可能のまま保持します。

これらの条件により、ブレーキをかけながらの障害物回避操作が可能となります。さらに、このシステムにより接地性の悪い路面（濡れた路面など）での制動距離が最適化されます。

ABS 作動中は、制動中のブレーキペダルに小刻みに振動を感じます。ABS は、タイヤの、路面や路面保持に関する「物理的な」性能を向上させるもの

ではありません。走行速度に応じた適切な車間距離を保つなど、必ず基本的な注意や気配りを怠らないでください。



緊急制動が必要なときは、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。ブレーキを断続的に操作するポンピングブレーキの必要はありません。ABS がブレーキシステムに掛けられた力を加減します。

作動異常

- と がインストルメントパネル上で点灯し、車両によっては「ABSを点検」、「ブレーキシステムを点検」および「ESC点検」というメッセージが表示され、ABS、ESCおよび緊急ブレーキアシスト機能が無効化されます。ブレーキは操作可能です。

- 、、、がインストルメントパネルに点灯し、「ブレーキシステム不具合」メッセージがインストルメントパネルに表示：これはブレーキシステムの故障を示しています。

いずれの場合も、認定ディーラにご相談ください。

ドライビングアシストと補正装置



この場合でも、ブレーキシステムは部分的に作動します。ただし、急ブレーキは避けて、周囲の交通状況に注意しながら、なるべく早く車両を停止してください。正規ディーラーにご連絡ください。

アンダーステア制御およびトラクション制御付き横滑り防止装置（ESC）

エレクトロニックスタビリティプログラムESC

このシステムによって、緊急時に（障害物の回避、カーブでのグリップの欠如など）車両コントロールを保持することができます。

作動原理

ステアリングホイールセンサーは、ドライバーの望んでいる運転経路を感じします。

他のセンサーは車両の各部に配置され、実際の運転経路を測定します。

システムはドライバーの操作と車両の実際の経路と比較し、必要に応じて特定のホイールの制動やエンジン出力に作用して経路を修正します。システム

が作動すると、インストルメントパネルに 警告灯が点滅します。

アンダーステア制御

このシステムは、アンダーステア（フロントアクスルの路面保持性能の欠如）が生じた際に ESC の作動を最適化します。

トラクションコントロール

このシステムは発進または減加速時のホイールスピン（空転）を抑え、車をコントロールする働きをサポートします。

作動原理

ホイールセンサーにより、システムは常に駆動輪の速度を測定比較し、オーバーレブを検知します。1輪が空転し始めると、空転しなくなるまでそのホイールにブレーキをかけます。

作動異常

システムによって動作障害が検出されると、「ESC 点検」メッセージと

および の警告灯がインストルメントパネルに表示されます。この場合ESCとトラクションコントロールが作動解除されます。

正規サービス工場にご連絡ください。



一時的な抑制ESC

特定の場所（閉鎖周回路やサーキットなど）では、スイッチ 1 を長押しすることでこれらの機能を無効化できます。



警告灯と「ESC OFF」のメッセージがインストルメントパネルに表示されて警告します。

スイッチ 1 を短く押すことでいつでもこれらの機能を再作動できます。

注: 次の場合、システムは自動的に無効化されます。

- 車両を再始動した場合。
- 走行モードが変更された場合 ➔ 295。

ドライビングアシストと補正装置

警告灯がインストルメントパネルに表示されない事実は、システム再作動の証です。



ESCを解除すると、運転支援機能（エマージェンシーブレーキアシストなど）が使えなくなります。

緊急時ブレーキアシスト

ABSを補助して、車両の制動距離を短くするシステムです。

作動原理

このシステムは急ブレーキを検知することができます。この場合、制動システムは直ちに最大出力を発生させ、ABS制御をトリガーすることができます。

ブレーキペダルから足を放さない限りブレーキABSは維持されます。

ブレーキライトが点灯

車両によっては、急激な減速を検知するとブレーキライトが点滅します。

ブレーキアンティシペーション

車両によっては、アクセルペダルから急に足を放すと、システムがブレーキ操作を先取りし、制動距離を短くします。

注意：

クルーズコントロール使用時：

- アクセルペダルを使用する場合、ペダルから足を離すとシステムが起動することがあります。
- アクセラレータを使用しない場合、システムは起動されません。

作動異常

システムが作動不良を検出すると、「ブレーキシステムを点検」というメッセージがインストルメントパネル

上に表示され、 警告灯が点灯します。

メーカーにお問い合わせください。



これらの機能は車の挙動を運転者の意志に適合させるための、限界運転時の補助サポートです。

この機能は、ドライバーの代わりをするものではありません。車両の限界を超えるものでも、より速い走行を促すものでもありません。運転されるときは、お客様の責任において慎重に運転しなければならないことを忘れないでください（常に細心の注意を払って運転してください）。

ヒルスタートアシスト

勾配の角度によっては、このシステムは坂道発進の際にアシストします。ドライバーがアクセルを踏むためにブレーキペダルから足を上げたときに、ブレーキが自動的にかかる、車両が後退するのを防ぎます。

エアサスペンションの作動

この機能は、シフトコントロールが N以外で車両が完全に静止（ブレーキペダルを踏み込んだ状態）しているときのみ作動します。

このシステムは約2秒間車両を保持します。その後ブレーキは徐々に解除されます（勾配に応じて車両は走行します）

ドライビングアシストと補正装置

3



坂道発進アシストシステムは、急な勾配などでは車の後退を完全に防ぐことができるわけではありません。

ドライバーはどんな場合でもブレーキペダルを踏んで、車両の後退を防ぐことができます。

長時間の停車には坂道発進アシスト機能を使用せず、代わりにブレーキペダルを使用してください。

この機能は常時車両を停止するために使用するものではありません。

必要に応じてブレーキペダルを踏んで車両を停止させてください。

運転者は滑りやすい路面やグリップの弱い路面では特に慎重に運転してください。

大ケガを負う危険があります。

多重衝突ブレーキ

多重衝突ブレーキは、車両を一時的に停止させることにより、事故後の追加衝突のリスクを軽減します。

作動原理

エアバッグシステムが衝突を検出すると、ブリテンショナまたはエアバッグが作動→79し、「多重衝突防止ブレーキ」機能が、横滑り防止装置(ESC)を有効化して車両にブレーキをかけます。

多重衝突ブレーキは、作動中に次の状況で無効になります。

– ドライバーがブレーキペダルを踏み込むことによって生成されるブレーキ力は、この機能によって作動する自動ブレーキによって生成される力よりも大きくなります。

注意: 多重衝突ブレーキでは、車両のブレーキシステムが適切に機能していることが必要です。

作動異常

システムが作動不良を検出すると、「ポストコリージョン要点検」メッセージと

セージと 警告灯がインストルメントパネル上に表示されます。この場合、この機能は無効になります。メーカーにお問い合わせください。

回生ブレーキシステム

ブレーキング時に、回生ブレーキシステムは、車両の減速によって生成され

たエネルギーを電気エネルギーに変換することができます。

これにより、「高電圧」トラクションバッテリが再充電され、車両の航続距離→161がより長くなります。

作動異常

– がインストルメントパネル上で点灯し、「ブレーキシステムを点検」というメッセージが表示されます。この場合、制動支援機能は引き続き作動します。

この条件では、ブレーキペダルの踏み方が異なる場合があります。

ペダルを踏み込む前に、強い力で踏み続けることをお勧めします。

メーカーにお問い合わせください。

– がインストルメントパネル上で点灯し、「ブレーキシステム不具合」というメッセージが表示されます。この場合、ブレーキシステムに不具合があります。

メーカーにお問い合わせください。

ドライビングアシストと補正装置



警告灯 **STOP** が点灯した場合、周囲の交通に注意しながら直ちに安全な場所に停車しなくてはなりません。エンジンを停止し再始動しないでください。正規サービス工場にご連絡ください。

運転時の補助機能

My Safety

はじめに

「My Safety」機能を使うと、一連の運転支援機能を同時に無効化または有効化できます。

車両によっては、運転支援機能の同時OFFを選択することで、マルチメディア画面から「My Safety」機能を構成できます。

作動



「ALL ON」モード

車両により、このモードには次の運転支援機能が含まれています。

- 速度超過警告音 → 221。
- 車線離脱防止機能 → 187。
- ドライバーに対する疲労警告 → 218
-
- ドライバーに対する注意喚起のための警告 → 216。
- 車線離脱防止 → 194。

「ALL ON」モードが有効化された場合: その証として、ボタン 1 上の表示灯が点灯し、「My Safety All ON を実行」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。またこの場合、このモードで使用できる運転支援機能も有効化されます。

「Perso」モード

このモードは、「ALL ON」モードで使用できるいくつかの運転支援機能のうち、「My Safety Perso」設定を介して構成済みのものを無効化または再有効化する場合に使用できます。

「Perso」モードを有効化するには、イグニッションスイッチをONにしてボタン 1 を2回連続で押します。初めて押すと、「もう一度押す My Safety Perso」メッセージがインストルメントパネルに表示されます。2回目に押すと、ボタン 1 上の表示灯が消えます。「Perso」モードがアクティブになります。「My Safety Perso を実行」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。

「ALL ON」モードに戻すには、ボタン 1 上を一度だけ押します。ボタン 1 上の表示灯が点灯します。



- 車両によっては、直前のエンジン停止以降の経過時間に応じて、次の場合に「ALL ON」モードが再有効化されます。
- 車両のロックが解除された場合。
 - または
 - ドアが開けられた場合。
 - または
 - エンジンが再始動された場合。

「My Safety Perso」の設定



安全のために、この操作は必ず停止時に行ってください。

運転時の補助機能



「My Safety Perso」モードで保存された「Perso」設定は、エンジンが作動するたびに、またはドアのロック時に保存されます。

マルチメディア画面 2 からの構成



この設定にアクセスする方法については、マルチメディア装置の取扱説明書を参照してください。

車線離脱防止

はじめに



カメラ 1 からの情報を用いて作動するこの機能は、車両が、実線車線または破線車線から逸脱するか、路側帯（仕切り、障壁、舗道、堤防など）に近づいており、方向指示器が未作動の場合に、車両のステアリングシステムに対し事故回避操作介入を行います。

設定によっては、車両が破線車線から逸脱し、方向指示器も未作動の場合、この機能は、

– ステアリングシステムに対する事故回避操作介入は行わずドライバーへの警告のみ行います。

または

– ステアリングシステムに対し事故回避操作介入を行います。



ステアリングホイールを操作すると、いつでも車両のコントロールを取り戻すことができます。

カメラの位置 1

フロントウインドウが汚れや泥、雪、結露などでふさがっていないか確認してください。



このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、車両を常時コントロールする責任があるドライバーに代わって注意するものではなく、補助的に注意喚起するのもです。

運転時の補助機能

ON/OFF

マルチメディア画面 2 から



スイッチ 3 の使用



- この機能を無効化するには、前回「My Safety」→186機能の「Perso」モードからこの機能を無効化した場合は、スイッチ 3 を 2 回押します。

-  警告灯がインストルメントパネル上に黄色表示されます。
- 機能を再有効化するにはスイッチ 3 を 1 回押します。インストルメントパネルの警告灯  が点灯します。

作動



この機能が有効化されると、 警告灯と左右両側の車線インジケーター 4 がインストルメントパネル上に灰色表示されます。

この機能が警告または介入を行うのは、車速が約 から 70 km/h の状態

で、 警告灯と左右両側または左側の車線インジケーター 4 が白色の場合です。

この機能は、次の場合に介入します。

- 車両が、方向指示灯未作動の状態で路肩／路側帯に近づいている場合。
- 車両が、方向指示灯未作動の状態で実線車線から逸脱した場合。

運転時の補助機能

- 「破線車線からの逸脱時に作動」設定が選択されている状況で、車両が、方向指示灯未作動の状態で破線車線から逸脱した場合。

以下の場合に作動:

- この機能は、車両のステアリングシステムが車両の軌道を修正するための動作をトリガーします。

- インストルメントパネル上の  警告灯と逸脱車線側の指示灯 4 が黄色に変わります。

ステアリングシステムに対する事故回避操作が不十分だと、インストルメン

- トパネル上の  警告灯と逸脱車線側の指示灯 4 が赤色に変わり、ステアリングホイールが振動します。

「破線車線からの逸脱時に作動」設定が選択されていない場合、この機能は、車両が、方向指示灯未作動の状態で破線車線から逸脱し、車線から十分近い場所に路側帯がない場合に警告音を発します。

この場合、この機能は、次の方法でドライバーに警告します。

- ステアリングホイールの振動により。
- と

- インストルメントパネル上の  警告灯と逸脱車線側のインジケータ 4 が赤色に変わります。

注: カーブでは、わずかに車線を離脱しても警報は作動しません。

注意:

「正しく運転してください」警告

- システムは作動しているものの、ドライバーによるステアリングホイール操作を検出できない状態になると、ドライバーが車両制御を再開するまで、「正しく運転してください」メッセージがインストルメントパネル上に表示され、ビープ音が鳴ります。また車両

によっては、 警告灯が赤色表示されます。

- システムの作動時間が長すぎると、ドライバーが車両の制御を再開するまで、「正しく運転してください」というメッセージがインストルメントパネル上に表示され、ビープ音が鳴るほ

か、車両によっては、 警告灯が赤色点灯し、該当車線側のインジケータ 4 が点滅します。



ステアリングホイールを操作すると、いつでも車両の修正アクションを中断することができます。

「Active driver assist」システム装備車両

「レーンセンタリング」機能と「車線逸脱防止」機能が同時に作動すると、警告灯の表示が次のように変化します。

- 「レーンセンタリング」機能作動中: インストルメントパネル上の白色また

は灰色   警告灯が緑色 警告灯に変わります。このため「レーンセンタリング」機能の状態が優先的にドライバーに通知されます。

- 「レーンセンタリング」機能がスタンバイ状態であり、「車線逸脱防止」機能が準備完了ではないか、作動中ではない場合、インストルメントパネルの灰色  警告灯が白色に変わ

か、または灰色  警告灯に変わります。このため「レーンセンタリング」機能の状態が優先的にドライバーに通知されます。

- 「レーンセンタリング」機能がスタンバイ状態で、「車線逸脱防止」機能が作動準備完了状態または作動中:

 警告灯がインストルメントパネル内に赤色または黄色表示されます。これにより、まずドライバーには最初に「車線逸脱防止」機能の状態が表示されます。

運転時の補助機能

どの場合でも、ドライバーに対しては、車両のステアリングシステム制御中における機能の状態が常に通知されます。また有用性の高い情報は常に表示されます。

3

機能の一時的な使用不可 / 無効化

このシステムは、次の場合、一時的に使用できない状態となるか、無効化されます。

- 瞬間的に車線を離脱したとき。
- ライン上を走行し続けているとき。
- 車線を変更してから約4秒後。
- きついカーブ
- 視界不良
- いずれかの方向指示器が作動中の場合。
- ハザードランプが有効化されている場合。
- シフトレバーが「後進」位置の場合。
- 加速
- 車線幅の変更。
- 横滑り防止装置が作動している場合。
- アンチロックブレーキシステムが作動している場合。
- アクティブ緊急ブレーキシステムが作動した場合。
- 「車線中央維持」機能に代表されるステアリングシステム制御機能による介入が行われた場合。

この機能が使用不能になると、インス

トルメントパネル上の  警告灯と左右両側の起動補正インジケーター 4 が灰色に変わります。

フロントカメラの妨げとなる障害物などがある場合は、「フロントカメラ映像なし」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。この場合には、センサ配置場所をきれいにします

自動無効化

この機能は、次の場合に自動で無効化されます。

- 車両ダイナミクス制御システムが無効化された場合。
- 横滑り防止装置に機能不良が生じた場合。
- アンチロックブレーキシステムに機能不良が生じた場合。
- 牽引バーがトレーラーヒッチソケットに電気的に接続されている場合。

-  警告灯が表示されます。

この機能が有効化されると、 警告灯がインストルメントパネル上に黄色表示されます。

マルチメディア画面 2 からの設定調整



運転時の補助機能

スイッチ 3 の使用



マルチメディア画面 2 からこの機能設定にアクセスするには、マルチメディア画面上の指示に従ってください。

- 「破線介入」：この設定を使うと、車両が、方向指示灯未作動の状態で破線車線から逸脱した場合における、この機能による対応を次の中から選択できます。

- 選択設定：この機能は、車両のステアリングシステムに対する車両軌道修正操作介入を行います。

- 非選択設定：この機能は、車両軌道修正操作介入は行わず、ステアリングホイールを振動させる方法でドライバーに警告します。

- 「振動の強さ」：「車線逸脱防止」機能が行うステアリングホイールの振動の程度を調整できます。

- 「レーンデパーチャー設定」：車線認識の感度を調整できます。調整するには、以下から選択します。

- 「遅め」：車線逸脱検出機能です。

- 「スタンダード」：車線接近検出機能機能です。

- 「早め」：近接車線検出機能です。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

作動異常

システムが作動不良を検出すると、左

右両側の表示灯と 警告灯がインストルメントパネルに黄色表示されます。

場合によっては、以下のメッセージが表示されます。

- « ドライブアシスト 操作不可 »；

または

- « フロントカメラを 点検してください »；

または

- « ドライブアシスト 要確認 ».

メーカーにお問い合わせください。

運転時の補助機能

警告



このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、車両を常時コントロールする責任があるドライバーに代わって注意するものではなく、補助的に注意喚起するのもです。

システムサービス / 修理

- 衝突した際はカメラのアライメントが変わる可能性があり、その動作に影響が出ます。機能を解除して、正規サービス工場に連絡してください。
- カメラのある場所の作業（修理、交換、フロントウィンドウの変更など）は、資格を持つ専門スタッフが行う必要があります。

指定サービス工場のみがシステムを修理することができます。

システムの障害

以下に掲げるような環境要素は、システムの作動を妨げたり、システムに損傷を及ぼしたりする恐れがあります。

- フロントウインドウの汚れ（泥、雪、結露など）。
- 複雑な環境（トンネルなど）。
- 悪天候（降雪、降雨、雹、路面凍結など）。
- 視界不良（夜間、濃霧など）。
- 道路標識が複数存在する状況（道路で工事が行われている状況など）、道路標識の判別が難しい状況、道路標識が変則的である状況（車線の一部分または大部分が色あせている状況、車線の間隔が広すぎる状況、路面が不均一な状況など）。
- 眩惑（逆光、反対車線走行中の対向車両のヘッドライトなど）。
- 狹い道路、曲がりくねった道路、起伏のある道路（急カーブがあるなど）。
- 同車線の後続車両との車間がわずかなとき。

この場合、「車線逸脱防止」機能が誤って有効化されるか、全く作動しないことがあります。

不必要的修正、誤った修正、または軌道の修正のリスク。

機能の作動解除

次の場合にはこの機能を無効化してください。

- カメラ領域が損傷しています（フロントガラス側またはルームミラー側）。
- 道路が滑りやすい（積雪、路面凍結、水貯まり、砂利などがある）場合。

運転時の補助機能

- フロントガラスにひびが入ったり歪んだりしている（このエリアではフロントガラスの修理を行わず、指定代理店で交換してください）。
- 自車両でトレーラまたはキャラバンを牽引する場合。

運転時の補助機能

緊急車線離脱防止

はじめに



フロントレーダ **2** とカメラ **1** からの情報を用いて作動するこの機能は、隣接車線の対向車両と衝突する危険が生じており、方向指示灯が未作動の場合に、車両のステアリングシステムに対し事故回避操作介入を行います。

車両によっては、リアレーダの検出領域内で同一速度のまたはより高速度の走行車両と衝突する危険が生じている場合にも、サイドレーダ **3** とカメラ **1** からの情報を用いて作動するこの機能が、車両のステアリングシステムに対し事故回避操作介入を行います。

i ステアリングホイールを操作すると、いつでも車両のコントロールを取り戻すことができます。



このシステムは付加的な運転援助を提供します。このシステムは、車両を常時コントロールする責任があるドライバーに代わって注意するものではなく、補助的に注意喚起するのもです。

カメラの位置 **1**

フロントウインドウが汚れや泥、雪、結露などでふさがっていないか確認してください。

フロントレーダーの位置 **2**

レーダーエリアが、車両の前面に取り付けられたアクセサリー（フロントバンパー や ロゴなど）によって遮られたり、衝撃、修正（塗装を含む）、泥、雪、前部ナンバープレートの取り付け不良によって隠されていないことを確認してください。

運転時の補助機能

サイドレーダーの位置 3

レーダーエリアが（汚れ、泥、雪など）、影響を受けたり、変更されたり（塗装など）されていないことを確認してください。

機能の起動／作動解除

A 「My Safety」スイッチを使用します。



「My Safety」機能 → 186 の「Perso」モードを介してこの機能を無効化する場合は、スイッチ A を 2 回押します。

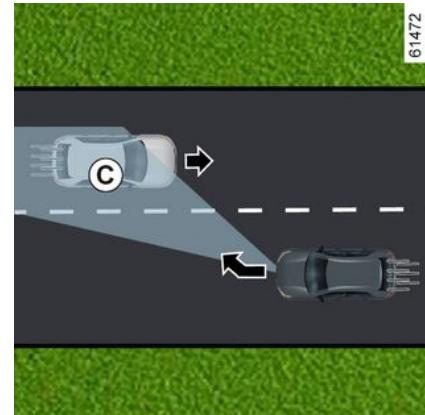
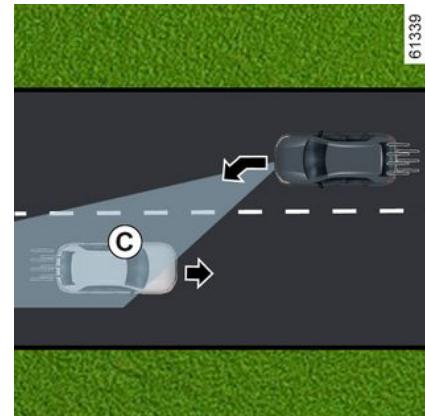
機能を再有効化するには、スイッチ A を押します。

マルチメディア画面 B から



詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

対向車の検出



運転時の補助機能

3



約 70 km/h から 110 km/h での走行中に、隣接車線と検出ゾーン C 内で対向車両と衝突する危険が生じ、方向指示灯も未作動の場合、システムの対応により次の状態になります。

- 衝突の危険を警告:

「衝突注意」というメッセージがインストルメントパネル上に表示され、該当車線に対応する警告灯 4 が赤色点灯し、ビープ音が鳴ります。該当車線に対応する記号 5 がインストルメントパネル上に表示されます。

と

- ステアリングシステムの修正動作がトリガーされます。

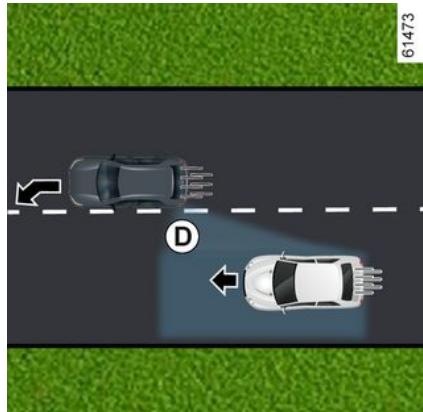


ステアリングホイールを操作すると、いつでも車両の修正アクションを中断することができます。

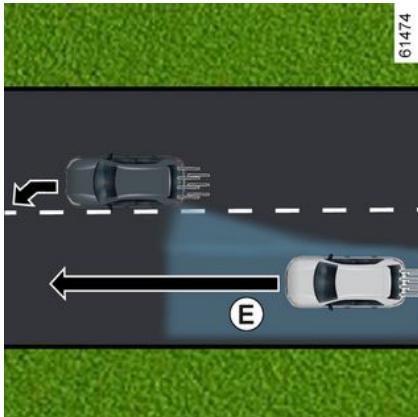


このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、車両を常にコントロールする責任があるドライバーに代わって注意するものではなく、補助的に注意喚起するものです。

追い越しの場合



運転時の補助機能



一方向に移動している他車両か、検出領域 **E** 内に存在する、隣接車線の後方から自車両に急接近している他車両と衝突する危険が生じると、システムの対応により次の状態になります。

- **衝突の危険について警告する状態。** 具体的には、警告灯 **6** が点滅し、「側方並走車 検出」というメッセージがインストルメントパネル上に表示され、逸脱車線の警告灯 **4** が赤色表示となり、ビープ音が鳴る状態になります。該当車線に対応する記号 **5** ガインストルメントパネル上に表示されます。

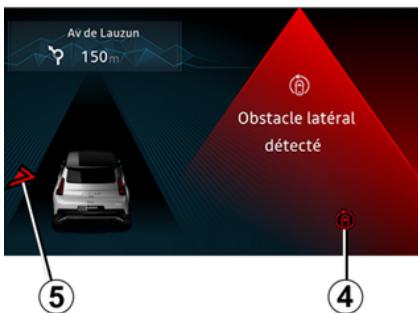
と

- **ステアリングシステムの修正動作がトリガーされます。**

一時的な使用不可／システムの無効化

このシステムは、次の場合、一時的に使用できない状態となるか、無効化されます。

- 瞬間的に車線を離脱したとき。
- ライン上を走行し続けているとき。
- 車線を変更してから約4秒後。
- きついカーブ
- 視界不良
- 方向指示灯の点灯操作が行われている場合（隣接車線で対向車が検出されている場合のみ）。
- ハザードランプが有効化されている場合。
- 加速



約 70 km/h での走行中に、自車両が車線（実線車線または破線車線）に近づき、死角 **D** 内に存在する、自車両と同

- 車線幅の変更。
- 横滑り防止装置が作動している場合。
- アンチロックブレーキシステムが作動している場合。
- アクティブ緊急ブレーキシステムの作動。
- ...

以下の場合には、システムを作動することはできません。

- カメラが、該当する左右いずれかの車線（実線または破線）を検出できない場合。
- カメラが、自車両が走行している車線の左端と右端にある境界を同時に検出できない場合。
- リバースギアが入れられた時：
- カメラの視界が妨げられている。
- フロントレーダーが隠されている。
- 車両によっては、リアレーダーが隠されている。
- ...

車両によっては、サイドレーダーのいずれかの妨げとなる障害物などがある場合、「サイドレーダー 作動していません」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。

フロントレーダーの妨げとなる障害物などがある場合は、「フロントレーダー 作動していません」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。

フロントカメラの妨げとなる障害物などがある場合は、「フロントカメラ 映

運転時の補助機能

「像なし」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。

センサが配置されているエリアを清掃します。

機能の自動的な無効化

次の場合、システムは自動的に無効化されます。

- 車両ダイナミクス制御システムが無効化された場合。
- 横滑り防止装置に機能不良が生じた場合。
- アンチロックブレーキシステムに機能不良が生じた場合。
- 牽引バーがトレーラーヒッチソケットに電気的に接続されている場合。
- **STOP** 警告灯が表示されます。

システムが認識済みの牽引バーを装備している車両の場合は、車線逸脱緊急防止機能の無効化についてドライバーに知らせるための「トレーラー: 側センサー使用不可」というメッセージが表示されます。

車両がトレーラまたはキャラバンを牽引している場合は、予期しない、または不必要的修正が発生する可能性があります。システムは、想定外のまたは不要な事故回避介入を阻止する目的で無効化することもできます。

作動異常

この機能が作動不良を検出すると、次のメッセージがインストルメントパネル上に表示されることがあります。

- « フロントカメラを点検してください»;
 - または
 - « フロントレーダーを点検してください»;
 - または
 - « ドライブアシスト 要確認»;
- 車両タイプによって異なります。
- « サイドレーダーを点検してください»。

メーカーにお問い合わせください。

運転時の補助機能

警告



このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、車両を常時コントロールする責任があるドライバーに代わって注意するものではなく、補助的に注意喚起するのもです。

システムサービス / 修理

- 衝撃が発生した場合、カメラまたはレーダーの配置が変更され、その結果、その動作に影響が及ぶ可能性があります。機能を解除して、正規サービス工場に連絡してください。
- レーダーまたはカメラのある場所の作業（交換、修理、フロントウィンドウの変更など）は、資格を持つ専門スタッフが行う必要があります。

指定サービス工場のみがシステムを修理することができます。

システムの障害

以下に掲げるような環境要素は、システムの作動を妨げたり、システムに損傷を及ぼしたりする恐れがあります。

- フロントウインドウの汚れ（泥、雪、結露など）。
- 複雑な環境（トンネルなど）。
- 悪天候（降雪、降雨、雹、路面凍結など）。
- 視界不良（夜間、濃霧など）。
- 道路標識が複数存在する状況（道路で工事が行われている状況など）、道路標識の判別が難しい状況、道路標識が変則的である状況（車線の一部分または大部分が色あせている状況、車線の間隔が広すぎる状況、路面が不均一な状況など）。
- 眩惑（逆光、反対車線走行中の対向車両のヘッドライトなど）。
- 狹い道路、曲がりくねった道路、起伏のある道路（急カーブがあるなど）。
- 同車線の後続車両との車間がわずかなとき。

この場合、「車線逸脱防止」機能が正しく作動しないか、まったく作動しない恐れがあります。

不必要的修正、誤った修正、または軌道の修正のリスク。

機能の作動解除

次の場合にはこの機能を無効化してください。

- カメラ領域（フロントガラス側またはルームミラー側）またはレーダー領域が損傷しています。
- 道路が滑りやすい（積雪、路面凍結、水貯まり、砂利などがある）場合。

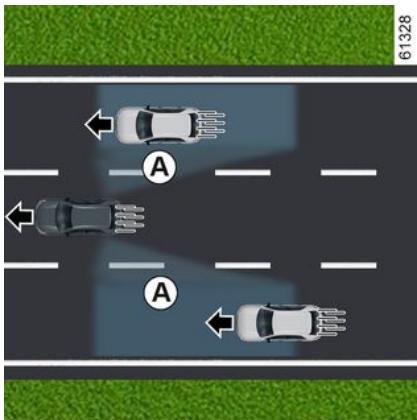
運転時の補助機能

- フロントガラスにひびが入ったり歪んだりしている（このエリアではフロントガラスの修理を行わず、指定代理店で交換してください）。
- 車両がトレーラーまたはキャラバンを牽引している。
- 車両の牽引（分解）。
- 舗装道路で運転していない。

運転時の補助機能

死角の警告

はじめに



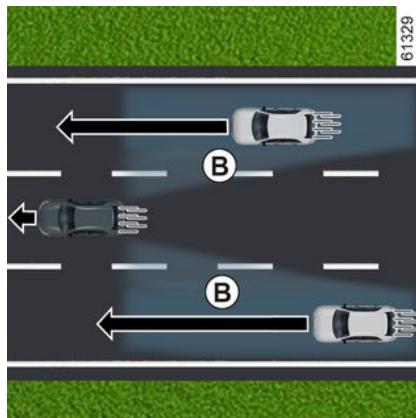
リアバンパ（ゾーン C）の両側に取り付けられているセンサからの情報を用いて作動するこの機能は、次の場合に、ドライバーに警告します。

- 死角 A 内に他車両が存在し、自車両と同一方向に走行している場合。

と

- ゾーン B 内に存在し、自車両より高速で隣接車線を走行している他車両と衝突する危険がある場合。

この機能は、車速が約 15 km/h 以上になると警告を発します。

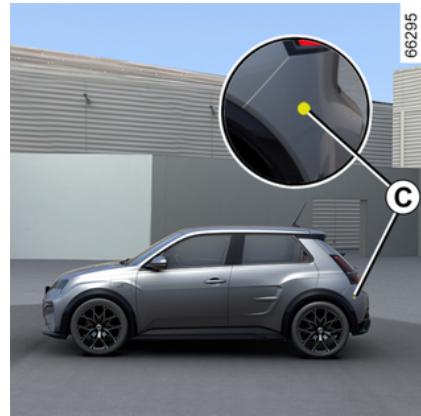


このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、車両を常時コントロールする責任があるドライバーに代わって注意するものではなく、補助的に注意喚起するものでです。



他の車両が動いていない場合、この機能は運転者に通知しません。

特徴



3

リアバンパ両側のレーダ付近にあるゾーン C に障害物（汚物、泥、雪など）がないか確認します。

レーダーの妨げとなるものがある場合は、「サイドレーダー 作動していません」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。センサが配置されているエリアを清掃します。

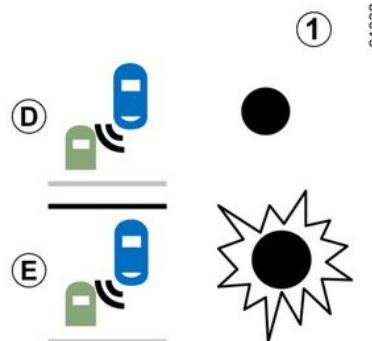
運転時の補助機能

警告灯 1



表示

ディスプレイ D



作動しない場合

- きつい曲がり角の道路を走行中の場合
- リバース。

システム認識済みの牽引バー装備車両の場合、この機能が作動していないと、その旨をドライバーに知らせるため、「トレイラ: 死角警告 OFF」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。

お車に合った装備をお探しの際には、お近くの指定サービス工場にご相談ください。

作動異常

システムが不具合を検出すると、「サイドレーダーを点検してください」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。

メーカーにお問い合わせください。

警告灯 1 は、各ドアミラー 2 上にあります。

注:

- ドアミラー 2 は定期的に清掃し、警告灯 1 を正しく視認できる状態に保つください。

- 他の車両を追い越す場合、警告灯 1 は、自車両の死角 A に十分な長さの他車両が存在する場合に限り点灯します。

最初の警告: 方向指示灯が作動していない場合、死角内で他車両が検出されるか、隣接車線の他車両が後方から自車両に急接近していると、警告灯 1 が点灯します。

ディスプレイ E

方向指示灯の作動中に、死角内で他車両が検出されるか、他車両が、自車両の旋回方向に向かって後方から自車両に急接近していると、警告灯 1 が点滅します。

方向指示灯を停止すると、この機能は、初期警告状態（表示 D）に戻ります。

i バンパーの後にセンサがあるため、バンパーの作業（修理、交換、塗装など）は資格を持つ専門スタッフに任せることをお勧めします。

運転時の補助機能

警告



- システムの検知範囲は、標準の車線幅に基づいて作動します。幅広い車線を運転する場合、システムは死角内を走行する車両を検出できない可能性があります。
- 非常に悪天候（大雨、雪など）の場合、システムが一時的に中断する場合があります。走行条件を常に認識してください。

事故の恐れがあります。



このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、車両を常時コントロールする責任があるドライバーに代わって注意するものではなく、補助的に注意喚起するのもです。

ドライバーは、システムの指示に関係なく、常に交通状況に応じて車速を調整する必要があります。

いかなる場合でも、システムを障害物の検知や衝突防止装置として使用することはできません。

システムサービス / 修理

- 衝突した際はレーダーのアライメントが変わる可能性があり、その動作に影響が出ます。メーカーにお問い合わせください。
- レーダーのある場所の作業（修理、交換）は、資格を持つ専門スタッフが行う必要があります。

指定サービス工場のみがシステムを修理することができます。

システムの障害

以下に掲げるような環境要素は、システムの作動を妨げたり、システムに損傷を及ぼしたりする恐れがあります。

- 複雑な環境（金属橋、トンネル、端に障壁がある道路など）。
- 悪天候（降雪、降雨、路面凍結など）。
- 車両には、システムによって認識されない牽引バーが取り付けられています。

誤アラームまたは警告なしのリスク

システムの作動に異常が発生した場合は正規ディーラーまでご連絡ください。

運転時の補助機能



システム作動時間の制限

- システムの正常な作動を確保するために、レーダーエリアは清潔に保ち、変更を加えないようにする必要があります。
- 車両に近づく小さな物体（バイク、自転車、歩行者など）は、システムによって認識されないことがあります。
- カーブに差しかかると、レーダーは、隣接車線の他車両を一時的に検出しなくなる場合があります。
- 隣接する車線（3車線の道路を走行中）で他の2台の車両が後方から並んで接近しているときに、自車よりもはるかに高速であると、この機能は遅れて警告することがあります。
- 他の車両が著しく異なる速度で走行している場合、システムが警告を表示しないことがあります。
- 車両が、車長の長い車両（たとえば、重い車両が車両と同様の速度で追い越す）に追い越される場合、システムは操作の終了前に警告を中断することがあります。
- 車両が風の強い道路を走行する場合。

運転時の補助機能

適切な車間距離アラート

はじめに



レーダー 2 とカメラ 1 からの情報を用いて作動するこの機能は、自車両と前方車両の時間間隔をドライバーに知らせ、両車両が安全に停止できる距離を保てるよう支援します。

カメラの位置 1

フロントウインドウが汚れや泥、雪、結露などでふさがっていないか確認してください。

レーダーの位置 2

レーダーエリアが、車両の前面に取り付けられたアクセサリー（グリルや口ゴなど）によって遮られたり、衝撃、修正（塗装を含む）、泥、泥、雪、前部ナンバープレートの取り付け不良によって隠されていないことを確認してください。



このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、車両を常時コントロールする責任があるドライバーに代わって注意するものではなく、補助的に注意喚起するのもです。

マルチメディア画面 3 からの有効化／無効化



3

マルチメディア画面 3 の「車両」ワールドから、「運転アシスト」メニューを押します。

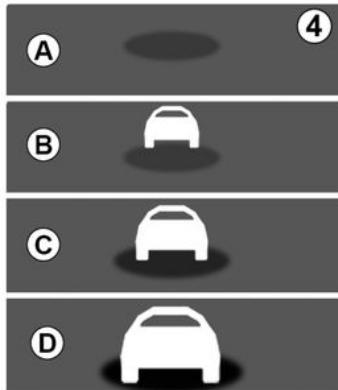
「車間距離」機能を有効化または無効化します。



エンジンを始動すると、機能はエンジンが最後にオフになったときに保存されていたモードを継続します。

運転時の補助機能

作動



39301

2台の車両の車間時間が約0.5秒未満の場合、ディスプレイD上の表示灯4がインストルメントパネル上で赤色点灯します。

特定の条件化では、時間差が表示されません。

- 旋回時、
- 車線の変更時、
- 前方の車両がレーダーまたはカメラの範囲から十分に遠いか範囲外にある場合。

この機能が有効化されると、表示灯4がインストルメントパネル上に表示され、自車両と前方車両の車間距離をドライバーに知らせます。

- **A**（灰色）：機能が作動していない状態。
- **A**（緑色）：他の車両が検出されていない状態。
- **B**（緑色）：時間差が約2秒以上の（2台の車間距離が車速に照らして適切な）な状態。
- **C**（黄色）：時間差が約1秒から2秒の（2台の車間距離が不十分な）状態。
- **D**（赤色）：時間差が約1秒以下の（2台の車間距離がきわめて不十分な）状態。

運転時の補助機能

警告



測定結果の表示：車両でシステムは操作を実行しません。

この機能では、郊外またはダイナミックな走行スタイル（突然の旋回、加速、ブレーキングなど）での使用は想定されていません。安定的な走行条件を前提としています。

この機能はブレーキングシステムとは連動していません。

システムの正常な動作を保証するためには、レーダーゾーンとカメラゾーンを清潔に保ち、改変されないようにする必要があります。

レーダーやカメラが設置されている場所（修理、交換、フロントガラスやバンパーの改造など）で行われた作業は、資格のある専門家が行う必要があります。

運転時の補助機能



このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、車両を常時コントロールする責任があるドライバーに代わって注意するものではなく、補助的に注意喚起するのもです。

システムサービス / 修理

- 衝撃が加わると、レーダーおよび / またはカメラの位置合わせが変更され、その動作が結果として影響を受ける可能性があります。機能を解除して、正規サービス工場に連絡してください。
- レーダーやカメラが設置されている場所（交換、修理、フロントガラスやバンパーの改造など）で行われた作業は、資格のある専門家が行う必要があります。

指定サービス工場のみがシステムを修理することができます。

システムの障害

- フロントウインドウまたはバンパー上に障害物（汚物、氷、雪、結露など）がある。
- 複雑な環境（金属製の橋梁、トンネルなど）。
- 悪天候（降雪、降雨、路面凍結など）。
- 視界不良（夜間、濃霧など）。
- 車両の前方とその周辺のコントラストが小さい（白色の車両が積雪場所にあるなど）。
- 眩惑（逆光、反対車線走行中の対向車両のヘッドライトなど）。
- 道路が狭く、巻いて波打っている（きついカーブなど）

誤警報のリスク。

運転時の補助機能

エマージェンシーブレーキアシスト

はじめに



このシステムは、カメラ 1 とレーダー 2 から届く情報を用いて、自車両と次のものとの距離を判定します。

- 同じ車線の前方の車両から。

または

- 方向を変える操縦の状況で任意の対向車から。

または

- 自車両の前後を横切る他車両。

または

- 静止車両。

または

- 周囲の歩行者やサイクリスト。

システムは、正面衝突の危険性があるかどうかを運転手に通知して、適切な緊急操作（ブレーキペダルの踏みおろし / またはハンドルの回し）を可能にします。

運転者の反応度に応じて、システムは、損傷を制限するためまたは衝突を防止するために制動を支援することができます。

それ以外の場合、システムは非アクティブで、アラートは起動しません。



このシステムは運転時の安全性を補助するもので、

この機能は、車両を常時コントロールする責任があるドライバーに代わって注意するものではなく、補助的に注意喚起するのもです。



このシステムは、必要に応じて完全に停止するまで、車両に最大制動を加えることができます。

安全上の理由から、車両に乗るときは常にシートベルトを着用し、荷物が前方に投げられて乗員に当たらないように荷物が積載されていることを確認してください。

カメラの位置 1

フロントウインドウが汚れや泥、雪、結露などでふさがっていないか確認してください。

レーダーの位置 2

レーダーの周りに、障害物（汚れ、泥、雪、取付け不良ナンバープレートなど）、衝撃の痕跡、変更部分（塗装を含みます）または遮断部分がないか確認します。

作動

走行中に衝突の危険が生じると、システムは次のように作動します。

- 衝突の危険の発生についてドライバーに警告する: システムは、インストルメントパネルに「障害物あり」というメッセージを表示しビープ音を鳴らします。

運転時の補助機能

3

注: ドライバーがブレーキペダルを踏んでいるにもかかわらずシステムが衝突の危険を検出する条件が整っている場合、ドライバーの操作だけでは衝突を防ぐのに十分な制動力に達していない状況であれば、システムにより制動力が高められることがあります。

- **ブレーキを掛ける**: 警告に対するドライバーの反応がなく、衝突の危険が差し迫っている場合、赤色の警告灯

と「危険 ブレーキ」というメッセージをインストルメントパネル上に表示し、ビープ音を鳴らします。

注:

- ドライバーによる車両制御装置（ステアリングホイール、ペダルなど）の使用中には、システムの反応に遅れが生じたり、システムが作動しなかったりすることがあります。

- 非常ブレーキの作動により車両が停止すると、一定の短い時間が経過するまでは車両が静止状態に保たれます。

この時間を超えて車両を静止させておくには、ドライバーがブレーキペダルを踏み続ける必要があります。

- システムがブレーキを作動させると、「セーフティーブレーキ実行」というメッセージが表示されます。

-  緊急時には、次の操作によりいつでもブレーキを停止できます。
- アクセルペダルのタップ
 - または
 - 衝突回避操作としてステアリングホイールを回します。

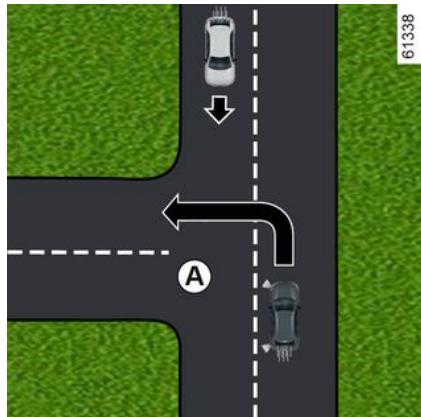
-  **注意事項**
速度に応じて、警告とブレーキが同時に作動することがあります。

車両検出

同一車線を走行している車両の検出

システムは、自車両が約 7 km/h を超える速度で走行している場合に、同一車線の前方車線と衝突する危険を検出します。

進行方向変更中の対向車検出



方向転換中（Aなど）には、次の場合に、システムが対向車を検出します。

- 自車両が約 7 km/h から 30 km/h で走行している場合。
- 方向指示灯を作動させた。

車線を横切る車両の検出

システムは、次の場合に、車線を横切る車両を検出します。

- 自車両が約 20 km/h から 60 km/h の速度で走行している場合。

車線内に停まっている車両の検出

システムは、次の場合に、静止車両を検出します。

運転時の補助機能

- 自車両が約 7 km/h から 85 km/h で走行している場合。

歩行者および自転車の検出

同一車線上の歩行者や自転車の検出

システムは、次の場合に歩行者や自転車を検出します。

- 自車両が約 7 km/h から 85 km/h で走行している場合。

進行方向変更時における歩行者や自転車の検出

システムは、次の場合に歩行者や自転車を検出します。

- 自車両が約 7 km/h から 30 km/h で走行している場合。

ON/OFF



車両によっては、直前のエンジン停止以降の経過時間に応じて、次の場合に機能が再び有効化されます。

- 車両のロックが解除された場合。
- または
- ドアが開けられた場合。
- または
- エンジンが再始動された場合。

マルチメディア画面 3 からのシステムの有効化、無効化



3

機能を有効または無効にするには、マルチメディアの指示を参照してください。

「ON」または「OFF」を選択します。



システムを作動解除すると、警告灯が点灯したり、車両によっては、



インストルメントパネルの警告灯が点灯します。システムがアクティブになると、警告灯が消えます。

運転時の補助機能

設定



安全のために、この操作は必ず停止時に行ってください。

3

マルチメディア画面 3 からの設定



車両を静止させた状態で下記の機能に関する設定にマルチメディア画面 3 からアクセスするには、マルチメディア画面の指示に従ってください。

「警告」：感度を調整します。調整するには、以下から選択します。

- « 遅め »；
- « タンダード »；
- « 早め »。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。



「」 警告灯が表示されます。メーカーにお問い合わせください。

一時的に使用できない

システムが一時的な故障を検出した場合は、インストルメントパネルに「



」 警告灯が表示されます。

考えられる原因:

- システムは一時的に機能しなくなります（太陽からのグレア、ディープビームヘッドライト、悪天候など）。可視性条件が良好な場合、システムは再び動作可能になります。

- システムが一時的に中断されます（フロントガラス、フロントまたはリアバンパ、またはロゴが汚れ、泥、雪、結露などによって保護されている）。この場合は、車両を駐車し、エンジンを停止します。フロントウインドウ、フロントバンパ、またはロゴを清掃します。次にエンジンを始動し、約 5 分から 10 分間走行すると、警告灯とメッセージが消えます。この対応でも問題が解消されない場合は、他の原因が考えられるため、認定ディーラーにご相談ください。

作動異常

システムが一時的な故障を検出した場合は、インストルメントパネルに「

運転時の補助機能

警告



このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、車両を常時コントロールする責任があるドライバーに代わって注意するものではなく、補助的に注意喚起するのもです。

この機能の起動は、システムがドライバーによる車両の制御の明確な兆候（ハンドル、ペダルなどに対するアクション）を検出したときに遅延または防止される可能性があります。

以下の場合には、システムを作動することはできません。

- シフトレバーがニュートラル位置にある場合。
- 横滑り防止装置（ESC）が起動している場合。

システムサービス / 修理

- 衝撃が加わると、レーダーおよび / またはカメラの位置合わせが変更され、その動作が結果として影響を受ける可能性があります。
機能を解除して、正規サービス工場に連絡してください。
- レーダー / カメラのある場所の作業（修理、交換、フロントウィンドウの変更など）は、資格を持つ専門スタッフが行う必要があります。

指定サービス工場のみがシステムを修理することができます。

運転時の補助機能

3



システムの障害

以下に掲げるような環境要素は、システムの作動を妨げたり、システムに損傷を及ぼしたりする恐れがあります。

- 複雑な環境（金属製の橋梁、トンネルなど）。
- 悪天候（降雪、降雨、雹、路面凍結など）。
- 視界不良（夜間、濃霧など）。
- 物体（車両、歩行者など）とその周辺のコントラストが小さい（白色の衣服を着た歩行者が積雪場所にいるなど）場合。
- 眩惑（逆光、反対車線走行中の対向車両のヘッドライトなど）。
- フロントウインドウの汚れ（泥、雪、結露など）
- ...

このような状況では、システムは無反応またはドライバーに警告しないか、誤ってブレーキをかけることがあります。

システム作動時間の制限

- 車両が始動されるたびに、システムは、車両の周囲環境に応じてキャリブレーションを実行し、約2～5分の走行の間、非アクティブになる場合があります。
- システムの正常な動作を保証するためには、レーダーゾーンとカメラゾーンを清潔に保ち、改変されないようにする必要があります。
- システムは、バイクなどの小型車両に対しては、他の車両の場合のように効果的に機能することができない場合があります。
- 路面が滑りやすい状況（降雨時、降雪時、路面凍結時など）では、システムが正常に作動しないことがあります。
- システムは、障害物とそれ以外の要素を完全に区別できないと正しく作動しません。したがって、システムは以下を検出できません。
 - 暗闇または明るさが不十分な場所の歩行者／自転車走行者。
 - 一部分しか視認できない歩行者／自転車走行者。
 - 身長が約80cm未満の歩行者。
 - 大きな物を運ぶ歩行者
 - ...

運転時の補助機能

このような状況では、システムは無反応またはドライバーに警告しないか、誤ってブレーキをかけることがあります。



機能の作動解除

次の場合にはこの機能を無効化してください。

- カメラエリアが損傷している（例：フロントウィンドウの内側または外側）。
- 車両の前面に損傷（衝突痕、歪み、レーダーにひっかき傷など）がある場合。
- 車両の牽引（分解）。
- フロントガラスにひびが入ったり歪んだりしている（このエリアではフロントガラスの修理を行わず、指定代理店で交換してください）。
- 舗装道路で運転していない。

システムの動作が異常な場合は、システムの作動を解除して、正規ディーラーまでご連絡ください。

機能の一時停止

アクセルペダルを軽く踏むか、衝突回避操作でステアリングホイールを回すことで、ブレーキング機能をいつでも一時停止することができます。

運転時の補助機能

ドライバーに対する注意喚起のための警告

はじめに



この機能は、注意散漫のリスクがある場合に運転時の安全性を補助するものです。この機能が車両を操舵することはありません。この機能は、どのような状況でも、ドライバーが走行中に果たすべき責任を軽減するものではありません。

ドライバーは、システムからの指示にかかわらず、常に周囲の状況を踏まえて運転しなければなりません。



システムは、車内カメラ **1** を用いてドライバーの顔の動きを分析し、ドライバーの注意が散漫している場合には警告を発します。

注意散漫とは、ドライバーが約 3 秒間道路を見なかつたり、この動きを数回連続して繰り返すことです。

注意：システムは画像を記録せず、リアルタイムで動作します。

カメラの位置 **1**

カメラに視界を妨げるもの（汚物、泥など）が付着していないか、または覆われていないか確認してください。

作動



このシステムはドライバーの注意を継続的に監視し、走行中にいくつかの警告を発することができます。



この機能は、車速が約 20 km/h を超える場合に警告する準備ができています。

ハイブリッドモデルでは、「運転に集中してください」のメッセージがインストルメントパネル **2** に表示され、ビープ音が鳴ります。

道路上に注意を払い、あらゆる事故を予測することをお勧めします。

運転時の補助機能

スイッチ 3 OK を、警告灯がインストルメントパネル上に表示されるまで押します。メッセージを削除した後も、システムは注意散漫を監視し続け、必要に応じて新たな警告を発します。

ON/OFF



安全のために、この操作は必ず停止時に行ってください。



車両や、直前のエンジン停止以降の経過時間によっては、次の場合に警告が再び有効化されます。

- 車両のロックが解除された場合。

または

- ドアが開けられた場合。

または

- エンジンが始動された場合。



車両によっては、警告を無効化できない場合があります。

車両に応じて、警告は以下を使用して有効または無効にできます。

- 「My Safety」ボタン、
- マルチメディア画面。

4 「My Safety」ボタンを用いた警告の有効化および無効化



「My Safety」機能 ➔ 186の「Perso」モードより警告を非作動または作動にすることができます。

過去に「Perso」モードを用いて警告を無効化したことがある場合:

- 警告を無効化するには、ボタン 4 を2回連続で押します。ボタン 4 上の表示灯が消灯します。

- 警告を有効化するには、ボタン 4 を1回押します。ボタン 4 上の表示灯が点灯します。

マルチメディア画面 5 からの警告の有効化、無効化



警告を有効化または無効化にするには、マルチメディア画面の指示に従ってください。

「ON」または「OFF」を選択します。

システム作動時間の制限

次のような特定の条件により、システムの動作が妨げられる場合があります。

- 特定の種類のメガネを着用しているとき。

- カメラが部分的にでも遮られている場合。

運転時の補助機能

- ドライバーの顔の一部が隠されている場合（髪の毛、帽子、サージカルマスク、スカーフなどによって）。
- カメラが顔を適切に分析できない可能性のある不適切な運転位置（座り心が低すぎる、後ろに傾くなど）。
- ...

このような状況では、システムは警告をトリガーしないか、時期尚早または誤った警告をトリガーする可能性があります。

作動異常

システムが機能に異常を検出すると、メッセージ「アテンションモニター要点検」が表示され、車両によっては、メッセージ「アテンションモニター作動不可 表情が認識できません」と

 表示灯がインストルメントパネルに表示されます。

カメラが清浄であることを確認するか、フェイスカバーアクセサリを取り外します。正しく着席していることを確認してください。

不具合が直らない場合は、ルノー指定サービス工場にお問い合わせください。

ドライバーに対する疲労警告

はじめに



この機能は、疲労のリスクがある場合に運転時の安全性を補助するものです。この機能が車両を操舵することはありません。この機能は、どのような状況でも、ドライバーが走行中に果たすべき責任を軽減するものではありません。ドライバーは、システムからの指示にかかわらず、常に周囲の状況を踏まえて運転しなければなりません。



このシステムは、車内カメラ 1 を使用してドライバーの顔の挙動を分析し、ドライバーが居眠りする危険性がある場合は警告を発します。

注意：システムは画像を記録せず、リアルタイムで動作します。

カメラの位置 1

dカメラに視界を妨げるもの（汚物、泥など）が付着していないか、または覆われていないか確認してください。

運転時の補助機能

作動

(i) このシステムはドライバーの注意を継続的に監視し、走行中にいくつかの警告を発することができます。

(i) エンジンを始動するたびに、またはドライバーを変更するたびに、数分後にシステム設定がリセットされます。



以下の場合、機能は作動する準備がでています：

- 車両が最後に停止してから数分が経過した場合。

- 車速が約 20 km/h を超えている場合。

疲労や注意散漫の危険が生じている場合は、「休憩をとりましょう」というメッセージがインストルメントパネル**2** 上に表示され、ビープ音が鳴ります。

ドライバーが眠りに落ちると、ビープ音とともにインストルメントパネルに「疲労アラート 休憩を入れてください」メッセージが表示されます**2**。なるべく早く停車して休息してください。

スイッチ**3 OK**を、警告灯がインストルメントパネル上に表示されるまで押します。メッセージ削除後も、システムは、ドライバーの疲労状況の監視を継続し、必要に応じて新たな警告を行います。

ON/OFF



安全のために、この操作は必ず停止時に行ってください。

(i) 車両や、直前のエンジン停止以降の経過時間によっては、次の場合に警告が再び有効化されます。

- 車両のロックが解除された場合。

または

- ドアが開けられた場合。

または

- エンジンが始動された場合。

(i) 車両によっては、警告を無効化できない場合があります。

車両に応じて、警告は以下を使用して有効または無効にできます。

- 「My Safety」ボタン、
- マルチメディア画面。

運転時の補助機能

4 「My Safety」ボタンを用いた警告の有効化および無効化



「My Safety」機能→186の「Perso」モードより警告を非作動または作動にすることができます。

過去に「Perso」モードを用いて警告を無効化したことがある場合:

- 警告を無効化するには、ボタン 4 を2回連続で押します。ボタン 4 上の表示灯が消灯します。

- 警告を有効化するには、ボタン 4 を1回押します。ボタン 4 上の表示灯が点灯します。

マルチメディア画面 5 からの警告の有効化、無効化



警告を有効化または無効化にするには、マルチメディア画面の指示に従ってください。

「ON」または「OFF」を選択します。

システム作動時間の制限

次のような特定の条件により、システムの動作が妨げられる場合があります。

- 特定の種類のメガネを着用しているとき。
- カメラが部分的にでも遮られている場合。

- ドライバーの顔の一部が隠されている場合（髪の毛、帽子、サージカルマスク、スカーフなどによって）。

- カメラが顔を適切に分析できない可能性のある不適切な運転位置（座り心が低すぎる、後ろに傾くなど）。

- ...

このような状況では、システムは警告をトリガーしないか、時期尚早または誤った警告をトリガーする可能性があります。

作動異常

システムが機能に異常を検出すると、メッセージ「アテンションモニター要点検」が表示され、車両によっては、メッセージ「アテンションモニター作動不可 表情が認識できません」と

表示灯がインストルメントパネルに表示されます。

カメラが清浄であることを確認するか、フェイスカバーアクセサリを取り外します。正しく着席していることを確認してください。

不具合が直らない場合は、ルノー指定サービス工場にお問い合わせください。

運転時の補助機能

道路標識の検出



システムは、検出した、道路脇にある制限速度標識の内容に従ってインストルメントパネル上に制限速度を表示します。

このシステムは、主に、リアビューミラー背後のフロントウィンドウに取り付けられたカメラ 1 が提供する情報を使用します。国により、システムは、地図から得られる情報も併用して、特定の標識（市街地の入口を示す標識など）を解釈します。

システムが道路標識を検出すると、インストルメントパネル上に表示される標識も変化します。

速度リミッタまたはアダプティブクルーズコントロールを有効化すると、制限速度設定値を、システム (→ 228

および → 232) が用いる値としてインストルメントパネル上に表示される制限速度に調整できます。

検出制限速度を超過すると、その旨をドライバーに知らせるため、インストルメントパネルに表示される道路標識が変わります。

カメラの位置 1

フロントウィンドウが汚れや泥、雪、結露などでふさがっていないか確認してください。

注意事項

地図サブスクリプション契約のある車両の場合:

- 走行国と車両の速度単位が異なる場合、システムは、走行国の速度単位で制限速度標識を表示し、車両のインストルメントパネルには、走行国の単位に変換された制限速度を表示します。

- 路面状況の変化を理由に雨天時には制限速度が低くなる国を走行する場合、システムは、フロントウィンドウワイパーの作動から数秒後に検出制限速度表示を変更する場合があります。

作動

警告灯



この機能は、次の警告灯を表示します。

2. 速度制限標識および追加速度制限標識（矢印付き出口ランプの速度、キャラバンでの速度、適用時間の制限速度など）

3. 追加的道路標識（オーバーキングゾーンの開始）。

検出制限速度を超えると、ドライバーへの警告のため、道路標識円周部が点滅（警告灯 2）し、車両によっては、ビープ音が数秒間鳴ります。

このインストルメントパネル上での点滅は、車速が制限速度を超えている限り続けます。

運転時の補助機能

3



地図サブスクリプション契約

道路標識検出機能は、地図サブスクリプション契約対象の地図と連動します。

サブスクリプションを管理するには、マルチメディアの説明書を参照してください。

サブスクリプションがない場合、システムは、カメラによって検出された制限速度標識を考慮して制限されます。

この場合システムは、地図に関する情報を考慮しません。速度制限の可用性が影響を受ける可能性があります。

ON/OFF



安全のために、この操作は必ず停止時に行ってください。



直前のエンジン停止以降の経過時間に応じて、次の場合に警告音が再び有効化されます。

- 車両のロックが解除された場合。
- または
- ドアが開けられた場合。
- または
- エンジンが再始動された場合。

4 「My Safety」ボタンを用いた速度超過警告音の有効化、無効化



この警告音は、「My Safety」機能内の「Perso」モードを用いることで無効化または有効化できます→186。

過去に「Perso」モードを用いて警告音を無効化したことのある場合:

- 警告音を無効化するには、ボタン4を2回連続で押します。ボタン4上の表示灯が消灯します。
- 警告音を再び有効化するには、ボタン4を1回押します。ボタン4上の表示灯が点灯します。

マルチメディア画面5からの速度超過警告音の有効化、無効化



警告音を有効化または無効化にするには、マルチメディア画面の指示に従ってください。

「ON」または「OFF」を選択します。

運転時の補助機能

制限速度または設定速度の変動 (車種によります)



スピードリミッタまたはアダプティブクルーズコントロールの設定値を、検出された制限速度に合わせるには、スイッチ 6 を短押しし、車速を、直近の検出制限速度標識に示されている制限速度に調整します。

注: 地図サブスクリプションのある車両では、検出された制限速度標識に示されている新しい制限ごとに車両の速度を自動的に調整できます。これを行うためには、スイッチ 6 を約6秒間長押しします。

一時的に使用不可

カメラや地図データに関する理由でシステムを使用できない場合、 記号（車両によっては黄色の 記号）がインストルメントパネル上に表示されます。不具合が直らない場合は、ルノー指定サービス工場にお問い合わせください。

以下の場合にシステムは制限速度を検知できません。

- フロントウインドウが汚れている
- カメラが日射で機能しなくなっている
- 視界が不十分な場合（霧発生時など）。
- 標識を判読できない（雪など）または隠れている（別の車両または樹木などによって）
- 地図情報が最新でない場合。

注: フロントカメラの視界を妨げるものがあると、「フロントカメラ 映像なし」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。この場合は、カメラ前方のフロントガラス部分を清掃してください。

作動異常

システムが作動不良を検出すると、

(車両によっては黄色の 記号)

記号）がインストルメントパネル上に表示されます。

場合によっては、以下のメッセージが表示されます。

- « ドライブアシスト 操作不可 »；または
- « フロントカメラを 点検してください »；または
- « ドライブアシスト 要確認 ». メーカーにお問い合わせください。

運転時の補助機能

警告



このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、車両を常時コントロールする責任があるドライバーに代わって注意するものではなく、補助的に注意喚起するのもです。

ドライバーは、システムの指示に関係なく、常に交通状況に応じて車速を調整する必要があります。

システムは、すべての制限速度標識を検出しないか、誤って解釈することがあります。

ドライバーは、システムが未検出の道路標識を無視してはならず、実際の道路標識や道路交通法に沿った走行を優先しなければなりません。

視界が悪い場合（霧、雪、霜など）は、システムが正しい車速をドライバーに通知できない場合があります。

運転時の補助機能

リバースギアでのエマージェンシーブレーキアシスト

はじめに



「駐車アシスト」→ 275 機能に加え、車両の後部にある 4 つの中央センサーからの情報を用いて作動するシステムが、車両後方にある固定物を検出します。衝突の重大なリスクがある場合、システムは自動的に車両にブレーキをかけます。

注: 車両の後部にある 4 つの中央センサーにその妨げとなるもの（汚物、泥、雪など）がないか確認してください。

作動



リア固定障害物の検出

シフトレバーが「後進」位置で、4 km/h から 8 km/h での走行中に、固定の物体と衝突する危険が生じている場合、システムは、**自動的に車両にブレーキをかけます。**

視覚的なフィードバック 2 がマルチメディア画面 1 に表示され、ビープ音が鳴ります。

車両が停止したら、ブレーキペダルを踏み込んだままドライバーが車両を静止させる必要があります。



このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、車両を常時コントロールする責任があるドライバーに代わって注意するものではなく、補助的に注意喚起するものです。



操作時にサブフレームに衝撃があった場合（縁石、歩道またはその他の市街地設備との接触など）車両を損傷した恐れがあります（リアアクスルの変形など）。放置すると事故が起こるおそれがあるので、指定サービス工場で点検を受けてください。

運転時の補助機能

システムの作動／解除



マルチメディア画面 1 を介してこの機能を有効化または無効化するには、「車両」領域 > 「運転アシスト」> 「パーキング」の順に選択します。リアアクティブエマージェンシーブレーキを有効化します。

この機能が無効化されると、マルチメディア画面上に 3 OFF 警告灯が表示されます。

作動異常

システムが動作障害を検出すると、リバースギアのアクティブな緊急ブレーキが自動的に非アクティブになります。

機能不良の種類に応じて、マルチメ

ディア画面上に 3 OFF 警告灯が表示され、インストルメントパネル上に次のメッセージが表示されます。

- « PKセンサー 使用不可 »；

または

- « パーキングセンサー 点検 »；

または

- « ドライブアシスト 操作不可 »；

または

- « ドライブアシスト 要確認 »。

超音波センサを清掃します。不具合が直らない場合は、ルノー指定サービス工場にお問い合わせください。



時のアクティブ非常ブレーキ機能が自動的に無効化され、「トレーラー：パーキングセンサー使用不可」というメッセージインストルメントパネル上

に、警告灯 3 OFF がマルチメディア画面上に表示されます。

運転時の補助機能

警告



リバースギアでのエマージェンシーブレーキアシスト

このシステムは運転時の安全性を補助するもので、したがって運転されるときは、お客様の責任において慎重に運転しなければならないことを忘れないでください。

気候や環境条件によっては、システムが破壊されたり、損傷したりする可能性があります。したがって、ドライバーは常に集中して細心の注意を払って運転する必要があります: 車両の付近に子供、動物、ベビーカー、自転車、石、柱などがいることを確認します。

この機能の起動は、システムがドライバーによる車両の制御の明確な兆候（ハンドル、ペダルなどに対するアクション）を検出したときに遅延または防止される可能性があります。

システムサービス / 修理

- 衝撃が発生した場合、リアセンサーとその性能に影響を与える可能性があります。機能を解除して、正規サービス工場に連絡してください。

- センサーのある場所の作業（修理、交換、バンパの変更など）は、資格を持つ専門スタッフが行う必要があります。

指定サービス工場のみがシステムを修理することができます。

機能の作動解除

車両が牽引されている場合（故障回復）、または車両にシステムで認識されないけん引装置が取り付けられている場合は、機能を無効にする必要があります。

システムの動作が異常な場合は、システムの作動を解除して、正規ディーラーまでご連絡ください。

スピードリミッター

はじめに

スピードリミスター機能は、選択した走行速度（制限速度）を超えないように、エンジンとブレーキシステムを制御します。

速度リミッタ機能による制限速度は、0 km/h から設定できます。

i Saveモードが有効な間は、制限速度を、Save ➔ 171モードにおける最高速度を超える速度にできません。

制御



1. 車両に応じて異なる、次の運転支援機能の選択／選択解除スイッチ。

- Active driver assist、
- アダプティブクルーズコントロール。
- スピードリミッター、
- OFF.

2. 機能をスタンバイ状態にし、制限速度を記憶できます (0)。

3. 記憶制限速度を呼び出せます (RES)。

4.

– 上方向: 有効化、制限速度上降または現在速度の記憶を行えます (SET/+)

– 下: 制限速度を有効にして下げるか、または現在の速度を保存します (SET/-)。

5. ポップアップボタン（車両により異なります）: 検出された制限速度に合

わせて速度設定を調整します ➔ 221。

i 車両によっては、スイッチ 5 を押すことで、スピードリミッター機能を「道路標識検出」機能 ➔ 221 と連動させることができます。

車両によっては、イグニッションスイッチを OFF にする前の段階で「OFF」モードが選択されていると、次の車両始動時に「速度リミッタ」機能がデフォルトで有効化されます。

発進する

制限速度が設定されているがまだ到達していないときは、速度制限機能を持たない車両を運転すること同様です。

保存された速度に達すると、必要な場合を除き、アクセルペダルを踏んでもプログラムされた速度を超えることはできません ➔ 229。

作動



スピードリミッター

速度リミッターの選択に必要な回数だけスイッチ 1 を押します。

警告灯 6 が灰色表示されます。スピードリミッタ機能が有効化され、制限速度の記憶待ち状態になると、その証として、「スピードリミッター実行」というメッセージがインストルメントパネル上に表示され、破線表示も表れます。

注: 車両によっては、直近の車両停止時に機能 6 またはOFFが選択されていた場合、車両発進時に速度リミッタが自動的に選択されます。

現在の速度を記憶するには、スイッチ 4 を上方向 (SET/+) または下方向 (SET/-) に押します。ダッシュが制限速度に変わり、警告灯 6 が白色点灯します。

記憶できる巡航速度の下限は 20 km/h です。

設定速度の変更



制限速度は、制御装置 4を次のように繰り返し押すか単純に押すことで変更できます。

- (SET/+) 側は、設定速度を上げます。
- (SET/-) 側は、設定速度を下げます。

制限速度標識認識機能付き自動速度リミッター

カメラ、「道路標識検出」機能 → 221 および地図を使用して作動するこのシステムは、速度制限道路標識を識別し、標識を通過すると、車速を自動的に制限します。

ON/OFF

マルチメディア画面の「車両」ワールドで「運転アシスト」を選択します。次に、「コンフォート」タブから「適応速度リミッター」または「適応性がある速度の振幅制限器および巡航制御*」(車両装備に応じて異なります)を選択します。

注: 有効化／無効化は、ポップアップ 5 を押し続ける方法でも実行できます。

設定速度を超えて加速させる

次の操作を行うといつでも設定速度を超えることができます：これを行うには、アクセルペダルを一番奥まで（抵抗点より奥まで）しっかりと踏み込みます。

制限速度を超えると、インストルメントパネル上の制限速度灯が黄色点滅します。

次に、アクセルペダルを放します。走行速度がメモリーされている制限速度以下の速度になると、スピードリミッターの機能と表示は元の状態に戻ります。

注: 車両によっては、アクセルペダルを抵抗点に近い位置まで踏み込むことで、制限速度を超えることもできます。この方法で制限速度を超過すると、ビープ音が鳴ることに加え、警告がインストルメントパネル上に表示されます。

スピードリミッター



緊急事態に備え足をペダルの近くに置く必要があります。



(何度有効化を試しても) 速度リミッターを使用できない場合は、正規ディーラーにご連絡ください。

機能のスタンバイ



速度リミッタ機能は、スイッチ 2 を押すと一時停止します (0)。

限界速度はインストルメントパネルに灰色で表示されて保存されます。

設定速度の呼び出し

速度が記憶されているれば、3 スイッチを押すことでその速度を呼び出せます。



速度リミッタがスタンバイに設定されている状態で制御装置 4 を押し上げるか押し下げる、記憶速度とは無関係に機能が再び有効化されます。この場合には、そのときの走行速度が設定速度になります。

クルーズコントロールの停止

6



スピードリミッタ機能は、スイッチ 1 を押してその選択を解除すると一時停止します。この場合、先ほどのメモリースピードはすでに消去されています。

機能が停止したことを示すため、警告灯 6 がインストルメントパネルから消えます。

スピードリミッター

3

- i** 運転支援機能を OFF にするには、必要な回数だけスイッチ**1**を押します。「運転支援解除」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。
この場合、車両によっては、次のエンジン始動時に「速度リミッタ」機能が有効化され、制限速度記憶待機状態となります。

STOP AND GOアダプティブクルーズコントロール

はじめに

レーダーまたはカメラの情報に基づいて、Stop and Go アダプティブクルーズコントロール機能を使用すると、同じ車線の前方の車両から安全な距離を保ちながら、選択した速度（航続速度）を維持することができます。

車両によっては、「道路標識検出」機能が有効化 ➔ 221 されている場合、システムは、カメラが検出する制限速度標識に応じて車速を調整できます。

国に応じて、カメラと地図を使用して、状況と道路の事故（周辺道路、曲がり角、次の標識、または制限速度ゾーン）に応じて車速を事前に調整します。

車両が停止している場合、Stop and Go 適応クルーズコントロールは、車両を完全に停止させてから再度オフにすることができます。

システムは、エンジンとブレーキシステムを使用して、車両の加速および減速を制御します。

システムの最大カバー距離は約 130 メートルです。これは、道路の状況（地面の起伏、気象条件など）によって異なる場合があります。

Stop and Goアダプティブクルーズコントロール機能は、走行路の状況（交通、気象など）に応じて、0 km/h以上の速度で有効化できます。

この機能は  記号で示されます。

注：

— ドライバーは、運転国の速度制限と安全車間距離を守らねばなりません。
— アダプティブクルーズコントロールでは、ブレーキング能力の最大約 1/3 の強度でブレーキをかけることができます。状況によっては、ドライバーはより強くブレーキをかける必要があります。

 Saveモードが有効な間は、巡航速度を、Save ➔ 171 モードにおける最高速度を超える速度にできません。

 クルーズコントロールまたはアダプティブクルーズコントロール機能の作動中は、回生ブレーキシステムと回生ブレーキ制御を使用できません。

 Stop and Go 適応クルーズコントロールは、緊急停止をトリガーせず、ブレーキ機能が制限されています。



このシステムは運転時の安全性を補助するもので、

いかなる場合でも、制限速度と安全距離を尊重し、警戒することは、ドライバーの責任です。

運転者は常に車両を制御する必要があります。

運転者は、周囲および交通状況に応じて常に速度を調整する必要があります。

Stop and Go アダプティブクルーズコントロール機能は、市街地以外の道路や、車線を視認できる広い道路でお使いください。

交通渋滞時、曲がりくねった道や滑りやすい路面（凍結、ハイドロブレーニング、砂利）、天候不良時（霧、雨、横なぐりの雨など）では、クルーズコントロールの操作が制限される場合があります。

事故の恐れがあります。

STOP AND GOアダプティブクルーズコントロール

カメラの位置 1



フロントウインドウのレンズが汚れや泥、雪などでふさがっていないか確認してください。

レーダーの位置 2

レーダー保護プレートが、車両の前面に取り付けられたアクセサリー（グリルやロゴなど）によって遮られたり、衝撃、修正（塗装を含む）、泥、泥、雪、前部ナンバープレートの取り付け不良によって隠されていないことを確認してください。

制御



3. 車両に応じて異なる、次の運転支援機能の選択／選択解除スイッチ。

- Active driver assist、
- アダプティブクルーズコントロール。
- スピードリミッター、
- OFF。

4. (巡航速度が記憶された状態で) 機能をスタンバイ状態にできます (0)。

5. 記憶巡航速度を呼び出すことができます (RES)。

6.

- 上方向: 有効化、巡航速度上昇または現在速度の記憶が可能です (SET/+)

- 下方向: 有効化、巡航速度下降または現在速度の記憶が可能です (SET/-)。

7. ポップアップボタン（車両により異なります）: 検出された制限速度に合わせて速度設定を調整します → 221。

8. 車間距離の調整。

i 車両によっては、スイッチ 7 を押すことで、クルーズコントロール機能を「道路標識検出」機能 → 221 と連動させることができます。

車両によっては、イグニッションスイッチを OFF にする前の段階で「OFF」モードが選択されていると、次の車両始動時に「速度リミッタ」機能がデフォルトで有効化されます。

STOP AND GOアダプティブクルーズコントロール

3



システムの正常な動作を保証するためには、レーダーゾーンとカメラゾーンを清潔に保ち、改変されないようにする必要があります。



重要: すべてのイベントに備えて、常にペダルの近くに足を近づけてください。

表示



9. Stop and Go 適応クルーズコントロール警告灯。
10. 保存された設定速度。
11. 前方の車両。
12. 保存された安全車間距離

作動



13 にてアダプティブクルーズコントロールを選択するには、スイッチ 3 を押します。警告灯 9 が灰色表示されます。クルーズコントロール機能が作動し、巡航速度の記憶待機中であることを示すため、「アダプティブクルーズコントロールを実行」というメッセージが、ダッシュとともにインストルメントパネル上に表示されます。

注: 車両によっては、直近の車両停止時に機能 13 またはOFFが選択されていた場合、車両発進時に速度リミッタが自動的に選択されます。

以下の場合は、この機能を有効にすることはできません:

- パーキングブレーキがかかっている
- 運転席のシートベルトが着用されていない場合。
- 1つ以上のドアが正しく閉じられていない場合。
- 「ハンズフリー駐車」機能がすでに有効化されている場合。

「ACC利用不可」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。

設定速度の設定

静止中か一定速度での走行中に 6 を上方向 (SET/+) または下方向 (SET/-) に押すと、機能が有効化され、現在の速度が記憶されます。

設定できる巡航速度の下限は 20 km/h です。

設定すると、破線が巡航速度 10 に置き換わり、緑色の巡航速度表示と警告灯 9 によりクルーズコントロールの作動が示されます。

車両の最高速度を超える速度に機能を設定しようとすると、「無効な速度」メッセージが表示され、機能は無効のままになります。

STOP AND GOアダプティブクルーズコントロール

設定速度がメモリーされ、システムが作動しているとき、足をアクセルペダルから放すことができます。

注: 車速が約 20 km / h 未満の場合、この機能はデフォルトの巡航速度 20 km / h を使用します。車両は、保存された設定速度に達するまで加速します。

速度制限標識認識機能を備えたクルーズコントロールの有効化（表示 A）

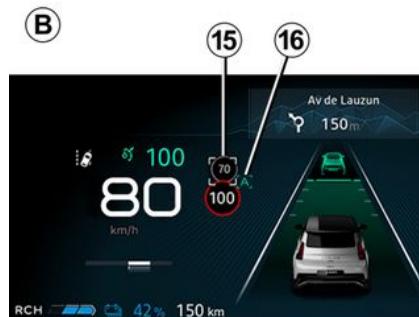


(車種によります)

「道路標識検出」機能 → 221 装備車両で、車速を、カメラが検出した制限速度 14 にするには、ポップアップボタン 7 を押します。

該当標識を通過すると、巡航速度 **10** が、検出速度 **14** になります。

高度な速度制限標識認識機能を備えたクルーズコントロールの有効化（表示 B）



カメラ、「道路標識検出」機能 → 221 および地図を使用して作動するこのシステムは、次の標識 **15** が検出されるまで、車速の自動調整に必要な予測を行います。

ON/OFF

マルチメディア画面の「車両」ワールドで「運転アシスト」を選択します。次に、「コンフォート」タブから「制限速度アダプティブクルーズコントロール」を選択します。

クルーズコントロールと制限速度標識事前認識機能が起動すると、その証として A」文字 **16** がインストルメントパネルに表示されます。



注：

- 機能は、ポップアップボタン 7 を押し続ける方法でも有効化／無効化できます。
- 状況（車速と検出された制限速度に大きな開きがある状況など）によっては、システムがドライバーに対し、ポップアップボタン 7 を押して速度を手動で検証するよう求める場合があります。この場合には、そのことについてドライバーに知らせるための白色の四角 **17** が、表示速度の周りに表示されます。

STOP AND GOアダプティブクルーズコントロール

作動

機能が有効になり、以下の速度がインストルメントパネルに表示されます：

- 巡航速度 **10**。
- システムが検出した、車両が走行中の道路区間における現在の制限速度 **14**。
- システムが検出した、次の道路区間または制限速度ゾーンにおける速度 **15**。

検出速度 **15** はシステムが考慮します。車速は、ドライバーが操作しなくとも、巡航速度 **10** に達するまで徐々に調整されます。制限速度標識またはゾーンが特定されると、**15** に標示されている速度が **14** に表示されます。

ドライバーは、システムによって適用される速度に常に注意を払い、車速に責任を持つ必要があります。

この機能が有効化されていないと、速度制限標識認識機能（表示 **A**）により巡航速度が設定される作動と同じ作動になります。

高度な道路配置認識機能を備えたクルーズコントロールの有効化（表示 **C**）



カメラ、「道路標識検出」→**221**機能および地図を使用して作動するこのシステムは、車両が環状交差点やカーブに差しかかると、巡航速度 **10** の自動調整に必要な予測および管理を行います。

ON/OFF

マルチメディア画面の「車両」ワールドで「運転アシスト」を選択します。次に、「コンフォート」タブから「状況に応じた適応型クルーズコントロール*」を選択します。

「規制適応」メニューで「道路状況へ」を選択します。

作動

状態が検出されると、インストルメントパネルに記号 **18** が表示されて通知します。その後、車両は自動的に速度を調整し、検出されたエリアに近づきます。

その状態がなくなると、車両は巡航速度 **10** に戻ります。

ドライバーは、システムによって適用される速度に常に注意を払い、車速に責任を持つ必要があります。

この機能が有効化されていないと、速度制限標識認識機能（表示 **A**）により巡航速度が設定される作動（高度な速度制限標識認識機能（表示 **B**）により巡航速度が自動的に設定される作動）と同じ作動になります。

以下の記号は、システムが考慮する運転状況を示しています。

- (環状交差点)。
- (曲がり角)。
- 速度制限。
- 方向指示灯が作動したとき：
- (地理的エリアによっては終了)。

STOP AND GOアダプティブクルーズコントロール

注：

- 制限速度標識認識（ディスプレイ A）を備えたクルーズコントロールモードでは、ドライバーが白い四角で提案された新しい制限速度を手動で検証しない場合、運転状況が過ぎると、車両は自動的に最初の巡航速度に戻ります。
- 言及されたイベントのみが考慮されます。その他のイベント（停止または道譲り、斜面、通行料など）は考慮されません。

事象および交通予測アラート

（車種によります）



リアルタイムの交通情報を使用して、ルート上で検出された交通危険をシステムが警告します。警告灯 19 が点灯

し、インストルメントパネルにメッセージが表示され、ビープ音が鳴ります。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

ON/OFF

マルチメディア画面の「車両」ワールドで「運転アシスト」を選択します。次に、「コンフォート」メニューから「予測イベントとトラフィックアラート」を選択します。

作動

サブスクリプションおよび／または地理的エリアに応じて、車両は次の動的イベントを考慮し、必要に応じて速度を自動的に調整します。



（交通量が多い場合）。

注：イベントの検出の信頼性が低い場合、システムは「交通量が多い」メッセージでドライバーに警告するだけです。

サブスクリプションや地理的エリアによっては、次のイベントの存在についてユーザーに警告しますが、巡航速度には影響しません。



（道路工事）。



（事故）。



（車両を停止）。

注：交通量の多い、道路工事、事故、静止した車両は動的なイベントであり、位置の精度が低い場合があります。

ドライバーは、システムによって適用される速度に常に注意を払い、車速に責任を持つ必要があります。

設定速度を設定する

巡航速度を変更するには、制御装置 6 を、次の方向に繰り返し（小さな変更の場合）押すかを押し続け（大きな変更の場合）ます。

- 下方向：（SET/-）減速する場合。
- 上方向：（SET/+）加速する場合。

安全車間距離制御の作動

クルーズコントロールが有効化されるとすぐに、既定の安全車間距離 12 がインストルメントパネル上に緑色表示されます。

システムが、自車線内で他車両を検出すると、その車両 11 の概要が、インストルメントパネル上の距離計 12 上に表示されます。

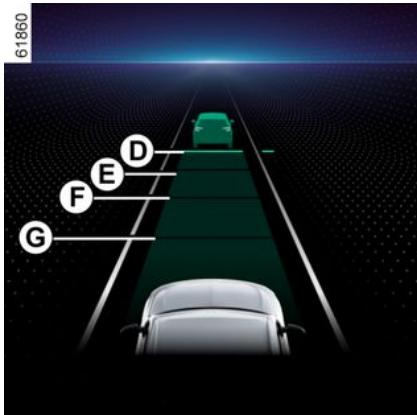
車両は、前方の車両の速度に合わせて、インストルメントパネルに表示されている距離を維持するために、必要に応じてブレーキをかけます（ブレーキランプが点灯します）。

STOP AND GOアダプティブクルーズコントロール

注: 輪郭 **11** のサイズは、自車両と前方車両の距離に応じて変動します。外形が大きいほど、前方の車両が近い。

車間距離の調整

車両前方の安全車間距離は、スイッチ **8** を繰り返し押すことであっても変更できます。



インストルメントパネルの水平距離ゲージは、さまざまな安全車間距離を示しています。

- 車間距離計 **D**: 長距離（約 2.4 秒の車間時間に相当）。
- 車間距離計 **E**: 中間距離 2（約 2 秒の車間時間に相当）。
- 車間距離計 **F**: 中間距離 1（約 1.6 秒の車間時間に相当）。

- 車間距離計 **G**: 短距離（約 1.2 秒の車間時間に相当）。

選択した距離ゲージは、インストルメントパネルに緑で表示されます。他のゲージはグレーのままでです。

注: 車間距離は、交通レベル、ローカル規制、気象条件に応じて設定する必要があります。

i 車間距離は、既定車間距離計 **E** をもとに安全車間距離に調整します。

設定速度を超えて加速させる

アクセルペダルを踏めば、いつでも加速することができます。

超過すると、巡航速度 **10** が黄色表示されます。

「車間距離制御」機能は、ドライバーがアクセルペダルを踏むと停止します。

次に、アクセルペダルを放します：クルーズコントロールと安全車間距離制御は、以前に選択した速度と距離の指示を自動的に再開します。

追い越し操作

前方車両を追い越したい場合、車速が 70 km/h を超えていれば、方向指示灯を使うことで、前方車両との車間距

離が一時的に短縮され、追い越しやすくなるための加速が行われます。

方向指示器を使用した車線変更時のブレーキの予測

低速車両がすでに存在する隣接車線に移動したい場合：方向指示器を作動させると、車線変更操作を開始する前に、システムはその車両の速度に合わせて速度を調整し始めます。

不正な追い越しの防止

車両の速度が約 60 km/h を超える場合、隣接する車線にある車両に近づいた場合、システムは右側（または地域の規制によっては左側）での不正追い越しを防止できます。

この場合、追い越しを防ぐためにシステムが自動的に速度を調整します。

ただし、アクセルペダルを軽く踏むと、この機能を一時的に無効にして巡航速度に戻ることができます。

注: システムは、お住まいの国の現地の規制に適応します（右側通行または左側通行）。

車両の停止とオフの設定

フロントの車両が減速すると、システムは速度を調整し、必要に応じて（交通量が多い場合など）車両を完全に停止させます。車両は前方の車両の数メートル前で停車します。

STOP AND GOアダプティブクルーズコントロール

フロントで車両を再びオフにした場合:

- 停止が 30 秒未満続く場合、車両はドライバーの操作なしで再び始動します。

注: ドライバーには、運転中に突然起こる出来事に備え、車両を制御する責任があります。このシステムは、車両周辺部にて歩行者の存在を検出した場合、次に停止するまでは自動再始動を抑制します。

- 停止時間が約 30 秒を超えた場合、車両の再発進には次のいずれかの操作が必要となります。

 - アクセルペダルを踏みます。

または

 - ボタン 5 (RES) を 1 回押します。

確認の「ACC再開には RES押し or アクセルペダル」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。

停止が約3分間以上続くと、アシストパーキングブレーキが自動的にかかり、Stop and Goアダプティブクルーズコントロールが無効になります。

機能が無効化されると、その証として、警告灯 9 が消えます。

機能のスタンバイ

以下を行うと機能が一時停止します:

- スイッチ 4 を押す (0)。

- 車両が動いているときにブレーキペダルを踏む。

この機能は、次の場合にシステムによって作動解除されます。

- シフトレバーを R または N 位置にします。
- 運転席のシートベルトを外す。
- 開閉部の 1 つを開く
- エンジン始動／停止ボタンを押す
- 勾配が急すぎる
- 特定のドライビングアシストおよび補正デバイスが作動しているABS (アクティブ緊急ブレーキング、ESCなど)

注: 車両によっては、接続されたデータの受信が最適ではない場合、システムは自動的に事前速度制限標識認識および / または道路レイアウト機能の事前認識をスタンバイ状態にします。

接続されたデータの受信が再び最適になると、2 つの機能が自動的に再起動されます。

どの場合でも、スタンバイになると、警告灯が灰色表示され、「ACC 休止」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。



Stop and Go 適応クルーズコントロールをスタンバイにしたりオフにしたりしても、スピードが急激に低下することはありません。必要に応じてブレーキペダルを踏んでブレーキをかける必要があります。

スタンバイの解除

保存されているクルージング速度に基づいて

設定速度がメモリーされている場合は、交通条件（交通量、車道の状態、気象条件など）が適切であることを確認してから設定速度を呼び出すことができます。有効な速度範囲内で速度を調整するには、ボタン 5 (RES) を押します。

メモリーされた速度の呼び出し中には設定速度が緑で点灯し、クルーズコントロールの作動を確認することができます。

注意: メモリーされている速度が現在の走行速度よりもはるかに高い場合は、車両はその速度に達するまで急な加速を続けます。

現在の速度に基づいて

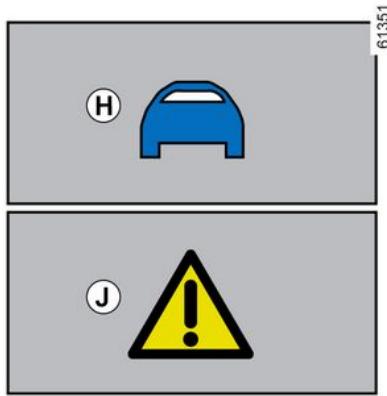
クルーズコントロールがスタンバイ状態のときにスイッチ 6 を上方向

STOP AND GOアダプティブクルーズコントロール

(SET+) または下方向 (SET-) に押すと、クルーズコントロール機能は、記憶速度とは無関係に再作動します。この場合、その時点での速度が巡航速度になります。

3

「車両の制御を取る」警告



状況（極端に速度の遅い車両に遭遇した、前方車両が急に車線変更したなど）によっては、システムが反応時間を確保できない場合があります。

状況に応じて、システムは以下に関連するビープ音を鳴らします。

- 状況に照らしてドライバーへの注意喚起が必要だと考えられる場合にはオレンジ色の警告 H。

または

- 赤色警告 J と「危険 ブレーキ」というメッセージ（状況に照らしてドライバーへの緊急注意喚起が必要だと考えられる場合）。

あらゆる状況に対応し、適切な操作を実行してください。

クルーズコントロールの停止



次の場合には、アダプティブクルーズコントロール Stop and Go 機能の作動が中断されます。

- スイッチ 3を押した場合。

機能が停止したことを見示すため、警告灯 9 がインストルメントパネルから見えます。



運転支援機能を OFF にするには、必要な回数だけスイッチ 3 を押します。「運転支援解除」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。

この場合、車両によっては、次のエンジン始動時に「速度リミッタ」機能が有効化され、制限速度記憶待機状態となります。

一時的に使用不可

レーダー



STOP AND GOアダプティブクルーズコントロール

レーダーは、車両の前方の車両を検出することができます。レーダー検出領域が不明瞭な場合、または信号が中断されている場合、システムが正常に作動することができません。

レーダー検出エリアが遮られたり、レーダー信号が途絶えたりすると、インストルメントパネルに「フロントレーダー作動していません」というメッセージが表示され、Stop and Go アダプティブクルーズコントロール機能が停止します。

機能が自動的に無効化されたことを示すため、緑色の警告灯 9 が消えます。

レーダーエリアがきれいな状態を保ち、雪、泥、取り付け不良のナンバープレート、車両前面（グリル上）に取り付けられているアクセサリーによって妨げられたり、車両前面（グリルや口ゴなど）に取り付けられているアクセサリーによって隠れたりしていないことを確認してください。

特定の地域の条件では、次のような機能が妨げになることがあります。

- 乾燥したゾーン、トンネル、長い橋、または道路のない道路を軽く使用して、標識や樹木が近くにない。

- 軍用または空港ゾーン。

機能を作動させるには、このようなエリアを残しておく必要があります。

すべてのケースで、エンジンを再始動した後にメッセージが消去されない場

合は、指定サービス工場に連絡してください。

カメラ

カメラが汚れ、泥、雪、結露などによって保護されている場合、システムは作動できません。

カメラの視界が狭くなると、「フロントカメラ 映像なし」というメッセージがインストルメントパネル上に表示され、アダプティブクルーズコントロール Stop and Go の性能が低下します。警戒心を持って行います。

作動異常

「アダプティブクルーズコントロール」機能 Stop and Go の作動不良が検出されると、「ドライブアシスト要確認」というメッセージがインストルメントパネル上に表示され、「アダプティブクルーズコントロール」機能 Stop and Go の作動が中断されます。

システムの1つまたは複数のコンポーネントで動作不良が検出された場合、Stop and Go 適応クルーズコントロール機能は無効になります。

故障のタイプに応じて、インストルメントパネルにメッセージが表示されます。

- « ドライブアシスト 操作不可 »;
- « フロントカメラ 映像なし »;
- « フロントカメラを点検してください »;

- « フロントレーダー 作動していません »;
- « フロントレーダーを 点検してください ».

メーカーにお問い合わせください。

システム作動時間の制限

車両検出

システムは、車両と同じ方向に移動する車両（車両、トラック、バイク）のみを検出します。

システムが不適切なまたは遅延制動を引き起こすことがあります。



システムは以下を検出できません。

- 交差点に到着する車両: 滑りやすい路面状況の場合（Kなど）。

STOP AND GOアダプティブクルーズコントロール

- 道路の反対側を運転している、またはこちらに向かって後退している車両。

i アダプティブクルーズコントロール Stop and Go は、市街地の外、ラインが目視できる広い道路で使用する必要があります。

コーナリング時の検出



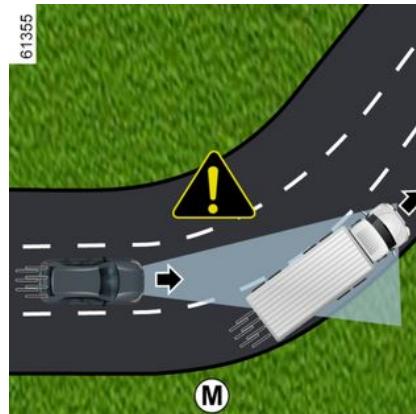
コーナーや曲がり角を検出すると、レーダー／カメラは、一時的に前方車両（Lなど）を検出できなくなることがあります。

システムが加速を引き起こす可能性があります。

カーブがある場合、前方の車両の検知が中断したり、遅れたりする場合があります。

システムが不適切なまたは遅延制動を引き起こすことがあります。

隣接車線の車両の検出



システムは、次の場合に、隣接する車線を走行する車両を検出することがあります。

- 曲がり角に差し掛かった場合（Mなど）。
- 細い車線の道路を走行
- 隣接する車線上の車の速度が遅く、これらの車のうちの1台が他の車線に近すぎる場合。

システムが車両を減速させたり、ブレーキを誤作動させることができます。

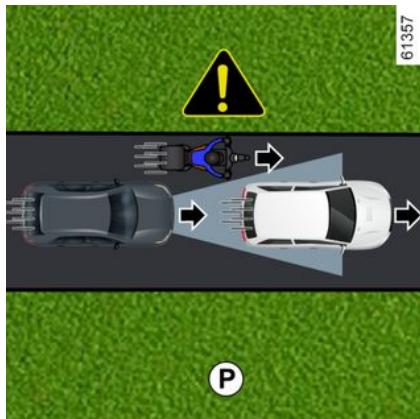


カメラおよびレーダー検出エリア外の車両。

検出された車両がカメラとレーダーの検出領域外にある場合、システムは遅く反応するかまったく反応しません。

- ラインを超える長尺物を輸送する車両
- 背の高い車両の実際の全長部（Nなど）がレーダ検出エリア外まで及ぶような車両（建設機械、農業機械牽引車両など）。

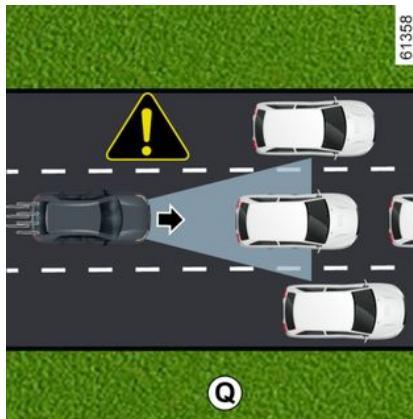
STOP AND GOアダプティブクルーズコントロール



- 車線の中心から外れている車両
- 自車両から非常に近い場所に位置する細長い車両（Pなど）。

地面の起伏の変化による車両の非表示

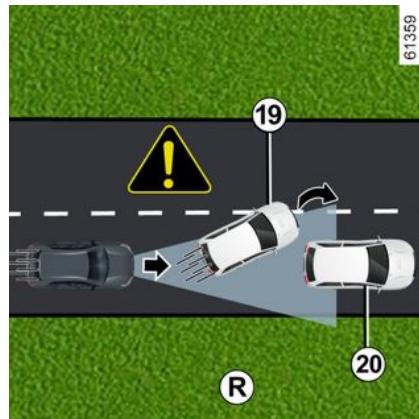
上り坂や下り坂を走行するとき、地面の起伏の変化やカメラやレーダーの検知エリアの外側にある車両が検知されることはありません。



静止／低速で移動している車両

システムは、以下に対して反応しないか、非常に遅れて反応する可能性があります。

- 静止車両（Qなど）。
- 非常に低速で走行している車両。



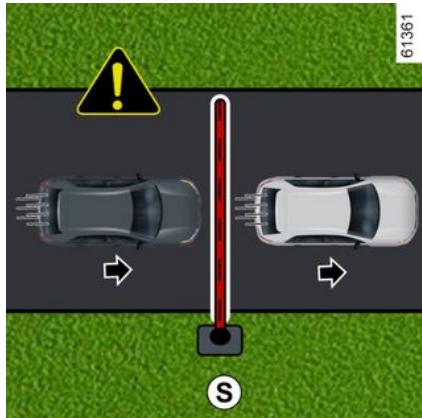
- 前方車両 19 が車線変更中に発見した停止車両 20（Rなど）。

i どんな状況でも対応できるよう、常に準備してください。

運転者は常に車両を制御する必要があります。

Stop and Go 適応クルーズコントロールは、緊急停止をトリガーせず、ブレーキ機能が制限されています。

STOP AND GOアダプティブクルーズコントロール



小さな障害物や小さな障害物の不検出

システムは以下を検出できません。

- 歩行者、バイク、スクーターなど。
- 動物
- 固定障害物（料金所、壁など）（**S**など）。

システムはこれらを考慮しません。システムによる警告や反応は発生しません。

STOP AND GOアダプティブクルーズコントロール

警告



このシステムは運転時の安全性を補助するもので、いかなる場合でも、制限速度と安全距離を尊重し、警戒することは、ドライバーの責任です。

運転者は常に車両を制御する必要があります。

制限速度標識や地図からの道路地図情報（「道路標識検出」機能装備車両）以外の交通情報（信号機、横断歩道など）は、システムにより考慮されません。ドライバーは、システムの指示に関係なく、常に周囲の状況と走行条件に応じて車速を調整する必要があります。

いかなる場合でも、システムを障害物の検知や衝突防止装置として使用することはできません。

Stop and Go アダプティブクルーズコントロール機能は、市街地以外の道路や、車線を視認できる広い道路でお使いください。

システムサービス / 修理

- 衝撃が加わると、レーダーおよび / またはカメラの位置合わせが変更され、その動作が結果として影響を受ける可能性があります。システムを解除して、指定サービス工場に連絡してください。
- レーダー / カメラのある場所の作業（交換、修理、フロントウインドウの変更、塗装など）は、資格を持つ専門スタッフが行う必要があります。

指定サービス工場のみがシステムを修理することができます。

STOP AND GOアダプティブクルーズコントロール



システムの障害

以下に掲げるような環境要素は、システムの作動を妨げたり、システムに損傷を及ぼしたりする恐れがあります。

- フロントウインドウまたはバンパーのレーダー領域に障害物（汚物、氷、雪、結露など）がある。
- 複雑な環境（トンネルなど）。
- 悪天候（降雪、豪雨、雹、路面凍結など）。
- 視界不良（夜間、濃霧など）。
- 眩惑（逆光、反対車線走行中の対向車両のヘッドライトなど）。
- 道路が狭い場合、曲がりくねった道路の場合、起伏のある道路の場合（急カーブがあるなど）。
- 速度に著しい差がある車両、
- 車両に適合していないマットの使用。運転席側は、車両に適合したフロアマットのみを必ず使用し、あらかじめ装備されたペーツにしっかりと固定されているか定期的に確認してください。複数のマットを余分においてはいけません。**ペダルの動作を妨げる危険があります。**

この場合、システムがブレーキをかけるか、意図せずに加速する場合があります。

予期しない状況の多くがシステムの動作に影響を与える可能性があります。カメラまたはレーダー探知ゾーンに現れる可能性のある特定の物体または車両は、システムによって誤って解釈され、不適切な加速または制動につながる可能性があります。

運転中に起こる可能性のある突然の出来事には常に注意を払う必要があります。どのような場合でも行動できるように、常に足をペダルの近くに置いて、車両を制御し続けてください。

STOP AND GOアダプティブクルーズコントロール



機能の作動解除

次の場合にはこの機能を無効化してください。

- 車両の牽引（分解）。
- 車両がトレーラーまたはキャラバンを牽引している。
- 車両がトンネル内または金属構造物の近くを走行している。
- 車両が料金所、道路工事区域、または狭い車線に到達している。
- 極度に曲がりくねった道（山道など）を走行する場合。
- 車両が急斜面を上り下りしている。
- 視認性が悪い（眩しい太陽、霧など）。
- 車両が滑りやすい路面（雨、雪、砂利など）を走行している。
- 気象条件が悪い（雨、雪、砂嵐など）。
- レーダーの検出領域に（衝突などに起因する）損傷がある場合。
- カメラエリアが損傷している（例：フロントウインドウの内側または外側）。
- フロントウインドウの亀裂または変形。

システムの動作が異常な場合は、システムの作動を解除して、正規ディーラーまでご連絡ください。

はじめに

「Active driver assist」は、屋外の舗装道路、広い道路、見通しの良い道路で使用できる運転支援システムです。

このシステムは、「アダプティブクルーズコントロール」機能→232と

「レーンセンタリング」機能で構成されています。

このシステムでは、以下のことが可能になります。

- 過去の記憶速度をもとに車速を維持すること。
- 自車両と前方の他車両の車間距離を調整すること。
- 車両を車線中央に誘導すること。
- 自動的に（車両によってはドライバーの確認後に）、車速を、道路標識に示されている速度に調整します。



このシステムは付加的な運転援助を提供します。いかなる場合でも、制限速度と安全距離を尊重し、警戒することは、ドライバーの責任です。

システムは、ドライバーに事前に警告する必要があるすべての状況を検出できない場合があります。ドライバーは、あらゆる状況や運転状況において、常に車両をコントロールし続けなければなりません。

運転者は、周囲および交通状況に応じて常に速度を調整する必要があります。

事故の恐れがあります。

車両によっては、巡航速度が、速度制限の変更に合わせて自動的に調整されます。

車両が停止している場合、アダプティブクルーズコントロールは、車両を完全に停止させてから再度オフすることができます。



重要: どのような事態にも対応できるように、常にペダルの近くに足を置き、ステアリングホイールに手を置いてください。

システムは、エンジンとブレーキシステムを使用して、車両の加速および減速を制御します。

アダプティブクルーズコントロール機能は、道路の状況（交通、気象など）に応じて 0 km/h から作動させることができます。



有効化されると、 → 232 記号が表示されます。

注 :

- ドライバーは、運転国の速度制限と安全車間距離を守らねばなりません。
- 適応クルーズコントロールでは、ブレーキング能力の最大 1/3 の強度でブレーキをかけることができます。状況

ACTIVE DRIVER ASSIST

によっては、ドライバーはより強くブレーキをかける必要があります。



アダプティブクルーズコントロールは、緊急停止をトリガーせず、ブレーキ機能が制限されています。

アダプティブクルーズコントロール機能の詳細（クルーズコントロールの作動、制限速度標識認識付きクルーズコントロール、巡航速度、車間距離、追い越し、一時的な利用不能、システム動作制限など） → 232。

「レーンセンタリング」機能

「レーンセンタリング」機能は、カメラからの情報を使用して、ステアリングシステムに介入、車両を車線中央に誘導します。

この機能は、Active driver assist が有効になっている場合にのみ使用できます。

条件が許せば、機能を有効にすることができます。

- 時速 0 キロから前方に車両がある場合。アクティブになると、機能が介入する可能性があります。

または

- 時速約 50 km/h から前方に車両がない場合。アクティブになると、この機

能は約 30 km/h から介入する場合があります。

「レーンセンタリング」機能は快適な機能です。

インストルメントパネルでは、警告灯
 で表されます。

注: 急激な曲がりが発生した場合、機能の横方向の保持容量は限られているため、ドライバーはステアリングホイールをすぐに操作する必要があります。

追加情報

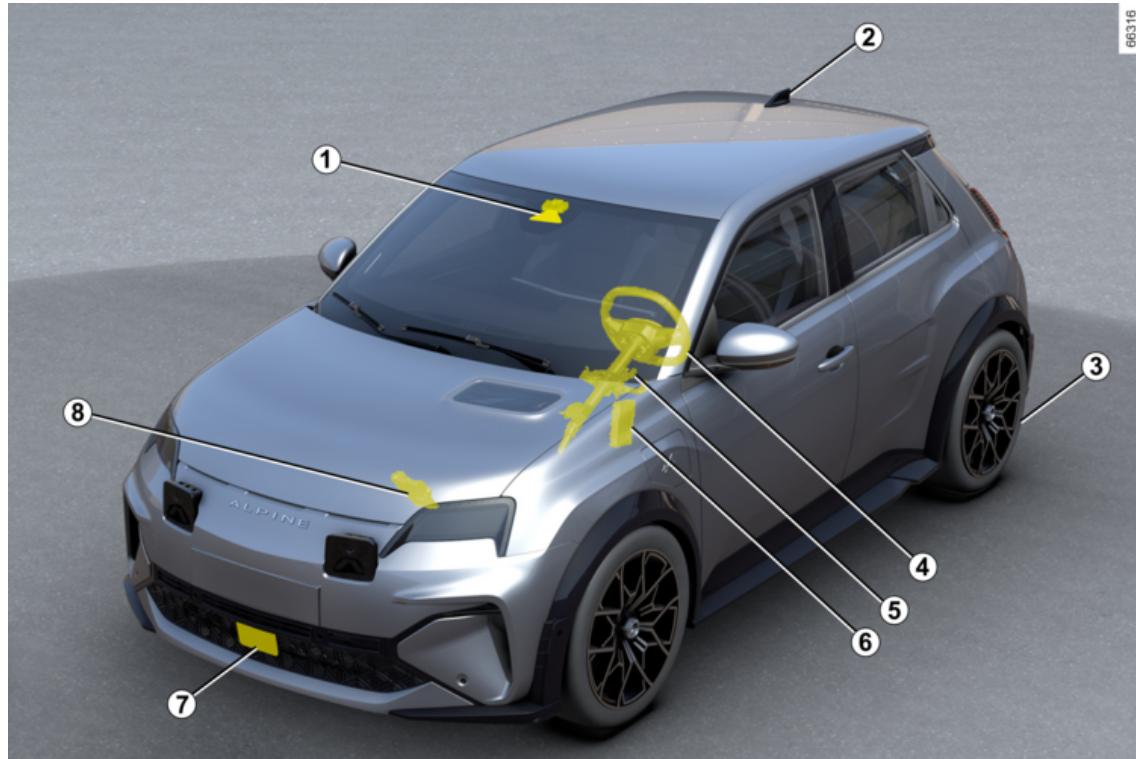
車両によっては、「Active driver assist」機能を他の運転支援機能と併用することができます。

「車線逸脱防止」機能との相互作用

「レーンセンタリング」機能を調整モードにすると、すでに有効化されている「車線逸脱防止」機能が自動的に一時停止されます → 187。「レーンセンタリング」機能によるステアリングシステムの制御が行われていない状況であれば、条件が整った場合に「車線逸脱防止」機能を再び有効化できます。

ACTIVE DRIVER ASSIST

コンポーネントの位置



66316

3

ACTIVE DRIVER ASSIST

1. カメラ。

地上のマーキングと、さまざまな交通車線上の車両の位置を検出します。このコンポーネントは、レーダー⁷から情報を受け取り、保有情報と組み合わせて、車両の軌道や速度（加速／制動）を決定します。特に、有効化／無効化パラメーター（ドア開放状態など）を制御します。

車両によっては、ステアリングホイール上に置かれているドライバーの手の検出に必要な情報を処理します。

フロントウインドウのレンズが汚れや泥、雪などでふさがっていないか確認してください。

2. アンテナや地図。

（国によります）

道路地図と特定の走行条件（ラウンドアバウトとコーナリング）は、車両の走行に応じてダウンロードされます。したがって、システムは、ドライバーが選択したパラメータに応じて、道路標識に示される制限速度の変更後に減速を予測することができます。

また、システムは、急カーブまたは環状交差点の接近時に車速を調整することもできます。

3. 電動parkingブレーキ。

特定の条件下で車両を固定します。

4. トルクセンサ。

車両によっては、ステアリングホイールに添えられた手を検出します。

5. パワーステアリング。

このコンポーネントは、コントロールユニット⁶から送られてきた情報に応じた軌跡に車両を誘導できるよう前輪を制御します。

6. エンジンコントロールユニット。

エンジンを制御し、必要な加速を実行するように指示します。

7. レーダ。

前方の車両との間の距離を計算します。

システムの最大カバー距離は約150メートルです。これは、道路の状況（地面の起伏、気象条件など）によって異なる場合があります。

レーダーエリアが、車両の前面に取り付けられたアクセサリー（グリルや口ゴなど）によって遮られたり、衝撃、修正（塗装を含む）、泥、泥、雪、前部ナンバープレートの取り付け不良によって隠されていないことを確認してください。

8. アクティブ車両制御。

このシステムは、車両のダイナミクスに関する情報（速度、横加速度など）をコントロールユニット⁶に提供するほか、ブレーキシステムに介入して減速を制御したり、車両を静止状態に保ったりします。



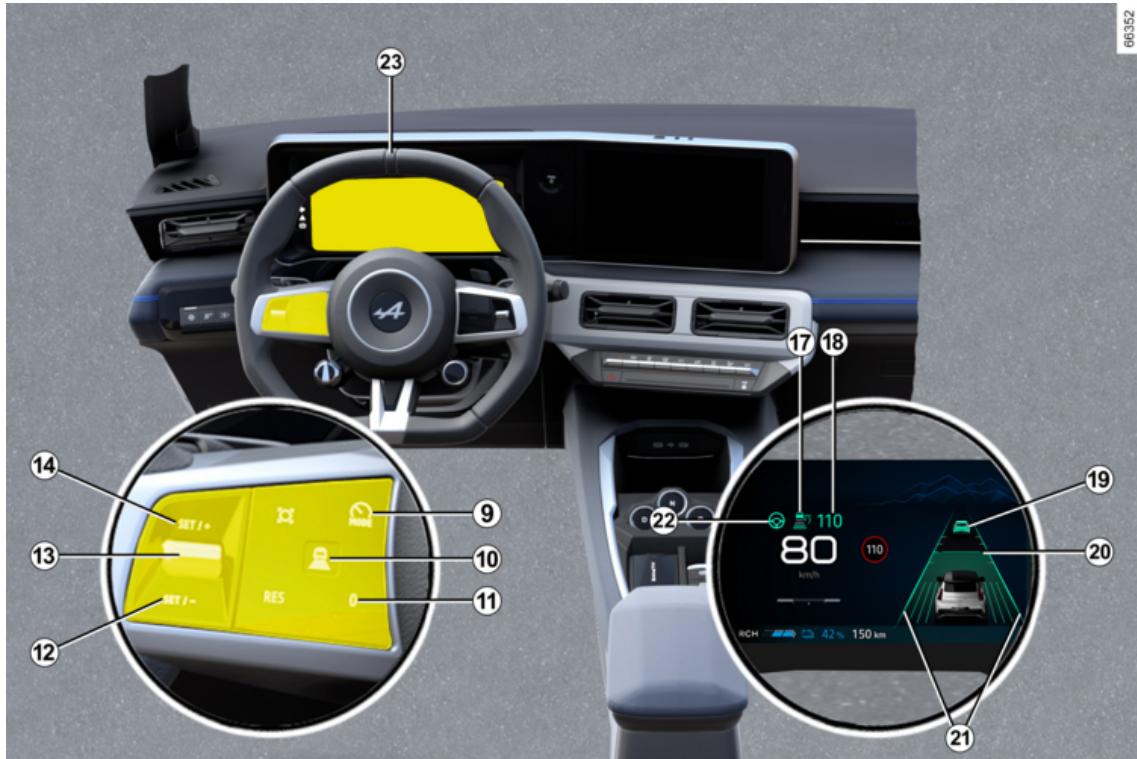
システムの正常な動作を保証するためには、レーダーゾーンとカメラゾーンを清潔に保ち、改変されないようにする必要があります。

ACTIVE DRIVER ASSIST

制御

3

66352



ACTIVE DRIVER ASSIST

9. 車両に応じて異なる、次の運転支援機能の選択／選択解除スイッチ。

- Active driver assist,
- アダプティブクルーズコントロール。
- スピードリミッター、
- OFF.

10. 安全車間距離の設定

11. この機能をスタンバイ状態に（制限速度を記憶）することができます（0）。

12. 記憶巡航速度を呼び出すことができます（RES）。

13.

- 上方向: 有効化、巡航速度上昇または現在速度の記憶が可能です（SET/+）。

- 下方向: 有効化、巡航速度下降または現在速度の記憶が可能です（SET/-）。

14. ポップアップボタン（車両により異なります）: 検出された制限速度に合わせて速度設定を調整します 

→ 221。

車両によっては、イグニッションスイッチを OFF にする前の段階で

「OFF」モードが選択されていると、次の車両始動時に「速度リミッタ」機能がデフォルトで有効化されます。

インストルメントパネル上の表示

17. 「Stop and Go アダプティブクルーズコントロール」機能警告灯



18. 保存された設定速度。

19. 前方の車両。

20. 保存された安全車間距離

21. 左と右のラインのインジケータ

22. 「レーンセンタリング」機能警告



24. ハンズオフステアリングホイール

検出警告灯

ステアリングホイール 23

ドライバーは常にステアリングホイールを握っていなければなりません。

ドライバーが十分な力でステアリングホイールを回すと、「レーンセンタリング」機能は中断し、ドライバーが車両を制御できる状態に戻ります。

ドライバーがステアリングホイールを操作しない場合（ドライバーの手が検出されない場合）、「レーンセンタリング」機能は、数回の警告の後、無効になります。

「Active driver assist」機能の有効化／無効化

機能の作動



この機能を有効化にするには、スイッチ 9 を必要な回数だけ押し、インストルメントパネル上でアイコン 25 を選択します。

「レーンセンタリング」機能

22 警告灯と 警告灯がインストルメントパネル上に灰色表示されます。

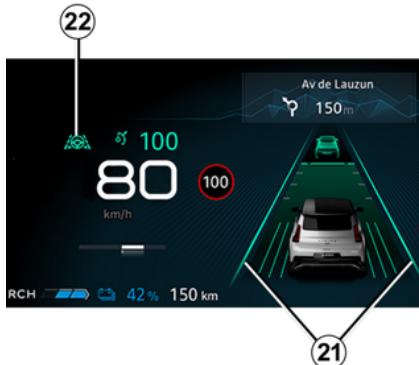
その後は、ステアリングホイール上の制御装置 13 を上方向（SET/+）または下方向（SET/-）に押します。すると、アダプティブクルーズコントロール Stop and Go と「レーンセンタリン

ACTIVE DRIVER ASSIST

グ」機能で構成されている「Active driver assist」が有効化されます。

注: 車両によっては、その発進時に、直近の車両停止時に選択されていた機能 25 または OFF が自動的に選択されます。

3



「レーンセンタリング」機能の作動中は、その証として、緑色 22 の警告灯と左側および右側車線インジケータ 21 がインストルメントパネル上に表示されます。作動中は、この機能の介入により車両が車線内に誘導されます。

「レーンセンタリング」機能は、ステアリングホイールを強く回すことでも中断できます。ステアリングホイールの回転を止めると、それ以降の

条件が満たされたタイミングで「レンセンタリング」機能が自動的に再起動します。

注: レーンセンタリング機能の使用中は、ステアリングホイールから手を離さないでください。どのような場合でもステアリングホイールからは絶対に手を離さないでください。

機能の作動解除

スイッチ 9 を押します。機能が無効化されると、その証として、警告灯 22

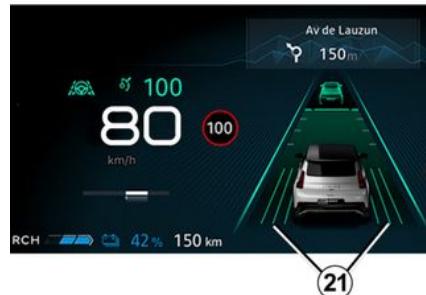
と左側車線および右側車線インジケータ 21 がインストルメントパネルから消灯します。

注: 過去に「車線逸脱防止」機能を有効化したことがある状況で条件が整うと、この機能は自動的に無効化されます。

i 運転支援機能を OFF にするには、必要な回数だけスイッチ 9 を押します。「運転支援解除」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。
この場合、車両によっては、次のエンジン始動時に「速度リミッタ」機能が有効化され、制限速度記憶待機状態となります。

車線内位置の調整

(車種によります)



レーンポジション調整を有効にするには、以下の条件を満たす必要があります。

- 「レーンセンタリング」機能は、インストルメントパネルに警告灯 22 が緑色で表示された状態で動作している必要があります。

- 車速が約 50 km/h 未満である必要があります。

- 車両は高速道路を走行している必要があります。

- 車両は十分に広くまっすぐな車線にある必要があります。

これらの条件が満たされると、「レンセンタリング」機能を無効にするこ

ACTIVE DRIVER ASSIST

となく、車線内の車両の横方向の位置を調整できます。

方法:

- ステアリングホイールを少し右または左に回して、希望の位置に到達するまで車線内の車両を調整／オフセットします。

- ステアリングホイールの圧力を約10秒間維持します。車両の位置は、速度、車線幅、線の種類に応じて自動的に計算されます。

- ステアリングホイールの握りを緩めます。車両はオフセット位置を維持し、インストルメントパネルに表示される**21**矢印は調整が適用されたことを示します。

注意: 曲がり角に近づき、時速約70km/hを超える速度に達した場合など、特定の運転条件では、車両が自動的に中央に戻る場合があります。

車線の中央に戻したい場合は、ステアリングホイールを反対方向に少し回し、車両がレーンの中央に達したら操作を止めます。

スタンバイ時の「レーンセンタリング」機能

「レーンセンタリング」機能は、次の場合、自動的にスタンバイ状態になります。

- 車線区分線はシステムによって検出されなくなったか、片側でのみ検出されます。

- 車線が狭すぎるか、広すぎる場合。
- システムでステアリングホイールでドライバーの手が検出されない。
- 走行路の形状が機能の作動に適さない形状（環状交差点、通常交差点、急カーブなど）の場合。
- 車速が約30km/h未満で、前方車両が存在しない場合。
- 車両が車線から逸脱している場合。
- システムが一時に混乱している場合（カメラの視界が、汚物、泥、雪、結露などで妨げられているなど）。

ドライバーが実行する特定のアクションによっては、「レーンセンタリング」機能も一時停止します。

- インジケータを作動させる
- 十分な力でステアリングホイールを回します。

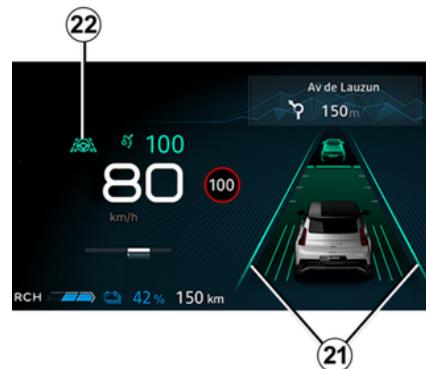
機能がスタンバイ状態になると、その

証として、灰色の警告灯**22** と左側車線および右側車線インジケータ**21**がインストルメントパネル上に表示されます。

条件が満たされると、この機能は再び車線内の車両の位置を調整して維持します。この状態になると、警告灯**22**

 と左側車線および右側車線インジケータ**21**がインストルメントパネル上に緑色で表示されます。

注意:



システムは、「レーンセンタリング」機能が保留になる可能性のある特定の状況（車線境界線に近づくなど）を予測します。

この場合、インストルメントパネルに

22 警告灯と左側または右側のラインインジケータ**21**が黄色で表示され、ドライバーに警告します。

カメラがラインを検出できない場合など、場合によってはシステムが保留になり、ビープ音が鳴ります。

ACTIVE DRIVER ASSIST



重要: どのような事態にも対応できるように、常にペダルの近くに足を置き、ステアリングホイールに手を置いてください。

3



ステアリングホイールを回すことで、任意のポイントで**車両の軌道**に影響を与えることができます。

ACTIVE DRIVER ASSIST

「ハンドルから手を離さないでください」警告



- 約35秒後、警告に従ってドライバーがハンドルに手を戻さないと、システムは無効になり、ビープ音が鳴ります。緊急停止アシスト機能は自動的に作動します ➤ 263。

i 最初の 2 つのアラートレベルでは、システムが再びステアリングホイール上にドライバーの手があることを検出すると、システムはアラートを停止します。この状態になると、機能による車線中央への車両誘導が継続されます。

車速が約 10 km/h を超えると、Active driver assist システムがステアリングホイールに手を置くことを検出しなくなった場合、いくつかの警告レベルがトリガーされます。

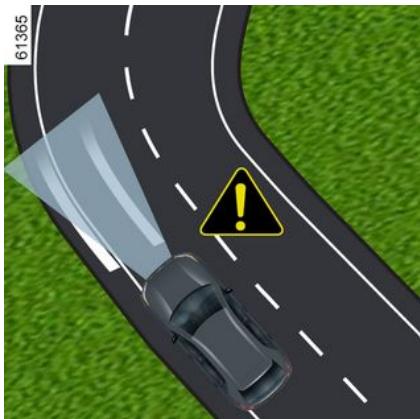
- 約 15 秒後に、「ハンドルから手を離さないでください」というメッセージがインストルメントパネル上に黄色で表示されます。

- 約 30 秒後に、インストルメントパネルに「ハンドルから手を離さないで

ください」メッセージと **24** 警告灯が赤く点灯し、ビープ音が徐々に大きくなります。

ACTIVE DRIVER ASSIST

鋭いカーブの場合



急カーブの走行中には、車速により、機能の車線維持能力が制限されるため、車両を車線内に保つには、ドライバーがステアリングホイールをただちに操作しなければなりません。

ドライバーが介入しない場合、この機能はステアリングホイールの振動をトリガーして、車両がラインを突破しそうとしていること、およびドライバーが即座に行動を起こす必要があることを通知します。

この状態になると、警告灯 22  と左側車線または右側車線インジケータ 21 がインストルメントパネル上に赤色で表示されます。

車両が車線から完全に逸脱し車線外に出てしまったり、急カーブに突入したりすると、「レーンセンタリング」機能はスタンバイ状態になります。

機能がスタンバイ状態になると、その証として、灰色 22  の警告灯と左側車線および右側車線インジケータ 21 がインストルメントパネル上に表示されます。

i 「レーンセンタリング」機能は、環状交差点や通常交差点の通過中にドライバーを支援することができないため、それらの場所の通過中には機能が自動的にスタンバイ状態になることがあります。いずれの場合も、このような走行状況下では、ドライバーは常にステアリングを切って車両の軌道を管理する必要があります。

一時的に使用できない レーダー



レーダーは、車両の前方の車両を検出することができます。レーダー検出領域が不明瞭な場合、または信号が中断されている場合、システムが正常に作動することができません。

レーダー検出領域に障害物があるか、レーダー信号の混乱が生じると、「フロントレーダー 作動していません」というメッセージがインストルメントパネル上に表示され、Active driver assist システムの作動が中断されます。

システムが自動的に無効化されたことを示すため、緑色の警告灯 17 が消えます。

ACTIVE DRIVER ASSIST

レーダーエリアがきれいな状態を保ち、雪、泥、取り付け不良のナンバープレート、車両前面（グリル上）に取り付けられているアクセサリーによって妨げられたり、車両前面（グリルやロゴなど）に取り付けられているアクセサリーによって隠れたりしていないことを確認してください。

次のような場所は、システムの作動の妨げとなり得ます。

- 乾燥したゾーン、トンネル、長い橋、または道路のない道路を軽く使用して、標識や樹木が近くにない。
- 軍用または空港ゾーン。

システムを作動させるには、このようないくつかのエリアを残しておく必要があります。

すべてのケースで、エンジンを再始動した後にメッセージが消去されない場合は、指定サービス工場に連絡してください。

カメラ

カメラが汚れ、泥、雪、霧などによって覆われている場合、システムは車両を車線内に確実に維持することができない場合があります。この場合、

「レーンセンタリング」機能は保留になります。

アダプティブクルーズコントロール機能は引き続き動作しますが、パフォーマンスは低下します。

警戒心を持って行います。

場合によっては、インストルメントパネルに「フロントカメラ 映像なし」というメッセージが表示されます。

作動異常

作動不良が検出されると、「ドライブアシスト操作不可」または「ドライブアシスト要確認」というメッセージがインストルメントパネル上に表示され、機能が無効化されます。

障害の性質によっては、アダプティブクルーズコントロール機能が動作し続ける場合があります。

いずれの場合も、システム異常が発生した場合は、認定ディーラーにご相談ください。

警告



「Active driver assist」は追加の運転補助装置です。いかなる場合でも、制限速度と安全距離を尊重し、警戒することは、ドライバーの責任です。

運転者は常に車両を制御する必要があります。

ドライバーは、システムの指示に関係なく、常に周囲の状況と走行条件に応じて軌道と車速を調整する必要があります。

車線と制限速度標識を区切る線とは別に、システムの検出機能とマルチメディアシステムに送信される地図データの範囲内（国とサブスクリプションによって異なります）の範囲内で、特定の条件（他の交通標識、信号機、横断歩道など）はシステムによって考慮されません。システムによる警告や反応は発生しません。

「Active driver assist」は、「Stop and Go アダプティブルーズコントロール」機能と「レーンセンタリング」機能を使用します。いかなる場合でも、システムを障害物の検知や衝突防止装置として使用することはできません。

「Active driver assist」は、市街地の外、ラインが目視できる広い道路でのみ使用します。

交通渋滞時、曲がりくねった道や滑りやすい路面（凍結、ハイドロプレーニング、砂利）、天候不良時（霧、雨、横なぐりの雨など）には使用しないでください。

事故の恐れがあります。

システムサービス / 修理

- 衝撃が加わると、レーダーおよび / またはカメラの位置合わせが変更され、その動作が結果として影響を受ける可能性があります。システムを解除して、指定サービス工場に連絡してください。

- レーダー / カメラのある場所の作業（交換、修理、フロントウインドウの変更、塗装など）は、資格を持つ専門スタッフが行う必要があります。

指定サービス工場のみがシステムを修理することができます。

システムの障害

以下に掲げるような要素は、システムの作動を妨げたり、システムに損傷を及ぼしたりする恐れがあります。

- フロントガラスまたはレーダー領域の障害物（汚れ、氷、雪、結露などによる）フロントガラス、フロントワイパープレード、フロントバンパーの汚れや状態を頻繁に点検してください。

- 複雑な環境（トンネル、金属構造など）。

- 悪天候（降雪、豪雨、雹、路面凍結など）。

- 視界不良（夜間、濃霧など）。

ACTIVE DRIVER ASSIST

- 車両の前方とその周辺のコントラストが小さい（白色の車両が積雪場所にあるなど）。
- 眩惑（逆光、反対車線走行中の対向車両のヘッドライトなど）。
- 道路が狭い場合、曲がりくねった道路の場合、起伏のある道路の場合（急カーブがあるなど）。
- システムが車線をアスファルト舗装車線として検出する状況の場合。
- 狹い/拡幅車線。
- 複数の道路標示（道路工事など）。
- 不規則なまたは識別困難な路面標示（部分的に消えている、間隔が広すぎる、路面の凹凸により視認しにくいなど）。
- 高速道路の出口に、矢印を含まない道路標識がある場合。
- 通信電波が弱く、車両の地理的位置情報を取得できないか、地図を最新版に更新できない場所の場合。
- 速度に著しい差がある車両。
- 車両に適合していないマットの使用。運転席側は、車両に適合したフロアマットのみを必ず使用し、あらかじめ装備されたペーツにしっかりと固定されているか定期的に確認してください。複数のマットを余分においてはいけません。ペダルの動作を妨げる危険があります。

以下の場合に作動:

- 不必要なブレーキングまたは加速の危険性があります。
- 不必要な修正、誤った修正、または軌道の修正のリスク。

予期しない状況の多くがシステムの動作に影響を与える可能性があります。カメラまたはレーダー探知ゾーンに現れる可能性のある特定の物体または車両は、システムによって誤って解釈され、不適切な加速または制動につながる可能性があります。

システムの解除

次の場合は、システムの作動を解除する必要があります。

- 車両が風の強い道路を走行する場合。
- 車両の牽引（分解）。
- 車両がトレーラーまたはキャラバンを牽引している。
- 車両が料金所、道路工事区域、または狭い車線に到達している。
- 車両が急斜面を上り下りしている。
- 視認性が悪い（眩しい太陽、霧など）。
- 気象条件が悪い（雨、雪、砂嵐など）。
- 車両が滑りやすい路面（雨、雪、砂利など）を走行している。
- カメラエリアが損傷している（例：フロントウィンドウの内側または外側）。

ACTIVE DRIVER ASSIST

- フロントウインドウの亀裂または変形、
- レーダーエリアが損傷している（衝突など）。
- ステアリングホイールの表面が損傷または濡れている。

システムの動作が異常な場合は、システムの作動を解除して、正規ディーラーまでご連絡ください。

運転中に起こる可能性のある突然の出来事には常に注意を払う必要があります。常にペダルに足を置き、ステアリングホイールに手を置いて、車両を常に制御できる状態にしてください。これにより、あらゆるイベントに対応できるようになります。

緊急停止アシスト

はじめに

緊急停止アシスト機能は、運転者がハンドルから手を離したり、道路を見ていない状況を検知すると、自動的に車両のステアリングとブレーキを操作する運転補助機能です。

車両に応じて、システムは次の運転支援に関連付けられます。

- 「ドライバー注意警告」→ 216 および／または「ドライバー疲労警告」→ 218 機能（操作A）

と

- 「Active driver assist」システム → 248（操作B）。

どの機能またはシステムがアクティブになっているかに応じて、「緊急停止アシスト」は、次の場合に介入する準備ができます。

- ドライバーは、注意散漫または疲労の兆候が検出されたときに発せられる視覚的および聴覚的な警告を無視します（操作A）。
- ドライバーは、ステアリングホイールに手がかかっていない場合に発せられるさまざまなレベルの視覚的および聴覚的な警告を無視します（操作B）。

両方の動作モード A および B、「緊急停止支援」機能がアクティブになると、システムは次のことを行います。

- 前方の車両（追従車両）との安全な距離を維持しながら車両を車線内に維持する。

- ドライバーがさまざまな警告に反応しない場合、車両を減速して完全に停止させます。



このシステムは付加的な運転援助を提供します。この機能は、どのような状況でも、ドライバーが走行中に果たすべき責任を軽減するものではありません。

ドライバーは、システムの表示に関係なく、常に自分の注意力と疲労レベルに応じて運転を調整する必要があります。

システムは、ドライバーに事前に警告する必要があるすべての状況を検出できない場合があります。

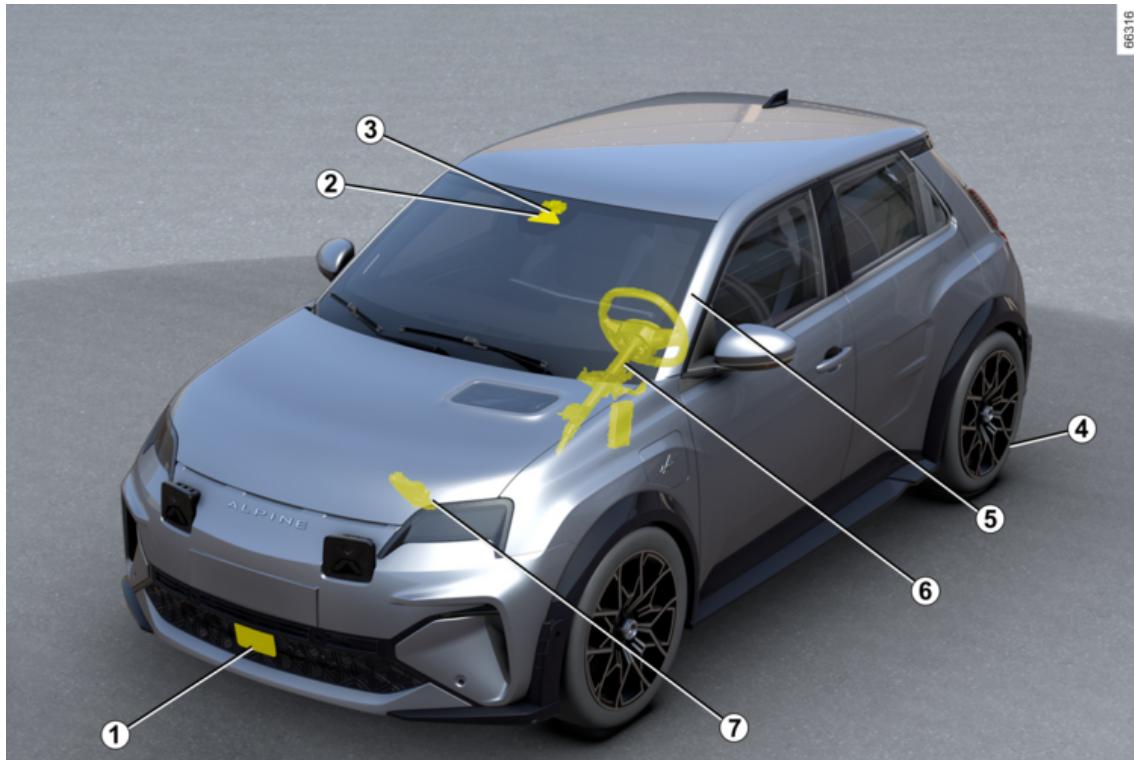
ドライバーは、あらゆる状況や運転状況において、常に車両をコントロールし続けなければなりません。

事故の恐れがあります。

緊急停止アシスト

コンポーネントの位置

3



66316

緊急停止アシスト

1. レーダ。

自車と前方の車両（追従車両）との距離を計算します。

システムの最大カバー距離は約 130 メートルです。これは、道路の状況（地面の起伏、気象条件など）によって異なる場合があります。

レーダーエリアが、車両の前面に取り付けられたアクセサリー（グリルや口ゴなど）によって遮られたり、衝撃、修正（塗装を含む）、泥、泥、雪、前部ナンバープレートの取り付け不良によって隠されていないことを確認してください。

2. カメラ。

地上のマーキングと、さまざまな交通車線上の車両の位置を検出します。

フロントウインドウのレンズが汚れや泥、雪などでふさがれていないか確認してください。

3. コンピュータ。

カメラ 2 に関連付けられたコンピュータは、レーダー 1 からの情報を使用します。それらを補完し、カメラからの情報と相互参照して車両の軌道と速度を決定し、その動作（車線内の位置またはブレーキ）を調整します。

さらに、システムのオン／オフ設定を制御します。

車両によっては、ステアリングホイール上に置かれているドライバーの手の検出に必要な情報を処理します。

4. 電動パーキングブレーキ。

特定の条件下で車両を固定します。

5. 車内カメラ。

これにより、システムはドライバーの顔の行動を分析し、注意散漫や疲労の兆候を検出できます。

dカメラに視界を妨げるもの（汚物、泥など）が付着していないか、または覆われていないか確認してください。

6. パワーステアリング。

このコンポーネントは、コントロールユニット 3 から送られてきた情報に応じた軌跡に車両を誘導できるよう前輪を制御します。

7. アクティブ車両制御。

このシステムは、車両のダイナミクスに関する情報（速度、横加速度など）をコントロールユニット 3 に提供するほか、ブレーキシステムに介入して減速を制御したり、車両を静止状態に保ったりします。

作動



このシステムは運転時の安全性を補助するもので、ドライバーは介入して車両の制御を取り戻すことができます。

作動 A



このシステムは、注意散漫や疲労の兆候が車内カメラ 5 によって検出された場合に発行される視覚的および聴覚的な警告をドライバーが無視すると時速約 20 km/h から作動します。

注意：システムは画像を記録せず、リアルタイムで動作します。

「ドライバー注意警告」→ 216 より／または「ドライバー疲労警告」

→ 218 機能がどのように機能するかの詳細については、こちらをご覧ください。

緊急停止アシスト

作動 B



このシステムは、ドライバーがさまざま
な視覚的警告（ 警告灯の赤色表示を含む）と、ステアリングホイール 8 に手が置かれていなことが検出される場合に発せられる警告音を無視すると、約 10 km/h から作動します。

注：ステアリングホイールに付属品（保護カバーなど）を取り付けることは禁止されています。

Active driver assist ➔ 248 の操作の詳細。

緊急停止手順



「緊急停止支援」機能の手順と停止条件は、作動モード A または B で同じです。

トリガーされた場合：

– 「緊急停止アシスト」機能は、レーダー 1 およびカメラ 2 によって提供される情報のおかげで、車両を自車線に保ち、前方車両（後続中の車両）との安全な距離を維持します。

– ハザード警告灯が自動的に点灯し、インストルメントパネルに「緊急ブレーキ作動ハンドル要操作」メッセージ

が表示され、警告灯  が赤で点灯し、ビープ音が鳴ります。

– その後、車両のブレーキが段階的に作動し、運転者が制御を取り戻すよう

促します。反応しない場合、システムは車両が完全に停止するまで徐々に減速します。

– 車両が停止すると、ビープ音を伴ってインストルメントパネルに「緊急ブレーキ 作動」メッセージが表示されます。このシステムは車両を固定した状態に保ちます。



緊急停止支援機能のブレーキ性能と車線維持性能には制限があります。

以下の場合には、システムは車両が車線内に留まっていることを保証できません。

- システムが車線を検出しなくなった。
- 車線が狭すぎる。
- カーブが鋭すぎる。
- ...

事故の恐れがあります。

車両が停止した後：

- ハザードランプが点灯したままになります。
- 開口部は自動的にロック解除されます。



警告灯は、ドライバーが車両の制御を取り戻すまで赤のままになります。

緊急停止アシスト

- 電子パーキングブレーキ 4 は、車両が停止してから約 3 分後に自動的に作動します。



車線内で静止したままにしないでください。
車両の制御を取り戻し、安全な場所に避難してください。
事故の恐れがあります。

ドライバーは、別のアクションまたはアクションの組み合わせを実行することで、いつでも運転中または停止段階で緊急停止アシスト機能を中断し、車両の制御を取り戻すことができます。

車両に応じて、可能なアクションは次のとおりです。

- アクセルペダルを強く踏む。
- ブレーキペダルを強く踏む（車両走行中）
- ステアリングホイールを急に回す。
- ギアレバーの位置を変更しながらブレーキペダルを踏む。
- 電子パーキングブレーキの操作を実行する。
- アクセルペダルを適度に操作し、同時にステアリングホイールを適度に操作する。
- ステアリングホイールのボタン (0) を押しながらステアリングホイールをわずかに回転させる。

- アクセルペダルを踏みながらステアリングホイールをわずかに回転させる。

- ブレーキペダルを踏みながらステアリングホイールをわずかに回転させる。



緊急運転支援機能が作動すると、アクティブ運転支援機能が以前に作動していた場合は無効になります。操縦中または停止段階でできるだけ早く車両の制御を取り戻してください。車両の制御を取り戻したら、システムを手動で再起動できます。

ON/OFF



安全のために、この操作は必ず停止時に行ってください。

アクティブ化／非アクティブ化 - 操作 A



車両や、直前のエンジン停止以降の経過時間によっては、次の場合に警告が再び有効化されます。

- 車両のロックが解除された場合。

または

- ドアが開けられた場合。

または

- エンジンが始動された場合。



緊急停止アシスト

マルチメディア画面 9 から、緊急停止支援機能を有効または無効にするには、事前に次の 2 つの機能のうち少なくとも 1つをアクティブにする必要があります。

- 「気を抜かないこと」；
- 「疲労アラート」。

次に、設定の有効化／無効化：

- 「緊急停止アシスト」。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

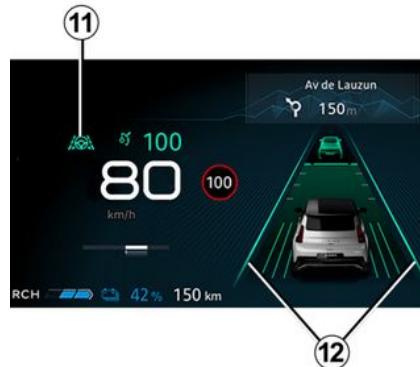
注：設定がアクティブになると、2つの「ドライバー注意警告」および「ドライバー疲労警告」機能に自動的に関連付けられます。

「My Safety」の特徴



ボタン 10 を使用して「ドライバー注意警告」および／または「ドライバー疲労警告」機能を有効または無効にするには、「My Safety」機能 ➔ 186 の「Perso」モードで構成できます。

アクティブ化／非アクティブ化 - 操作 B



緊急停止アシストは、「Active driver assist」システムを選択すると自動的に作動します ➔ 248。

「レーンセンタリング」機能の作動中

は、その証として、緑色 11 の警告灯と左側および右側車線インジケータ 12 がインストルメントパネル上に表示されます。作動中は、この機

能の介入により車両が車線内に誘導されます。

作動制限

状況によっては、システムはブレーキをかけることができますが、車両が車線内に留まることを保証することはできません。

例：

- システムがラインを検出しないか、レーン内で 1 本のラインのみが検出される。
- 車線が狭すぎるか、広すぎる場合。
- 走行路の形状が機能の作動に適さない形状（環状交差点、通常交差点、急カーブなど）の場合。
- 車両は大幅な横方向または縦方向の加速度を受けます。
- 車速が約 160 km/h または 180 km/h（車両に応じて変動）を超えている場合。
- フロントカメラ 2 環境条件(太陽からのまぶしさ、大雨、障害物、汚れ、泥、雪、霧など)によって妨げられます。

フロントカメラの視認性の低下 2 が検出された場合、インストルメントパネルに「フロントカメラ 映像なし」メッセージが表示されることがよくあります。

このような状況では、システムのブレーキ性能が低下します。できるだけ

緊急停止アシスト

早く車両の制御を取り戻してください。

。

一時的に使用できない

次の状況ではシステムが一時的に使用不能になります。

- 車両は非常に曲がりくねった道路を走行します。
- 車速が約 160 km/h または 180 km/h (車両に応じて変動) を超えている場合。
- このシステムは、フロントレーダーの視認性の低下を検出します。
- ...

フロントレーダーの領域で停電が発生した場合 **1** またはその信号が中断された場合、インストルメントパネルに「フロントレーダー 作動していません」メッセージが表示されます。これには、「ドライブアシスト 操作不可」メッセージが伴う場合もあります。

レーダーエリア **1** がきれいな状態を保ち、雪、泥、取り付け不良のナンバープレート、車両前面（グリル上）に取り付けられているアクセサリーによって妨げられたり、車両前面（グリルやロゴなど）に取り付けられているアクセサリーによって隠れたりしていないことを確認してください。

一部の領域では、システムの動作が中断したり、損傷したりする可能性があります。次に例を示します。

- 乾燥したゾーン、トンネル、長い橋、または道路のない道路を軽く使用して、標識や樹木が近くにない。
- 空港または軍用ゾーン。
- 内部カメラ **5** が部分的にでも遮られている場合（操作 **A**）。
- 運転者の顔が検出されない場合（操作 **A**）。

作動異常

システムが故障を検出すると、インストルメントパネルに「ドライブアシスト 操作不可」メッセージが表示され、システムは自動的に無効になります。

機能不良の種類に応じて、インストルメントパネルに次のメッセージが表示

され、車両によっては、**STOP** 警告灯が表示されます。

- « フロントカメラを 点検してください »;
- « フロントレーダーを 点検してください »;
- « カメラとレーダーを 点検してください »;
- « ドライブアシスト 要確認 ».

メーカーにお問い合わせください。

ドライバーの注意散漫または疲労が検出された場合：

-  警告灯とともにインストルメントパネル上に「アテンション モニ

ター要点検」が表示され、ビープ音が鳴ります（操作 **A**）。

メッセージが残る場合は、指定サービス代理店にお問い合わせください。

緊急停止アシスト

警告



「緊急停止アシスト」機能は、補助運転支援機能です。いかなる状況においても、車両の制御を維持する運転者の責任が免除されるわけではありません。

ドライバーは、システムの表示に関係なく、常に自分の注意力と疲労レベルに応じて運転を調整する必要があります。

ドライバーの注意力の低下や疲労はシステムによって検出されない場合や、時間内に検出されない場合があります。運転に集中し、定期的に休憩を取ってください。

事故の恐れがあります。

特定の状況（車線区分線が検出されない、車線が狭すぎるまたは広すぎる、感情交差点、交差点、急カーブ、太陽光のまぶしさ、大雨、障害物、土埃、泥、雪、霧など）では、システムは車両が車線内にとどまる 것을保証できません。

警戒心を持って行います。

「緊急停止アシスト」機能のブレーキ性能には制限があります。システムは、ブレーキング能力の最大 1/3 の強度でブレーキをかけることができます。

フロントカメラの視認性が低下した場合、システムのブレーキ性能が低下します。

できるだけ早く車両の制御を取り戻してください。

システムサービス / 修理

- 衝撃が加わると、レーダーおよび / またはカメラの位置合わせが変更され、その動作が結果として影響を受ける可能性があります。システムを解除して、指定サービス工場に連絡してください。

- レーダー / カメラのある場所の作業（交換、修理、フロントウインドウの変更、塗装など）は、資格を持つ専門スタッフが行う必要があります。

指定サービス工場のみがシステムを修理することができます。

システムの障害

以下に掲げるような要素は、システムの作動を妨げたり、システムに損傷を及ぼしたりする恐れがあります。

- フロントガラスまたはレーダー領域の障害物（汚れ、氷、雪、結露などによる）フロントガラス、フロントワイパープレード、フロントバンパーの汚れや状態を頻繁に点検してください。

- 複雑な環境（トンネル、金属構造など）。

- 悪天候（降雪、豪雨、雹、路面凍結など）。

- 視界不良（夜間、濃霧など）。

緊急停止アシスト

- 車両の前方とその周辺のコントラストが小さい（白色の車両が積雪場所にあるなど）。
- 眩惑（逆光、反対車線走行中の対向車両のヘッドライトなど）。
- 道路が狭い場合、曲がりくねった道路の場合、起伏のある道路の場合（急カーブがあるなど）。
- システムが車線をアスファルト舗装車線として検出する状況の場合。
- 狹い/拡幅車線。
- 道路標識が複数存在する状況（道路で工事が行われている状況など）、道路標識の判別が難しい状況、道路標識が変則的である状況（車線の一部分または大部分が色あせている状況、車線の間隔が広すぎる状況、路面が不均一な状況など）。
- 速度に著しい差がある車両、
- ドライバーが特定の種類の眼鏡を着用している（**操作 A**）。
- 内部カメラが部分的にでも遮られている場合（**操作 A**）。
- ドライバーの顔の一部が覆われています（髪の毛、帽子、サージカルマスク、スカーフなどで）（**作業 A**）。
- 座り心地が低すぎる、傾きすぎているなど、不適切な運転姿勢（**操作 A**）。
- ドライバーは手袋を着用しているか、ハンドルを非常に軽く握っています。

以下の場合に作動:

- 不慮のブレーキングのリスク。
- 不必要な修正、誤った修正、または軌道の修正のリスク。

予期しない状況の多くがシステムの動作に影響を与える可能性があります。カメラの検出ゾーンに現れた特定の物体または車両が、システムにより誤解釈され、不適切な加速または制動につながる可能性があります。

システムの解除

次の場合は、システムの作動を解除する必要があります。

- 車両がトレーラーまたはキャラバンを牽引している。
- フロントカメラ部分が損傷している（例：内側または外側のフロントウインドウエリア）、フロントウインドウの亀裂または変形。
- レーダーの検出領域に（衝突などに起因する）損傷がある場合。
- 内部カメラ領域が損傷しています（**操作 A**）。
- ステアリングホイールの表面が損傷または濡れている。

システムの動作が異常な場合は、システムの作動を解除して、正規ディーラーまでご連絡ください。

パーキングアシスト

リアビューカメラ

作動



シフトレバーを「後進」位置にすると、車両後部にあるカメラ 1 が、車両後方の模様を、3 本のガイド線 3、4、5（固定ガイド線、可動ガイド線、トレーラーガイド線）を用いてマルチメディア画面 2 に表示します。

このシステムは、その動作にいくつかのガイドライン（軌道のための移動体および距離の固定）を使用する。赤の部分に達したら、バンパーのイメージを参照して、正確に停車してください。



固定ガイド線 3

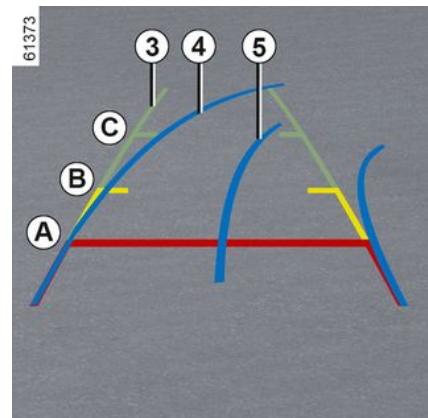
固定ガイド線には、次のような、車両の後方における距離を示す色付きのマーカー A、B、C が含まれています。

- 車両からの距離が約 30 cm であることを示す A（赤色）。
- 車両からの距離が約 70 cm であることを示す B（黄色）。
- 車両からの距離が約 150 cm であることを示す C（緑色）。

このガバリは固定したままで、車輪が車両と平行していれば車両の軌道を示します。

可動ガイド線 4

この線は、マルチメディア画面 2 上に青色表示されます。ハンドルの切れ角に応じて、車両の軌道を示します。



トレーラーガイド線 5

この線は、マルチメディア画面 2 上に青色表示されます。ハンドルの切れ角に応じて、トレーラー牽引装置の軌道を示します。これにより、ドライバーはトレーラーの牽引ヘッドにできるだけ近い牽引装置を配置することができます。

« トレーラービュー »

トレーラーが連結されている場合、シフトレバーが「前進」位置の状態で、マルチメディア画面 2 上の「車両」領域内で「カメラ」メニューを押すと、カメラ 1 が、車両後方の模様を約 30 秒間にわたり送信できる状態になります。

パーキングアシスト

設定



ガイド線を追加または削除したり、カメラの画像設定（明るさ、コントラストなど）を調整したりするには、シフトレバーを「後進」位置にした状態でマルチメディア画面 2 から「設定」ボタンを押します。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

i カメラのレンズが汚れや泥、雪、結露などでふさがっていないか確認してください。

「Zoom auto」機能

車両の背後に障害物が検出されると、「Zoom auto」機能により現在のディスプレイがトップアビュiewに切り替わります。

「Zoom auto」機能を有効化または無効化するには、マルチメディア画面の説明に従います。



スクリーン上には、反転した映像が映ります。

フレームは、平面上に投影された表現です。地上にある物体を無視し、ガバリがその上に重なった状態で映し出されます。

スクリーン上に、物体がゆがめられた状態で映ることがあります。光度が強すぎる場合（雪、車両に直射日光が当たっているなど）、カメラの視覚が妨害されることがあります。

トランクが開いているか、誤った方法で閉まっていると、「テールゲート開」というメッセージが表示されます。

作動異常

シフトレバーが「後進」位置の状態でシステムが作動不良を検出すると、マルチメディア画面 2 が一時的に暗転します。

これは、カメラまたは画面に影響を与える故障（クリア、固定画像、通信の遅れなど）によって引き起こされる可能性があります。

暗転画面の一時的な表示が続く場合は、認定ディーラにお問い合わせください。



この機能は補助的機能です。したがって運転されるときは、お客様の責任において慎重に運転しなければならないことを忘れないでください。

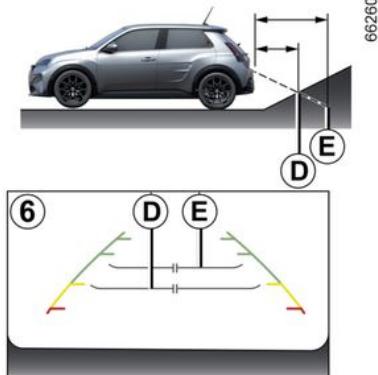
ドライバーは常に集中して細心の注意を払って運転してください：車両の付近に子供、動物、ベビーカー、自転車、石、柱などがいることを確認します。

パーキングアシスト

推定される距離と実際の距離の相違

きつい上り勾配での後退

3

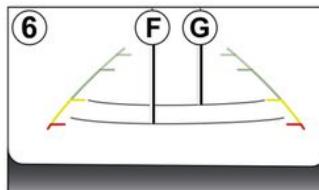


固定ガイド線 ⑥ の示す距離が実際よりも近くなります。

画面に表示される対象物は、斜面では実際にはより遠くにあります。

具体例を挙げると、画面の **D** 位置に対象物が表示されている場合、対象物が実際にある場所は **E** であり、そこまでの距離が実際の距離となります。

きつい下り勾配での後退

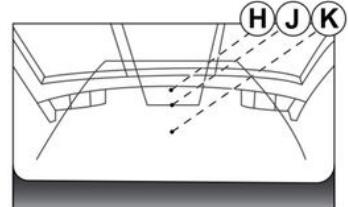
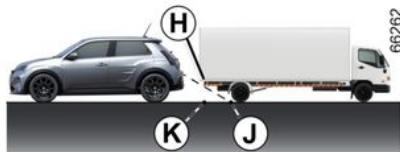


固定ガイド線 ⑥ の示す距離が実際よりも遠くなります。

したがって、画面に表示される対象物は、斜面では実際にはより近くにあります。

具体例を挙げると、画面の **G** 位置に対象物が表示されている場合、対象物が実際にある場所は **F** であり、そこまでの距離が実際の距離となります。

突き出た対象物に向かう後退



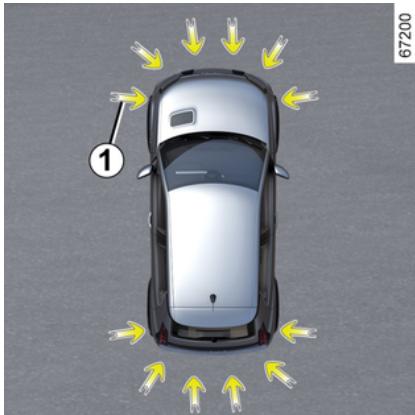
画面上では、位置 **H** が位置 **J** より遠くに見えますが、実際には、位置 **H** と位置 **K** と同じ距離にあります。

固定ガイドラインおよび移動ガイドラインによって示される行跡では、対象物の高さは考慮されていません。位置 **K** に向かって後進すると、車両が対象物に衝突する危険もあります。

パーキングアシスト

パーキングアシスト

はじめに



車両付近の障害物を検出できるよう、車両のバンパーには、矢印 1 が示すような超音波センサーが取り付けられています。

この機能は、信号音と表示により、障害物検出箇所である旨をドライバーに警告します。

車両装備により、システムは、車両の後方、前方および側面にある障害物を検出します。

パーキングアシストシステムは、車速約 10 km/h 未満での走行中以外は作動しません。

この機能では、システムによって認識されない運搬システムは考慮されません。



このシステムは運転時の安全性を補助するもので、したがってドライバーは後退時、責任をもって慎重に後退させなければならないことを忘れないでください。ドライバーは常に集中して細心の注意を払って運転してください：車両の付近に子供、動物、ベビーカー、自転車、石、柱などがないことを確認します。

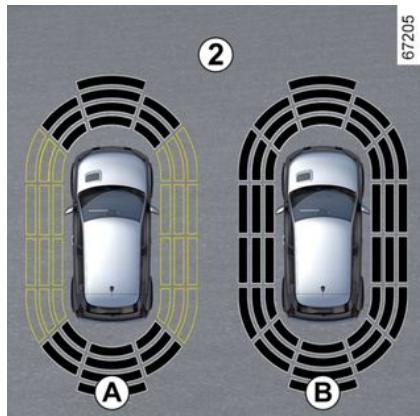


操作時にサブフレームに衝撃があった場合（縁石、歩道またはその他の市街地設備との接触など）車両を損傷した恐れがあります（リアアクスルの変形など）。放置すると事故が起こるおそれがあるので、指定サービス工場で点検を受けてください。

超音波センサの位置 1

矢印 1 が示す超音波センサの周辺部について、その作動を妨げるものの（汚物、泥、雪、取付け不良ナンバープレート）の有無、その作動に影響を及ぼす要素の有無、改造（塗装など）の有無、車両の後部（車両によってはその前部または側部）に取り付けられているアクセサリによる作動妨害の有無を確認します。

作動



ディスプレイ 2 が車両周辺の状況を表示しビープ音を鳴らします。

車両の装備によっては、数メートル走行しないと側面障害物検出機能が有効化されないことがあります。

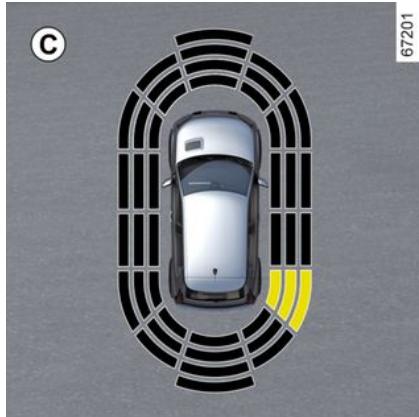
パーキングアシスト

すべての領域がグレーの背景である場合、車両周囲の全体が監視されます。

- 表示 **A**: 車両周辺の状況を分析中の状態。
- 表示 **B**: 車両周辺状況の分析が完了した状態。

3

障害物の検出



このシステムは、車両の後部付近にある大半の物体を検出できるほか、車両装備によっては、車両の前方と側方付近にある物体も検出できます。

信号音の周波数は、車両が障害物に近くほど高くなり、側面にて障害物が検出された場合には、車両と障害物の距離が約 20 cm になると連続ビープ音となり、前方または後方でにて障害物が検出された場合には、車両と障害物

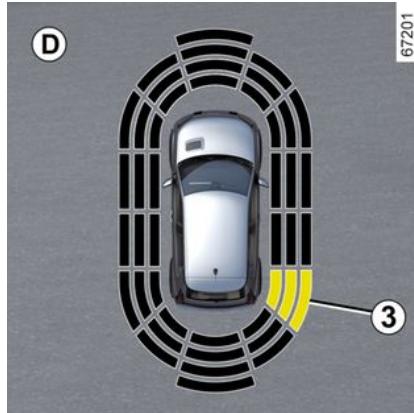
の距離が約 30 cm になると連続ビープ音となります。

障害物検出箇所が（表示 **C**）のように表示されます。車両によっては、検出障害物までの近さに応じて、検出箇所が緑色、オレンジ色（車両によっては黄色）または赤色で表示されます。



操作中に進行方向が変わると、障害物との衝突リスクを示す信号に遅れが生じることがあります。

側面での障害物検出に関する特殊なケース



このシステムは、ホイールの向きに応じて車両の軌道を判断し、車両側面において障害物 **3** と衝突する危険がある場合にその旨をドライバーに通知します。

側面に障害物が検知された場合:

- 障害物に接近するにつれて、警告音が高速になり連続して鳴ります。障害物検出箇所 **3** が（表示 **D**）のように表示されます。

- 衝突のリスクがない場合は、障害物に近づいても警告音は鳴りません。車両によっては、障害物検出箇所 **3** が分散表示されます。



操作中に進行方向が変わると、障害物との衝突リスクを示す信号に遅れが生じることがあります。

パーキングアシスト

ON/OFF

マルチメディア画面 4 からの有効化／無効化



マルチメディア画面 4 の「車両」領域から、「運転アシスト」メニュー > 「パーキング」タブの順に押します。

超音波センサでカバーされている領域を有効または無効にします。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

注: 車両によっては、車両後方の検出ゾーンを無効化できません。

パーキングアシスト自動作動解除スイッチ

次のときにシステムは自動的に解除されます：

- 車速が約 10km/h 以上になったとき。
- 車両によっては、車両が約 5 秒を超えて静止し、前方に障害物が検知された場合（渋滞時など）。
- シフトレバーが N 位置にある場合。
- 作動不良が検出された場合。

注: 車両によっては、車両に、システムが認識済みの牽引バーが装備されている場合、リアパーキングアシスト機能だけが無効化されます。

設定



安全のために、この操作は必ず停止時に行ってください。



エンジンを始動する度に、この機能は、エンジンが最後に停止した時点で記憶された作動状態に復帰します。

マルチメディア画面 4 からの設定



車両を静止させた状態で、マルチメディア画面 4 上の「車両」領域から「運転アシスト」メニュー > 「パーキング」タブの順に押します。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

システムサウンドの解除

(車種によります)

パーキングアシストサウンド ON/OFF スイッチ

注: 消音設定にすると、障害物接近時には表示警告のみになります。

パーキングアシスト

パーキングアシストオーディオ音 量スイッチ

音量バーを使ってパーキングアシストの音量を調整できます。

3

- ① エンジンを始動すると、機能はエンジンが最後にオフになったときに保存されていたモードを継続します。

注意：

次の場合、警告音（車両によっては関係する検出ゾーン）を手動で無効化できます。

- システムが未認識の、牽引、運搬またはトレーラー用の車両装備が超音波センサーの前にある場合。

- 超音波センサーに損傷がある場合。

注: 消音設定にしても、ドライバーへの警告のための表示は継続されます。

パーキングアシスト

作動異常

システムが作動不良を検出すると、次のいずれかの状態になります。

- 後進ギヤにした際にビープ音が約3秒間鳴り、「パーキングセンサー 点検」というメッセージがインストルメントパネル上に表示される状態。
- システムから音が出ない（意図的に無効化していないにもかかわらず音が出ない）か、後進ギヤにしても何も表示されない状態。

超音波センサがきれいか確認します。不具合が続く場合は、正規ディーラーにご相談ください。



車両の走行速度が約10km/h未満だと、車両周辺（の自動二輪、ローリー、空気ドリルなど）からの騒音でパーキングアシストの警告音が鳴る場合があります。



システムサービス / 修理

- 車両が衝撃を受けると、超音波センサーの位置ずれが生じ、その作動に悪影響が及ぶ可能性があります。機能を解除して、正規サービス工場に連絡してください。
- 超音波センサー設置箇所付近での作業（修理、交換など）は、有資格専門作業員にご依頼ください。

指定サービス工場のみがシステムを修理することができます。

システムの障害

以下に掲げるような要素は、システムの作動を妨げたり、システムに損傷を及ぼしたりする恐れがあります。

- 不安定な天候条件（雨、雪、あられ、薄氷など）、
- 車両周辺（の自動二輪、ローリー、空気ドリルなど）からの騒音。
- 互換性がないけん引ポールまたはフックの取付け。

誤アラームまたは警告なしのリスク

システムの作動に異常が発生した場合は正規ディーラーまでご連絡ください。

パーキングアシスト

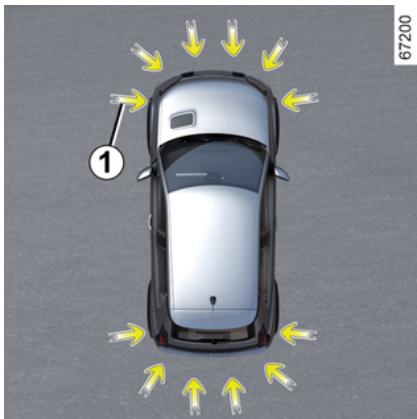
① システム作動時間の制限

- システムの正常な動作を保証するためには、超音波検出ゾーンとカメラゾーンを清潔に保ち、改変されないよう
にする必要があります。
- 車両に近づく小さな物体（バイク、自転車、歩行者など）は、システムによって認識されないことがあります。
- 車両に近すぎる障害物はシステムにより検出できない場合があります。
- 他車両または障害物と自車両の走行速度が大きく異なる場合、システムは警告を表示しないことがあります。
- 操縦中の軌道変更時に、システムが障害物を遅れて報告することがあります。

パーキングアシスト

ハンズフリー駐車

はじめに



注: この機能は、駐車スペースの路面にある線を基準に空きスペースを検出するのではなく、他車両、建物または大きな物体の間または付近に利用可能な駐車スペースがあるか検索し、その結果をもとに駐車可能場所を検出および提案します。



このシステムは運転時の安全性を補助するもので、したがってドライバーは後退時、責任をもって慎重に後退させなければならないことを忘れないでください。ドライバーは常に集中して細心の注意を払って運転してください：車両の付近に子供、動物、ベビーカー、自転車、石、柱などがないことを確認します。

この機能は、車両のバンパーに取り付けられた矢印1で示される超音波センサーを使用して、アクセス可能な駐車スペースを見つけ出し、駐車操作を支援するのに役立ちます。

ステアリングホイールから手を離せば、ドライバーだけがコントロールできます。

- アクセルペダル
- ブレーキペダルを踏む
- シフトコントロール。

いつでも、ステアリングホイールを操作すると、コントロールを取り戻すことができます。



操作時にサブフレームに衝撃があった場合（縁石、歩道またはその他の市街地設備との接触など）車両を損傷した恐れがあります（リアアクスルの変形など）。放置すると事故が起こるおそれがあるので、指定サービス工場で点検を受けてください。

超音波センサの位置 1

矢印1が示す超音波センサの周辺部について、その作動を妨げるものの（汚物、泥、雪、取付け不良ナンバープレート）の有無、その作動に影響を及ぼす要素の有無、改造（塗装など）の有無、車両の後部（車両によってはその前部または側部）に取り付けられているアクセサリによる作動妨害の有無を確認します。

パーキングアシスト

作動



車両を静止させたり、時速約30km/h未満で走行したりすると、機能にアクセスする方法はいくつかあります。

—マルチメディア画面3の「車両」領域2から、「運転アシト」メニューを押した後、「パーキング」タブを押してパーキングアシストメニューにアクセスする方法。

—「ハンズフリーパークアシスト」 ウィジェットからアクセスします（設定済みの場合）。

—ステアリングホイール上にある「お気に入り」ボタン（構成済みの場合）を用いる方法。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

操作の選択

システムは3つの操作を実行できます。

- 並列／縦列駐車スペースへの車両駐車。
- 並列パーキングのスペースから出る。

マルチメディア画面3から、実行する操作を選択します。

注: 車両を発進させた後、またはシステムを使用した並列パーキングが正常に完了した後で、システムが要求するデフォルトの操作は、並列パーキングスペースから出る操作の支援です。

その他のケースでは、マルチメディア画面3からデフォルトの操作を選択します。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。



このシステムは、パーキングアシスト機能（バックカメラ装備車両ではバックカメラ）が作動すると起動し、ドライバーの運転操作→275、→272 視覚的に補助します。

作動



このシステムは運転時の安全性を補助するもので、

したがって、どのような場合でも速度制限に注意し、細心の注意を払う（突然の事態にもブレーキを踏めるように常に備える）必要があり、操作中の責任はドライバーにあります。

パーキングアシスト



操作中にはステアリングホイールが急回転するため、中に手は入れず、中に障害物がないことを確認してください。



駐車の際には、マルチメディア画面に表示される指示に従ってください。運転操作に遅れが生じたり、指示に背いたりすると、操作が取り消されたり、正しく駐車できなかつたりする恐れがあります。

並列／縦列駐車スペースへの車両駐車

車速が 30 km/h 未満である限り、システムは、車両の両側を対象に駐車可能スペースを探します。

駐車スペースが見つかると、マルチメディア画面 3 上に文字「P」で表示されます。「停止」メッセージが表示され、ビープ音が聞こえるまでゆっくり運転します。車両の左右どちらかに複数のスペースが見つかった場合は、希望スペースを方向指示器で選択しなければなりません。複数のスペースが車両の左右どちらかのみにある場合は、

システムが最後に見つけたスペースのみ考慮されます。

マルチメディア画面 3 上では、該当駐車スペースが灰色になり、文字「P」で表示されます。

- 車両を止めます。
- リバースギアを選択します。

表示灯 がインストルメントパネル上に表示され、ビープ音が鳴ります。

- ステアリングホイールから手を離します。
- マルチメディア画面 3 に表示される指示に従います。

速度が約 7 km/h を上回らないようにする必要があります。

インストルメントパネルの警告灯

が消灯してビープ音が鳴ると、操作は完了です。

並列パーキングのスペースから出る。

- 「ハンズフリーパークアシスト」機能を作動させます。
- 「縦列駐車スペースからの発進」モードを選択します。
- 車両から降りたい側の方向指示灯を点灯させます。

すべての条件が満たされている場合、マルチメディア画面 3 上にメッセージが表示され、車両が動き出します。

- 始めるには「OK」ボタンを押します。

警告灯がインストルメントパネル上に表示され、ビープ音が鳴ります。

- ステアリングホイールから手を離します。

マルチメディア画面 3 に表示される指示に従い、パーキングアシストシステムによる警告を考慮して、前後進の操作を行います。

速度が約 7 km/h を上回らないようにする必要があります。

車両が駐車可能スペースの出口に達すると、機能による誘導の完了の証として、

警告灯がインストルメントパネルから消え、ビープ音が鳴り、メッセージがマルチメディア画面 3 上に表示されます。

作動の一時停止／再開

次の場合、操縦は一時停止されます。

- 移動の方向に障害物があると、操作が完了しません。
- 助手席ドアまたはトランクドアが開いている場合。

パーキングアシスト

操縦が中断されると、その旨をドライバーに知らせるため、 警告灯がインストルメントパネルから消え、ビープ音が鳴ります。「駐車操作を中断します」というメッセージと操縦中断理由がマルチメディア画面 3 上に表示されます。

確認内容:

- ステアリングホイールから手を離している。
- と
- すべてのドアとトランクルームを閉まっている。
- と
- 移動する方向に障害物がない。
- と
- エンジンが始動している。

 警告灯が点滅している状態は、システムが作動を再開できる状態です。

操縦を再開するには、「駐車アシスト」メニューを押します。 警告灯がインストルメントパネル上で点灯します。

マルチメディア画面 3 に表示される指示に従ってください。

操作のキャンセル

以下の状況で、操作をキャンセルすることができます。

- ホイールをコントロールする。
 - 車両が長時間停止している。
 - パーキングブレーキがかかっている
 - 車速が約 7 km/h を超えた場合。
 - 車輪がスリップしている。
 - エンジン始動／停止ボタンが押された場合。
 - マルチメディア画面 3 を介してキャンセルされた場合。
 - マルチメディア画面に表示されている指示が守られなかった場合。
 - 運転席シートベルトが外された場合。
 - 運転席側ドアが開いている場合。
 - 1 回の操作で、10 回以上の前進 / 後進を実行した場合。
 - 駐車時距離制御機能センサが汚れていたり、センサの作動を妨げるものがあつたりする場合。
- 作動が中断されると、インストルメントパネル上の 警告灯が消え、警告音が鳴ります。「パークアシストがキャンセルされました」というメッセージと操作のキャンセル理由がマルチメディア画面 3 上に表示されます。

使用できない機能

システム有効化方法のいずれか 1 つを選択した場合に作動条件が満たされて

いないと、インストルメントパネル画面上に、機能を使用できないことを知らせる「ハンズフリー駐車を使用できません」というメッセージが表示されます。

作動異常

この機能で作動不良を検出すると、インストルメントパネルに次のメッセージが表示されます。

- 「Park Assist 要確認」。 警告灯も表示されます。
 - または
 - « パーキングセンサー 点検 »;
 - または
 - « パーキングアシスト 要確認 »。
- 超音波センサを清掃します。不具合が直らない場合は、ルノー指定サービス工場にお問い合わせください。
- 注:** 機能に障害がある場合、車両は固定されません。

すぐに、車両の制御を再度取得します。

パーキングアシスト

警告



このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、車両を常時コントロールする責任があるドライバーに代わって注意するものではなく、補助的に注意喚起するのもです。操作が、現地で適用される交通規制に準拠したものであることを確認してください。

ドライバーは常に集中して細心の注意を払って運転してください: 車両の付近に子供、動物、ベビーカー、自転車、石、柱、けん引装置などがいないことを確認します。

システムサービス / 修理

- 衝撃が発生した場合、センサの動作が影響を受ける可能性があります。機能を解除して、正規サービス工場に連絡してください。
- センサーのある場所の作業（修理、交換、外装トリムの変更など）は、資格を持つ専門スタッフが行う必要があります。

指定サービス工場のみがシステムを修理することができます。

システムの障害

特定の状態は、天候の悪化（雪、雹、氷など）など、システムの動作を混乱させるか、または悪化させる可能性があります。

システムの動作が異常な場合は、システムの作動を解除して、正規ディーラーまでご連絡ください。

誤警報のリスク。

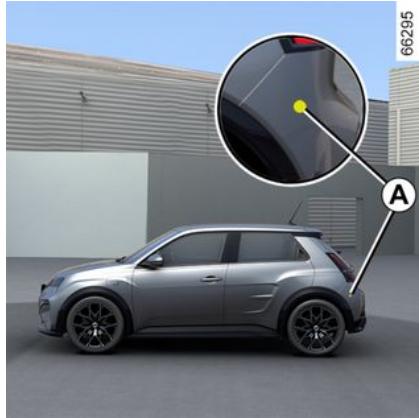
システム作動時間の制限

- システムは、センサの死角にある対象物を検出できません。
- 常にシステムによって提案されたパーキングスペースが実際に利用可能であり、全体の操縦の間に障害物がないことを確認するために確認してください。
- トレーラー牽引時や、車両またはその周辺の車両に牽引／運搬システムが装備されている状況では、このシステムを使用しないでください。

パーキングアシスト

駐車終了警告

はじめに



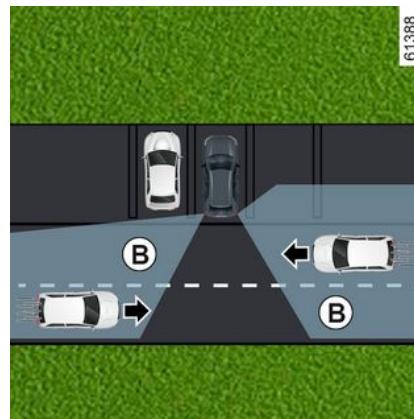
リアバンパ（ゾーンA）の両側に設置されているレーダーからの情報を用いて作動するこのシステムは、他車両が検出ゾーンBに存在する場合にその旨をドライバーに警告します。

次の場合にシステムが作動します。

- シフトレバーを「後進」位置にした場合。

と

- 車両が停止しているか、低速で走行しているとき。



i システムの検出機能は、車両の周囲（静電気物など）、バンパーの状態などによって異なります。

! このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、車両を常時コントロールする責任があるドライバーに代わって注意するものではなく、補助的に注意喚起するもののです。

特徴



レーダ検出ゾーンAに障害物（ステッカー、汚泥、雪など）がないか確認します。

レーダーの妨げとなるものがある場合は、「サイドレーダー 作動していません」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。センサが配置されているエリアを清掃します。

パーキングアシスト

マルチメディア画面 1 からの有効化／無効化



機能を有効または無効にするには、マルチメディアの指示を参照してください。

「ON」または「OFF」を選択します。

作動



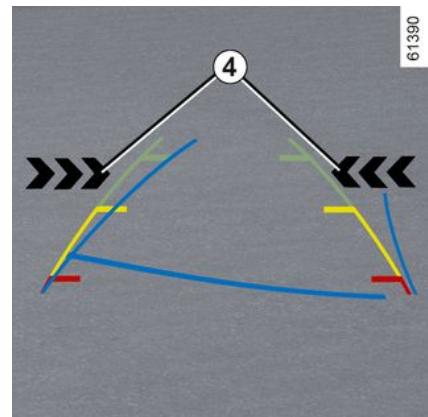
この機能は、ゾーン B 内の他車両が自車両に接近している場合に警告します。

接近車両が検出されると、左右のドアミラー 3 に対応する警告灯 2 が点灯します。

注: ドアミラー 3 は定期的に清掃し、警告灯 2 を視認できる状態に保ってください。

61390

3



マルチメディア画面上の警告灯 4 は、側部から自車両に接近する他車両が検出された場合に表示されます。

注: カメラを定期的に清掃して、不鮮明にならないようにします。

シフトレバーが「後進」位置で自車両が動いている場合には、警告灯 2 および 4 が点灯し、ビープ音も鳴ります。

作動異常

システム認識済みの牽引バーを装備しており、トレーラーも連結されている車両の場合、駐車可能時間終了警告は自動的に無効化され、「ドライブアシスト操作不可」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。

パーキングアシスト

システムが不具合を検出すると、「サイドレーダーを点検してください」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。メーカーにお問い合わせください。

3

i バンパーの後ろにセンサがあるため、バンパーの作業（修理、交換、塗装など）は資格を持つ専門スタッフに任せることをお勧めします。



システム作動時間の制限

- システムの正常な作動を確保するために、レーダーエリアは清潔に保ち、変更を加えないようにする必要があります。
- 車両に近づいてくる小さな物体（バイク、自転車、歩行者など）は、システムによって認識されないことがあります。

機能の作動解除

次の場合にはこの機能を無効化してください。

- レーダ検出ゾーンA（リアバンパ）に損傷がある場合。
- 車両には、システムによって認識されない牽引バーが取り付けられています。



このシステムは運転時の安全性を補助するもので、この機能は、車両を常時コントロールする責任があるドライバーに代わって注意するものではなく、補助的に注意喚起するものです。

いかなる場合でも、システムを障害物の検知や衝突防止装置として使用することはできません。

システムサービス / 修理

- 衝撃を受けた場合は、レーダーの位置が変わり、機能に影響が出ます。機能を解除して、正規サービス工場に連絡してください。
- レーダーのある場所の作業（修理、交換、ボディー修理）は、資格を持つ専門スタッフが行う必要があります。

指定サービス工場のみがシステムを修理することができます。

パーキングアシスト



システムの障害

以下に掲げるような要素は、システムの作動を妨げたり、システムに損傷を及ぼしたりする恐れがあります。

- 複雑な環境（地下駐車場、鉄骨構造など）の場合。
- 悪天候（降雪、豪雨、降雹、黒氷発生など）の場合。

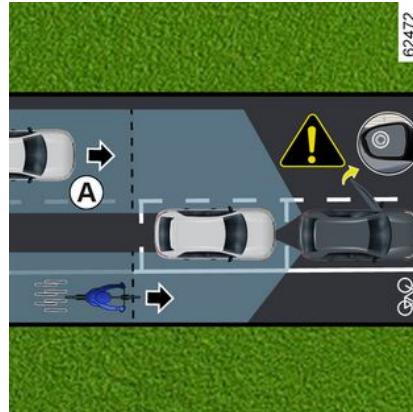
機能の作動解除

車両が牽引されている場合（故障回復）、または車両にシステムで認識されないけん引装置が取り付けられている場合は、機能を無効にする必要があります。

システムの動作が異常な場合は、システムの作動を解除して、正規ディーラーまでご連絡ください。

乗員の安全出口

不具合



この機能は、車両乗員の安全を確保する補助運転補助機能です。

「乗員の安全出口」機能の目的は、車両が固定されているときにドアを開いた場合に、ドライバーおよび / または乗員に潜在的な危険を警告する目的です。



リアバンパ（ゾーン C）の両側に取り付けられているセンサからの情報を用いて作動するこの機能は、次の場合に、ドライバーに警告します。

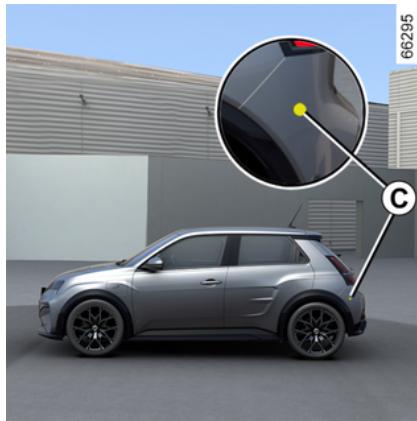
- 他車両（または自動二輪、自転車、歩行者など）が検出ゾーン A 内に存在する場合。

と

- 他車両（または自動二輪、自転車、歩行者など）と衝突するリスクがゾーン B 内で生じている場合。

パーキングアシスト

特徴



リアバンパ両側のレーダ付近にあるゾーン **C** に障害物（汚物、泥、雪など）がないか確認します。

レーダーの妨げとなるものがある場合は、「サイドレーダー作動していません」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。センサが配置されているエリアを清掃します。

次の場合にはこの機能を無効化してください。

- レーダー検出ゾーン **C**（リアバンパー）に損傷がある場合。
- 車両には、システムによって認識されない牽引バーが取り付けられています。

作動



ドアを開ける際に動きのある物体が検出されると、警告灯 **1** がドアミラー **2** に表示され、車両によってはフロントドアのムードランプが点灯します。

注: ドアミラー **2** は定期的に清掃し、警告灯 **1** を視認できる状態に保ってください。



検出障害物が車両にきわめて近接している場合は、ビープ音が鳴り、**3「側方並走車検出」**という警告メッセージがインストルメントパネル上に表示されます。

注: このシステムは、イグニッションスイッチ OFF 後も一定時間は有効な状態に保たれます。

パーキングアシスト

マルチメディア画面 4 からの機能の有効化／無効化



– システムによってリスクとは見なされない低速で車両に向かって、または車両の近くを移動する移動物体（バイク、自転車、歩行者、車両など）があります。

– リアバンパ内にあるセンサの範囲は、車両の非常に近くに駐車した他の特に広い駐車車両など、物体によって隠されています。

車両がシステム認識済みの牽引バーを装備している場合、機能が作動しない旨をドライバーに知らせるため「ドライブアシスト操作不可」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。

お車に合った装備をお探しの際には、お近くの指定サービス工場にご相談ください。

機能を有効または無効にするには、マルチメディアの指示を参照してください。

i 車両のロックを解除すると、機能はマルチメディア画面に最後に保存されたステータスに戻ります。

作動しない場合

- 車両が走行中で完全に静止していない。
- 車両が外側からロックされている。



この機能では、特定車両や、自車両付近の移動物体を検出できないことがあります。この機能は、ドライバーと車両の乗員の警戒と責任に代わるものではありません。ドライバーと乗員は常に交通状況に特に注意を払い、車両を離れる前にエリアをチェックする責任があります。

システムの障害

特定の条件（複雑な環境、悪天候条件など）により、誤ったアラームの危険性を伴ってシステムの動作を混乱または損傷する可能性があります。

緊急サービスコール

はじめに

車両に装備されている場合、エマージェンシーコール機能を使用することで、事故時または疾病時に、自動または手動で（課金なしで）救急サービスに電話し、救急サービスの現場到着までの時間を縮小することができます。

注意: エマージェンシーコールは次の場合に作動します。

- 2Gおよび3G通信インフラструкチャが整い、システムと互換性のある関連するテレマティック緊急サービスの対象になっている国にいるとき。

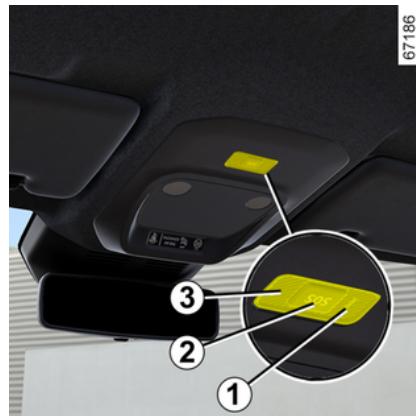
- 車両が走行中の地域のネットワークの通信範囲に応じて異なります。

目撃した事故を報告するためにエマージェンシーコール機能を使用する場合、救急サービスが車両の位置つまり報告する事故の位置を特定できるよう、交通の状態に応じて、停車することになります。

国や地方自治体の規則に従って処理してください。



事故を目撃した場合、または気分が悪くなった場合、緊急事態に巻き込まれた場合にのみ、エマージェンシーコールを使用してください。



1. システム作動警告灯:
 - 緑色: 作動中（ネットワーク利用可能）。
 - OFF: 停止中（ネットワーク利用不可）。
 - 赤: 作動に不具合あり。
 - 緑点滅: コール中。
2. 「SOS」ボタン。
3. マイク
4. スピーカ（車両に応じて異なります）。



コールは常に次の方法で実行されます。

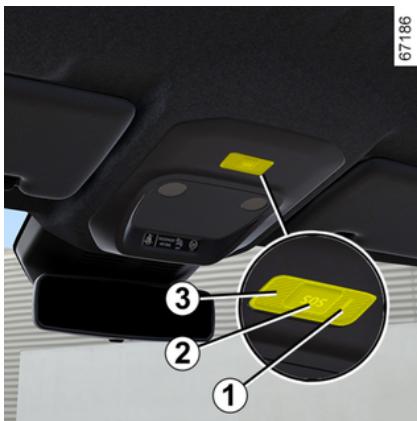
- エマージェンシーサービスへのコールが開始されます。
- 事故に関連するデータ（メーカー情報、コール時間、最終所在地、車両の方向など）が送信されます。
- エマージェンシーサービス担当者の音声通信が行われます。
- 必要であれば、緊急サポートに電話が掛けられます。

エマージェンシーコールには次の2つのモードがあります。

- 自動コールモード。
- 手動モード。

緊急サービスコール

作動



自動コールモード

システムが起動すると、自動モードが作動します。

エマージェンシーコールは、保護装置（シートベルトプリテンショナー、airbagなど）の作動を必要とした事故発生時に自動的に起動します。



事故の発生時には、場所と交通の状態が許せば、必要に応じてコールセンターにすぐに応答できるように、できる限り車両に近い場所に留まってください。

手動コールモード

このエマージェンシーコールは次の方で開始できます。

- ボタン 2 を 3 秒以上長押しします。
または
- ボタン 2 を 10 秒以内に 5 回押します。

誤ってボタンを押してしまった場合は、コールセンターにつながる前であれば、ボタン 6 を約 2 秒間長押しすることで発信をキャンセルできます。

通話の確立後は、コールセンターのみが通話を終了できます。

作動異常

状況（バッテリー不足など）によっては、緊急通報が実行されない場合があります。

システムが機能の異常を検出すると、警告灯 1 が 30 分以上赤く点灯します。できるだけ早く正規サービス工場にご連絡ください。



システムは、専用バッテリーで駆動します。バッテリーの寿命は約 4 年間です（消耗時には警告灯 1 の点灯によりドライバーに対し警告されます）。メーカーにお問い合わせください。



エマージェンシーコール機能を使用しない場合、システムは追跡できず、持続的な監視下に置かれません。データは、自動的かつ継続的に削除され、システムでは車両の最後の 3 位置のみが保存されます。国の法律に従って、データは緊急通報の際にのみ送信されます。

コールセンターに送信されるデータは、所在国で適用される個人データ保護法に従って扱われます。システムは、アクティビティ履歴データを 13 時間のみ記憶します。

車両のオーナーは、データに対するアクセス権を持ち、データの修正、削除、ロックを要求できます。

緊急サービスコール



システムの安全および適切な動作を確認するためには、バッテリに対するどのような作業（取り外し、接続の解除など）も適格な技能者が実施する必要があります。

重大なやけどまたは感電の危険性があります。

メンテナンス資料に記載された交換間隔に（超過なく）従う必要があります。

バッテリーは専用タイプです。同型のバッテリーと交換してください。

正規ディーラにご連絡ください。

走行モード

車両によっては、走行モードシステムを使うことで、走行、ムードランプ、快適機能および運転位置に影響を及ぼす次の走行モードの中からお好みのものを選択できます。

- モードはいずれも既定で、一部の設定（ムードランプ設定など）はカスタマイズできます。
- 「Perso」モードは完全にカスタマイズできます。

走行モードは以下に影響します。

- ステアリングの力。
- 横滑り防止装置。
- エンジンの応答性。

以下にも影響します。

- 車内快適機能。
- 助手席照明やインストルメントパネル照明。
- インストルメントパネルやマルチメディア画面の表示。

i エンジン設定は、「Perso」モード以外、各運転モードに応じて決定されるため、カスタマイズできません。

メニューにアクセスする



車両によっては、次の方法で「DRIVE MODE」にアクセスできます。

- マルチメディア画面 1 からアクセスする方法。
- ステアリングホイールの制御装置 2 を使う方法。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

i NormalモードかSaveモードを選択してからイグニッションスイッチをOFFになると、最後に選択したモードが保持されます。

Sportモードを選択してからイグニッションスイッチをOFFになると、再起動時にはNormalモードが自動的に有効化されます。

DRIVE MODE モード

「Perso」モード

このモードでは、エンジンの応答性など、運転要素の完全な設定を行うことができます。

「Save」モード

「Save」モードでは、エネルギー節約が重視されます。エンジン作動管理機能により消費量→171が低減されます。

「Sport」モード

このモードでは、高いエンジンの応答性が確認されます。ステアリングはシャープになります。

走行モード

「Normal」モード

このモードでは、標準の車両設定を使用して、快適性と快適性の間で最良の妥協点を与えます。



モードによって設定モードをリセットできます。

この機能は、マルチメディア画面**1**のDRIVE MODE構成メニューから有効化または無効化することができます。

有効化すると、ECO警告灯**3**がマルチメディア画面**1**に表示されます。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

4

エアコン「Eco」設定



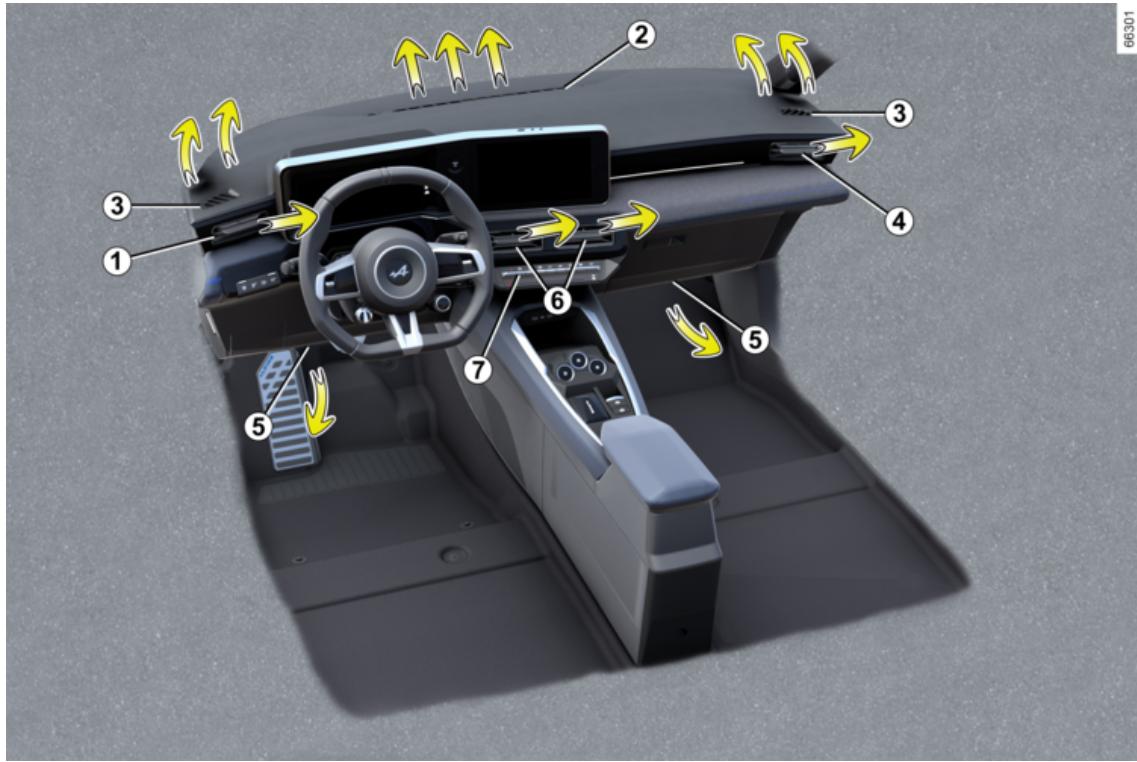
このパラメータは、エアコンの作動を調整（希望設定温度到達までの時間を延ばすなど）して車両の航続距離を最適化することを可能にする各DRIVE MODEモードに適用できます→171。

エアベンチレーター、ヒーター、エアコン

ベンチレーター: エアアウトレット

吹き出し口

4



エアベンチレーター、ヒーター、エアコン

1. 運転席のベンチレーター。
2. フロントウインドウデフロスター。
3. サイドウインドーデフロスター
4. 助手席ベンチレーター。
5. 前席足元用ヒーター吹き出し口。
6. センターベンチレーター
7. コントロールパネル

エアベンチレーター、ヒーター、エアコン

運転席吹出し口の位置 1



4

風向きの調節

気流の向きを決めるには、タブ 8 を用いて吹出し口 1 を回します。

閉じるには、タブ 8 を抵抗がなくなるまでステアリングホイールから離します。

開くには、タブ 8 をステアリングホイール方向に動かします。

助手席吹出し口 4



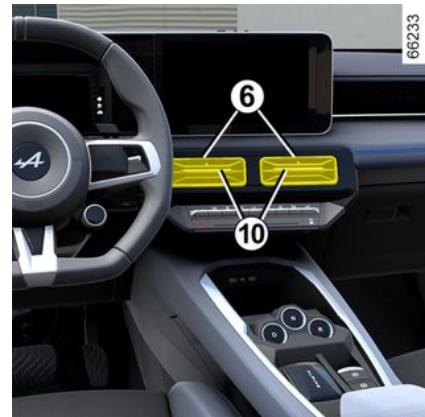
風向きの調節

気流の向きを決めるには、タブ 9 を用いて吹出し口 4 を回します。

閉じるには、カーソル 9 を、フロントパネルの外側方向に、抵抗がなくなるまで動かします。

開くには、タブ 9 を、フロントパネルの内側方向に動かします。

センター吹出し口 6



風向きの調節

気流の向きを決めるには、タブ 10 を用いて吹き出し口 6 を回します。

閉じるには、タブ 10 を、フロントパネルの内側方向に動かします。

開けるには、タブ 10 を、フロントパネルの外側方向に、抵抗がなくなるまで動かします。



ベンチレーターに物（電話機など）を取り付けないでください。

損傷のおそれがあります。

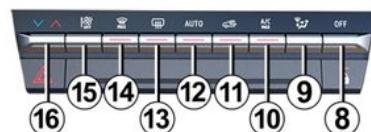
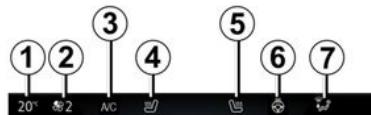
エアベンチレータ、ヒーター、エアコン

風量の調節



オートエアコン

スイッチ類



吹出し口 1、4 および 6 からの気流を調整するには、制御装置 11 を押して必要な水準まで上げます。

車内の悪臭には専用のシステムのみをご利用ください。メーカーにお問い合わせください。



悪臭が入ってくる場合などに車両のブロアに物を挿入しないでください。

故障や火災の恐れがあります。

11. 内気循環。

12. AUTOモードエアコン起動スイッチ。

13. リアウインドーのデフロスター／デミスターと、仕様によってはドアミラー

14. 「シークリア」機能。

15. 風量の調節とシステムの停止。

16. 運転席／助手席側の気温調整。

4

システムの作動／解除

システムの作動

車両が始動すると、前回に使用したプログラムが復帰します。

このシステムは、エンジンスイッチがONの状態で車両を静止させている場合も機能します。

12スイッチを押してシステムを起動させるか、15で目的のファン速度に設定します。

強制内気循環機能の停止

システムを停止するには制御装置 8 を押します。

エアコンディショナーの始動または停止

自動モードでは、システムはエアコンの起動を管理します。3スイッチを押

- 運転席ヒーター温度インジケータ。
- 風量インジケータ。
- エアコン起動スイッチ。
- 運転席シート暖房起動スイッチ。
- 助手席シート暖房起動スイッチ。
- ステアリングホイールヒーター起動スイッチ。
- 助手席吹出し口インジケータ。
- システムオフコントロール。
- 吹き出し口切り替え。
- 「A/C MAX」機能有効化制御装置。

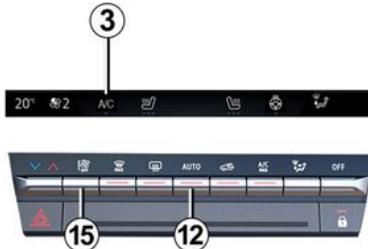
エアベンチレーター、ヒーター、エアコン

してもシステムを有効または無効にできます。

自動コールモード

オートエアコンディショナーは、車内を常に快適な空間に保ち、同時に良好な視界を確保し燃費の節約にも貢献します（極端な使用状況を除く）。

4



システムはファンの回転速度、吹出し口切替え、内気循環、エアコンの作動または停止およびエア温度を制御します。

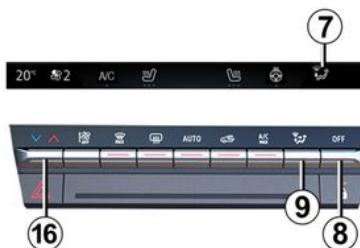
3つのプログラムからモードを選択できます：

AUTO: 選択中の快適機能レベルを車外の状況に応じて最適化できます。ボタン 12 を押します。

SOFT: より円滑かつ静かに希望温度にできます。SOFT モードを有効化するには、ボタン 12 を押し下げます。

FAST: 車内の風量を強くできます。このモードは、後部座席の快適性を最適化するのにお薦めです。FAST モードを有効化するには、ボタン 12 を押し上げます。

吹出し口の切替え



吹出し口を切り替えるには、9を一回または繰り返し押します。選択した吹出し口設定 7はマルチメディア画面上に表示されます。次の順序で位置が示されます：

フロントウィンドウとフロントサイドウィンドウの霜取り用通気口から送風されます。

空気流は前方の側面のガラスやフロントガラスのくもり除け、乗員の足元に分散されます。

主に、ダッシュボードの送風口から送風されます。

ダッシュボードと足元のベンチレーターに向かって送風ます。

空気は主に乗員の足元（ダッシュボードの下またはフロントシートの下）にある吹き出し口から吹き出します。

温度調節

気温を調整するには制御装置 16 を押します。

風量調整

オートモードでは、システムは快適な温度を維持するため最適な風量を制御します。

ファンの回転速度は、スイッチ 15 を回して調節することができます。

エアベンチレータ、ヒーター、エアコン

「クリアビュー」機能

ボタン **14** を押すと、内蔵表示灯が点灯します。

この機能により、フロントウインドウとリアウインドウ、フロントサイドウインドウとドアミラー（車種によって）の急速なデフロスターおよびデミスター機能が作動します。エアコンおよびリアウインドウのデフロスター機能が自動的に作動します。

注: この機能を使うと、空気の再循環が自動的に停止されます。

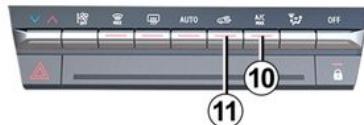
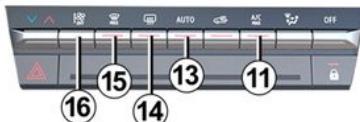
この機能を終了させるには、スイッチ **12 または **14** を押します。**



いくつかのボタンには、作動状態表示灯が内蔵されています。

リアウインドウデフロスターおよび曇り止め

66169



4

ボタン **13** を押すと、内蔵表示灯が点灯します。この機能により、熱線式リアウインドウの急速な曇り止め、および熱線式ドアミラーデフロスターが作動します（装備車の場合）。

この機能を終了するには、ボタン **13 をもう一度押します。スイッチを押さなかった場合でも、曇り止めは自動的に停止します。**

「A/C MAX」機能

「A/C MAX」機能を使うと、エアコンシステムの性能を最大限に引き出すことができます。時折作動させれば、車内をすばやく冷却できます。

この機能には自動修正が含まれます。

- 温度を完全に冷間に設定。
- 乗員への送風配分
- 最大出力でのエアフロー
- エアコンの起動
- 内気循環。

機能を有効化するには、ボタン **10 を押します。ボタン **10** 上の表示灯が点灯します。車両に最高性能を発揮させるには、Save モードを無効化します。**

この機能を停止するには、ボタン **10 かボタン **15** をもう一度押します。ボタン **10** 上の表示灯が消灯します。**

エアベンチレータ、ヒーター、エアコン

内気循環の作動（車内を外気から遮断）

汚染地域を走行する場合などには、再循環機能を随時作動させ、車内への外気流入を遮断することができます。

i デフロスター／デミスターは常に内気循環に優先して作動します。

手動のご使用

ボタン **11** を押すと、内蔵表示灯が点灯します。

注: ウィンドウの結露を防ぐため、この機能は、システムにより自動的に無効化されることがあります。ボタン **11** と一体化された表示灯が消灯します。

ボタン **11** をもう一度押すと、空気の再循環が不要になった時点ですぐに機能が無効化されます。

空気清浄機

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

「お気に入り」機能



車両によっては、制御装置 **17** を押すことで、次の機能を、過去に定義し記憶させたユーザー設定で有効化できます。

- ステアリングホイールのヒーター。
- シートヒーター。
- 空気清浄。

この機能のプログラムについては、マルチメディアの指示を参照してください。

エアコン「Eco」設定

詳しくは、「DRIVE MODE」の項 ➔ 295をご覧ください。

エアコン: プログラミング

エアコンプログラミング



マルチメディア画面 **1** から、次の設定を有効にすることで、いくつかのコントロールプログラムを保存できます。

- 温度調節
- 車両の準備が整う時間のプログラミング。
- プログラムを繰り返す必要がある日数の選択。

保存したプログラムを有効または無効にできます。

注: エアコンのプログラムは、スマホ上の MyAlpine アプリを用いて実行できます。

エアベンチレータ、ヒーター、エアコン

車両を停車し、マルチメディア画面1の「車両」ワールドモードで、「エクトリック」メニューを押して、次に「プログラム」タブを押すことでさまざまな設定にアクセスできます。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。



駐車または停車時のドライバーの責任

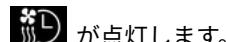
お子様、ひとりで動けない成人、ペットを車内に残して、たとえ短い時間でも絶対にお車から離れないでください。その上、暑く晴れた日には、車内の温度は急に上昇します。
死亡または重傷のおそれがあります。

「プログラミング」の有効化

この機能は、プログラムした時間以前に始動するため、次の場合に、車両内の温度が選択した快適温度に達します。

- ボンネットが閉じている
- トラクションバッテリーの充電残量が十分な場合。
- エンジンが停止しているとき
- 車内には誰もいません。

インストルメントパネルの表示灯



が点灯します。

エアコンの即時起動

次の場合は、エアコンを即時始動させることができます。

- ボンネットが閉じている
 - トラクションバッテリーの充電残量が十分な場合。
 - エンジンが停止しているとき
 - 車内には誰もいません。
- エアコンの即時起動の動作は、設定とは異なります:
- スマートフォンから起動する必要があります。
 - ステアリングホイールヒーターとシートヒーター機能（車両に装備されている場合）が自動的に有効化されます。
 - この機能は、約10分後に停止します。

詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

プログラムされたエアコンを停止する

エアコンは、設定された終了時間の約10分後に自動的に停止します。

ただし、以下の場合は、この機能を無効にできます。

- エンジンが始動している。

- トラクションバッテリーの充電レベルが7%未満。
- ボンネットが開いている
- コントロールパネルのスイッチの1つを押した。
- ドライバーが約20秒間車内にいる。

注:これらの条件は、エアコンの即時無効化にも適用されます。

少なくとも1つのアクティブなプレコンディショニングスケジュールでドアを開けずに車両を長時間駐車すると、含まれている3回目のプレコンディショニング起動から機能が無効になります。この機能は、車両のドアの1つが開かれたときに使用可能になります。

エアコン: 情報と使用に際してのアドバイス

使用上の注意

エアコンの上手な使い方

場合によっては（エアコンの停止、内気循環モードの作動、風量調節スイッチが0または弱になっているなど）、ウインドーガラスが水蒸気で曇ることがあります。

そのような場合には、「クリアビュー」機能を使用して水蒸気を除去してから、エアコンをオートモードで

エアベンチレータ、ヒーター、エアコン

ご使用になると水蒸気が発生しません。



悪臭が入ってくる場合などに車両のプロアに物を挿入しないでください。

故障や火災の恐れがあります。

消費量

エアコンが作動しているときにエネルギー使用量の増加に気付くのが通常です。

燃料の消費を最小限に抑え、環境を守るためにアドバイス:

換気口は開け、ウインドーは閉めて走行してください。炎天下に駐車していたときは、走り出す前にドアやウインドウを開けて熱気を車内から逃すようにしてください。

点検整備

点検時期については整備手帳を参照してください。



寒冷時にも少なくとも月に一度、約5分間、エアコンを定期的に使用してください。

作動異常

作動不良の場合は、指定サービス工場で点検をお受けください。

- デフロスター、デフォッガー、またはエアコンの効きの低下。

室内フィルタのカートリッジの詰まりが原因かもしれません。

- 冷気が出てこない。

各スイッチが適切な位置にあるか、ヒューズが切れていないか点検してください。これらに問題がない場合には作動を停止します。



トラクションバッテリーの冷却には車両のエアコンシステムも使用されます。空調効率の低下が長引くと、トラクションバッテリーが早い段階で劣化する原因となる可能性があります。

車両の下に水が溜まる場合

エアコンディショナーを長時間使用すると車両の下に水が溜まることがありますが、これは室内の湿気が凝縮し、排出されたものです。これは結露が原因です。



絶対に自分でエアコンディショナーシステムの配管類を外さないでください。目や皮膚に思わぬ怪我を負うことがあり非常に危険です。

冷媒

59952



冷媒流体回路（一部の成分は密閉されています）には、フッ素化された温室効果ガスが含まれている可能性があります。

車種によっては、エンジンルーム内に貼付されたラベルAに次の情報が記載されています。

エアベンチレータ、ヒーター、エアコン

ラベル A のにある情報の有無やラベルの場所は、車両に応じて異なります。



冷媒の種類



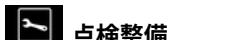
(XXX) エアコンディショナ回路のオイルの種類



可燃物

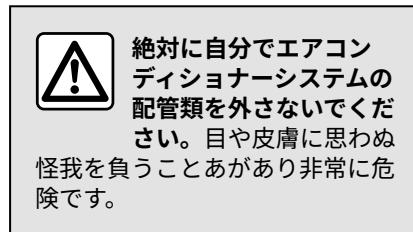


車両の取扱説明書を参照してください

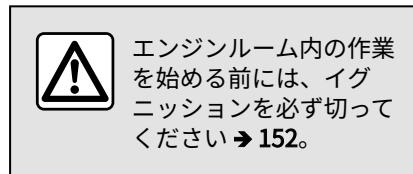


点検整備

x.xxx kg	(1) 車両内の冷媒流体量。
GWP xxxxx	(2) 地球温暖化係数 (CO ₂ 換算)。
CO ₂ eq x.xxxx	(3) CO ₂ 換算重量。



絶対に自分でエアコン
ディショナーシステムの
配管類を外さないでくだ
さい。目や皮膚に思わぬ
怪我を負うことあがり非常に危
険です。



エンジンルーム内の作業
を始める前には、イグ
ニッショングを必ず切って
ください ➔ 152。

追加情報

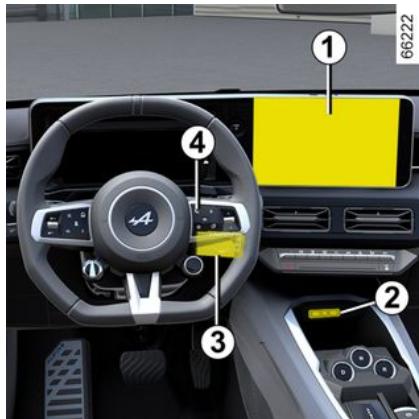
ラベルや冷媒の種類に応じて次のように
になります。

冷媒R-1234yf

- (1) 1,050 kg
- (2) GWP 0,501
- (3) 0.0005 t

マルチメディア装備

はじめに



これらの設備の有無と取り付けスペースは、車種によります。

1. マルチメディア画面。
2. センターコンソール上にある USB-C マルチメディア接続ポート。
3. ステアリングホイール下のスイッチ。
4. 音声コマンド。



詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

「USB-C」マルチメディア接続ポート

USB-C マルチメディアポート 2 を使用すると、ポートあたり最大 15 W (5 V) の電力でアクセサリを充電できます。

注: USB-C マルチメディアポート 2 を使用してデータを転送することもできます。



電力が 15 W を超えるアクセサリーは接続しないでください。
火災の恐れがあります。



アクセサリからUSBポートにケーブル (smartphone 充電ケーブルなど) を接続した場合、不要になったらケーブルを外してください。

ケーブルの端部を金属製の物体 (シガレットライターなど) に触れさせると、ショートが生じ、USBポートに損傷が及ぶ危険があります。

マイク5



(電話および音声アシスタント用)



電話の使用方法

これらの機器の使用に際しては、現行法規を順守してください。

マルチメディア装備

誘導充電エリア 6



車両によっては、お使いの電話を領域**6**に置けば充電ケーブルを使わなくても充電できる場合、**7**記号が表示されます。

ワイヤレス充電の詳細については、マルチメディアの指示を参照してください。

i 電磁誘導充電ゾーンは、所在国やサブスクリプションの内容により、デジタルキー内蔵スマートフォンの配置ゾーンにもなります ➔ 58。

i お使いの電話の充電中に異物（始動カード、USBドライブ、SDカード、クレジットカード、貴金属、キー、硬貨など）を非接触充電領域**6**に置くのは絶対にお止めください。非接触充電領域**6**に電話を置く前には、電話ケースの中から磁気カードやクレジットカード類をすべて取り出してください。

i 詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

i 異物を非接触充電領域**6**に置くと、過熱する恐れがあります。この目的のために用意されているエリアに置くように求めるメッセージが表示されます（収納ボックス、サンバイザーカー収納ボックスなど）。

i 運転の際には、中身が飛び出ないよう、カップホルダに収めた容器を正しく閉じてください。
中の液体がこぼれると、周りの電気装置／電子機器が故障する恐れがあります。

室内装備

パワーウィンドウ

はじめに

これらのシステムは イグニッションスイッチの ON/OFF にかかわらず、いずれかのフロントドアが開けられるまで作動します（約 3 分間）。



ドライバーの責務

たとえ短い時間でも絶対に、お子様、支援が必要な大人、またはペットを車内に残して、カードまたはキーを車内に置いたまま、お車から離れないでください。

お子様（やペット）がエンジンを始動したり、パワーウィンドウやドアロックなどの装置を作動させると大変危険です。

体の一部をはさみ込まれた場合は、該当スイッチを押してすぐにウィンドウを下ろしてください。**大ケガを負う危険があります。**

ワンタッチ式パワーウィンドウ



ウインドウのスイッチを短く押すか、いっぱいまで引いて、ウィンドウを完全に上げるか下げるかします。作動中にパワーウィンドウスイッチに触れるとき作動が停止します。

注: リアシートのウィンドウは完全には開きません。

運転席からスイッチを押します：

1. 運転席側
2. 助手席側
3. および 5. 後部座席用。



助手席から、スイッチ 6 を押します。

乗員の安全

ドライバーは、スイッチ 4 を押すことで、リアシート乗員によるパワーウィンドウ操作を無効化できます。インストルメントパネルに確認メッセージが表示され、スイッチ表示灯が点灯します。



半開のウィンドウに物を挟まないように注意してください。パワーウィンドウが損傷する恐れがあります。

注: ウィンドウが閉まり切るときに抵抗（木の枝など）を検知すると、ワイ

室内装備

ンドウは作動を停止して数センチ下がります。

ワンタッチパワーウィンドウを作動できない

ワンタッチパワーウィンドウには、熱保護が装備されています。ウィンドウのスイッチを16回連続して押すと、保護モードに入ります（ウィンドウを固定します）。

次のようなことができます：

- パワーウィンドウスイッチを短く、約30秒間隔で使用します。
- エンジンが作動している状態で、パワーウィンドウスイッチの約20分後にウィンドウがロック解除されます。

リモコンによるウィンドウの開閉操作

ドアを外側からロック解除する場合は、**カードのロック解除ボタンを押し続ける**と、ワンタッチ式の電動ウインドウを装備するウインドウがすべて、自動的に開きます。

ドアを外側からロックする場合は、**カードのロックボタンを押し続ける**と、ワンタッチ式の電動ウインドウを装備するウインドウがすべて、自動的に閉じます。

運転者がつねに人が車内にいないことを十分確認するとしても、このシステムを作動させておくことを推奨いたします。



ウィンドーを開めたときは、体の一部（腕、手など）が車両から突き出ていないことを確認します。

大ケガを負う危険があります。

作動異常

ウィンドウが閉まらない場合、システムは通常モードに戻ります：該当のスイッチを必要な回数押してウィンドウを完全に閉め（ウィンドウは徐々に締まる）、スイッチを1秒間押し続けて（まだ閉側にある）から、ウィンドウを完全に下げて再び上げ、システムを初期化します。

必要に応じて、指定サービス工場にお問い合わせください。

ルームランプ

マップランプ

フロント読書灯

(車種によります)



次の機能を作動させるには、各照明**1**または**2**に触れます。

- 常時点灯、
- すぐに消灯します。

注：

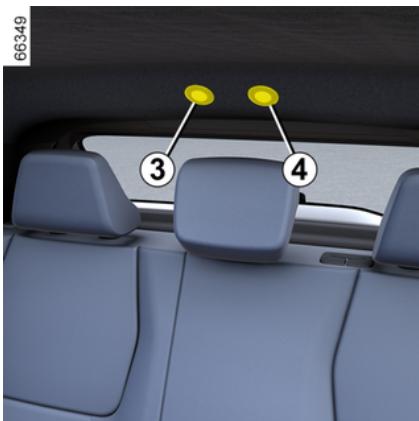
- ランプをオンまたはオフにするには、ランプを押す必要はありません。連絡する必要がある場合のみ。
- マルチメディア画面から、ドアを開いた際のマップランプの点灯を有効/無効にできます ➤ 128。

リアマップライト

(車種によります)

室内装備

4



次のことを行うには。読書灯**3**または**4**をタッチします。

- 常時点灯、
- すぐに消灯します。

注：

- ランプをオンまたはオフにするには、ランプを押す必要はありません。連絡する必要がある場合のみ。
- マルチメディア画面から、ドアを開いた際のマップランプの点灯を有効/無効にできます ➔ 128。



ドアのロックを解除して開けると、ルームランプとフロアーランプが一時的に点灯します。

ラゲッジルームランプ



照明**5**は、トランクを開けると点灯します。

サンバイザ、バニティミラー



サンバイザー

サンバイザー**6**を下ろしてフロントウインドウを覆うか、クリップを外してサイドウインドウ側に動かします。

バニティミラー

カバー**7**を持ち上げます。

ルームランプ下の照明

(装備により異なります)

照明**8**は、サンバイザを開くと自動的に点灯します。

室内装備

アクセサリ電源

アクセサリソケット 1



これはアクセサリ接続用です。

タイヤ空気充填キットのコンプレッサ
に使用できます（例えば ➔ 336）。



消費電力が 120 W (12 V) アクセサリに限り接続できます。

火災の恐れがあります。

各部の収納スペース

フロント収納ボックス

フロントドアのグローブボックス 1



4

センターコンソールの収納ボックスまたは非接触充電ゾーン 2



車両によっては、充電ケーブルを使用せずに電話の充電が可能なエリア2を示す3記号が表示されます。

ワイヤレス充電の詳細については、マルチメディアの指示を参照してください。



床の上（運転席の前）には物を置かないようにしてください。急ブレーキが必要なときに、ペダルの下に物が滑り込んで急ブレーキを踏む妨げになる危険があります。



電磁誘導充電ゾーン2は、所在国やサブスクリプションの内容により、デジタルキー→58内蔵スマートフォンの配置ゾーンにもなります。



電話の充電中は、非接触充電ゾーン2に障害物（始動カード、USBドライブ、SDカード、クレジットカード、貴金属、キー、硬貨など）を置かないでください。充電の際には、磁気カードやクレジットカード類を電話ケースからすべて取り出した後に、非接触充電ゾーン2上に電話を置いてください。



誘導充電ゾーン2内に物を置くと過熱する恐れがあります。この目的のために用意されているエリアに置くよう求めれるメッセージが表示されます（収納ボックス、サンバイザー収納ボックスなど）。



運転の際には、中身が飛び出ないよう、カップホルダーに収めた容器を正しく閉じてください。
中の液体がこぼれると、周りの電気装置／電子機器が故障する恐れがあります。

各部の収納スペース



詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

中央アームレスト収納ボックス 5



センター アームレストのカバー 4 を引き上げます。



堅くて重いものや先のとがったものは絶対に蓋のない収納部に入れないでください。このようなものが入っていると、急角度で曲がったり、急ブレーキをかけたりしたときに、飛び出して乗員がケガをするおそれがあります。



ペットボトルやコップはカップホルダーに入れ、カーブを切ったり、加速したり、ブレーキをかけたときに中身がこぼれないように気をつけてください。
熱いものがこぼれると、火傷をするおそれがあります。

サンバイザー収納ボックス 6



高速道路チケット、地図などにご利用ください。

各部の収納スペース

グローブボックス



開けるには、ハンドル 7 を引きます。
ここには、ティッシュボックス、ボトルウォーターなどを収納できます。

リア収納ボックス

収納ポケット 8



(車種によります)

荷物を積み込む

トランクルーム内の収納

リアパーセルシェルフ



取り外し:

- リアヘッドレストを下げます。
- 2本のサスペンションコード**1**を外します。
- シェルフ**2**を持ち上げて外します。



リアパーセルシェルフの最大積載量: 均一に重量を分散した状態で2 kg

- シェルフ**2**を内側に押して回します。
- シェルフを少し持ち上げながら、手前に引き出します。
- 取付けは、取外しと逆の順序で行います。



リアパーセルシェルフには重い物や固い物を置かないでください。
急ブレーキや事故の際に、車両の乗員がけがをする恐れがあり大変危険です。

充電リード用の収納トレイ



車両によっては、このトレイは充電ケーブル収納用のため、耐荷重上限は10 kgです。

アクセスするには、トランクルームを開き、ハンドル**3**を使用してトランクカーペットを持ち上げます。

荷物を積み込む



充電リードストレージトレイに水が溜まっている場合や、充電リードコードコネクタまたは車両の

充電ソケットに腐食の兆候、または異物が存在する場合は、車両を充電しないでください。

火災の恐れがあります。

コードの取扱いには十分注意し、コードを踏む、水に浸す、引っ張る、何かにぶつけるのはお止めください。

収納トレイを定期的に点検し、清掃してください。

(B)



- 積載量を最大化するためにリアシートの背もたれを折り畳む場合は、フロントシートの背に接するようにする（例: B）。

輸送する物が積載エリア全体に均等に分散されている必要があります。

折りたたんだ背もたれの上に荷物を置く場合は、背もたれを折りたたむ前に必ずヘッドレストを収納し、できるだけぴったりと背もたれを座面に押し付けてください。



背もたれを元の位置に戻すときは、背もたれがしっかりとロックされていることを確かめてください。

シートカバーを使用する場合は、背もたれのロックが妨げられないように気をつけてください。

シートベルトが正しい位置にあるか確かめてください。

ヘッドレストを元の位置に戻します。ヘッドレストは安全装置のひとつです。必ず取り付けて、適切な高さに調節してください。

ラゲッジルームへの荷物の積み込み

ラゲッジルームに荷物を積み込むときは、次のようにしてください：

(A)



- 通常の荷物の積載には、リアシートの背もたれに接するようにする（例 A）。

66351



荷物を積み込む



必ず重い荷物が一番下になるように積み込んでください。トランクのフロアにフック4が取り付けられている場合は、そのフックを使用してください。急ブレーキのときに荷物が前方に飛び出して乗員にけがを負わせないよう、荷物はしっかりと固定して積んでください。リアシートに乗員がない場合でも、ラゲッジルームに荷物を積むときは、シートベルトのバックルを締めておいてください。

荷物を積み込む

連結

4

- (i) 連結装置の許容重量、ブレーキ付きまたはブレーキなしトレーラーの最大牽引重量: ➔ 366。

連結部品の選択と取り付け

後付け牽引バー（クロスメンバーとヒッチ）：牽引バーと固定具の総重量は25 kg 以下でなければなりません。

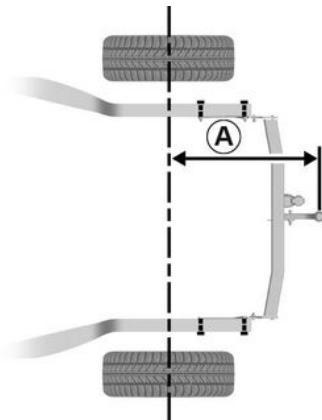
いかなる牽引装置も使用しない場合は、照明部品やナンバープレートを妨げてはなりません。

あらゆるケースで、各国の安全規格に従ってベルトの着用義務を果たしてください。

取付け方法と使用方法は、製品付属の説明書を参照してください。

説明書はその他の書類と一緒に常に携行することをお奨めします。

63561



最大サイズ A: 757 mm。

車両への損傷を避けるため、牽引ポイントや他の手段を用いて別の車両を牽引することは固く禁じられています。

エンジンへのアクセス、レベル

ボンネット

ボンネット安全ロックの解除



開けるには、ダッシュボード左手にあるハンドル **1** を引きます。



車両の充電中、またはイグニッションのスイッチが入っている間は、ボンネットの下で作業を行わないでください。



誤ってボンネットが閉まる危険があるため、ボンネットに圧力をかけるのはお止めください。



ロックを解除するには、レバー **2** を左に押してボンネットを持ち上げます。



衝突した場合は、グリルやボンネットに軽く当たっただけであっても、できるだけ早くルノー指定サービス工場でボンネットのロックシステムの点検を受けてください。

エンジンへのアクセス、レベル



電気自動車の駆動システムは高電圧電流を使用します。

このシステムは、イグニッショ n のオフ中およびオフ後に熱くすることがあります。

車両のラベルに表示される警告メッセージを尊重します。

車両の「高電圧」電気系統（構成部品、コード、コネクタ、トラクションバッテリ）での作業や改造は、固く禁じられています。

重度の火傷や感電のリスクは、死に至る可能性があります。

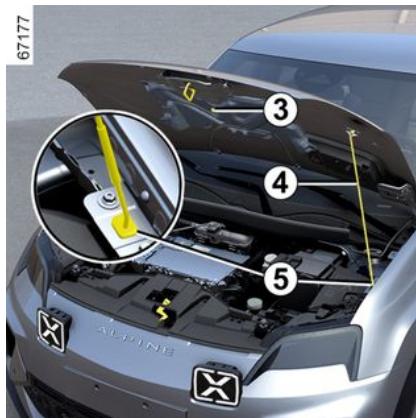
さらに、クーリングファンが突然作動することがあります。これ

は、エンジンルーム内の 警告灯により、通知されます。
場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。

5

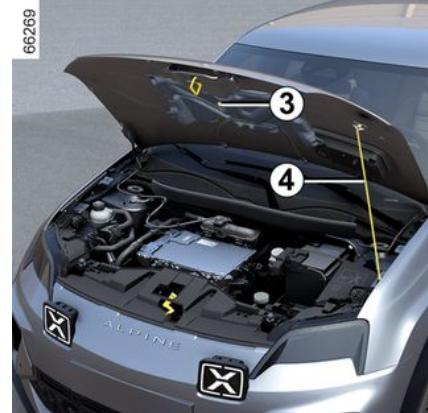
ボンネット開／閉

ボンネットの開き方



ボンネットを持ち上げ、ストラット 4 を固定具 3 から取り外した場合は、安全のため、必ずストラットを定位位置 5 においてください。

ボンネットの閉じ方



ボンネットを閉じる前に、エンジンルーム内に何も置き忘れていないことを確認してください。

ボンネットを閉じる際は、ストラット 4 を固定具 3 に再度取り付けます。ボンネットの中央部を手で支えながらボンネットを下ろし、閉じる位置の約 30 cm 上ぐらのところで手を離します。ボンネットは自重で閉まり施錠されます。

エンジンへのアクセス、レベル



点検のためにポンネットを開ける場合、ワイパーのレバーが停止のポジションにあることを確認してください。
場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。



ポンネットが確実にロックされていることを確認します。
ロックを妨げる障害物（グリット、布など）がないことを確認します。



エンジンルームの点検後は、中に布や工具等を置き忘れないようご注意ください。
さもないと、エンジンを傷めたり、火災が発生する恐れがあります。

レベル：

エンジン冷却水



車種によっては、クーラントリザーブタンクの位置が異なる場合があります。

- タンク 1 は、エンジン回路とバッテリーの冷却に使用されます。
- タンク 2 は、室内回路を冷却するために使用されます。

エンジンを停止し、平坦な場所でオイルレベルを点検してください。どのタンクにおいても、**冷えた状態**の冷却水量は、冷却水タンク 1 および 2 上にある「MINI」マークと「MAXI」マークの間でなければなりません。

冷却水は、水量が「MINI」のマークに達する前に、**冷えた状態**で充填してください。

注: 新車運転中には、油水類の量がタンク上の「MAXI」マークを超えることがあります。その場合には、「MINI」と「MAXI」の間になるまで量を減らしてください。この作業には危険は伴いません。



オイル消費量が異常に低下したり、頻繁に低下する場合は、認定ディーラにご相談ください。



エンジンが熱いうちは、冷却水回路には絶対に手をふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

エンジンへのアクセス、レベル



電気自動車の駆動システムは高電圧電流を使用します。

このシステムは、イグニッションのオフ中およびオフ後に熱くすることがあります。

車両のラベルに表示される警告メッセージを尊重します。

車両の「高電圧」電気系統（構成部品、コード、コネクタ、トラクションバッテリ）での作業や改造は、固く禁じられています。

重度の火傷や感電のリスクは、死に至る可能性があります。

さらに、クーリングファンが突然作動することがあります。これ

は、エンジルーム内の 警告灯により、通知されます。

場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。

5

- 冷却回路の凍結防止
- 冷却水系統の錆止め

交換時期

整備手帳を参照してください。

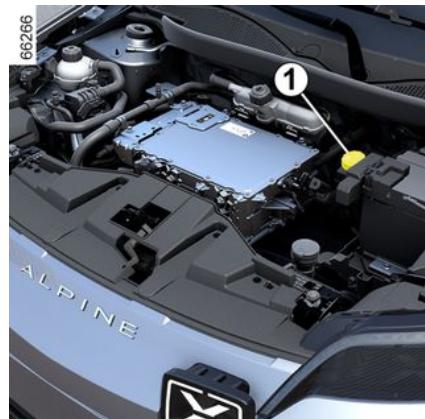


車両の充電中、またはイグニッションのスイッチが入っている間は、ボンネットの下で作業を行わないでください。



点検のためにボンネットを開ける場合、ワイパーのレバーが停止のポジションにあることを確認してください。場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。

ブレーキ液



(○) エンジンを停止し、平坦な場所でオイルレベルを点検してください。ブレーキ液はできるだけこまめに点検してください。またブレーキの効き具合に少しでも異常を感じたら必ず点検してください。

交換時期

整備手帳を参照してください。



オイル消費量が異常に低下したり、頻繁に低下する場合は、認定ディーラにご相談ください。

冷却水レベルの点検時期

冷却水レベルを定期的に点検してください（冷却水の不足は、エンジンとバッテリを大幅に劣化させる恐れがあります）。

補充には必ずメーカー推奨クーラントをご使用ください。メーカー推奨クーラントは以下の成分を含んでいます：

エンジンへのアクセス、レベル

ブレーキ液の補充

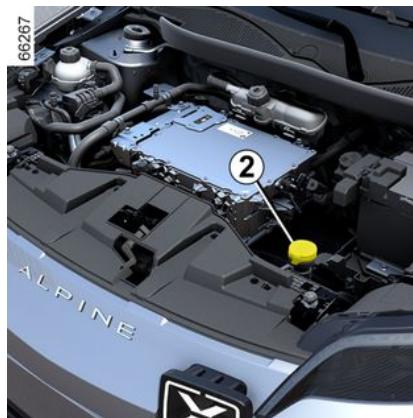
ブレーキ油圧系統に何らかの整備を実施したら、必ず専門家にブレーキ液を交換してもらってください。補充するときは、必ず（シールされたボトルの）メーカー推奨ブレーキ液をご使用ください。

レベル 1

通常はブレーキパッドが消耗するとブレーキ液レベルも下がりますが、絶対に「MINI」の警告ラインを下回らないようにしてください。

ご自分でディスクの摩耗状態を点検する場合は、指定サービス工場またはメーカーのウェブサイトから、点検手順を記載した文書を入手してください。

ウインドウウォッシャータンク



ブレーキ液の補充

キャップ2を開いて、液面が見えるようになるまで補充し、キャップを閉めます。

ウォッシャー液

必ず、不凍液含有のフロントウインドウウォッシャー液をお使いください。
正規ディーラーか適格専門スタッフへのご相談をおすすめします。

注: (ポンプやノズルに石灰が堆積し、プライミングポンプに損傷を及ぼ

す危険があるため、) 硬水は使用しないでください。

バッテリー：

12Vバッテリ

はじめに



5

12Vバッテリは、車両装備（照明、ウィンドウワイパ、オーディオシステムなど）や、ブレーキアシストに代表される特定の安全確保システムの作動に必要な電力を供給します。

バッテリーを開いたり、液を追加したりしないでください。



車両の充電中、またはイグニッションのスイッチが入っている間は、ボンネットの下で作業を行わないでください。

メンテナンスと交換

12Vバッテリ 1 の充電残量は、特に、お使いの車両を次のような状況で使用すると少なくなり得ます。

- 外気温が低下したとき
- エンジンを停止した状態で、電力を消費するデバイスを長時間使用した後。



お客様の安全を確保し、車両電装品（灯火類、フロントワイパ、ABSなど）を正しく作動させるため、12Vバッテリ絡みの作業（取外し、切離しなど）は、必ず有資格専門作業員に行わせてください。

重大なやけどまたは感電の危険性があります。

メンテナンス資料に記載された交換間隔に（超過なく）従う必要があります。

バッテリーは専用タイプです。同型のバッテリーと交換してください。

正規サービス工場にご連絡ください。

バッテリー：



電気自動車の駆動システムは高電圧電流を使用します。

このシステムは、イグニッションのオフ中およびオフ後に熱くなることがあります。

車両のラベルに表示される警告メッセージを尊重します。

車両の「高電圧」電気系統（構成部品、コード、コネクタ、トラクションバッテリ）での作業や改造は、固く禁じられています。

重度の火傷や感電のリスクは、死に至る可能性があります。

さらに、クーリングファンが突然作動することがあります。これ



は、エンジルーム内の警報灯により、通知されます。場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。

ラベル A

(A)



61476

車両故障時の対処の仕方



12V バッテリの切離しは禁じられています。
重大なやけどまたは感電の危険性があります。

(i)

車両の損傷を避けるため、次のものを用いて補助 12V バッテリを充電するのはお止めください。

- 外部バッテリチャージャを使用する。
- 他の車両のバッテリを使用する。

正規サービス工場にご連絡ください。

(i)

お使いの電気自動車を使用して、別の車両の 12V バッテリを再始動するのはお止めください。電気自動車の 12V 電力では、この作業に十分に対応できません。

車両に損傷を与える危険性があります。

バッテリー：

- ① 車両によっては、バッテリの不具合（バッテリの切断、放電など）が生じた場合、パワーステアリングの角度をリセットしなければなりません
→ 135。

クリーニング

ボディのメンテナンス

お手入れを欠かさないことで、お車を長持ちさせることができます。日頃からのボディのお手入れをおすすめします。

車両には高性能の防錆塗装が施されています。しかしながら、さまざまな要因によって影響を受けることがあります。

大気中の腐食物質

- 大気汚染物質（人口密集地域や工業地帯）、
- 海岸沿いの地域（特に夏季）の大気中の塩分、
- 凍結防止剤の散布や路面清掃の散水などの季節的条件や高湿度の天候条件

接触事故

研磨剤

大気中の埃、砂、泥や他車による飛び石など

これらのリスクから守るために、最低限の予防策を講じてください。

ボディのお手入れ

洗車時はエンジンを停止し、テクニカルサービス推奨のシャンプーをお使いの上こまめに洗車を行ってください。

（研磨剤入りの洗剤は使わないでください。）前もってジェットウォッシャーを使用して十分に洗い流してください。

- 樹木の樹脂や産業による汚染物質。
- 泥が付着していると水分を吸収し、錆が発生しやすくなります。ホイールハウス内側やボディ下側など泥が付きやすいところをよく洗ってください。
- 鳥の糞（塗料と化学反応を起こして塗装の変色を促進し、最終的には塗装が剥がれます）。

こうした跡を見つけたら直ちに洗い流してください。放置すると研磨しても取り除けないようになります

- 凍結防止剤が散布された道路を走行したあとは、ホイールハウス内側やボディ下側を特によく洗ってください。
車両から落ち葉（樹液、樹膜など）を定期的に除去します。

砂利道を走行するときは、塗装面を傷つけないようにするために、前車との車間距離を十分にとってください。

塗装面が傷ついたら、できるだけ早く修理を受けるか、タッチアップペイントなどで補修してください。錆が広がるのをくい止めることができます。

防錆保証対象車の場合、忘れずに定期点検を受けてください。整備手帳を参照してください。

洗車をする場合には、現地の規制に従ってください（公道での洗車禁止等）。

高压洗浄装置で車両を洗浄する場合は、次の注意事項を踏まえて行ってください。

- 車両の塗装、洗浄箇所または洗浄コンポーネントが、高压洗浄装置で洗浄可能なものか確認してください。
- 高圧洗浄装置の圧力は 100 bar 未満でなければなりません。
- 洗浄時には、噴射ノズルを、車両から 15cm 以上離して使用し、水量も、1 分あたり 15 L 未満にしてください。
- （塗装に傷が付いたりシールが剥がれたりする危険があるため）同じ箇所、衝突痕のある箇所、またはシールの連続洗浄はお止めください。

機械部品やヒンジ部などを洗浄した場合は、必ずテクニカルサービス認可のケア製品をスプレーして性能を維持するようにしてください。



ルノー販売店でお求めになれる専用のケア製品を選びました。

ボディのお手入れに関する注意

日差しの強い日や凍える日に洗車しないでください。

泥や汚れを液体などで軟化せずに削り落とす。

汚れやごみを付着したままで放置しないでください。

傷から発生する錆を放置しないでください。

クリーニング

メーカーが推奨するもの以外の溶剤を用いて汚れを取り除こうとしないでください。塗装面を傷めるおそれがあります。

雪や泥の中を走行後、特にホイールアーチやボディの下回りなどを洗わずに放置する。



高压洗浄や、メーカーが推奨するスプレー洗浄液以外などで脱脂や洗浄をしないでください:

- 機会部品（エンジンルーム内の機械部品など）。
 - 車輪（ブレーキキャリパーなどのブレーキシステムコンポーネントなど）。
 - ボディ下側。
 - ヒンジ付き部品類（例: ドアの内側）。
 - 塗装したバンパーなど樹脂製の外装部品
- これらは、錆の発生や故障を招くおそれがあります。

マット塗装の車両の特性

このタイプの塗装には一定の注意が必要です。

ボディのお手入れ

やわらかい布やスポンジなどを使用して、十分な水で車両を手洗いしてください。

ボディのお手入れに関する注意

ワックス（艶出し）を原料とした製品の使用。

強い摩擦を与える。

洗車機に車両を通す。

塗装にステッカー類を貼り付ける（跡が残るおそれがあります）。



高压洗浄装置を使用した洗車

洗車機使用の場合

ワイパレバーを停止位置→146に戻します。

車両の外装、追加ランプ、ドアミラーの取付けを確認し、ワイパークリードをテープで固定してください。

ラジオアンテナが付いている場合は、アンテナを取り外してください。

洗浄を終えたら、忘れずに接着剤を取り除き、アンテナを（一番奥までねじ込む方法で）取り付け直してください。



車両の洗浄

エンジンルーム、充電接続部、トラクションバッテリを高压ジェットで絶対に洗わないでください。

電気回路を損傷する危険があります。

充電中は車両を絶対に洗わないでください。

感電や生命へのリスクがあります。

ヘッドライト、センサ、カメラのクリーニング

必ず柔らかい布で拭いてください。

十分でない場合は、石鹼水で布を湿らせ、柔らかい布または綿毛で洗い流してください。

最後に、柔らかい布でそっと乾拭きしてください。

アルコールを含んだ溶剤または各種器具（例: スクレイパー）は使用しないでください。

クリーニングステッカー、装飾フィルムなど

ボディのお手入れ

必ず柔らかい布で拭いてください。

クリーニング

石鹼水で少し湿らせてから、いつも柔らかい布やコットンできれいに拭いてください。

最後に、柔らかい布でそっと乾拭きしてください。

ボディのお手入れに関する注意

アルコール系洗浄剤を使用してください。

工具（スクレーパーなど）を使用します。

強い摩擦を与える。



高压洗浄装置を使用した洗車

内装のお手入れ

はじめに

お手入れを欠かさないことで、お車を長持ちさせることができます。日頃からの内装のお手入れをおすすめします。

汚れは直ちに取り除いてください。

どのような汚れに対しても、必ず天然石けんと冷水（またはぬるま湯）で作った石けん水をお使いください。

食器用洗剤、粉末洗剤、アルコールを含んだ溶剤は使用しないでください。
必ず柔らかい布で拭いてください。

すぎ、余分な水を拭き取ります。

マルチメディア画面

画面のメンテナンスは、マルチメディア機器のタイプによって異なる場合があります。詳細については、マルチメディア機器の取扱説明書を参照してください。

計器類の透明カバー

（例：インストルメントパネル、時計、外気温計など）。

必ず柔らかい布で拭いてください。

汚れが落ちないときは、石けん水を少量含ませた布で拭き、その後水で濡らした別の柔らかい布で拭き取ってください。

最後に、柔らかい布でそっと乾拭きしてください。

アルコールを含む製品やスプレーはこのエリアに使用しないでください。

シートベルト

シートベルトは常に清潔にしておきましょう。

ルノー認定製品（ルノーショップ）または石鹼水（ぬるま湯）をスポンジにつけて拭き、乾いた布で拭き取ります。

溶剤や染料は絶対に使用しないでください。

布地（シート、ドアトリムなど）

定期的に埃を取り除くようにしてください。

液体の汚れ

石けん水を使用してください。

液体を柔らかい布に含ませるか（こすらずに）軽く叩いて拭き取ってから、水拭きをし、最後に余分な水分を拭き取ってください。

固体の汚れや粘着質の汚れ

ヘラを使って、直ちに固体の汚れや粘着質の汚れを慎重に落とします（汚れが広がらないように外側から内側に向かってヘラを動かします）。

液体汚れの場合は、指示に従って清掃します。

飴やチューインガムについての注意事項

汚れの上に氷を当てて固ませます。その後は固体の汚れと同じ手順です。



内装のお手入れについてアドバイスをお受けになりたい場合、または満足の行くようにお手入れできなかった場合は、正規ディーラーまでご相談ください。

クリーニング

取り外し可能な車内装備の取り付け／取り外し

汚れを取り除くために、取り外し可能な装備（フロアマットなど）を取り外した場合は、装備を正しい側に（例えば運転席側フロアマットは運転席側に）正確に取り付け、所定のパーツでしっかりと固定（例：必ずもとから付いていた固定具を使って運転席フロアマットを固定）してください。

必ず停車した状態で、運転の妨げになるものがないか確認してください（ペダルの下に障害物がないか、足がフロアマットに引っかかるないかなど）。

ボディのお手入れに関する注意

防臭剤や香水などを吹き出し口の付近に置くこと。ダッシュボードのトリムを傷める恐れがあります。



車内で高圧洗浄機やスプレーを使用すること。

車内の電気系統またはコンピューターの機能を低下させたり、故障の原因となったりする可能性があります。

タイヤ

タイヤ

タイヤのメンテナンス

タイヤは車と地面とを結ぶ唯一の接点です。したがって安全な走行のためにタイヤを常に良好な状態に維持することが大切です。

タイヤは、地域の道路交通法で定められている規制に準拠する必要があります。



タイヤは、良好な状態で、タイヤ接地面（トレッド）の溝にも十分な深さがなければなりません。ルノー技術部門認定タイヤは、**タイヤの摩耗状態を示すためにトレッドの数か所に設けられている摩耗警告ストラップ 1**も備えています。

トレッドが磨耗すると、摩耗インジケータが現われ、タイヤ交換が必要だと一目でわかります。**2. 摩耗インジケータ**が現れた状態では、トレッドの溝の深さが最大でも約 1.6 mm しかない状態に達しており、滑りやすく濡れた路面などでは十分な排水ができず正常なグリップ力を発揮できない状態にあるため、必ずタイヤを交換してください。

また荷物の積み過ぎや夏期の長距離走行、高速走行あるいは悪路の走行などはタイヤの摩耗や劣化を早めます。安全のためタイヤはこまめに点検しましょう。



「歩道にあたる」など運転中のトラブルにより、タイヤやリムが損傷したり、フロントまたはリアアクスルの調整不良を引き起こしたりします。このような場合は、ルノー指定サービス工場で点検を受けてください。

タイヤ空気圧

タイヤの空気圧の仕様に準拠します。少なくとも毎月1回、または長距離走行をする前はタイヤ空気圧を点検してください（運転席側のドアに貼ってあるラベルをご覧ください）→ 335。



タイヤ空気圧が適正でないと、タイヤが異常に磨耗したり、異常に熱くなったりします。これらは、安全性に重大な影響を及ぼし、次の原因につながる可能性がある要因です。

- ロードホールディングが低下します。
- バーストやトレッドのはく離が起こるおそれがあります。

適切なタイヤ空気圧は、積載重量と走行速度によって異なります。車の使用状況に応じて空気圧を調整してください（運転席ドアのサイドに貼ってあるラベルを参照）。

空気圧の点検はタイヤが冷えているときに行ってください。気温の高いときや高速走行後、タイヤがまだ暖まった状態の時はタイヤ空気圧は通常よりも高くなっています。

タイヤが冷えており空気圧を点検できない場合は、推奨空気圧より 0.2 から 0.3 bar (3 PSI) 高めに調整してください。

温間時にタイヤの空気は絶対に抜かないでください。

タイヤ



注意:バルブキャップが
なかつたり締め方が悪
かつたりすると、タイヤ
の気密性が損なわれてタ
イヤ空気圧が低下することがあります。
バルブキャップを必ず元のバルブ
に装着し、完全に締めてください。



タイヤ空気圧監視システム 装備車両

(パンクなどにより) タイヤの空気圧が基準を下回ると、



警告灯がインストルメント
パネル → 175 上に表示されます。

タイヤの交換

新品のタイヤの取り付けについては、
認定ディーラまでお問い合わせください。



安全性を守り、道路交通法に従うために:
タイヤを交換する場合は、必ず元のタイヤと同じメーカー、サイズ、タイプ、アクスルのものを取付けてください。

交換後のタイヤは、少なくとも耐荷重と速度定格が元のタイヤと同じであるか、認定ディーラ推奨のものでなければなりません。

これらの指示に従わなかった場合、安全性が損なわれると共に車両の適合性を無効にする可能性があります。

車両制御の喪失の危険性があります。

一方向タイヤ

一方向タイヤは、一方向にのみ取り付けてください。この方向を守らなければなりません。

一方向タイヤをパンク後の回転方向とは反対側に取り付ける必要がある場合は、特に濡れた道路では注意が必要です。タイヤの仕様が適合しないためです。

「スノー」タイヤまたは「スタッドレス」タイヤ

正常なグリップ力を確保するため、四輪ともに同一種類のタイヤを装着することをおすすめします。

注意: これらのタイヤには回転方向が決められている場合があり、使用可能な設定速度が車両の最高速度より低いことがあります。

スパイクタイヤ

スパイクタイヤはそれぞれの国や地方の法律で定められた期間以外は使用できません。法定制限速度を遵守してください。

スパイクタイヤは最低限フロントホイール両輪に装着してください。

注: スノータイヤ、冬期タイヤ、スタッドレスタイヤの使用時には、車両の走行可能距離が大幅に減少します。

タイヤ



いずれの場合にも、お車に最適な装備を選択させていただくために、ルノー正規サービス工場にお問い合わせくださいとお勧めします。

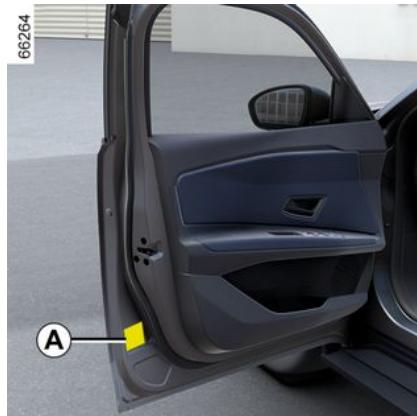


チェーンは、**お車に標準装備されたタイヤと同じサイズのタイヤにしか装着できません。**

チェーン装着は可能ですが、専用のチェーンに限ります。指定サービス工場に相談してください。

タイヤ規定空気圧

ラベル A



数値を読み取るには、運転席ドアを開けてください。

空気圧の点検はタイヤが冷えているときに行ってください。

タイヤが冷えており空気圧を点検できない場合は、推奨空気圧より 0.2 から 0.3 bar (3 PSI) 高めに調整してください。温間時にタイヤの空気は絶対に抜かないでください。

66364

		A	
		B	C D
		B	C D
		B	C D
		B	C D

B. : 車両に装着されているタイヤの直径

C. : フロントホイールのタイヤ空気圧。

D. : リアタイヤの空気圧（高速走行時）。

快適性と車両の挙動のバランスをとるために最適なタイヤ空気圧は 2.3 bar です。航続距離を極限まで長くするには、タイヤ空気圧を、空気圧ラベルに示されている「ECO」空気圧まで上げます。

タイヤ

① タイヤ空気圧監視システム 装備車両

(パンクなどにより) タイヤの空気圧が基準を下回ると、

(!) 警告灯がインストルメントパネル → 175 上に表示されます。

① タイヤの安全確保とチェーン取付け: タイヤの保守に関する定めや、車種別のチェーン使用に関する情報については → 333。

⚠ フルロード(最大許容荷重)でトレーラをけん引する車両
最高速度を 100 km/h 以下に保ち、タイヤ空気圧を 0.2 bar → 366 ずつ上げます。
タイヤはく離のリスク。



安全性を守り、道路交通法に従うために:

タイヤを交換する場合は、必ず元のタイヤと同じメーカー、サイズ、タイプ、アクスルのものを取付けてください。

交換後のタイヤは、少なくとも耐荷重と速度定格が元のタイヤと同じであるか、認定ディーラ推奨のものでなければなりません。

これらの指示に従わなかった場合、安全性が損なわれると共に車両の適合性を無効にする可能性があります。

車両制御の喪失の危険性があります。

タイヤ空気注入キット

はじめに

61660



タイヤ



このキットを使うと、6 mm未満の物が原因でタイヤのトレッド部分 **A** に生じた傷を修理できます。6 mm以上の傷やタイヤの側面 **B** についていた切り傷などにより生じたパンクの修理にはこのキットをお使いいただけません。ホイールリムが良好な状態にあることも確認してください。パンクの原因となった異物がタイヤに刺さったままである場合は、それを取り除かないでください。



パンクした状態での走行により損傷したタイヤにはタイヤ空気圧注入キットを使用しないでください。
修理を行う前にはタイヤ側面を入念に点検してください。
また、空気圧の不足したタイヤや、空気が完全に抜けた（またはパンクした）タイヤで走行することは危険であり、タイヤも修理不可能になります。
これはあくまでも応急処置です。
パンクしたタイヤは、できるだけ速く専門家に点検（可能なら修理）してもらってください。
このキットを使って修理したタイヤを交換する場合は、そのことを作業員に伝えてください。
走行時、タイヤ内に注入された内容物による振動が感じられることがあります。



このキットは、装備車両のタイヤだけを修理するために認定を受けています。

いかなる場合でも、他の車両のタイヤを修理したり、その他の物（救命具やポートなど）を膨らませることに使用しないでください。

パンク修理剤の製品ボトルを扱う際に、液体が皮膚にかかるないようにしてください。もし付着した場合は、大量の水で洗い流してください。

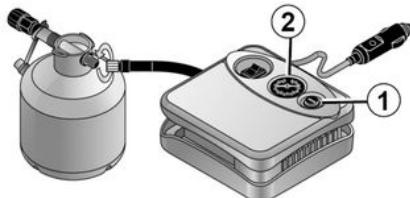
修理キットを子供の手の届くところに放置しないでください。

ボトルは絶対に投棄しないでください。指定サービス工場または回収業者までお届けください。

ボトルの使用期限はボトルに貼られたラベルに記載されています。使用期限を点検してください。

注入チューブとパンク修理剤ボトルを交換するときは、指定サービス工場においでください。

タイヤ



47426

6 パンク時は、トランクフロアマット下にあるキットをご使用ください。



タイヤ空気圧監視システム 装備車両

(パンクなどにより) タイヤの空気圧が基準を下回ると、



警告灯がインストルメントパネル ➔ 175 上に表示されます。

エンジンを回転させ、パーキングブレーキをかけた状態で次の作業を行います。

- 車両のアクセサリーソケットに接続されているすべてのアクセサリーを切り離します。

- 牽引装置を装備する車両の場合は、必要に応じて連結ソケットの接続を外します。

- 車両のトランクにある空気注入ポンベキットに関する情報を参考に、取扱説明に従って作業します。

- タイヤを推奨圧力まで膨張させます ➔ 333。

- 15 分間を上限として空気を注入したら、注入を止め、(圧力計 2 に表示されている) 空気圧を読み取ります。

注: 容器が空になるまでの間 (約 30 秒間) は、圧力計 2 の表示値が最大で 6 bar に達することがあります。その後、表示値は下がります。

- 空気圧の調整: 空気圧を上げるにはキットを使って空気注入を続けます。空気圧を下げるにはボタン 1 を押します。

15 分かけても推奨空気圧 1.8 bar にならない場合は、修理不能です。車両を走行せずに、正規ディーラーにご相談ください。

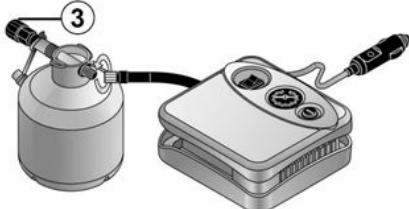


キットを使用する前に車両を交通の妨げにならない場所に移動してハザードランプを点灯し、パーキングブレーキをかけ、車両の全乗員を車から下ろして安全な場所に退避させてください。



道路の脇に車を駐車するときは、三角停止表示板や国の法規で定められた機器を使用して他の車に駐車中であることを知らせる必要があります。

タイヤ



47426

イヤ全体に行き渡らせます。3 kmほど走行したら停車して、空気圧を点検します。

- 空気圧が 1.3 bar を超えている場合でも、推奨空気圧を下回っていれば、（運転席側ドアの端部に貼付されているラベルの値を参考に）空気圧を再調整します。それ以外の場合は、正規代理店にご連絡ください。タイヤは修理できません。

キットの使用上の注意

キットは 15 分以上連続して使用しないでください。

液体が残っていてもポンベは使用後に交換する必要があります。



ドライバーの足元には何も置かないでください。急ブレーキなどが必要なときに、ペダルの下に物が滑り込みブレーキ操作の妨げとなる危険があります。

正しい空気圧になるまで空気を注入したら、キットを取り外します。取り外す際には、ポンベ内の残存空気が飛散しないよう注入アダプタのねじをポンベ 3 からゆっくり緩め、取り外したポンベは、ポンベ内の空気が漏れ出さないようプラスチック容器に入れて保管します。

- 運転時の推奨事項のラベル（ポンベ下にある）を、ダッシュボード上のドライバーからよく見える場所に貼り付けます。

- キットを収納してください。

- 一回目に空気注入を行った後は、タイヤからまだ空気が漏れます。穴をふさぐために走行を行うことが必要です。

- ただちにエンジンを始動して、20 ~60 km/h の速度で走行し、空気をタ



注意:バルブキャップがなかったり締め方が悪かったりすると、タイヤの気密性が損なわれてタイヤ空気圧が低下することがあります。

バルブキャップを必ず元のバルブに装着し、完全に締めてください。



キットで修理した後、200 km 以上走行しないでください。

また、走行速度を抑え、いかなる場合も 80km/h を超えないようにしてください。ダッシュボード上のドライバーからよく見える場所に貼り付ける運転時の推奨事項のラベルが注意を促します。

国または地方の法律により、タイヤ空気注入キットで修理したタイヤは交換しなければならない場合があります。

タイヤ

ツール

ツールキットの場所



6

ツールキットは、トランクフロアマット下にあります。

使用後、ツールが正しく保管されていることを確認してください。



タイヤ空気充填キット コンプレッサ 1

➔ 336

ホイールキャップツール 2

ホイールキャップを取り外すのに使用します。

- ① セントラルキャップを取り付けたり取り外したりするため、ツールを使用する必要はありません。

牽引リング 3

➔ 341

V2L 充電 4 用アダプタ

➔ 42

パンク防止製品の容器 5

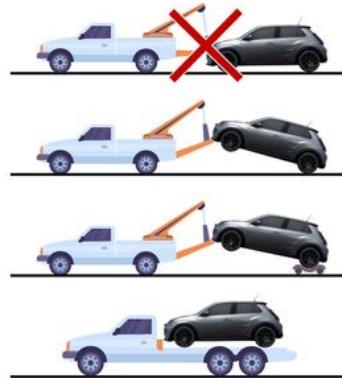
➔ 336



ツールを車内に放置したまま走行するのはお止めください。ブレーキをかけたときに飛散する恐れがあるためです。放置しておくと乗員がケガをするおそれがあるため、使用後はツールキット内に固定して決められた場所に格納してください。

車両故障時の対処の仕方

けん引: 故障車両



67187

必ずけん引に関する現行の規則を守ってください。

車両を牽引したり、プラットフォーム上で回収したりする前に、状況に応じて、ギアコントロールがNポジションにあることや、パーキングブレーキが解除されていることを確認してください。

次の指示に従います。

- 車内にカードを置き、ブレーキペダルを踏みながらエンジン始動ボタンを押します。
- シフトレバーをN⇒159位置にセットします。
- エンジン始動ボタンを押して停止します。

- ブレーキペダルを踏まずに、エンジン始動ボタンを2秒以上押します。アクセサリ機能に電力が供給され、車両のランプ機能（ハザードランプ、ブレーキランプなど）を使用できる状態になります。夜間は、灯火類を点灯してください。「強制アフターイグニッションon」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。

- 運転席シートベルトを着用している場合はこれを外します。

- 運転席側ドアを開けます
- ブレーキペダルを踏みながらパーキングブレーキを解除します ⇒ 165。
「P.ブレーキがゆるい」というメッセージがインストルメントパネル上に表示されます。

- 運転席のドアを閉めます。車両をロックしないでください（「強制アフターイグニッションon」モードをオンにしておく必要があります）。

- けん引が完了したら、ブレーキペダルを踏まずにエンジン始動ボタンを2秒以上押します（バッテリー放電のリスクがあります）。「強制アフターイグニッションon」というメッセージがインストルメントパネルから消えます。

けん引の選択

フロントホイールを接地して車両をけん引することは固く禁じられています。



ツールを車内に放置したまま走行するのはお止めください。ブレーキをかけたときに飛散する恐れがあるためです。

けん引ポイントへのアクセス

必ずフロント牽引ポイント2を使用してください（ドライブシャフトまたは車両の他の部分は絶対に使用しないでください）。このけん引ポイントは車をけん引するためのものです。車体を持ち上げるために使用してはなりません。

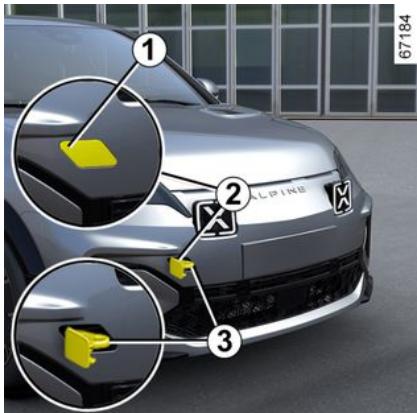
注:マイナスドライバーなどの工具を使用する場合は、必ずけん引ポイントエリアを布などで保護してください。

牽引リング3を手でできる限りねじ込みます。

必ず牽引フック3を使用してください。

車両故障時の対処の仕方

フロントけん引ポイント2



6 フラップ 1 の上部を押して傾けます。



けん引リングが正しくボルトで固定されていることを確認します。

けん引対象物を失う恐れがあります。



エンジンを停止すると、パワーステアリングやブレーキの作動はできません。



- 堅いけん引用のバーを使用してください。ロープやワイヤーの使用が許可されている国で、それらをけん引に使用する場合は、けん引される車のブレーキが機能しないなければなりません。
- 走行に支障のある車両をけん引してはなりません。
- 急に加速したり急ブレーキをかけたりしないでください。そのような場合には車両が損傷するおそれがあります。
- どのような状況でも、**25 km/h**以下の速度で走行してください。



車両への損傷を避けるため、牽引ポイントや他の手段を用いて別の車両を牽引することは固く禁じられています。

ヘッドライト、ランプ: 電球の交換

エクステリアランプ: 電球の交換

ヘッドランプ

LED デイタイムランニングランプ /サイドランプ/ロービーム/ハイビーム 1



メーカーにお問い合わせください。

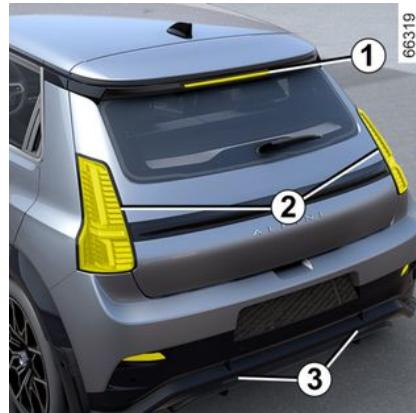
LED 日中走行灯/側灯 2

メーカーにお問い合わせください。

LED 方向指示灯 3

メーカーにお問い合わせください。

テールランプと表示灯



LED ハイマウントストップランプ 1

メーカーにお問い合わせください。

LED 方向指示灯/側灯/リアフォグランプブレーキランプ 2

メーカーにお問い合わせください。

LED バックランプ 3

メーカーにお問い合わせください。

LED ナンバープレートランプ 4



メーカーにお問い合わせください。

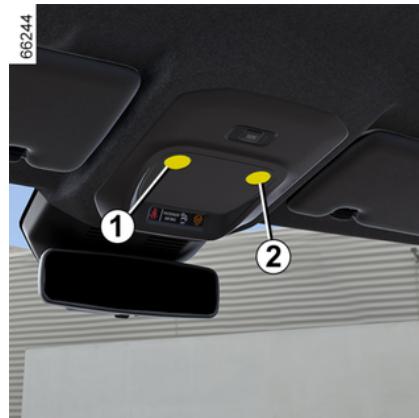
ヘッドライト、ランプ: 電球の交換

サイドウインカー 5



ルームランプ: バルブ交換

読書灯 1 および 2



読書灯 3 および 4



メーカーにお問い合わせください。

メーカーにお問い合わせください。

ヘッドライト、ランプ: 電球の交換

カーテシミラーランプ5



メーカーにお問い合わせください。

トランクランプ6



メーカーにお問い合わせください。

6

ワイパーべレード: 交換

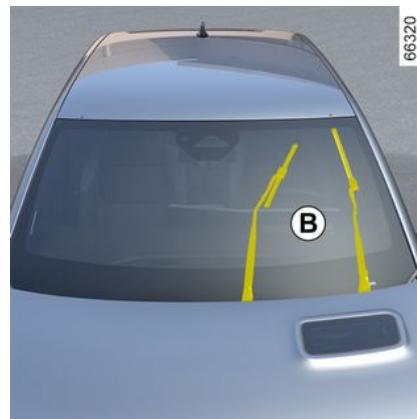
ウインドウワイパーべレード 2 の交換



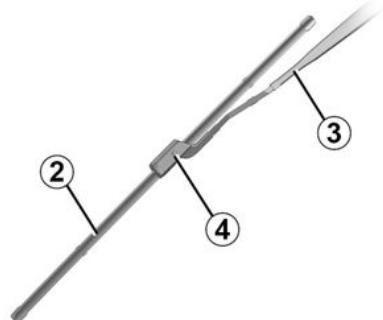
ワイパーを交換するには、まずサービス位置Bに入れます。

イグニッショナスイッチ ON、エンジンオフ；

- レバー1を連続して2回位置Aに移動します（1回スイープ）。ワイパーべレードはボンネットからサービス位置Bで停止します。
- ワイパーームを持ち上げ、タブ4を下げてから、べレードを下方に取り外します。



56511



取付け

ワイパーべレード2を取り付ける際は、アーム3のハウジングにカチッという音がするまで挿入します。べレードが確実に固定されたことを確認します。

べレードを低位置に戻すには、ワイパーがフロントガラスに折り畳まれていることを確認してから、レバー1を位置Aに移動します（1回スイープ）。イグニッショナスイッチがONになったときに、フロントウインドウのワイパーべレードがボンネットに折り畳まれます。

i ワイパーべレードの状態をこまめに点検してください。これにより耐用年数が大きく変わります：

- ブレード、フロントウインドウは定期的にセッケン水で洗ってください。
- フロントウインドウが乾燥している状態で使用しないでください。
- 長期間使用しないときは、ワイパーをフロントウインドウから離してください。

ワイパーべード: 交換

リアワイパーべード 5



ワイパーべードの状態をこまめに点検してください。これにより耐用年数が大きく変わります：

- ブレード、フロントウインドウは定期的にセッケン水で洗ってください。
- フロントウインドウが乾燥している状態で使用しないでください。
- 長期間使用しないときは、ワイパーをフロントウインドウから離してください。



- 気温が低く、ワイパーが凍結している可能性があるときは注意してください。凍りついたワイパーを無理やりに作動しようとすると、ワイパーモーターが過熱し、傷む恐れがあります。
- ワイパーべードの状態をこまめに点検してください。

機能が低下してきたらすぐに交換してください（1年に1度は交換してください）。

ブレードの交換中、ブレードが取外されているときは、アームがウインドー上に落ちないように注意してください（ウインドーが損傷するおそれがあります）。

オフ位置にあるレバー（無効化）：

- ワイパーーム6を起こします。
- リアワイパーべード5をクリップが外れるまで回転させます（動作C）。
- リアワイパーべード5を引っ張つて外します。

取付け

ワイパーべードの取付けは、逆の手順で行います。ブレードが確実に固定されたことを確認します。

6



リアワイパーべードを交換する前に、レバーが停止位置（作動解除）にあることを確認してください。

場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。

ヒューズ

ヒューズボックス

電装品が作動しない場合は、まずヒューズの状態を点検してください。

ヒューズボックス A



フラップ 1 のクリップを外します。

ヒューズボックス B

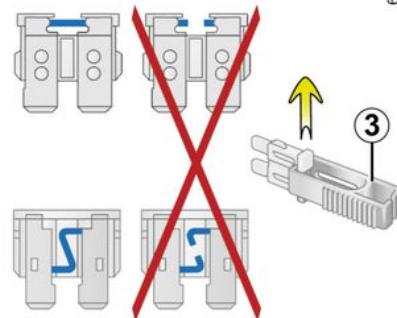
(車種によります)



ヒューズは、室内 **B** のグローブボックスの後ろからアクセスすることができます。開ボタンでグローブボックスを開きます。

これでヒューズボックス **2** に直接アクセスできます。

ピンセット3



ヒューズパネル上にあるヒューズをプライヤ **3** を用いて取り外します。

抜き取ったヒューズをリムーバーから取外すときは、ヒューズを横にスライドさせます。

ヒューズの空いた場所を使用しないようしてください。

ヒューズ



該当ヒューズを確かめ、必要に応じて交換します。交換後のヒューズは、必ず元のヒューズと同じ定格のものにしてください。容量の大きなヒューズを付けると、装置の電力消費が異常に増えたときに配線などが過熱し、火災発生につながるおそれがあります。



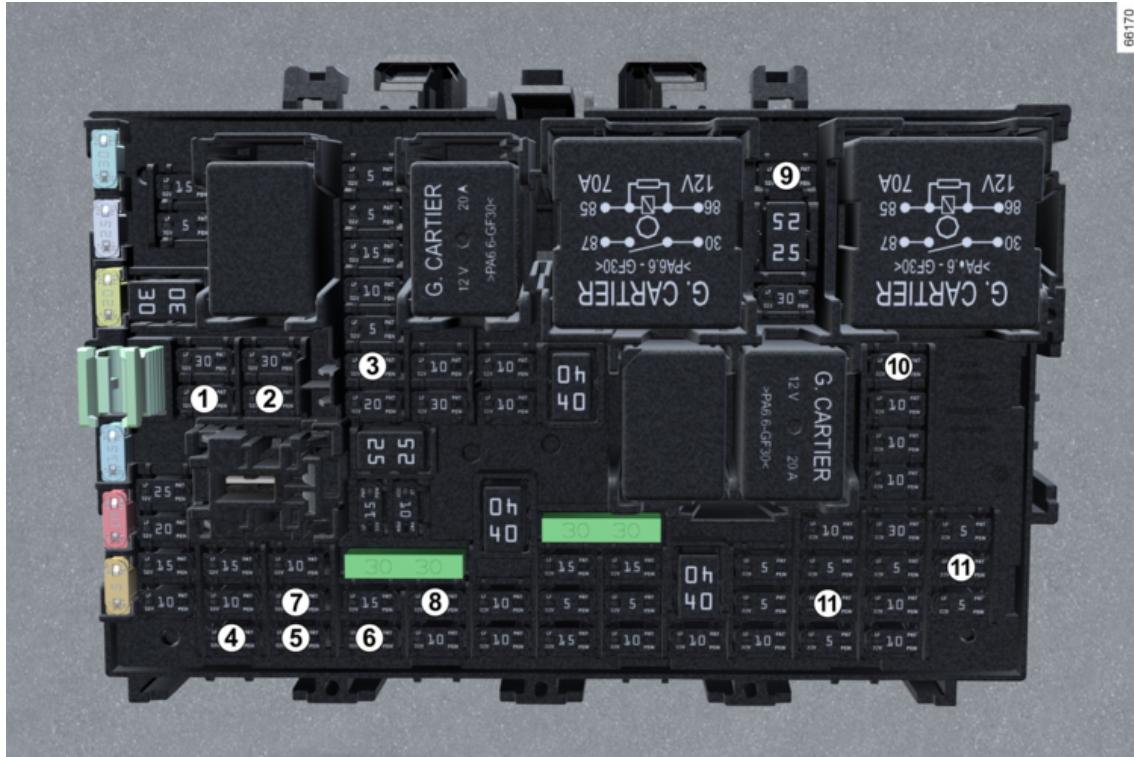
現地の法令に従うため、または予防措置として次の対応を行ってください。
予備のヒューズとバルブセットを用意しておくと安心です。ルノーフジットサービス工場でお求め下さい。

ヒューズ

ヒューズの配置

(ヒューズの有無は車両の装備レベルによって異なります)

ヒューズ配置ラベルを備えていない車両



66170

ヒューズ

番号	該当
1	リヤワイパー／リアフォグランプ
2	方向指示灯
3	ブレーキランプ
4	右リアウインドウ制御モーター
5	運転席側ウインドウ制御モーター
6	左リアウインドウ制御モーター
7	助手席側ウインドウ制御モーター
8	バックミラーECU - 多重ドアマトリックスコントロール
9	連結ソケット通信モジュール
10	アクセサリ電源
11	インストルメントパネル

アクセサリの取付けと使用

重要な推奨事項



電装品アクセサリーの後付け

電装品または電子機器を後付けする前に（特に送受信機の場合：周波数帯域、出力レベル、アンテナの位置など）、それらがお車に適合するか確認してください。ルノー指定サービス工場にご連絡ください。

アクセサリをソケットに接続する前に、ソケットで許可されている最大電力を超えないようにしてください

→ 308 → 313。火災の恐れがあります。

車両の電気系統／電子回路を対象とする作業は、有資格専門スタッフに限り行えます。これを無視し、メーカー非承認の電装品／電子機器を誤った方法で接続する／取り付けると、次のような問題が生じる恐れがあります。

- 電装機器の損傷。
- 接続されている部品の損傷。
- 車両データの収集および使用。
- プライバシー侵害（個人データの改変、削除、または個人データへの不当アクセス）。
- サービス開始許可の取消し。

重大な事故のリスク。プライバシーの侵害の危険性。

将来に電装品を取り付けた場合は、該当するヒューズの定格と位置が通知されていることを確認してください。

ダイアグノシスソケットの使用

診断ソケットで電装品アクセサリーを使用すると、車両の電子装置に重大な障害が発生したり、プライバシーの侵害（個人データの改変、削除、または不当なアクセス）が生じたりする可能性があります。安全のため、電装品は、認定ディーラにご相談の上、メーカー認定のものをお使いください。**重大な事故のリスク。プライバシーの侵害の危険性。**

アクセサリーの後付け

お車にアクセサリーを取付けたいときは、ルノー指定サービス工場にご相談ください。車両の機能を良好に維持し、安全な走行を確保していただくために、メーカー車にはメーカー車専用のアクセサリーを装備することをお薦めします。メーカー車専用アクセサリーは車両に適応するようによく作られており、メーカーが保証する唯一のアクセサリーパーツです。

盗難防止用ロッドをお使いの場合は、ブレーキペダルにのみ取り付けてください。

運転の妨げになるもの

アクセサリの取付けと使用

運転席側は、車両に適合したフロアマットのみを必ず使用し、あらかじめ装備されたパーツにしっかりと固定されているか定期的に確認してください。複数のマットを余分においてはいけません。**ペダルの動作を妨げる危険があります。**

作動異常

下の表では、トラブルが発生したときの簡単な応急処理について説明しています。安全のためにできるだけ早くルノー指定サービス工場にご相談ください。

充電中	考えられる原因	対処方法
トラクションバッテリを充電することができない。	屋外の温度が -26 °C 未満。	より適切な環境で車両を充電します。必要に応じて → 341。
充電フラップ警告灯が赤く点滅。	コンセントに電流が流れていなければ、家庭用ソケットにケーブルが正しく接続されていない。	インストールを確認してください（サーキットブレーカー、プログラマなど）。接続（充電ソケットなど）を確認してください → 20。
	コードに欠陥がある。	認定ディーラーに交換をご依頼ください。
トラクションバッテリを充電することができない。	充電コードが車両に正しくロックされていない。	充電ケーブルを車両に正しく接続してください → 20。
充電口フラップ表示灯が白色点滅している。		
トラクションバッテリ残量に応じた航続距離の表示が、直前のエンジン停止時とは異なっている。	車両の停止から再始動までの間に生じたトラクションバッテリ温度の変動は、インストルメントパネルに表示される航続距離に影響を及ぼす恐れがあります。 外気温が低いと、直前のエンジン停止時と比べ航続距離が短くなる恐れがあります。	数 km の走行によりバッテリの温度が適正水準に達すると、バッテリ残量に応じた航続距離が自動的に再調整されます。

カードキーの使用	考えられる原因	対処方法
カードが作動せず、ドアが施錠/解錠しない。	カードキーの電池切れ	バッテリーを交換してください。車両のロック/ロック解除 → 50や始動 → 152は可能です
	リモコンと同一の周波数で作動する装置（携帯電話など）が使われている。	機器の使用を中止するか、内蔵キーを使用します → 50。

作動異常

カードキーの使用	考えられる原因	対処方法
	強い電磁波の影響内に車両がある 12Vバッテリが上がっている。	カードに内蔵されているキーを使用します → 61。
	カードの非同期化。	カードの内蔵キーをドアロック → 61 に挿入する方法で運転席ドアのロックを解除し、カードを配置エリア → 152 に置いて「START」ボタンを押す方法でカードを同期します。
「カードをSTARTボタン付近に配置してください」というメッセージがインストルメントパネルに表示されます。	カードバッテリが消耗している、またはカードが同期しない。	カードのバッテリの状態を確認するか、カードを専用配置エリアに置いてください → 50。

走行中	考えられる原因	対処方法
ステアリングが重い	パワーステアリングシステムのオーバーヒート。	低速度で慎重に走行し、ハンドルに必要以上の力をかけないように運転します。
	電動アシストモータの故障。 アシストシステムの故障。	メーカーにお問い合わせください。
異常な振動がある	タイヤ空気圧が不適切、バランス不調、 タイヤの損傷	タイヤ空気圧を点検します。空気圧が原因ではない場合は、指定サービス工場でタイヤの状態を点検します。

電装品	考えられる原因	対処方法
ワイヤーが作動しない	ワイヤーブレードの固着	ブレードを慎重にガラスからはがします。
	ワイヤヒューズ破損。	メーカーにお問い合わせください。
	リアワイヤーのヒューズ切れ（間欠、停止）	ヒューズ → 348をご自身で交換するか、交換を依頼します。

作動異常

電装品	考えられる原因	対処方法
	ワイパーモーターの故障	メーカーにお問い合わせください。
ワイパーが停止しない。	電動スイッチの故障	メーカーにお問い合わせください。
方向指示灯の点滅速度が通常より速い	バルブの故障。	メーカーにお問い合わせください。
方向指示灯が点灯しません。	片側のみ： バルブの故障。 両側： - ヒューズが切れた。 - 電気回路またはスイッチに障害があります。	メーカーにお問い合わせください。 ヒューズ ➔ 348をご自身で交換するか、交換を依頼します。 交換：指定サービス工場にご連絡ください。

作動異常

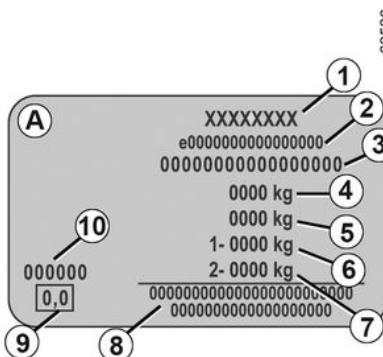
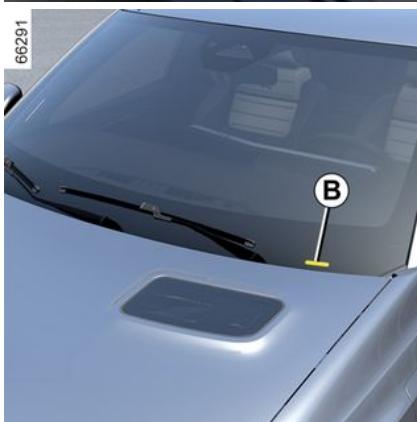
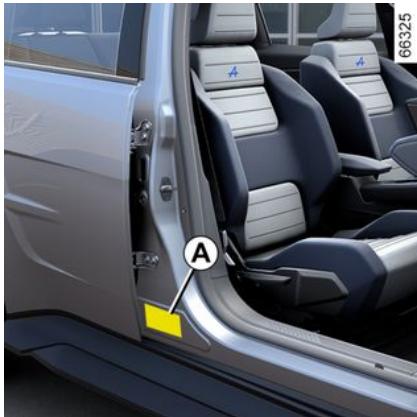
電装品	考えられる原因	対処方法
ヘッドランプ 点灯しない。	片側のみ： - バルブの故障 - 配線の接続が外れている、またはコネクタの取り付け不良。	メーカーにお問い合わせください。 メーカーにお問い合わせください。
	- 損傷ヒューズ	ヒューズ ➔ 348をご自身で交換するか、交換を依頼します。
	両側： 2つのヒューズが損傷している。	ヒューズ ➔ 348を交換するか、ヒューズの交換を依頼します。
ヘッドランプが消灯しない。	電動スイッチの故障	メーカーにお問い合わせください。
ランプとテールランプの内部の結露。	結露は温度と湿度の変化によって生じる自然現象なので故障ではありません。 この結露は、照明を点灯すれば徐々に消えます。	

作動異常

停止	考えられる原因	対処方法
イグニッションスイッチをオフにした後、または車両が充電されている場合、エアコンおよびファンスイッチがオンになります。	これは、外気温が低いときにシステムの温度を調整するために、エアコンコンプレッサとファンスイッチがオンの場合、必ずしも故障ではありません。 イグニッションスイッチを OFF にする と、その直後より、エアコンのコンプレッサとファンが 30 分超作動します。	メーカーにお問い合わせください。
プログラム可能なエアコンが機能しない。	使用条件の 1 つに準拠していない（トラクションバッテリが充電されていないなど）。	→ 304
バッテリが十分に充電されている場合でも、室内のエアコンとヒーター機能は、ユーザーによる操作なくオフになります。	これは必ずしも故障ではありません。バッテリの自律性または再充電の最適製の維持のために、システムはデフォルトで機能をオフにします。	ボードモードで作動期間を延長するには、ブレーキペダルを踏まずにスタートボタンを押します。その場合でも、エアコンは数分後に停止します。 エアコンスイッチを押すと、いつでもシステムを再作動できます → 301。
	電気系統の故障。	メーカーにお問い合わせください。

車両に関する情報

ピークルプレート



メーカーープレートに刻印された情報が、あなたの注文した車両の仕様と同じであることを確認してください。

これらの情報の有無と設置場所は、車種によって異なります。

メーカー設置のプレート A

1. メーカーの名称
2. EC識別番号、またはホモロゲーション番号
3. 識別番号
- B. 車両により、この情報はラベルにも表示されています。
4. MMAC車両総重量
5. MTR（連結総重量: 積載量が満量の車両にトレーラが連結された状態での重量）。

6. MMTA前アクスル(最大許容軸荷重)

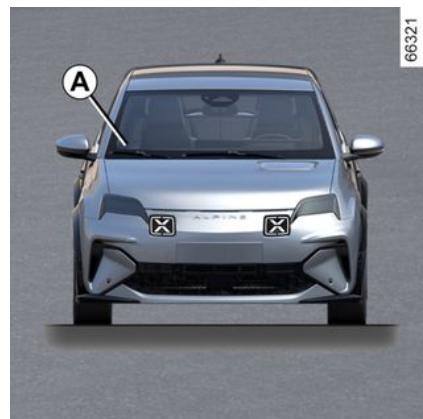
7. MMTA後アクスル

8. 関連する登録または追加登録のためのエリア。

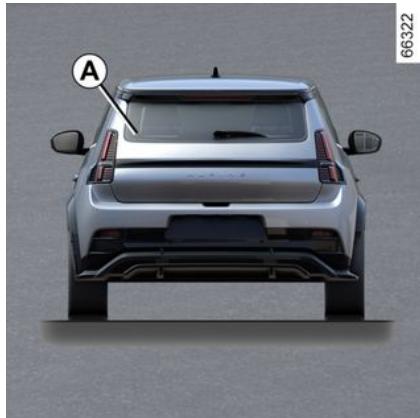
9. 未使用。

10. カラーデータ（カラーコード）

緊急サービスに関する技術情報



車両に関する情報



緊急時に対応する作業者は、タブレットまたはスマートフォンを使用してラベルAのQR Codeを読み取ることにより、事故時の車両に対処するために役立つ技術情報をすぐに入手できます。
常にラベルAがフロントウィンドウとリアウィンドウに、見えるように貼られている必要があります。

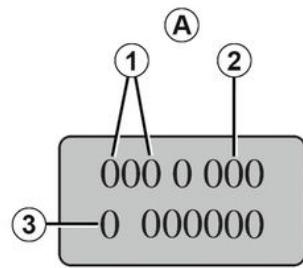
変更または損傷がある場合、この情報を入手できない恐れがあります。

車両に関する情報

エンジン識別、エンジン仕様

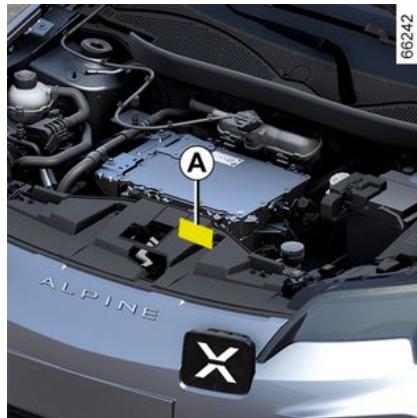
車両に関する情報

エンジン識別



62527

エンジン諸元



7

お問い合わせやご注文の際は、エンジンプレートまたはラベルAに記載されている事項をお知らせください。

(エンジンタイプによる刻印位置)

1. エンジン形式。
2. エンジン番号。
3. エンジンシリアル番号。

車両に関する情報

リフトアップに関する情報

69305



車両には、下部に 4 つの専用リフトアップポイント 1 が装備されています。



安全のため、ホイールを交換する際は正規ディーラーに依頼することをお勧めします。リフトアップ装置の位置が正しくない場合、車両、特に電気トラクションパッテリーに損傷を与えるリスクがあります。

リフトアップポイントは、平板が搭載された直径 **80 mm ~ 140 mm** のジャッキの使用に対応しています。

使用するジャッキは、ご利用の国最新の規格と規制に準拠している必要があります。ジャッキのリフトアップ能力は、関係するアクスル → 359 に対する車両の最大許容重量よりも大きくなればなりません。

ジャッキは、ホイールを交換する際に車両をリフトアップするためにのみ使用されます。これは、以下の条件を満たした状態で実行する必要があります。

- パーキングブレーキがかかっている状態
 - 空車時
 - 平らで滑りにくく、しっかりした地面の上にある状態
- 車両をリフトアップする前に、ジャッキのプレートをリフトアップポイント 1 に対して正しく配置する必要があります。



怪我や車両の損傷を避けるために、交換するホイールが地面から最大 3 センチ浮くまでジャッキアップしてください。

場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。車両に損傷を与える危険性があります。



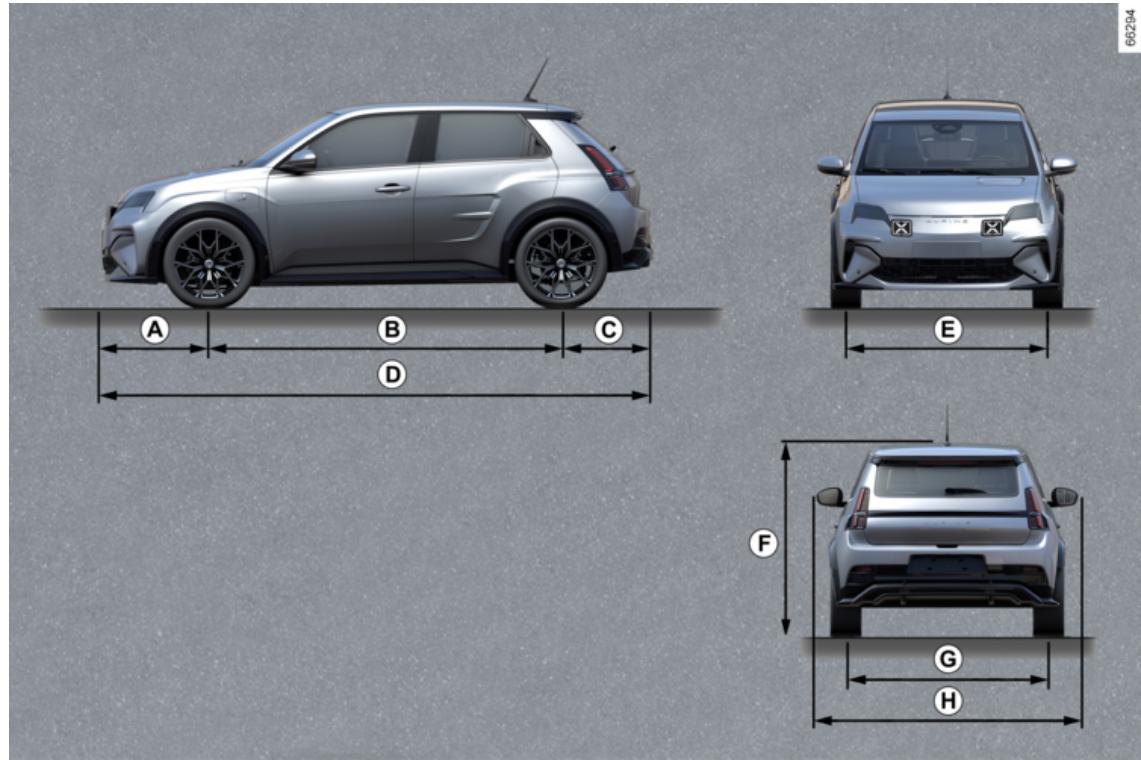
安全のため、車両のリフトアップポイントはホイールを交換する際にのみ使用する必要があります。以下のような場合には絶対に使用しないでください。

- 修理に使用すること。
- ボディ下で作業するために使用すること。

場合によってはケガを負うこともありますのでご注意ください。車両に損傷を与える危険性があります。

車両に関する情報

車両寸法 (単位:m)



車両に関する情報

寸法表

	長さ
A	0,789
B	2,534
C	0,674
D	3,997
E	1,575
F	1,512 (空車時)
G	1,570
H	1,823 2.020 (ドアミラーを開いた状態) 1.830 (ドアミラーを折りたたんだ状態)

車両に関する情報

重量 (kg)

重量表

表示された重量はオプションの取付部品を含まないベース車両の重量です。重量は車両の装備に応じて変わります正規代理店にお問い合わせください。	
最大許容全備重量 (MMAC)	
最大許容荷重 (MMTA)	メーカープレートに記載されている重量 ➔ 359
連結総重量 (MTR)	
ブレーキ付きトレーラのけん引重量*	計算式: MTR - MMAC
ブレーキなしトレーラのけん引重量*	500 kg
トレーラー連結装置の最大許容重量*	63 kg
ルーフ最大積載重量	不可

* けん引重量（トレーラー、ボートなど）

MTR - MMACの計算結果がゼロの場合や、メーカー設置のプレートに表示されているMTRがゼロ（または表示されていない）の場合、牽引は禁じられています。

- それぞれの国、地方の道路交通法などの法規が定める最大けん引重量に従ってください。トレーラー連結装置の取付けは、指定サービス工場におまかせください。

- 連結車の場合、**連結総重量（車両+トレーラー）は絶対に超えてはいけません**。ただし以下は許容されます：

- リアアクスル MMTA における 15% 以内の超過。

- MMAC における 10% または 100 kg (いずれか少ない方) 以内の超過。

いずれの場合も、車両とトレーラの最高速度は 100 km/h 以下に保ち、タイヤ空気圧を 0.2 bar (3 PSI) 高めなければなりません。

部品および修理

ルノーの純正部品は非常に厳密に仕様書に基づいて製造され、特殊なテストを受けています。したがって純正部品は、新車に装着されている商品と同等またはそれ以上の品質水準を保っています。

メーカーの純正部品を正しく装着することにより、お車の性能を長く維持することができます。またルノー指定サービス工場で実施された純正部品を使用しての修理には保証規定が適用されます。

整備証明

VIN:

日付 :	Km:	請求書 No. :	備考
作業タイプ : 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		スタンプ	
防錆点検 : OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			
日付 :	Km:	請求書 No. :	備考
作業タイプ : 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		スタンプ	
防錆点検 : OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			
日付 :	Km:	請求書 No. :	備考
作業タイプ : 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		スタンプ	
防錆点検 : OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			

*該当ページをご覧ください

整備証明

VIN:

日付 :	Km:	請求書 No. :	備考
作業タイプ : 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		スタンプ	
防錆点検 : OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			
日付 :	Km:	請求書 No. :	備考
作業タイプ : 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		スタンプ	
防錆点検 : OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			
日付 :	Km:	請求書 No. :	備考
作業タイプ : 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		スタンプ	
防錆点検 : OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			

*該当ページをご覧ください

整備証明

VIN:

日付 :	Km:	請求書 No. :	備考
作業タイプ : 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		スタンプ	
防錆点検 : OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			
日付 :	Km:	請求書 No. :	備考
作業タイプ : 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		スタンプ	
防錆点検 : OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			
日付 :	Km:	請求書 No. :	備考
作業タイプ : 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		スタンプ	
防錆点検 : OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			

*該当ページをご覧ください

整備証明

VIN:

日付 :	Km:	請求書 No. :	備考
作業タイプ : 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		スタンプ	
防錆点検 : OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			
日付 :	Km:	請求書 No. :	備考
作業タイプ : 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		スタンプ	
防錆点検 : OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			
日付 :	Km:	請求書 No. :	備考
作業タイプ : 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		スタンプ	
防錆点検 : OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			

*該当ページをご覧ください

整備証明

VIN:

日付 :	Km:	請求書 No. :	備考
作業タイプ : 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		スタンプ	
防錆点検 : OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			
日付 :	Km:	請求書 No. :	備考
作業タイプ : 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		スタンプ	
防錆点検 : OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			
日付 :	Km:	請求書 No. :	備考
作業タイプ : 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		スタンプ	
防錆点検 : OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			

*該当ページをご覧ください

整備証明

VIN:

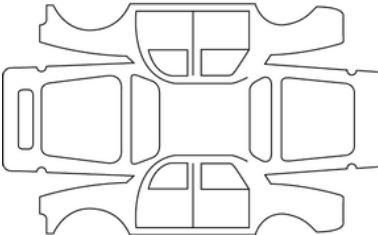
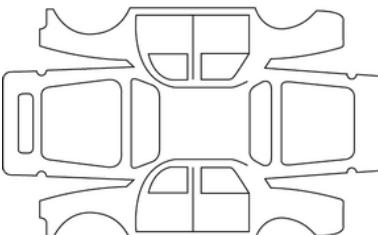
日付 :	Km:	請求書 No. :	備考
作業タイプ : 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		スタンプ	
防錆点検 : OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			
日付 :	Km:	請求書 No. :	備考
作業タイプ : 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		スタンプ	
防錆点検 : OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			
日付 :	Km:	請求書 No. :	備考
作業タイプ : 点検 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		スタンプ	
防錆点検 : OK <input type="checkbox"/> OKでない* <input type="checkbox"/>			

*該当ページをご覧ください

防錆点検

修理による保証請求時には、修理内容は以下に記載されています。

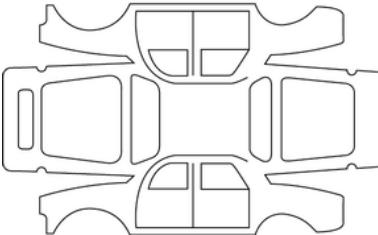
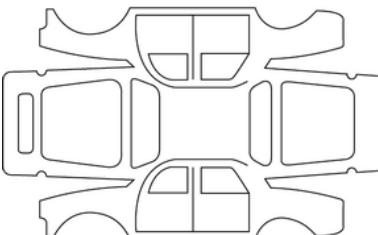
VIN:

修理日：		スタンプ
実施した錆の修理：		
修理日：		スタンプ
実施した修理：		

防錆点検

修理による保証請求時には、修理内容は以下に記載されています。

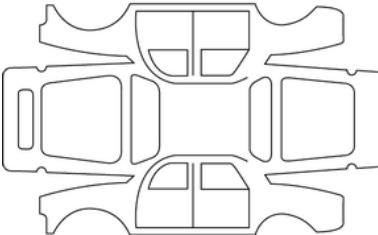
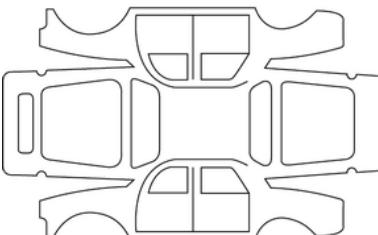
VIN:

修理日 :		スタンプ
実施した錆の修理 :		
修理日 :		スタンプ
実施した修理 :		

防錆点検

修理による保証請求時には、修理内容は以下に記載されています。

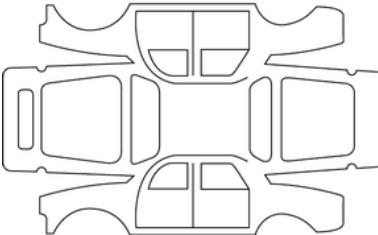
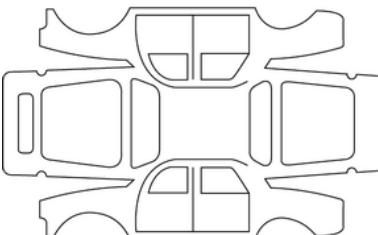
VIN:

修理日：		スタンプ
実施した錆の修理：		
修理日：		スタンプ
実施した修理：		

防錆点検

修理による保証請求時には、修理内容は以下に記載されています。

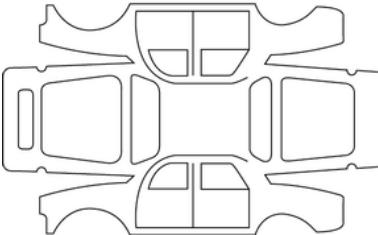
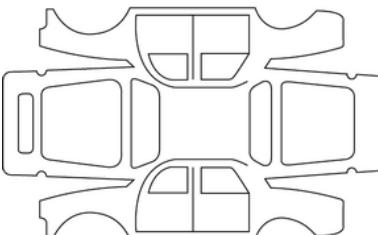
VIN:

修理日：		スタンプ
実施した錆の修理：		
修理日：		スタンプ
実施した修理：		

防錆点検

修理による保証請求時には、修理内容は以下に記載されています。

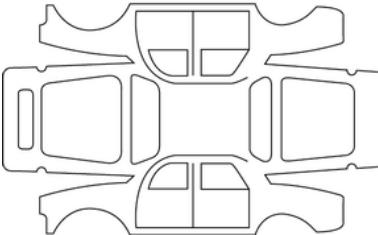
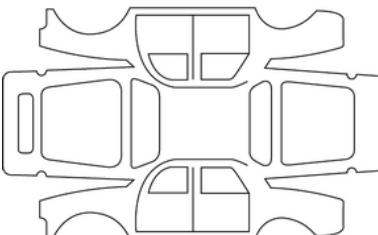
VIN:

修理日：		スタンプ
実施した錆の修理：		
修理日：		スタンプ
実施した修理：		

防錆点検

修理による保証請求時には、修理内容は以下に記載されています。

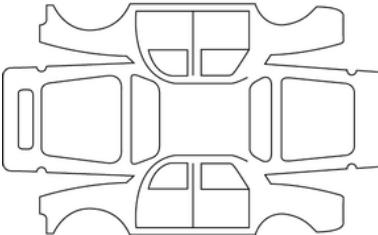
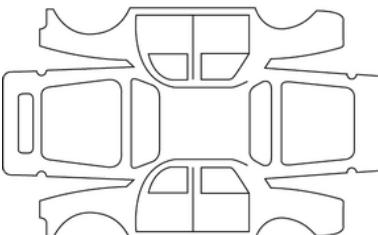
VIN:

修理日 :		スタンプ
実施した錆の修理 :		
修理日 :		スタンプ
実施した修理 :		

防錆点検

修理による保証請求時には、修理内容は以下に記載されています。

VIN:

修理日：		スタンプ
実施した錆の修理：		
修理日：		スタンプ
実施した修理：		

索引

記号・数字

12Vバッテリ、[326](#)

「ハンズフリー」カード: バッテリ、[56](#)

A

Active driver assist、[248](#)

Airbag、[85](#)

Airbag: 助手席エアバッグ無効化、[109](#)

Airbag: 助手席エアバッグ有効化、[109](#)

Airbags: チャイルドセーフティー、[109](#)

E

ECO ドライブ、[171](#)

ア

アクセサリーの固定、[352](#)

アクセサリ電源、[313](#)

イ

インストルメントパネル、[125](#)

インストルメントパネル上の警告灯、[125](#)

インテリアトリム: お手入れ、[331](#)

ウ

ウインドウウォッシャ、[146](#)、[149](#)

工

エアコン: 情報や用法アドバイス、[305](#)

エアコンディショナー、[296](#)、[304](#)

エアバッグ: airbag、[85](#)

エマージェンシーブレーキアシスト、[209](#)

エンジンの始動、[152](#)

エンジンの停止、[152](#)

エンジンルームへのアクセス、[321](#)

エンジン識別、[361](#)

エンジン諸元、[361](#)

オ

オンボードコンピューター、[118](#)

お子様、[88](#)

お子様の運搬、[88](#)

お手入れ: インテリアトリム、[331](#)

力

カードキー: スペアカードキー、[50](#)

カードキー: ハンズフリー、[50](#)

カードキー: ハンズフリーモードでエンジン始動不可、[50](#)

カードキー: 開口部のロック／ロック解除、[50](#)

サ

サイドプロテクションシステム、[85](#)

索引

シ

シートベルト、[74](#)、[85](#)
シートベルト補助拘束装置、[85](#)
シフトコントロール、[159](#)

ス

ステアリングホイール:調整、[135](#)
スピードリミッター、[228](#)

タ

タイヤ、[333](#)、[333](#)
タイヤ規定空気圧、[335](#)
タイヤ空気圧モニターシステム、[175](#)
タイヤ空気注入キット、[336](#)

チ

チャイルドシート、[88](#)、[94](#)
チャイルドシートの取付け、[94](#)
チャイルドシート拘束システム、[88](#)
チャイルドシート拘束装置、[88](#)、[88](#)

ツ

ツール、[340](#)

デ

ディスプレイ、[125](#)
デジタルキー、[58](#)

ド

ドア、[61](#)、[65](#)
ドア／ルームミラー、[137](#)
ドア開放、[61](#)
ドア閉鎖、[61](#)
ドライバーに対する注意喚起のための警告、[216](#)
ドライバーに対する疲労警告、[218](#)、[263](#)
ドライビングのヒント、[171](#)
ドライビングポジション、[114](#)
トランク、[66](#)

バ

バッテリー:、[326](#)
パワーウィンドウ、[310](#)
ハンズフリー駐車、[281](#)
パーキングアシスト、[275](#)
パーキングブレーキ故障、[165](#)

ヒ

ヒーター、[296](#)
ヒューズ、[348](#)

フ

フォローミーホームランプ、[143](#)
フロントシート、[69](#)
フロントシート:調整、[69](#)、[74](#)
フロントシートのヘッドレスト、[69](#)

索引

フロントシートベルト補助拘束装置、[79](#)

フロントシート調整、[69](#)

フロントワイパー/ブレードの交換、[346](#)

ヘ

ヘッドライト:調整、[143](#)

ヘッドランプ、[343](#)

ヘッドランプの光軸調整、[143](#)、[143](#)

ヘッドランプの調整、[143](#)

ヘッドラリスト、[72](#)

ホ

ホーン/パッシングランプ/ハザードランプ/方向指示灯、[145](#)

ボンネット、[321](#)

マ

マルチメディア装備、[308](#)

ラ

ランプ類、[143](#)

リ

リアシートのヘッドラリスト、[72](#)

リアシートベルト補助拘束装置、[84](#)

リアビューカメラ、[272](#)

リバースギアでのエマージェンシーブレーキアシスト、[225](#)

ル

ルームランプ、[311](#)

ルームランプ:バルブ交換、[344](#)

レ

レベル:、[321](#)、[323](#)

ワ

ワイパー、[146](#)、[149](#)

ワイパー/ウォッシャー、[146](#)、[149](#)

ワイパー/ブレード:交換、[346](#)

運

運転席:設定、[74](#)

温

温度:外気、[129](#)

開

開口部、[61](#)、[65](#)

開閉部のロック、ロック解除:ドア、[63](#)

換

換気装置、[296](#)

緊

緊急サービス:緊急サービスコール、[292](#)

索引

緊急車線離脱防止、[194](#)

警

警告: 駐車可能時間終了、[286](#)

牽

牽引: 車両故障時の対処、[341](#)

故

故障修理: 車両牽引、[341](#)

後

後席、[72](#)

構

構成メニュー、[128](#)

作

作動不良: カードキーの電池、[50](#)

子

子供を乗車させるとき、[88](#)

死

死角の警告、[201](#)

時

時計、[129](#)、[129](#)

車

車重、[366](#)

車線離脱防止、[187](#)

車両カスタマイズ設定、[128](#)

車両寸法、[364](#)

車両設定カスタマイズ、[128](#)

車両調整のパーソナリゼーションメニュー、[128](#)

収

収納スペース／取付け部品: 車内、[314](#)

充

充電ケーブル、[48](#)

充電プログラミング、[48](#)

消

消費電力、[125](#)

乗

乗員の安全出口、[289](#)

乗員安全確保: 助手席airbag、[109](#)

設

設定、[128](#)

索引

設定: 構成メニュー、 [128](#)

走

走行モード、 [295](#)

地

地球上にやさしい車づくり、 [170](#)

適

適切な車間距離アラート、 [205](#)

点

点検ツール、 [125](#)

電

電気自動車、 [20](#)

電動パーキングブレーキ、 [165](#)

灯

灯火類、 [139](#)

灯火類: バルブ交換、 [343](#)

灯火類: 調整、 [143](#)

道

道路標識の検出、 [221](#)

部

部品および修理部品、 [367](#)

補

補助拘束装置: 側面衝突保護、 [85](#)



SOCIÉTÉ DES AUTOMOBILES ALPINE, SA par actions simplifiée à associé unique
AVENUE DE BREAUTE, 76200 DIEPPE - SIRET 662 750 074 / SITE INTERNET : alpinecars.com

NU 1491-4 - 77 99 001 524 - 12/2025 - Edition japonaise

